

プロフィール作成アプリケーションソフトウェア



リファレンスガイド

# 目次

---

---

ご注意 .....	VIII
この取扱説明書について .....	VIII
本文中の表記について .....	VIII
マークについて .....	VIII
Mimaki Profile Master II について .....	IX
製品の特徴 .....	IX
プロファイルについて .....	X
MPM II トライアル版の制限事項 .....	XI

## 1章 デバイスプロファイルを作成する前に

MPM II を起動する .....	1-2
各種設定をする .....	1-3
メディア名を登録する .....	1-3
メディア名の登録 .....	1-3
メディア名の削除 .....	1-5
測色器を選択する .....	1-6
出力ポートの設定 .....	1-7
ファイル出力する場合 .....	1-7
プリンタに直接出力する場合 .....	1-8
オプション設定 .....	1-9
メインメニューについて .....	1-10
デバイスプロファイル画面 .....	1-10
ICC プロファイル画面 .....	1-10
設定画面 .....	1-11
インストール画面 .....	1-11

## 2章 デバイスプロファイルを作成する

デバイスプロファイル作成の流れ .....	2-2
デバイスプロファイルを作成する .....	2-4
フォーマットの選択 .....	2-4
プロファイル条件の設定 .....	2-5
メディア固有情報の設定 .....	2-7
JV3-SP/SL で SS2 インクを使用している場合 .....	2-8
JV3-SP/SL で ES3 インクを使用している場合 .....	2-9
JF-1631/1610、JFX、UJV-160、UJF-706、UJF-3042FX、 UJF-3042HG、UJF-6042、Tx400 を使用している場合 .....	2-10
拡張固有情報の設定 .....	2-12
バリアブルドットの設定 (バリアブルドット選択時のみ) .....	2-14
全体のインクリミットの設定 (プロファイル (V3) を選んだ場合) ..	2-17
インクリミットの設定 (プロファイル (V2) を選んだ場合) .....	2-21
ライトインク使用比率の設定 (ライトインク選択時のみ) .....	2-25
リニアライゼーションの自動調整 .....	2-26
3次色のインクリミットの設定 (プロファイル (V3) を選んだ場合) .....	2-44
グレーバランスの自動調整 .....	2-48

ICC プロファイルの作成 .....	2-51
キャリブレーションの基準設定 (プロファイル (V3) を選んだ場合) .....	2-55
デバイスプロファイルの保存 .....	2-58
機能ボタンについて .....	2-59
テストプリントボタン、チャート出力ボタン .....	2-59
インポートボタン .....	2-65
インポート互換表 .....	2-66
カーブ編集ボタン .....	2-67
カーブ編集方法 .....	2-68
調整ボタン .....	2-69
イエローの濁り軽減 .....	2-69
墨版設定 .....	2-70
作成中断ボタン .....	2-72
再作成 .....	2-73
測色値ファイルの読み込み .....	2-75

### 3章 デバイスプロファイルを編集する

デバイスプロファイル編集の流れ .....	3-2
“編集”を選ぶ .....	3-3
編集するプロファイルをリストに追加する .....	3-4
編集リスト .....	3-5
デバイスプロファイルを編集する .....	3-6
インクリミットの編集 .....	3-10
ICC プロファイルの編集 .....	3-10
メディア固有情報の編集 .....	3-11
メディア補正值の編集 .....	3-11
ヒーター温度の編集 .....	3-11
ドットサイズの編集 .....	3-11
メディア送り速度の編集 .....	3-11
天井ファンの編集 .....	3-12
フィード方向の編集 .....	3-12
拡張固有情報の編集 .....	3-12
UV 照度設定 .....	3-12
グレーバランスの編集 .....	3-13
リニアライゼーションの編集 .....	3-13
インクリミットの調整 (キャリブレーション/イコライゼーション編集画面) .....	3-13
リニアライゼーションの自動調整 (キャリブレーション/イコライゼーション編集画面) .....	3-14
グレーバランスの自動調整 (キャリブレーション/イコライゼーション編集画面) .....	3-14
色差の確認 (キャリブレーション/イコライゼーション編集画面) .....	3-14
色置換情報 .....	3-15
色置換情報を追加する .....	3-15
インク消費量予測計算 .....	3-17

## 4章 キャリブレーション、イコライゼーションを行う

キャリブレーション機能	4-2
基準になる色を記録する(基準設定)	4-3
キャリブレーションを行う	4-5
現在の状態を測色する	4-5
作業内容(標準)を選んだ場合	4-7
作業内容(詳細)を選んだ場合	4-9
イコライゼーション機能	4-13
イコライゼーションを行う	4-14
ターゲットプリンタへ出力する	4-14
イコライゼーションを行うプリンタへ出力する	4-16
キャリブレーション・イコライゼーションの運用について	4-21
日常の色差を確認する	4-21
キャリブレーションデータを再調整する	4-24
新しいキャリブレーションデータを追加する	4-28
キャリブレーションデータを使用してプリントする	4-30

## 5章 デバイスプロファイルをコピーする

デバイスプロファイルのコピー	5-2
プロファイルコピーウィザード	5-2

## 6章 ICC プロファイルを作成する

ICC プロファイル作成の流れ	6-2
ICC プロファイルを作成する	6-3
CMYK カラーの ICC プロファイルを作成する	6-3
RGB カラーの ICC プロファイルを作成する	6-6
モニターの ICC プロファイルを作成する	6-9
ICC プロファイルの保存	6-13

## 7章 プロファイルのインストールとアンインストール

Raster Link Pro にデバイスプロファイルをインストールする	7-2
Raster Link Pro 以外の Raster Link シリーズへの プロファイルのインストール・アンインストール	7-4
ProfileManager を起動する	7-4
ProfileManager	7-5
アイコンの説明	7-5
プロファイルをインストールする	7-6
プロファイルをアンインストールする	7-9

## 8章 ColorPicker を使用してスポットカラーのカラーマッチングを行う

ColorPicker を使用したスポットカラーマッチング .....	8-2
ColorPicker とは .....	8-2
ColorPicker を使用したスポットカラーのカラーマッチングの流れ ..	8-2
ColorPicker で使用する ICC プロファイルの作成 .....	8-4
ColorPicker でのスポットカラーのカラーマッチング .....	8-7
Illustrator で画像を修正する .....	8-9
Raster Link シリーズで色置換して出力する .....	8-11

## 9章 カラーシミュレーションを行う

Adobe Photoshop / Illustrator を使用して	
カラーシミュレーションを行う .....	9-2
カラーシミュレーション機能に関する注意事項 .....	9-2
カラーシミュレーション機能に必要なシステム環境 .....	9-3
カラーシミュレーション機能を使用するための準備 .....	9-3
カラーシミュレーションの流れ .....	9-4
高演色形蛍光灯を使用して、環境光を整える (任意) .....	9-6
モニターのカリブレーションを行う .....	9-6
モニターの ICC プロファイルを作成する .....	9-7
使用しているモニターのプロファイルに設定する	
(WindowsVista の場合) .....	9-7
使用しているモニターのプロファイルに設定する	
(WindowsXP の場合) .....	9-9
Macintosh のモニターの ICC プロファイルを作成する	
(Mac OS X バージョン 10.6 の場合) .....	9-11
校正用プリンタの ICC プロファイルを作成する .....	9-13
CMYK カラーのシミュレーション用プロファイルを作成する .....	9-15
RGB カラーのシミュレーション用プロファイルを作成する .....	9-18
作成したプロファイルを Photoshop / Illustrator に設定する .....	9-21
Photoshop に設定する場合 .....	9-21
Illustrator に設定する場合 .....	9-22
モニターの色をターゲットの色に近づけるように、	
色を調整する .....	9-23
Photoshop で画像を開くときの調整手順 .....	9-23
Illustrator で画像を開くときの調整手順 .....	9-24
校正用プリンタで出力し、ターゲットとの色の差を確認する .....	9-25
Photoshop で出力するとき .....	9-25
Illustrator で出力するとき .....	9-27
校正用プリンタで印刷する .....	9-28
ミマキ製プリンタで印刷する .....	9-28

## 10章 メタリックカラープロファイルの作成

メタリックカラープロファイルを作成する .....	10-2
対象環境 .....	10-2
作成条件 .....	10-2
メタリックカラープロファイルとは? .....	10-2
メタリックカラープロファイル作成の前に .....	10-4
メタリックカラープロファイルの作成 .....	10-6
RasterLink6 での印刷確認 .....	10-16
メタリックカラープロファイルの編集 / コピー / 再作成 .....	10-20

## 11章 その他の機能

MPM II の情報をバックアップする .....	11-2
バックアップ機能 .....	11-2
バックアップファイルを MPM II に復元する .....	11-4
復元機能 .....	11-4

## 付録

用語解説 .....	付録 -2
測色時のご注意 .....	付録 -5
測色結果が異常な場合に起こりうる現象 .....	付録 -5
測色の途中で測色の異常を発見した場合 .....	付録 -6
測色結果ファイルの測色結果を確認する .....	付録 -7
Windows7 で測色器をご利用の場合 .....	付録 -9
測色器のドライバを確認する .....	付録 -9
ドライバを更新する .....	付録 -10
Eye-One iO のご使用について .....	付録 -12
Eye-One iO のドライバを確認する .....	付録 -12
ドライバを更新する .....	付録 -14
既存の Eye-One iO のドライバをアンインストールする .....	付録 -14
新しいドライバをインストールする .....	付録 -16
出力時のキャリブレーションデータの扱いについて .....	付録 -18
エラーメッセージについて .....	付録 -19
エラーメッセージと対処方法 .....	付録 -19
測色時のエラーと対処方法 .....	付録 -21

## 索引



## ご注意

---

---

- 本書の一部、または全部を無断で記載したり、複製することは固くお断りいたします。
- 本書の内容に関しまして、将来予告無しに変更することがあります。
- 本ソフトウェアの改良変更等により、仕様面において本書の記載事項とが一部異なる場合があります。ご了承ください。
- 本ソフトウェアを他のディスクにコピーしたり（バックアップを目的とする場合を除く）、実行する以外の目的でメモリにロードすることを固く禁じます。
- 株式会社ミマキエンジニアリングの保証規定に定めるものを除き、本製品の使用または使用不能から生ずるいかなる損害（逸失利益、間接損害、特別損害またはその他の金銭的損害を含み、これらに限定しない）に関して一切の責任を負わないものとします。また、株式会社ミマキエンジニアリングに損害の可能性について知らされていた場合も同様とします。一例として、本製品を使用してのメディア（ワーク）等の損失、メディアを使用して作成された物によって生じた間接的な損失等の責任負担もしないものとします。
- 本書に記載している、すべてのブランド名および製品名は、各社の商標または登録商標です。
- Adobe、Adobe ロゴ、Photoshop、Illustrator および Postscript は、アドビシステムズ社の商標です。
- Microsoft、Windows、Windows XP、Windows Vista、Windows 7、Windows 8、Windows 8.1、Windows 10 は、Microsoft Corporation の米国ならびにその他の国での登録商標または商標です。
- Apple、Macintosh、Power Macintosh、Mac OS、Mac OSX は、Apple Inc. の登録商標または商標です。
- その他、本書に記載されている会社名、および商品名は、各社の商標または登録商標です。

## この取扱説明書について

---

---

本書は、Mimaki Profile Master II の取り扱いについて説明しています。

### 本文中の表記について

---

メニューに表示される項目は、“新規作成”のように“ ”で表記します。

ダイアログに表示されるボタンは、**OK**のように  で表記します。

ダイアログに表示されるタブは、**[グレーバランス]**のように **[ ]** で表記します。

### インク色表記について

インク色を次のように省略して表記します。

**C = Cyan, M= Magenta, Y= Yellow, K= Black,**

**Lc = Light cyan, Lm= Light magenta, Or=Orange, Gr=Green**

### マークについて

---

 **重要!** 操作を行う上での注意点、重要点を説明しています。



知っていると便利なことについて説明しています。



関連した内容の参照ページを示しています。

# Mimaki Profile Master II について

---

---

Mimaki Profile Master II（以下 MPM II）は、以下のプロファイルを作成することができるアプリケーションソフトウェアです。

- ミマキエンジニアリング製RIPアプリケーションRaster Linkシリーズのデバイスプロファイルと入カプロファイル
- ICC プロファイルに対応した、他社 RIP アプリケーション用の出カプロファイル

## 製品の特徴

---

### 16bit対応した新フォーマットのデバイスプロファイルにより、印刷画質が向上

Raster Link Pro III シリーズv1.00以降のRIPアプリケーションと組み合わせることにより、グラデーション画像の精度が向上します。

### キャリブレーション機能により、プリンタの色の変化を低減

経時変化や季節・天候の変化によりプリンタの色が変わってしまっても、簡単に元の色に戻すことができます。

この機能は、Raster Link Pro III シリーズ v1.00 以降の RIP アプリケーションで活用できます。

### イコライゼーション機能により、プリンタ間の色の違いを減少

同機種で同じプロファイルを使用しているにもかかわらず、装置固有の特性によりプリントした色が変わってしまう場合、プリンタごとの色の違いを減少させ、どのプリンタから出力しても、同じ出力結果を得られるようにします。

この機能は、Raster Link Pro III シリーズ v1.00 以降の RIP アプリケーションで活用できます。

### 短時間で簡単にプロファイルが作成可能

画面指示に従うだけのウィザード形式なので、簡単にプロファイルが作成できます。

### 色見本へのカラーマッチングを実現

X-Rite 社の ColorPicker と Raster Link シリーズの色置換機能を組み合わせ、色見本に合わせた出力をします。

### カラーシミュレーション機能により、画像の色調整作業が軽減

ミマキ製プリンタで出力したときの色を、モニターや校正用プリンタ（コンシューマープリンタ）で再現することができます。

# プロフィールについて

---

---

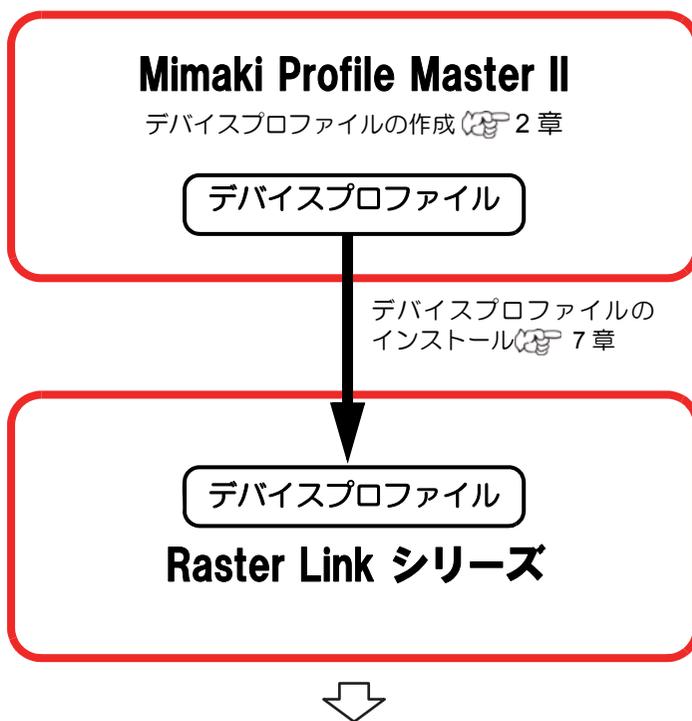
Raster Link シリーズで使用する出力プロフィールを“**デバイスプロフィール**”と呼びます。MPM II で作成できるプロフィールは、以下の2種類です。

- RasterLinkPro ~ RasterLinkPro5 で使用される、拡張子が [cot] のファイル
- RasterLinkProII v3 以降の RasterLink シリーズで使用される拡張子が [icc] のファイル

拡張子が cot のデバイスプロフィールは、Raster Link シリーズ用の独自フォーマットのファイルで、RIP 処理に必要な様々な情報が書き込まれています。

また、拡張子が icc のデバイスプロフィールは、ICC 準拠のフォーマットで Mimaki 独自の情報が追加されています。ICC プロファイルに対応した他社 RIP アプリケーションで出力プロフィールとして使用できます。

MPM II で作成したデバイスプロフィールを Raster Link シリーズにインストールすることによって、作成したデバイスプロフィールを適用した出力ができます。



# MPM II トライアル版の制限事項

---

---

MPM II トライアル版を使用する場合、以下の制限があります。

- 使用期間は 60 日間です。
- メディア名登録ができません。
- CMYK カラー、RGB カラー、モニターの ICC プロファイルを作成する機能が使用できません。

**重要!**

- ◆ MPM II は 2 つの dongle を使用します。  
黒色の dongle (MPM II Dongle) を使用しないと  
トライアル版として起動します。  
紫色の dongle (ProfileMaker Dongle) を使用しないと  
MeasureTool5.0 と ColorPicker5.0 がデモモードで起動します。



# 1章 デバイスプロファイルを作成する前に

MPM II を起動する .....	1-2
各種設定をする .....	1-3
メディア名を登録する .....	1-3
測色器を選択する .....	1-6
出力ポートの設定 .....	1-7
オプション設定 .....	1-9
メインメニューについて .....	1-10

# MPM II を起動する

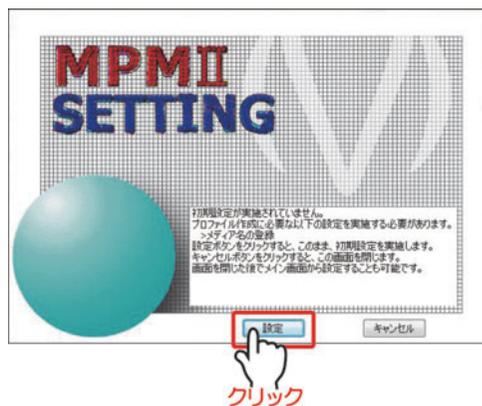
- 1**  をダブルクリックし、MPM II を起動します。

はじめてMPM IIを起動すると右の画面を表示します。



- ◆ 2 回目以降の起動時でも、メディア名登録、測色器選択をしていない場合は、右の画面を表示します。

- 2** **設定** をクリックし各種設定をします。



「メディア名の登録」が表示されている場合

 P. 1-3 手順 2 以降に進みます。

「測色器の選択」が表示されている場合

 P. 1-6 手順 2 以降に進みます。

## 各種設定をする

プロフィールを作成する前に、「メディア名の登録」(  このページ) と測色器の設定 (  P. 1-6) をしてください。

### メディア名を登録する

新規に使用したいメディア名を、データベースに登録します。

**重要!**

◆ MPM II のトライアル版を使用している場合、メディア名登録はできません。

### メディア名の登録

使用したいメディア名を、データベースに登録します。

#### 1 [設定]タブを選択し“メディア名登録”をクリックします。

メディア名登録のダイアログが表示されます。



#### 2 メディア名を入力し、メディアの材質を選択します。

**メディア名:**

日本語環境で使用するメディア名を入力します。

**Media Name:**

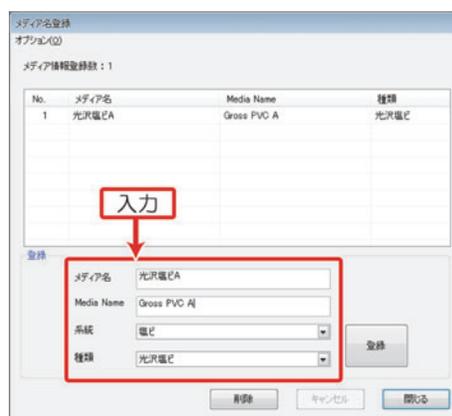
日本語環境以外で使用するメディア名を入力します。

**系統:**

メディアの種類の系統を選択します。この情報は [種類] を大別するためだけに使用されます。

**種類:**

メディアの種類を選択します。この情報は V3 プロファイルにのみ使用され、RasterLink6 以降の RasterLink シリーズで表示されます。



**重要!**

◆ 入力できる文字数は、全角で最大 14 文字、半角で最大 29 文字です。

◆ 入力できない文字

' " \ \* / ? : < > | ( 半角文字 )

◆ すでに登録済みのメディア名や Media Name は登録できません。

### 3

**登録** をクリックします。

リストに、登録したメディア名が追加されます。



◆メディア名の登録を中止したいときは

(1) **キャンセル** をクリックする



(2) **はい** をクリックする



### 4

**閉じる** をクリックします。

メインメニューに戻ります。



**重要!**

◆登録済みのリストと同じメディア名、Media Name は登録できません。以下のエラーメッセージが表示されるので、再度別名で入力します。



## メディア名の削除

登録済みのメディア名を削除します。

**重要!**

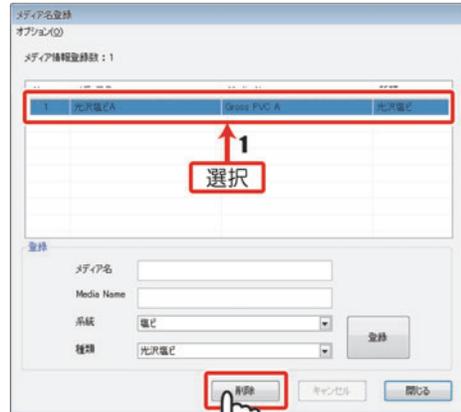
◆ データベースに登録したメディア名ですでにデバイスプロフィールを作成済みの場合は、メディア名を削除しないでください。削除する必要がある場合は、新しいメディア名を登録後、プロフィールコピー機能（ 5章）を使い、新しいメディア名に書き換えてください。

### 1 [設定] タブを選択し、“メディア名登録” をクリックします。

メディア名登録のダイアログに、登録済みのメディア名が表示されます。



### 2 削除したいメディア名を選択します。



### 3 削除 をクリックします。

確認のダイアログを表示します。

### 4 OK をクリックします。

選択したメディア名がリストから削除されます。



### 5 閉じる をクリックします。

メインメニューに戻ります。



◆ **キャンセル** をクリックすると、削除は無効になります。

## 測色器を選択する

チャートを測色する測色器を選びます。

### 重要!

- ◆ 測色器が PC と接続され、電源が入っていることを確認してください。
- ◆ USB を使用して測色器を接続する場合、ドライバのインストールが必要になります。測色器に付属の取扱説明書を参照し、ドライバをインストールしたあとに測色器と PC を接続してください。
- ◆ Windows7 で測色器を使用する場合、PC と接続したときにドライバのインストールに失敗することがあります。付録“Windows7 で測色器をご利用の場合”を参照して、ドライバを更新してください。

### 1 [設定] タブを選択し、“測色器選択” をクリックします。



### 2 測色器を選択します。



- ◆ i1 Pro2 をお使いの場合、i1 Pro を選択してください。
- ◆ i1i02 をお使いの場合、i1i0 を選択してください。



### 3 [完了] をクリックします。 メインメニューに戻ります。

## 出力ポートの設定

出力ポートについての詳細を設定できます。(必要なければ、設定変更は不要です。)



◆ 出力ポートの選択は、テストプリントやチャート出力をすると表示される“画像編集ダイアログ”で行います。(P. 2-64)

### ファイル出力する場合

出力したファイルをプリンタへ送信するには、別途アプリケーションが必要になります(弊社 RIP でも出力できます)。出力したファイルをプリンタへ送信すると、画像を出力します。ただし、プロフィール作成時に設定したプリンタと異なるプリンタへ送信すると、「コマンドエラー」や「パラメーターエラー」が発生し、正しく出力しない場合があります。

- 1 [設定]タブを選択し、“出力ポート”をクリックします。

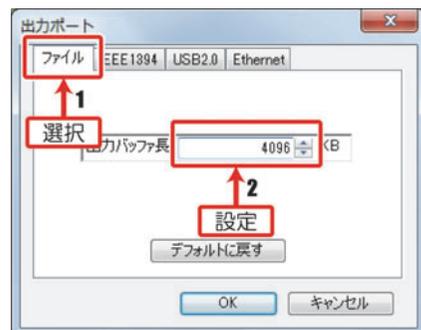


- 2 [ファイル]タブを選択し、“出力バッファ長”を設定します。

必要な場合は設定します。



◆ “出力バッファ長”を初期値に戻す場合は、「デフォルトに戻す」をクリックします。



- 3 **OK** をクリックします。  
メインメニューに戻ります。

## プリンタに直接出力する場合

IEEE1394、USB2.0、または LAN ケーブルで接続してあるプリンタに、チャート等の出力処理をします。

- 1 [設定] タブを選択し、“出力ポート” をクリックします。

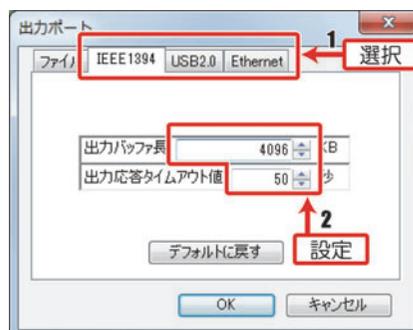


- 2 [IEEE1394]、[USB2.0]、または [Ethernet] タブを選択し、“出力バッファ長”、“出力応答タイムアウト値” を設定します。

必要な場合は設定します。



◆ “出力バッファ長”、“出力応答タイムアウト値” を初期値に戻す場合は、[デフォルトに戻す] をクリックします。



- 3 [OK] をクリックします。  
メインメニューに戻ります。

## オプション設定

オプション設定では、次の設定ができます。

**表示** : 長さの単位を mm/inch のどちらで表示するか選択

**動作** : 設定をしておけば、デバイスプロファイルの ICC プロファイル作成ページで

**テストプリント** を実行したとき、出力後に自動的にインク消費予測量を表示します。

**ラベル** : デバイスプロファイルの作成 / 編集で、画像をプリントするときに印刷する項目を選択します。

**デバイスプロファイル名**

デバイスプロファイル名を印字。(作成中は「未設定」を印字)

**画像ファイル名**

印刷した画像ファイルの名前を印字。

**初期設定の印刷条件**

パス数 / 重ね塗り回数 / 印刷方向 / 高速印刷の設定 / ハーフトーンの設定を印字。

**テストプリント時の印刷条件**

テストプリント時に個別に設定した項目を印字。

**プロファイルデータ情報**

メディア補正値 / インクリミット値 / バリアブルドットとライトインクの設定値 / インポートしたファイル名のうち、設定されている項目を印字。

**1** [設定] タブを選択し、“オプション” を選択します。



**2** 設定するタブを選択します。

[表示] [動作] [ラベル] から、設定するタブを選択します。

**3** 設定します。

**表示** : 表示する単位を選ぶ

**動作** : チェックを ON にすると、印刷後に予測されるインク消費量を表示する

**ラベル** : 印刷する項目をチェック



**4** **OK** をクリックします。

# メインメニューについて

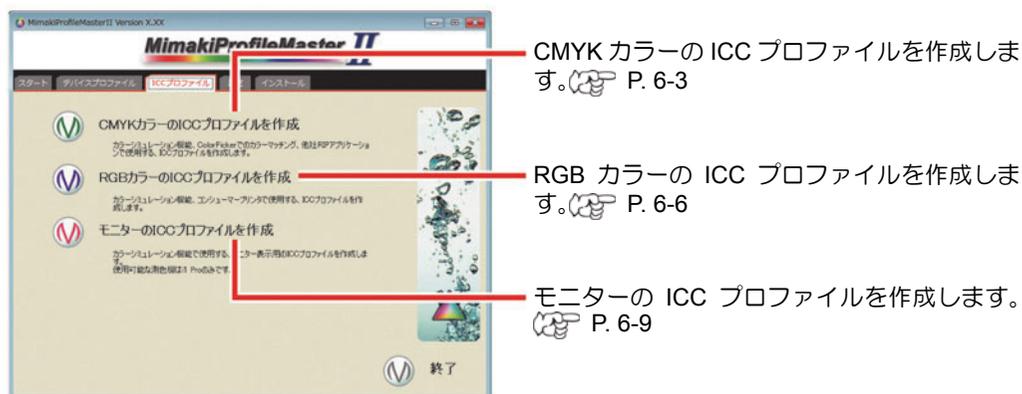
MPM II を起動すると“メインメニュー画面”が表示されます。メインメニュー画面には、“デバイスプロファイル画面”/“ICC プロファイル画面”/“設定画面”/“インストール画面”があります。



## デバイスプロファイル画面



## ICC プロファイル画面



## 設定画面



作成するデバイスプロフィールのメディアを登録します。☞ P. 1-3

デバイス/ICCプロフィールを作成するときに使う測色器を選択します。☞ P. 1-6

出力ポートの詳細を設定します。☞ P. 1-7

表示単位の設定など、各種補助機能の設定をします。☞ P. 1-9

## インストール画面



作成したデバイス/入力プロフィールをRaster Link Pro 以外の Raster Link シリーズにインストール・アンインストールします。☞ P. 7-4

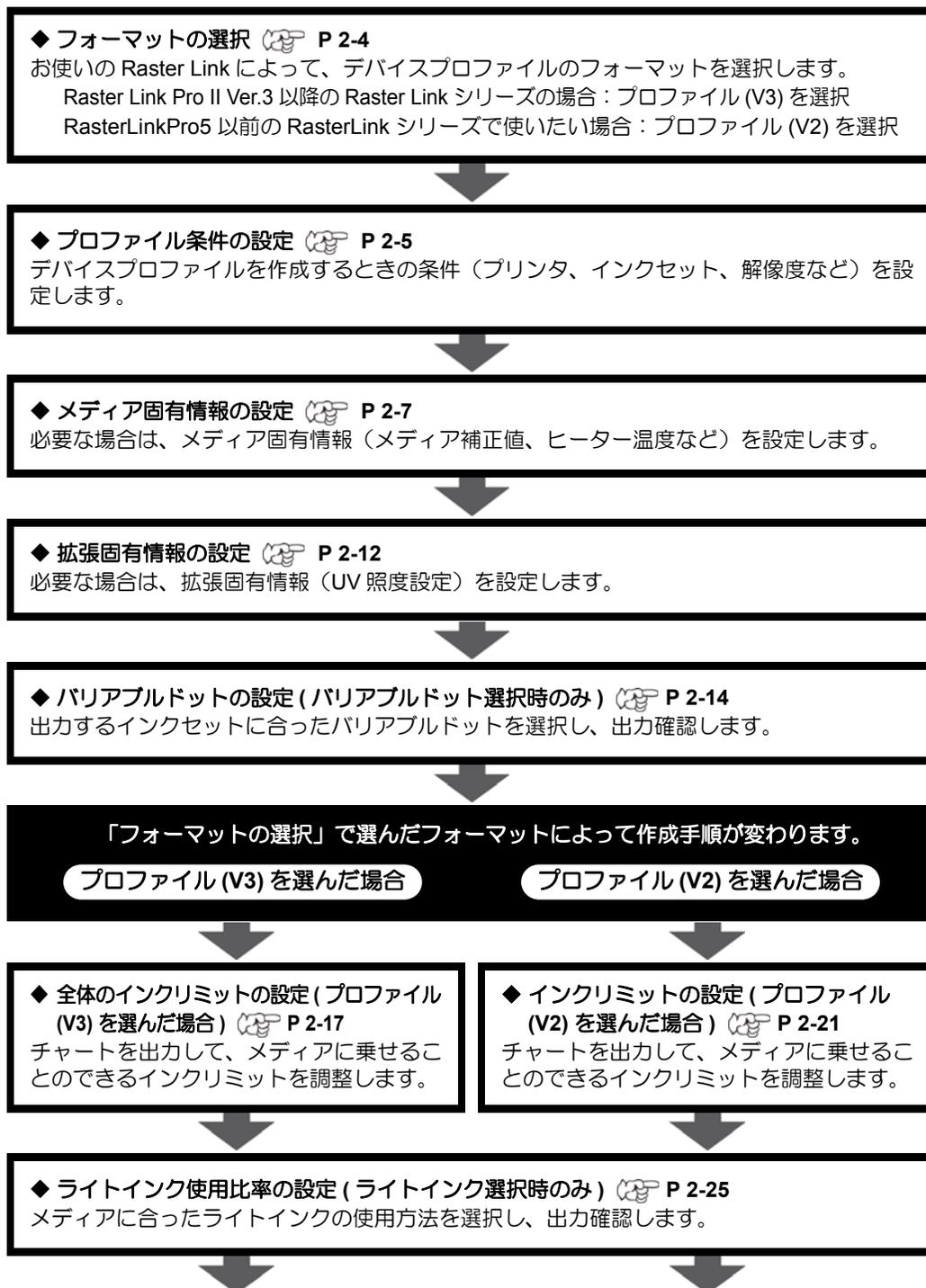


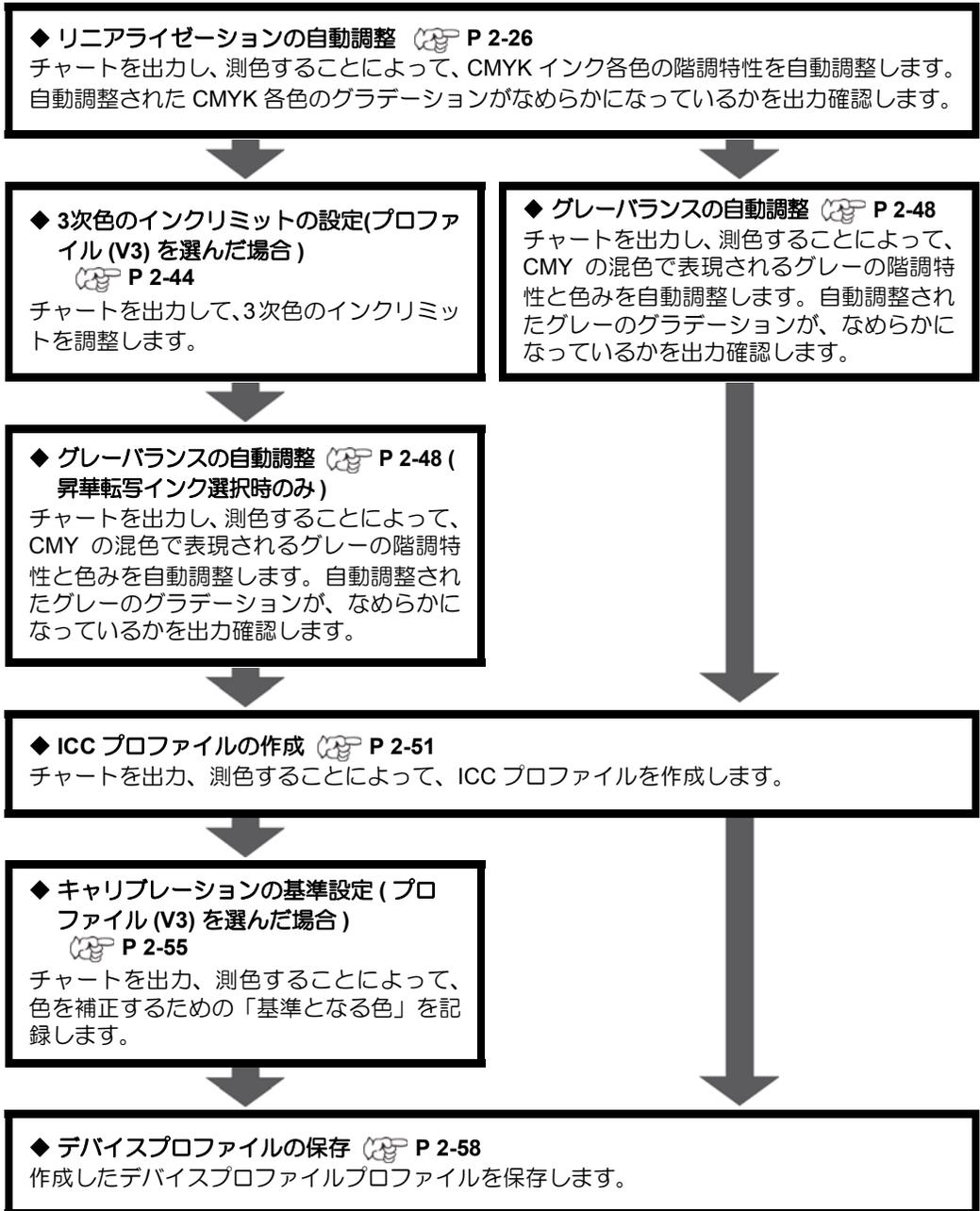
# 2章 デバイスプロファイルを作成する

デバイスプロファイルを作成する手順を説明します。

デバイスプロファイル作成の流れ .....	2-2
デバイスプロファイルを作成する .....	2-4
フォーマットの選択 .....	2-4
プロファイル条件の設定 .....	2-5
メディア固有情報の設定 .....	2-7
拡張固有情報の設定 .....	2-12
バリアブルドットの設定 (バリアブルドット選択時のみ) ....	2-14
全体のインクリミットの設定 (プロファイル (V3) を選んだ場合) .....	2-17
インクリミットの設定 (プロファイル (V2) を選んだ場合) ..	2-21
ライトインク使用比率の設定 (ライトインク選択時のみ) ....	2-25
リニアライゼーションの自動調整 .....	2-26
3次色のインクリミットの設定 (プロファイル (V3) を選んだ場合) .....	2-44
グレーバランスの自動調整 .....	2-48
ICC プロファイルの作成 .....	2-51
キャリブレーションの基準設定 (プロファイル (V3) を選んだ場合) .....	2-55
デバイスプロファイルの保存 .....	2-58
機能ボタンについて .....	2-59
テストプリントボタン、チャート出力ボタン .....	2-59
インポートボタン .....	2-65
カーブ編集ボタン .....	2-67
調整ボタン .....	2-69
作成中断ボタン .....	2-72
再作成 .....	2-73
測色値ファイルの読み込み .....	2-75

# デバイスプロフィール作成の流れ





# デバイスプロフィールを作成する

## フォーマットの選択

お使いの Raster Link に合わせて、デバイスプロフィールのフォーマットを選択してください。

**RasterLinkPro ~ RasterLinkPro5** で使用できるプロフィールを作成したい場合

→ プロファイル (V2) を選択してください。

**Raster Link Pro II Ver.3** 以降の Raster Link シリーズの場合

→ プロファイル (V3) を選択してください。

プロフィール (V3) では、より高画質な出力結果が得られます。



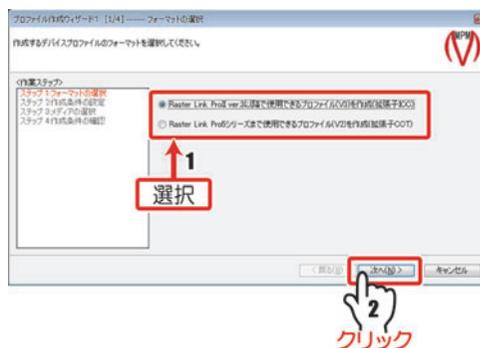
◆ あらかじめ、メディア名の登録をしてください。(参照 P 1-3)  
メディア名が登録されていない場合、デバイスプロフィールの新規作成を選択できません。

**1** [デバイスプロフィール] タブを選択し、“新規作成” をクリックします。

プロフィール作成ウィザード 1 が表示されます。



**2** お使いの Raster Link シリーズに合わせてフォーマットの選択をします。



**3** **次へ** をクリックします。

2-5 ページ「プロフィール条件の設定」へ続く ➡

## プロフィール条件の設定

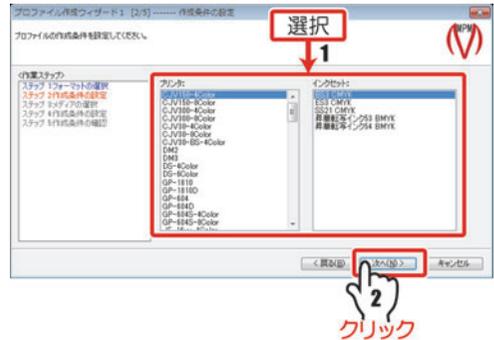
プロフィール作成に必要な条件と、使用するメディアの選択をします。  
作成条件は以下の9種類です。

- プリンタ名
- インクセット
- 解像度
- パス数
- 重ね塗り回数
- 印刷方向
- 高速印刷のON/OFF
- ハーフトーン
- メディア名

← 2-4 ページ「フォーマットの選択」から

**1** デバイスプロフィールを作成するプリンタ名、インクセットを選択し、**次へ**をクリックします。

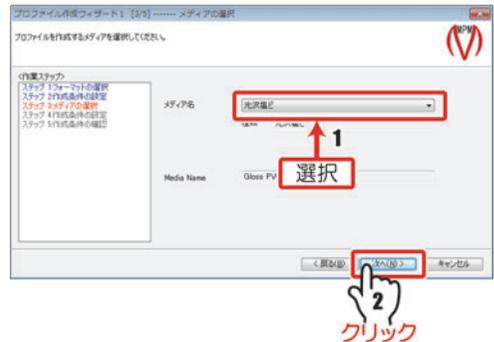
💡 ◆ プリンタ、インクセットは選択できる組み合わせが決まっています。



**2** メディア名を選択し、**次へ**をクリックします。

メディア名登録（P 1-3）で登録したメディア名の中から選択します。

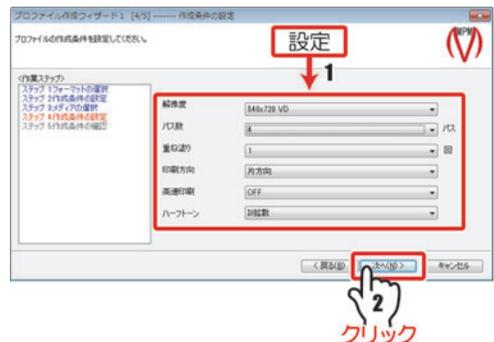
日本語環境以外で RasterLink シリーズをお使いの場合、英語名を表示します。



**3** プロファイルの作成条件を設定し、**次へ**をクリックします。

💡 ◆ プリンタ、インクセット、解像度、パス数、印刷方向および高速印刷は、選択できる組み合わせが決まっています。

◆ 電飾メディアでは等価する光によって色が再現されるため、重ね塗り回数を増やして濃度の高い印刷を行ってください。



## 4 設定した作成条件を確認します。

変更する場合は、「戻る」をクリックし、作成条件を変更します。



## 5 「次へ」をクリックします。

プロファイル作成ウィザード 2 が表示されます。

**重要!**

◆ プロファイル作成ウィザード 2 から、プロファイル作成ウィザード 1 へ戻ることはできません。プロファイル作成ウィザード 2 に移ってからプロファイル条件を変更する場合は、「キャンセル」をクリックして、手順 1 からやり直してください。

2-7 ページ「メディア固有情報の設定」へ続く ➡

## メディア固有情報の設定

必要な場合は、メディア固有情報 (メディア補正值、ヒーター温度、ドットサイズ、メディア送り速度、天井ファン、フィード方向) を設定します。

**重要!**

◆ Raster Link シリーズでは、初期設定で、プリンタのパネルの設定を優先していません。プロファイルで設定する必要がある場合は、ここで設定してください。

← 2-6 ページ「プロファイル条件の設定」から

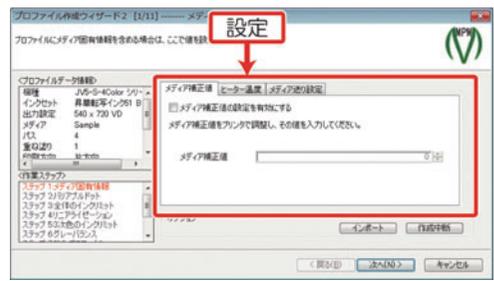
### 1 必要な場合に、以下の各項目を設定します。

表示する項目は、プロファイル作成条件を設定したときのプリンタの種類などで異なります。

#### ●メディア補正值

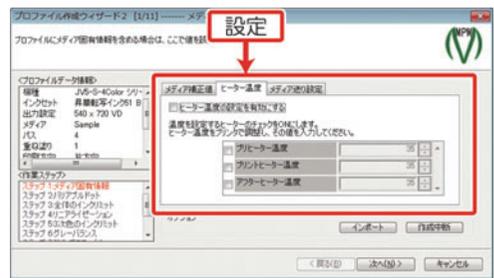
プリンタでメディア補正を行い、その値を設定します。

値をデバイスプロファイルに書き込む場合は、“メディア補正值の設定を有効にする”のチェックボックスをONにして、値を入力します。



#### ●ヒーター温度

プリンタで最適なヒーター温度を確認し、確認した値を設定してください。デバイスプロファイルに書き込む場合は、“ヒーター温度の設定を有効にする”のチェックボックスをONにして、値を入力します。



**重要!**

◆ ヒーターの適温設定については、各機種種の取扱説明書をご覧ください。

## ●ドットサイズ

ドットサイズの設定ができるのは、次の場合のみです。

1. JV3-SP/SL で SS2 インクを使用している場合 (  このページ )
2. JV3-SP/SL で ES3 インクを使用している場合 (  P 2-9 )
3. JF-1631/1610、JFX、UJV-160、UJF-706、UJF-3042FX、UJF-3042HG、UJF-6042、Tx400 を使用している場合 (  P 2-10 )

## JV3-SP/SL で SS2 インクを使用している場合

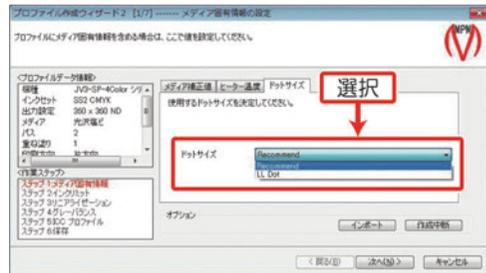


◆ プロファイル作成条件の詳細は以下になります。

- ・プリンタ : JV3-SP-4Color シリーズ、JV3-SP-8Color シリーズ
- ・インクセット : SS2 CMYK、SS2 CMYKLcLm
- ・出力設定 : 360 × 360 ND、360 × 360 VD、360 × 540 ND、360 × 540 VD、360 × 540 HQ ND、360 × 540 HQ VD、360 × 720 ND、360 × 720 VD

次の 2 つから、出力時に使用するドットの大きさを指定します。

- ・ Recommend  
: 推奨値です。普段はこの設定を選択してください。
- ・ LL ドット  
: Recommend にしたときよりも、ドットが大きくなります。  
Recommend に設定したとき、全体的に薄い、またはスジが発生する場合に選択してください。



### 重要!

- ◆ LL ドットに設定すると、Recommend の場合よりも作図時間が長くなります。
- ◆ LL ドットの設定は、JV3-SP のファームウェアが Ver6.2 以上で使用可能です。ファームウェアのバージョン確認方法は、プリンタの取扱説明書をご覧ください。
- ◆ 本体に SS2 インクがセットされていない場合、LL ドットの設定は無視されます。
- ◆ Raster Link シリーズにプロファイルをインストールしたとき、使用しているドットサイズを見分けるために、メディア名に LL ドットを使用している旨の記述をすることをお勧めします。

## JV3-SP/SL で ES3 インクを使用している場合



- ◆ プロファイル作成条件の詳細は以下のようになります。
  - ・プリンタ: JV3-SP-4Color シリーズ、JV3-SP-8Color シリーズ
  - ・インクセット: ES3 CMYK、ES3 CMYKLcLm
  - ・出力設定: 720×720 VD、720×1440VD、1440×1440 VD

次の 2 つから、出力時に使用するドットの大きさを指定します。

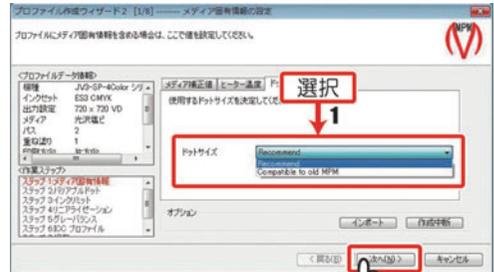
・Recommend

: 推奨値です。

JV3SP および JV3SL のファームウェア Ver.7.40 以降をお使いの場合は、この設定を選択してください。

・Compatible to old MPM

: JV3SP および JV3SL のファームウェア Ver.7.30 以前をお使いの場合は、この設定を選択してください。



**重要!**

- ◆ JV3-SP/SL のファームウェアが Ver.7.30 以前のときに “Recommend” を選択すると、プリンタがパラメータエラーを表示します。作図は可能ですが、濃度が薄くなります。
- ◆ ファームウェアのバージョン確認方法は、プリンタの取扱説明書をご覧ください。

## JF-1631/1610、JFX、UJV-160、UJF-706、UJF-3042FX、UJF-3042HG、UJF-6042、Tx400 を使用している場合



◆ プロファイル作成条件の詳細は以下のようになります。

- ・プリンタ：JF-16XX-4Color シリーズ、JF-16XX-8Color シリーズ、UJV-160-4Color、JFX-4Color、JFX-8Color、UJF-706-6Color、UJF-706-8Color、UJF-3042FX-6Color、UJF-3042HG-8Color、UJF-6042-8Color、Tx400-4Color、Tx400-8Color

### 出力設定を“VD”にしているとき

次の 3 種類のドットサイズを設定できます。

**Small** : 一番小さいドットサイズ

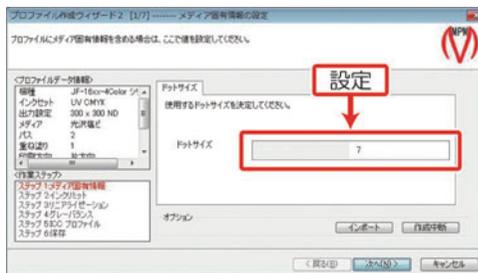
**Middle** : 中間のドットサイズ

**Large** : 一番大きいドットサイズ



### 出力設定を“ND”にしているとき

ノーマルドットのドットサイズを設定できます。



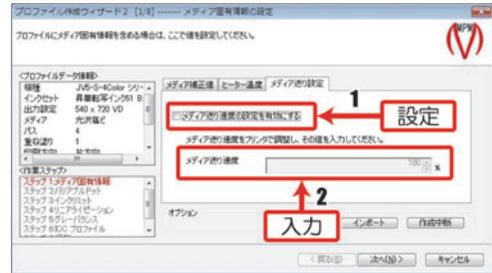
#### 重要!

- ◆ ドットサイズは、Small ≤ Middle ≤ Large となるように設定してください。
- ◆ ドットサイズは、Large → Middle → Small の順番で設定することをお勧めします。
- ◆ JF-16XXシリーズのドットサイズの設定は、ファームウェアがVer2.80以上で使用可能です。ファームウェアのバージョンは、プリンタの電源を入れたときに表示されます。
- ◆ UJF-3042FX、UJF-3042HG、UJF-6042、Tx400 のドットサイズの設定では、設定できるサイズの組み合わせが決められています。

## ●メディア送り設定

- (1) “メディア送り速度の設定を有効にする”のチェックボックスをONにしてから
- (2) プリンタで設定したメディア送り速度の値を入力します。

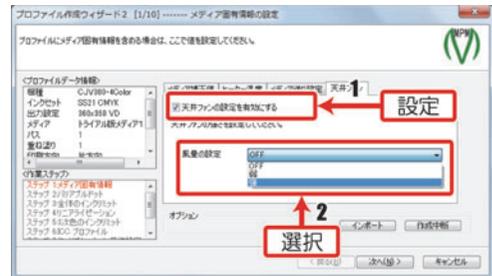
重いメディアや貼り付きやすいメディア、ロールがたわんでいるメディアなどをご使用になると、送り精度に影響があります。送り速度を遅めに設定することで、その影響を減少させることができます。



## ●天井ファン

天井ファンの設定は、JV300/CJV300を使用している場合のみ行えます。

- (1) “天井ファンの設定を有効にする”のチェックボックスをONにします。
- (2) “風量の設定”から出力時の風量を指定します。

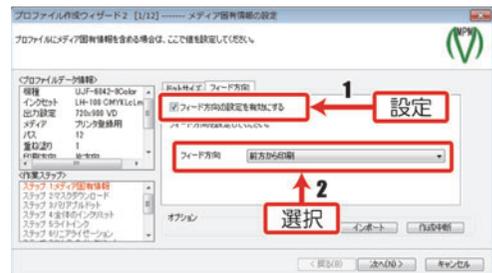


- ◆ “強”が推奨値です。普段はこの設定を選択してください。
- ◆ 昇華転写インクを使用している場合、“強”では滲みが発生することがあります。この場合は“弱”を選択してください。
- ◆ 天井ファンの送風により、インク臭が気になる場合は“OFF”にしてください。ただし、乾燥性が低下し、滲みなどの原因になる場合があります。

## ●フィード方向

フィード方向は、UJF-3042FX/UJF-3042HG/UJF-6042でCMYKLCmカラーセットを使用している場合に設定できます。

- (1) “フィード方向の設定を有効にする”のチェックボックスをONにします。



- ◆ “フィード方向の設定を有効にする”のチェックボックスをOFFにすると、MPMII Ver.4.30以前でプロフィールを作成した時のフィード方向になります。

- (2) 次の2つから、カラーを印刷する方向を指定します。
  - ・前方から印刷：手前側から奥側に向かって印刷します。
  - ・後方から印刷：奥側から手前側に向かって印刷します。

2

次へ をクリックします。

2-12 ページ「拡張固有情報の設定」へ続く

## 拡張固有情報の設定

必要な場合は、拡張固有情報（UV 照度設定）を設定します。

**重要!**

◆ プロファイル作成条件にて、拡張固有情報に対応したプリンタを選択していない場合は表示しません。

← 2-11 ページ「メディア固有情報の設定」から

### 1 必要な場合に、以下の項目を設定します。

#### ● UV 照度設定

**重要!**

◆ 印刷品質を向上させるため、以下の条件ごとに最適化した UV ランプ照度を設定する必要があります。

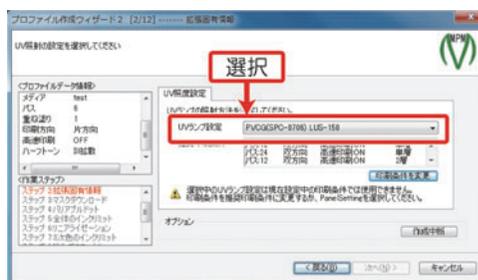
使用メディア、使用インク、解像度、パス数、印刷方向（単方向 / 双方向）、高速印刷（ON/OFF）、特色重ね印刷設定（単層（カラーのみ / 特色のみ） / 2 層（特色→カラー / カラー→特色） / 3 層）

Mimaki ProfileMasterII では、上記条件毎にプリセットを提供し、これを選択していただくことで、UV ランプの設定を行います（プリセットを提供していない機種、出力設定の組み合わせもごさいます）提供しているプリセットの詳細につきましては別紙「Mimaki Profile MasterII 注意事項」をご覧ください。

“UV ランプ設定” から、UV ランプ照度設定のプリセットを選択します。

“UV ランプ設定” ではプロファイルの機種、出力設定に合致するプリセットを選択できます。

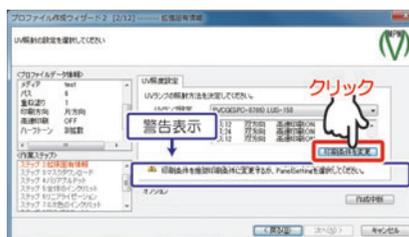
現在選択されているプリセットが対応しているパス数、印刷方向、高速印刷、特色重ね印刷設定の情報は“推奨印刷条件” 欄に表示されます。



#### 印刷条件の変更

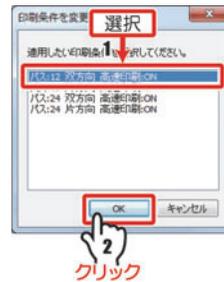
◆ 選択したプリセットが対応しているパス数、印刷方向、高速印刷がプロファイルの設定と異なる場合、警告が表示されます。この時、これらの値を以下の手順で変更できます。

(1) **印刷条件を変更** をクリックします。

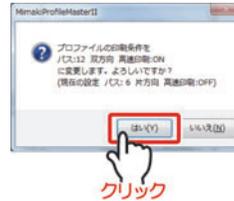


(2) [印刷条件を変更]が表示されます。

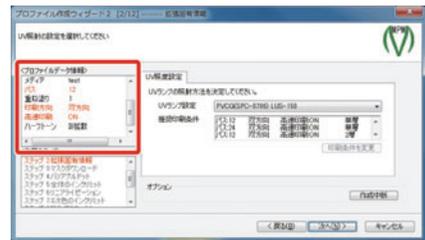
リストより変更後の印刷条件を選択し、**OK** をクリックします。



変更を確認するダイアログが表示されます。よい場合 **はい** をクリックします。



(3) パス数、印刷方向、高速印刷の設定が変更されます。「プロファイルデータ情報」欄では、変更された設定は赤で表示されます。



### プリンタ側の設定について

- ◆ プリセット以外の設定としたい場合「PanelSetting」を選択してください（プリセットを提供していない機種、出力設定の場合、「PanelSetting」のみ表示されます）。  
この際、プリンタ側の UV ランプ設定は“マニュアル”とし、光量等を設定してください。
- ◆ 「PanelSetting」以外を設定する場合、プリンタ側の UV ランプ設定を“ホスト”としてください。  
プリンタ側の UV ランプ設定方法につきましては、各プリンタの取扱説明書をご覧ください。

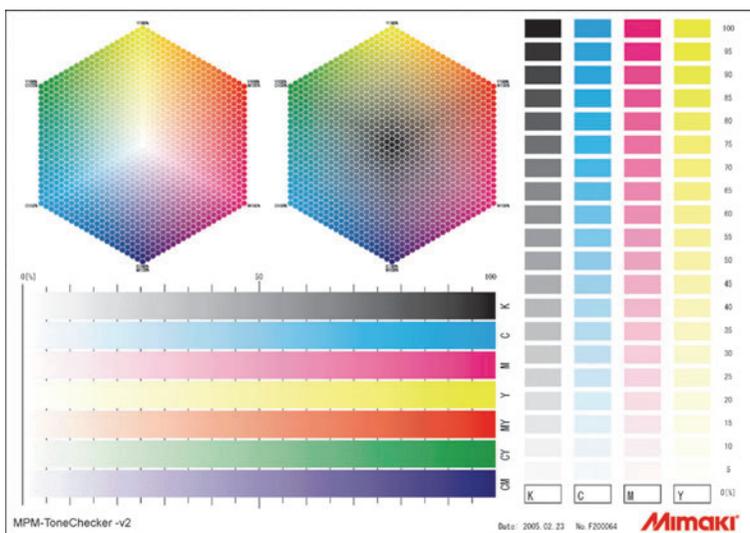
2-14 ページ「バリエブルドットの設定 (バリエブルドット選択時のみ)」へ続く ➡

## バリアブルドットの設定 (バリアブルドット選択時のみ)

**重要!**

◆バリアブルドットを含む解像度を選択していない場合は表示しません。  
2-17 ページ「全体のインクリミットの設定 (プロファイル (V3) を選んだ場合)」  
または 2-21 ページ「インクリミットの設定 (プロファイル (V2) を選んだ場合)」  
に進みます。

以下のチャートを出力して、インクセットに合ったバリアブルドットを確認します。



バリアブルドットを使用すると、3種類 (Small, Middle, Large) の大きさのドットを打ち分け、グラデーションがなめらかになります。お使いになるインクセットに合わせて、グラデーションがなめらかに表現される最適なパラメータを用意しています。

← 2-13 ページ「拡張固有情報の設定」から

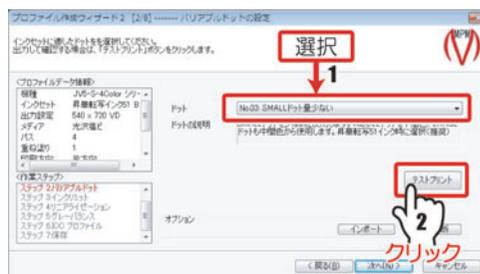
### 1 バリアブルドットを選択します。

選択したインクセットに最適なドットが表示されます。

選択されているドットの内容を“ドットの説明”に表示します。

### 2 テストプリントをクリックします。

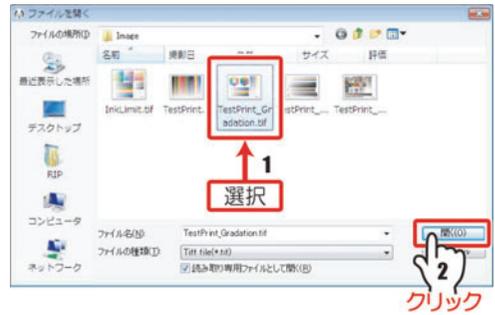
選択したドットを使用して、出力確認します。



### 3 出力確認をする画像ファイルを選択します。



- ◆ ICCプロフィールの作成が完了するまでは、CMYKのTIFF画像のみが出力できます。
- ◆ 弊社が提供する画像ファイルがMPM IIのImageフォルダ内に保存されています。(TestPrint\_Gradation.tif)  
確認専用のチャートをお持ちの場合は、お持ちの画像ファイルを選択してください。

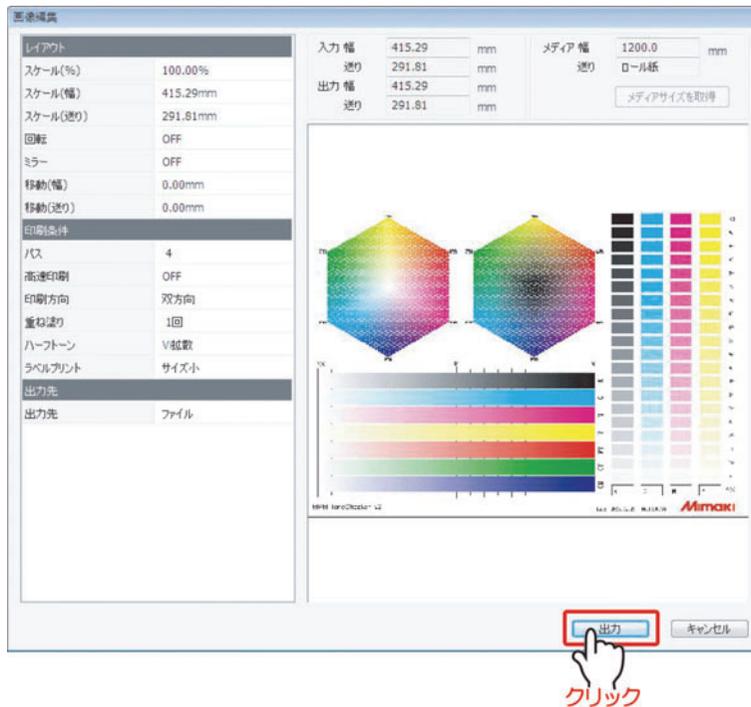


### 4 開く をクリックします。

「プリント編集」ダイアログを表示します。

### 5 出力の設定をして (P 2-59)、出力 をクリックします。

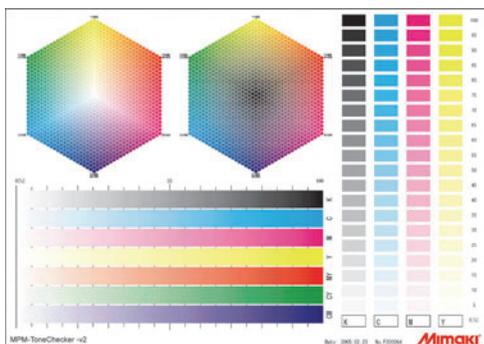
PCと接続しているプリンタに出力を開始します。



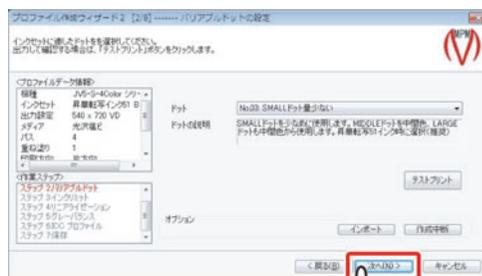
- ◆ 出力画像のサイズにより異なりますが、弊社が提供する画像を出力する場合、600mm以上の幅のあるメディアをプリンタにセットしてください。

## 6 出力した画像を確認します。

選択したパラメータの設定を使用して出力した画像のグラデーションが、なめらかになっているかを確認します。



## 7 次へ をクリックします。



クリック

プロファイル (V2) を選んだ場合  
2-21 ページ「インクリミットの設定 (プロファイル (V2) を選んだ場合)」へ続く →

プロファイル (V3) を選んだ場合  
2-17 ページ「全体のインクリミットの設定 (プロファイル (V3) を選んだ場合)」へ続く →

## 全体のインクリミットの設定 (プロフィール (V3) を選んだ場合)

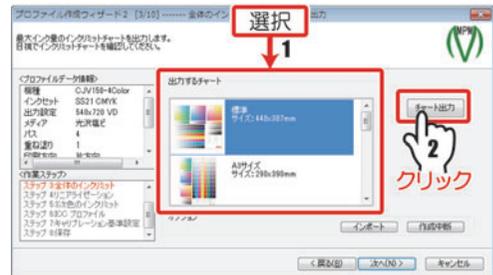
チャートを出力して、メディアに乗せることのできるインクリミットを設定します。



← 2-16 ページ「バリエブルドットの設定 (バリエブルドット選択時のみ)」から

**1** 【出力するチャート】のリストから選択し、**「チャート出力」**をクリックします。

CMYK/CMYKLCm/CMYKLCmLk カラーセットの場合、リストより「他のチャートを選択する」を選択すると、お持ちの画像を出力することができます。

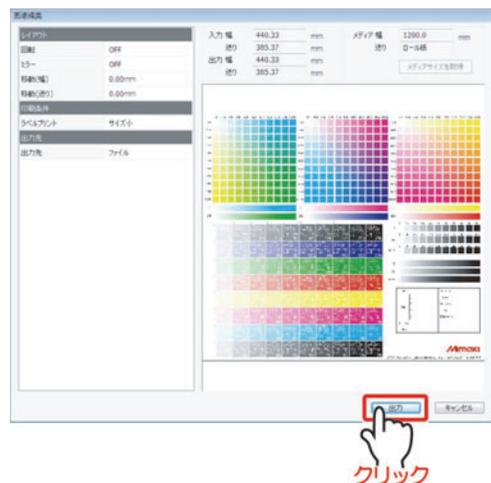


**重要!**

◆ 使用できる画像は TIFF(CMYK) 画像のみとなります。

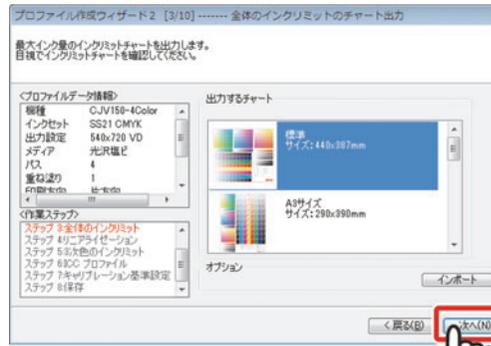
**2** 出力の設定をして (P 2-59)、**「出力」**をクリックします。

PC と接続しているプリンタに出力を開始します。



3

次へ をクリックします。



4

出力した画像から、各色のインクリミットを決定します。

◆ 優先順位として、以下の順番で各色のインクリミットを設定することを推奨します。

- 1 レッド (R) の色み
- 2 墨色 (K) の濃さ
- 3 ブルー (B) の色み
- 4 グリーン (G) の色み

これは、弊社推奨の順番です。優先順位を変更しても構いません。



#### ● インクリミットの決定方法

インクリミットの決定方法は、目視による判断となります。

- 以下にあげるインクの状態は、以降の設定でチャートを正しく測色できない原因になる場合があります。
  - a. 数分待っても乾かない。(作成環境によります)
  - b. インクが均一に乾かない。(高濃度の小さい矩形を出力すると、インクが外側に寄ってしまい、濃度が均一にならない)
  - c. 白い細線が表現できない。
  - d. 横方向に数珠状につながって、縞模様になる。
  - e. メディアが波打ってしまう。膨張してしまう。
  - f. UVインクで出力したとき、見る角度によって光の反射の具合が大きく異なる
  - g. 高濃度部で階調がなくなってしまっている。
- 高濃度の出力をする際、インク量を多めにする必要があるため、細線が表現できない場合や、多少のにじみが出る場合があります。
- 温度や湿度の影響を受けるので、作成した環境(場所、季節、天候、温度、湿度等)によって、インクリミットの値が異なることがあります。
- インクリミットの値が適正でも、バリエブルドットを使用する場合、「見た目」が問題になることがあります。
 

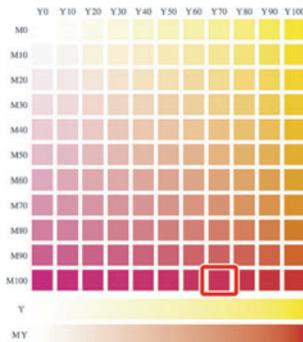
バリエブルドットでは、3種類の大きさ (Small, Middle, Large) のドットを打ち分け、グラデーションをなめらかにしています。しかし、メディアによっては、Smallドットが使用されるハイライト～中間調部分で、ドット間の距離よりドットサイズが下回ることがあり、紙面をドットで埋め尽くすことができません。このとき、見た目に「スジっぽさ」や「粗さ」を感じてしまい、好ましい画像にはならないことがあります。対処方法として、次の方法があります。

  - a. デバイスプロファイル作成後に、インク量を調整する。
  - b. リニアライゼーションカーブを若干濃くする。
- すべてのインク量を同じにしてもデバイスプロファイルの作成はできますが、2次色、3次色(グレーバランス等)の色合いも考慮して各インク量を設定するとより良いデバイスプロファイルが作成できます。

### インクリミットの決定の仕方

次に、インクリミットの決定方法の一例を紹介します。

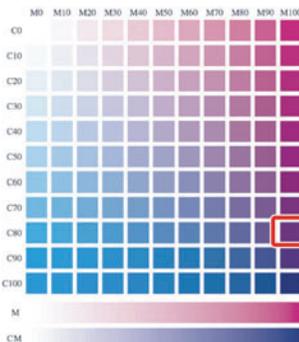
#### レッド (R) の色みを選ぶ



M と Y の混色部分で、好みの R が出ている場所を選びます。

ここでは、**M100%、Y70%** とします。

#### ブルー (B) の色みを選ぶ

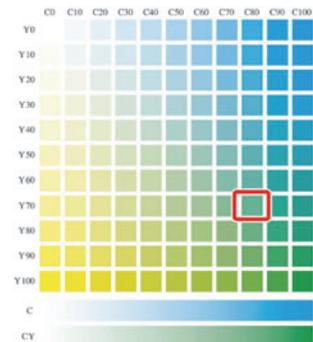


M と C の混色部分で、好みの B が出ている場所を選びます。

R を選んだ部分の M のインク量周辺にある色から選びます。

ここでは **M100%、C80%** とします。

#### グリーン (G) の色みを選ぶ



C と Y の混色部分で、好みの G が出ている場所を選びます。

R と B を選んだ部分の C と Y のインク量の交点周辺にある色から選びます。

ここでは **C80%、Y70%** とします。



#### 墨色 (K) の濃さを選ぶ

K のインクリミットは、K 単色のパッチでインクがあふれず、かつ、ドットが埋まっている場所を選びます。

ここでは **K90%** を選びます。



よい例



悪い例

よって 1 次色の入力値は、**C80%、M100%、Y70%、K90%** となります。



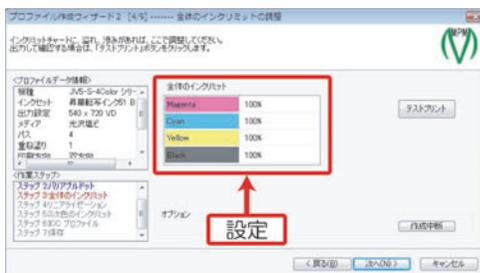
◆ にじみやすい、インクの乗る量の少ないメディアは、見た目と発色を考慮しながら設定してください。

◆ OrGr のインクリミットの決定方法

Or は M, Gr は C のインクリミットと同じにしてください。

## 5 全体のインクリミットを入力します。

手順3で決定した、各色のインクリミットを入力します。  
各色の数値部分をクリックすると数値入力ができます。



◆ 数値入力は以下の3つの方法があります。

- ・ キーボードで数値を直接入力する。
- ・ 上下キーで数値を変更する。
- ・ マウスで上下ボタンをクリックする。

## 6 テストプリント をクリックし、出力確認します。

( P 2-14 手順 2 ~ 5)



◆ 弊社が提供する画像ファイルが保存されています。(Inklimit.tif)  
確認専用のチャートをお持ちの場合は、お持ちの画像ファイルを使用します。

## 7 次へ をクリックします。

2-25 ページ「ライトインク使用比率の設定 (ライトインク選択時のみ)」へ続く



## インクリミットの設定 (プロフィール (V2) を選んだ場合)

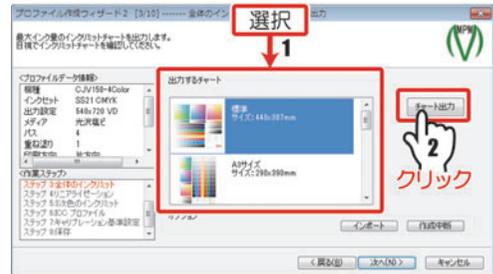
チャートを出力して、メディアに乗せることのできるインクリミットを設定します。



← 2-16 ページ「バリエブルドットの設定 (バリエブルドット選択時のみ)」から

**1** **【出力するチャート】**のリストから**選択**し、**【チャート出力】**をクリックします。

CMYK/CMYKLcLm/CMYKLcLmLk カラーセットの場合、リストより「他のチャートを選択する」を選択すると、お持ちの画像を出力することができます。

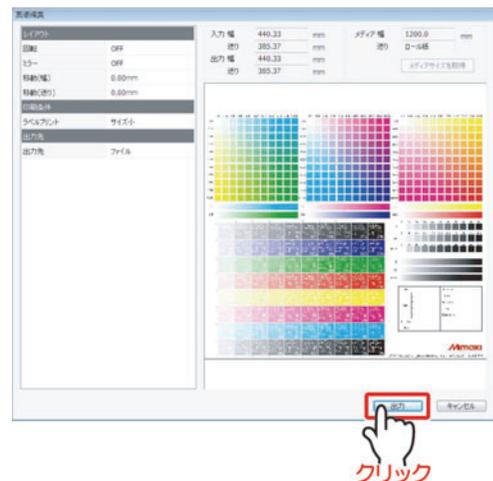


**重要!**

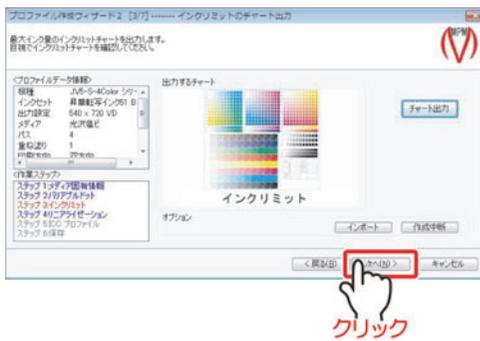
◆使用できる画像は TIFF(CMYK) 画像のみとなります。

**2** 出力の設定をして (P 2-59)、**【出力】**をクリックします。

PC と接続しているプリンタに出力を開始します。



**3** **次へ** をクリックします。



**4** 出力したチャートから3色(CMY)のトータルインク量を決定します。

チャートのにじみや白抜き文字の状態を見て、トータルインク量を決定します。  
白抜き文字がはっきりと見えるトータルインク量をチャートから探します。



CMY各色100%ずつ出力



**● インクリミットの決定方法**

インクリミットの決定方法は、目視による判断となります。

- 以下にあげるインクの状態は、以降の設定でチャートを正しく測色できない原因になる場合があります。
  - a. 数分待っても乾かない。(作成環境によります)
  - b. インクが均一に乾かない。(高濃度の小さい矩形を出力すると、インクが外側に寄ってしまい、濃度が均一にならない)
  - c. 白い細線が表現できない。
  - d. 横方向に数珠状につながって、縞模様になる。
  - e. メディアが波打ってしまう。膨張してしまう。
  - f. UVインクで出力したとき、見る角度によって光の反射の具合が大きく異なる
  - g. 高濃度部で階調がなくなってしまう。
- 高濃度の出力をする際、インク量を多めにする必要があるので、細線が表現できない場合や、多少のにじみが出る場合があります。
- 温度や湿度の影響を受けるので、作成した環境(場所、季節、天候、温度、湿度等)によって、インクリミットの値が異なることがあります。
- インクリミットの値が適正でも、バリエラブルドットを使用する場合、「見た目」が問題になることがあります。  
バリエラブルドットでは、3種類の大きさ(Small, Middle, Large)のドットを打ち分け、グラデーションをなめらかにしています。しかし、メディアによっては、Smallドットが使用されるハイライト~中間調部分で、ドット間の距離よりドットサイズが下回ることがあり、紙面をドットで埋め尽くすことができません。このとき、見た目に「スジっぽさ」や「粗さ」を感じてしまい、好ましい画像にはならないことがあります。  
対処方法として、次の方法があります。
  - a. デバイスプロファイル作成後に、インク量を調整する。
  - b. リニアライゼーションカーブを若干濃くする。
- すべてのインク量を同じにしてもデバイスプロファイルの作成はできますが、2次色、3次色(グレーバランス等)の色合いも考慮して各インク量を設定するとより良いデバイスプロファイルが作成できます。

## 5 出力した画像から、各色のインクリミットを決定します。

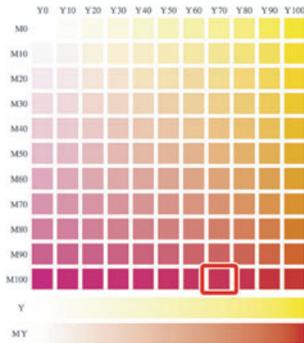
◆ 優先順位として、以下の順番で各色のインクリミットを設定することを推奨します。

- 1 レッド (R) の色み
- 2 墨色 (K) の濃さ
- 3 ブルー (B) の色み
- 4 グリーン (G) の色み

これは、弊社推奨の順番です。優先順位を変更しても構いません。

例：手順 4 でトータルインク量 240% を選んでいた場合。

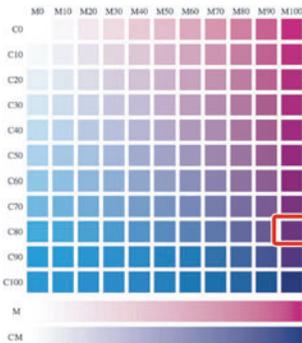
レッド (R) の色みを選ぶ



M と Y の混色部分で、好みの R が出ている場所を選びます。

ここでは、**M100%、Y70%** とします。

ブルー (B) の色みを選ぶ

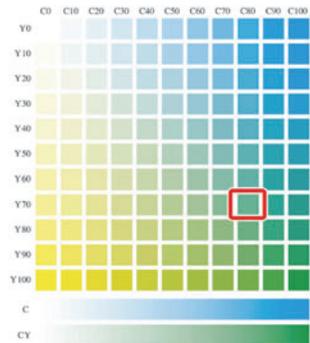


M と C の混色部分で、好みの B が出ている場所を選びます。

R を選んだ部分の M のインク量周辺にある色から選びます。

ここでは **M100%、C80%** とします。

グリーン (G) の色みを選ぶ



C と Y の混色部分で、好みの G が出ている場所を選びます。

R と B を選んだ部分の C と Y のインク量の交点周辺にある色から選びます。

ここでは **C80%、Y70%** とします。



墨色 (K) の濃さを選ぶ

K のインクリミットは、K 単色のパッチでインクがあふれず、かつ、ドットが埋まっている場所を選びます。

ここでは **K90%** を選びます。



よい例

悪い例

よって、**C80%、M100%、Y70%、K90%** となり、CMY のトータルインク量が 250% となり、選択したトータルインク量 240% を 10% だけあふれてしまいます。その場合は、再度好みの色に合わせ、インク量を下げて加減します。



◆ にじみやすい、インクの乗る量の少ないメディアは、見た目と発色を考慮しながら設定してください。

## 6 インクリミットを入力 します。

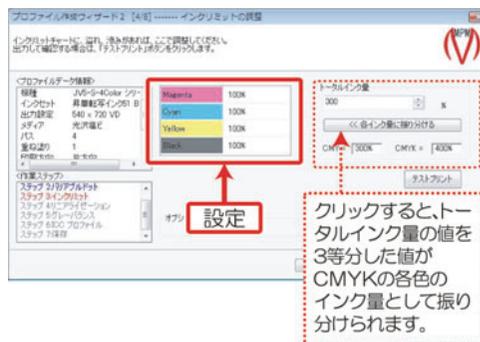
各色の数値部分をクリックすると数値  
入力ができます。



- ◆ 数値入力は以下の3つの方法が  
あります。
  - ・キーボードで数値を直接入力  
する。
  - ・上下キーで数値を変更する。
  - ・マウスで上下ボタンをクリッ  
クする。



- ◆ 手順 4 で決めたトータルインク量を CMYK 各色に均等に配分したいときは、**各インク量に振り分ける**をクリックしてください。トータルインク量を3等分した値が、CMYK 各色のインク量として適用されます。



## 7 テストプリント をクリックし、出力確認します。

( P 2-14 手順 2 ~ 5)



- ◆ 弊社が提供する画像ファイルがMPM IIのImageフォルダ内に保存されています。  
(Inklimit.tif)  
確認専用のチャートをお持ちの場合は、お持ちの画像ファイルを選択してくださ  
い。

## 8 次へ をクリックします。

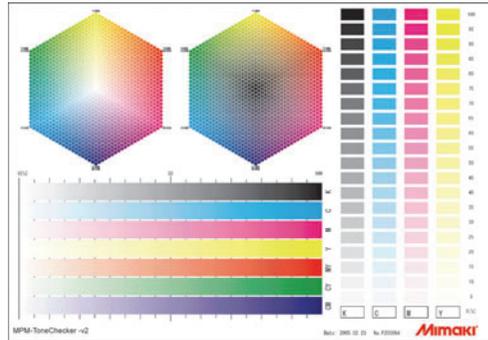
2-25 ページ「ライトインク使用比率の設定 ( ライトインク選択時のみ )」へ続く

## ライトインク使用比率の設定（ライトインク選択時のみ）

**重要!**

◆ ライトインクを含むインクセットを選択していない場合は表示しません。  
2-26 ページ「リニアライゼーションの自動調整」に進みます。

右のチャートを出力して、メディアに合ったライトインクの使用方法を選択します。  
ライトインクを使用すると、グラデーションのハイライトから中間調部分において、濃いインクと置き換わり、粒状感のない、なめらかなグラデーションになります。  
グラデーションがなめらかに表現されるような数種類のパラメータを用意しています。



← プロファイル (V2) を選んだ場合

2-24 ページ「インクリミットの設定 (プロファイル (V2) を選んだ場合)」から

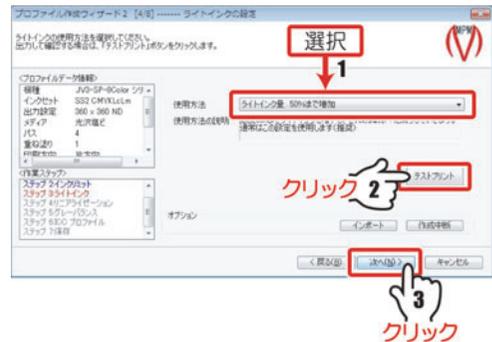
← プロファイル (V3) を選んだ場合 2-20 ページ「全体のインクリミットの設定 (プロファイル (V3) を選んだ場合)」から

**1** ライトインクの使用方法を選択します。

使用方法の説明は下段に表示します。

**2** **テストプリント** をクリックし、出力確認をします。

(☞ P 2-14 手順 2～5)



💡 ◆ 弊社が提供する画像ファイルが MPM II の Image フォルダ内に保存されています。(TestPrint\_Gradation.tif)  
確認専用のチャートをお持ちの場合は、お持ちの画像ファイルを選択してください。

**3** **次へ** をクリックします。

2-26 ページ「リニアライゼーションの自動調整」へ続く ➡

## リニアライゼーションの自動調整

チャートを出力し、測色することによって、CMYK インク各色の階調特性を自動調整します。  
(ライトインクは、調整しません。)  
自動調整された CMYK 各色の単色のグラデーションが、なめらかになっているかを確認します。

**重要!**

- ◆ インクが乾燥してから測色してください。正しい測色値を測れないことがあります。
- ◆ プロファイル (V2) を選択した場合、長時間放置してもインクが乾かないときは、インクリミットを下げて再度測色チャートを出力してください。

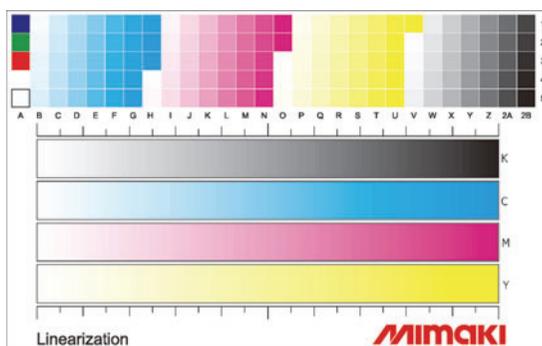
測色用のチャートは、2つのエリアで構成されています。  
出力するチャートは測色器によって異なります。

a. 測色部

測色器にて測色します。

b. 目視確認部

目視にて確認します。  
(CMYKorGrインクセットを選択している場合、この部分はありません。)



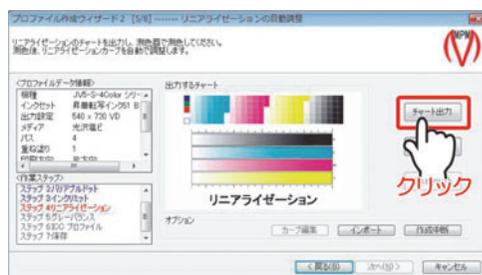
測色器選択で Spectro Scan を選択した場合のチャート

← 2-25 ページ「ライトインク使用比率の設定 (ライトインク選択時のみ)」から

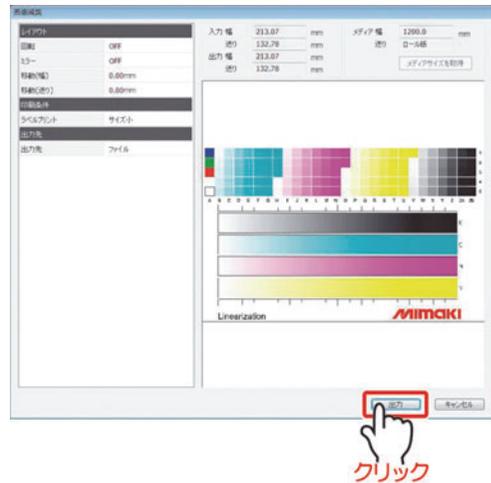
**1** **チャート出力** をクリック  
します。

“出力するチャート”の画面は、選択した測色器によって、異なる画面を表示します。

測色器が選択されていない場合は表示しません。



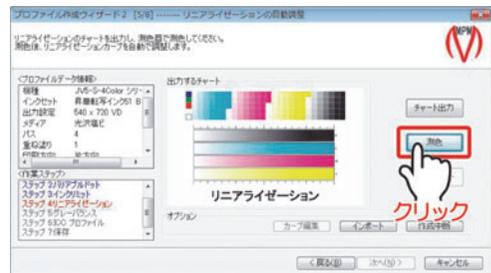
**2** 出力の設定をして (☞ P 2-59)、**出力** をクリックします。



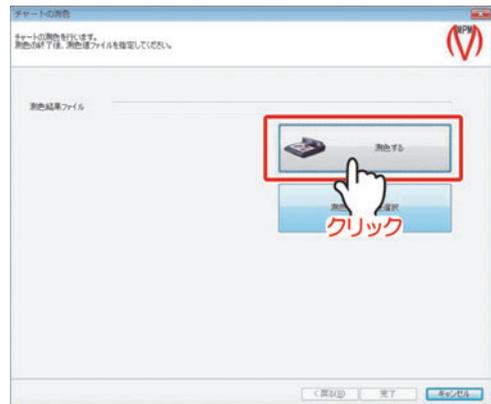
**3** **測色** をクリックします。



◆ 測色器を選択していない場合は、最初に測色器選択画面を表示します。  
(☞ P 1-6)



**4** **測色する** をクリックします。



## 5 MeasureTool5.0 が起動します。



**重要!** ◆ ProfileMaker ドングルを使用しない場合、MeasureTool5.0 はデモモードで起動します。デモモードで起動したときは DTP-41 は使用できません。(他の測色器は、問題なく測色を行うことができます。)

## 6 測色します。

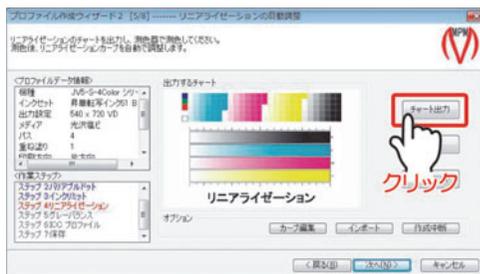
お使いになる測色器によって測色方法は異なります。

- Spectro Scan を使用する場合 (👉) P 2-30
- Eye-One Pro を使用する場合 (👉) P 2-33
- Eye-One iO を使用する場合 (👉) P 2-36
- DTP-41 を使用する場合 (👉) P 2-39
- i1 iSis を使用する場合 (👉) P 2-41

## 7 チャート出力 をクリックし、測色結果を確認します。

(👉) P 2-26 手順 1 ~ 2)

自動調整した結果を出力し、確認します。



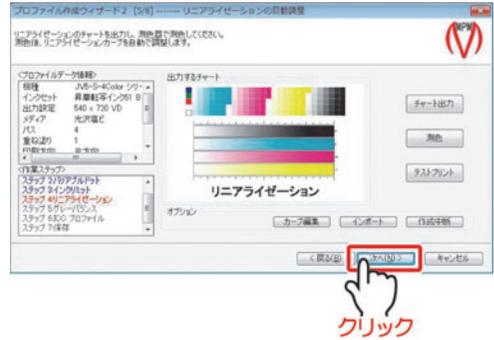
## 8 チャートの目視確認部で、各色のグラデーションがなめらかになっているかを確認します。

- 💡 ◆ 調整が不十分だと感じた場合、手順 7 で出力したチャートを測色します。測色によって再度、自動調整をし、調整の追い込みをします。

**重要!** ◆ 自動調整による追い込みは、複数回行って、目標周辺値で微調整が続いてしまい、効果が得られない場合があります。  
◆ にじみやすいメディアでは、階調の微妙な調整が困難になるため、ハイライト部の階調性が乏しくなります。

- 💡 ◆ **カーブ編集** をクリックして、各色のデータを手動で調整することもできます。(👉) P 2-67)

9 次へ をクリックします。



- ◆ カーブを編集した場合、**テストプリント** をクリックし、出力確認をします。  
弊社が提供する画像ファイルがあります。(TestPrint\_Gradation.tif)
- ◆ 確認専用のチャートをお持ちの場合は、お持ちの画像ファイルを選択します。

プロファイル (V2) を選んだ場合  
2-48 ページ「グレーバランスの自動調整」へ続く ➡

プロファイル (V3) を選んだ場合  
2-44 ページ「3 次色のインクリミットの設定 (プロファイル (V3) を選んだ場合)」へ続く ➡

## Spectro Scan を使って測色する場合

### 重要!

- ◆ 端が反るようなメディアを測色する場合は、端が浮き上がらないように、テープ等で固定してください。
- ◆ シリアルポートの無いPCで Spectro Scan を使う場合は、測色器の販売店にご相談ください。
- ◆ MeasureTool 5.0 で “Language” の設定を変更しないでください。

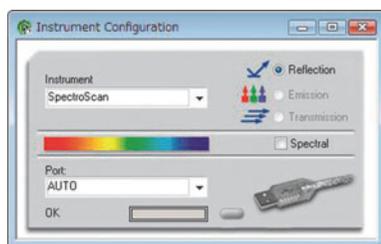
1 出力したチャートを測色器にセットします。

2 ツールバーの “Device/Port” をクリックします。



3 “Instrument Configuration” が起動します。次の項目を確認してください。

- ・ “Instrument” には、P 1-6 で設定した測色器が表示されている
- ・ “Reflection” が選択されている
- ・ “Spectral” がチェックされていない
- ・ “Port” の下に「OK」を表示している



### 重要!

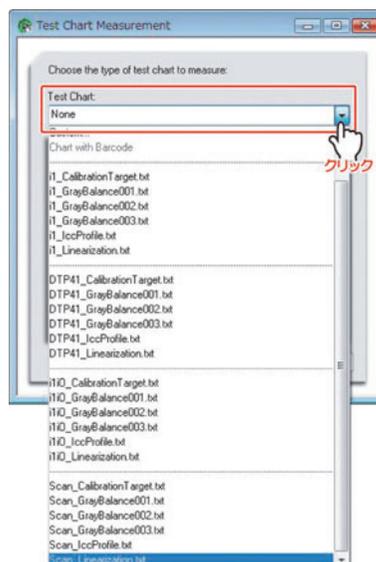
- ◆ 設定されている測色器を変更しないでください。

4 “Instrument Configuration” を閉じます。

5 ツールバーの “Chart” をクリックします。



6 “Test Chart” の下矢印をクリックします。

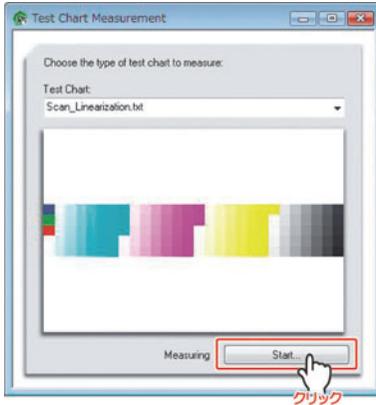


表示されたリストから、測色したい要素の名前がついたチャートを選択してください。  
(リニアライゼーションの調整をする場合は、「Scan\_Linearization.txt」を選択)

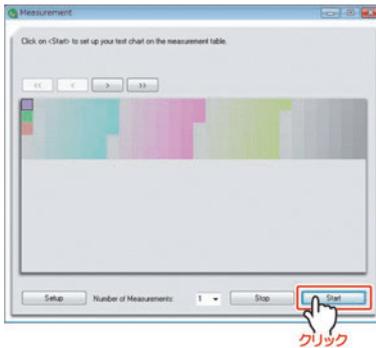
### 重要!

- ◆ 表示されるリストには、Spectro Scan 以外の測色器用のリストも含まれています。必ず「Scan\_」で始まるリストを選んでください。

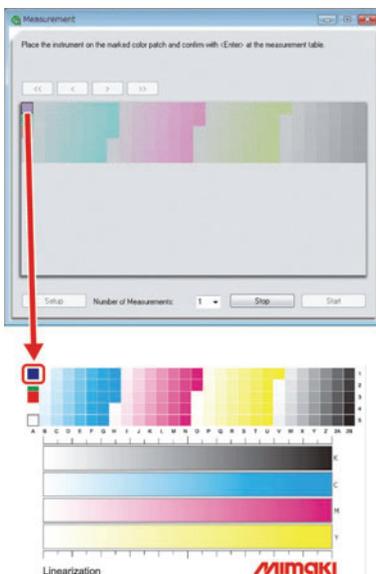
7 **Start** をクリックします。



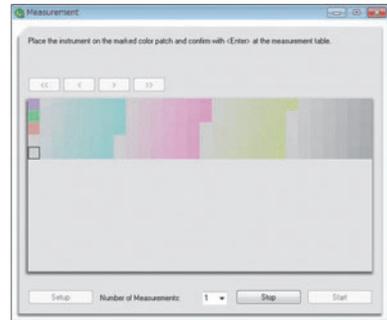
8 **Start** をクリックします。



9 測色器のボタンを押して、測色するチャートと、画面上で指示している部分（左上）を合わせます。

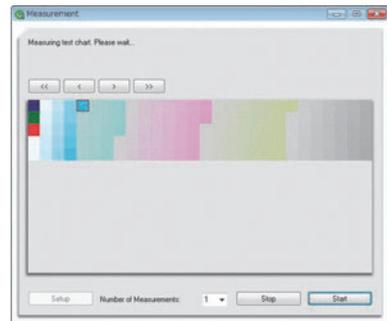


10 測色器の **Enter** ボタンを押すと、次の画面が表示されます。



11 手順 9 と同様に、右上、右下を合わせます。

自動的に測色を開始します。



12 メニューバーから **[File] → [Save As...]** を選択し、測色結果を保存します。



測色結果は、必ず“ファイルの種類”を [Text Files(\*.txt \*.text)] にして保存してください。

### 13 MeasureTool 5.0 を終了させます。

“測色結果ファイル”に、手順 12 で保存したファイル名が表示されていることを確認してください。

#### 重要!

◆ MeasureTool で測色を複数回行うと、最後に保存されたファイル名が表示されます。使用したい測色結果ファイルと異なる場合は、[測色値ファイルを選択]をクリックしてファイルを選択してください。

### 14 完了 をクリックします。

自動的に、カーブの調整を行います。カーブの調整が完了すると、次のダイアログが表示されます。



### 15 OK をクリックします。

測色が終了しました。☞ P 2-28 手順 7 からの操作をしてください。

## Eye-One Pro を使って測色する場合

**重要!**

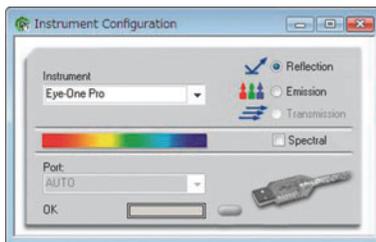
- ◆ チャートは、測色しやすい平らな場所に設置してください。
- ◆ MeasureTool 5.0 で“Language” の設定を変更しないでください。
- ◆ i1 Pro2 をご使用の場合、Eye-One Pro を選択してください。

- 1 ツールバーの  
“Device/Port” をク  
リックします。



- 2 “Instrument Configuration” が起動し  
ます。次の項目を確認してください。

- ・ “Instrument” には、P 1-6 で設定した測色器が表示されている
- ・ “Reflection” が選択されている
- ・ “Spectral” がチェックされていない
- ・ “Port” の下に「OK」を表示している

**重要!**

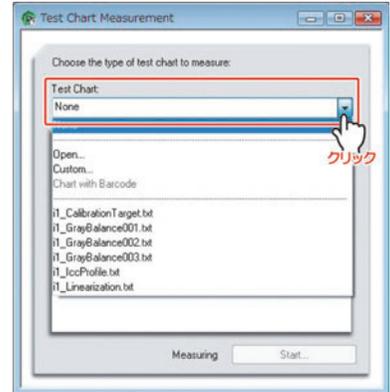
- ◆ 設定されている測色器を変更しないでください。

- 3 “Instrument Configuration” を閉じま  
す。

- 4 ツールバーの  
“Chart” をク  
リックします。



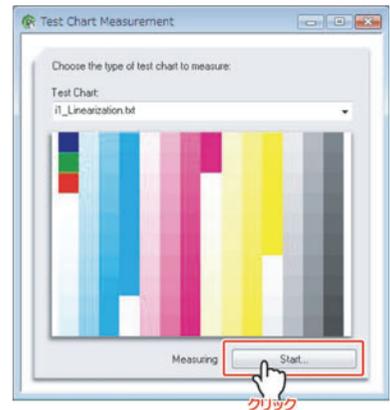
- 5 “Test Chart” の下矢印をクリックしま  
す。



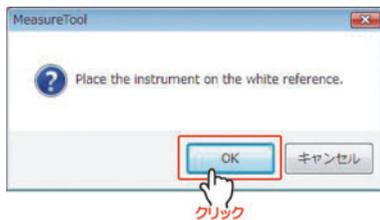
Eye-One Pro のチャートを表示します。  
測色したい要素の名前がついたチャート  
を選択してください。

(リニアライゼーションの調整をする場合  
は、「i1\_Linearization.txt」を選択)

- 6 **Start** をクリックします。



- 7 次のダイアログを表示したら、測色器本体を白色基準タイルの上に乗せ、**OK** をクリックします。



キャリブレーションを行い、測色の画面を表示します。

- 8 “Mode”の設定を[Strip with gaps]にします。



- 9 チャートの1の行に、測色器付属の基本チャート用測定ガイドを置きます。



◆ Eye-One Pro に付属のバックボードをご利用の場合、以下のようにチャートを準備すると、基本チャート用測定ガイドとチャート左端の半円が一致して測色しやすくなります。

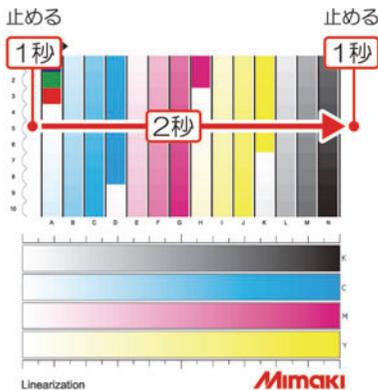
- (1) チャートの枠線に沿って切ります。
- (2) チャートをバックボードの左奥に押し当て、クリップで挟みます。

- 10 基本チャート用測定ガイドに測色器を合わせ測色します。



- ◆ 測定ボタンを押しながら、左から右にゆっくりと一定のスピードでスライドさせて、測色してください。
- ◆ 詳細については、Eye-One の取扱説明書をご覧ください。

左端のプリントされていない部分から、右端のプリントされていない部分まで測色します。(時間は目安です。)

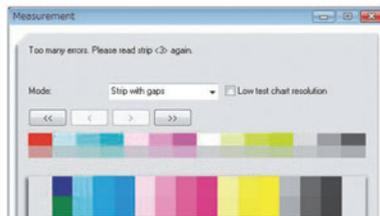


正常に測色できた場合は、測色が完了した行の色が変わり、次の行の測色を指示する表示になります。



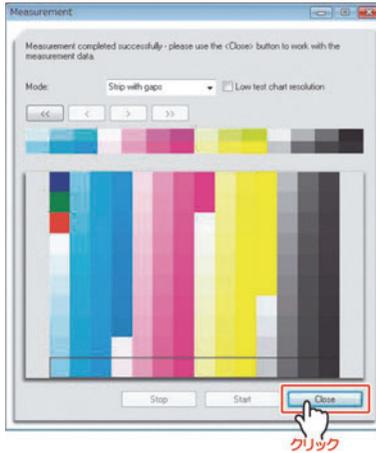
#### 正常に測色できなかった場合

測色できなかったことを表すメッセージを表示します。測色し直してください。

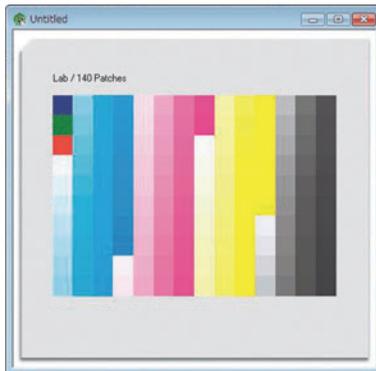


11 同様に他の行も順番に測色します。

12 すべての測色が完了したら、**Close** をクリックします。



13 メニューバーから **[File] → [Save As...]** を選択し、測色結果を保存します。



測色結果は、必ず “ファイルの種類” を [Text Files(\*.txt \*.text)] にして保存してください。

14 MeasureTool 5.0 を終了させます。

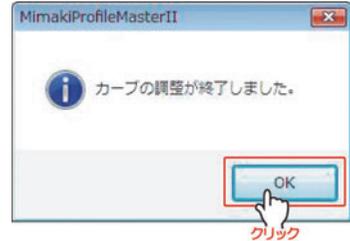
“測色結果ファイル” に、手順 13 で保存したファイル名が表示されていることを確認してください。

**重要!**

◆ MeasureTool で測色を複数回行うと、最後に保存されたファイル名が表示されます。使用したい測色結果ファイルと異なる場合は、[測色値ファイルを選択] をクリックしてファイルを選択してください。

15 **完了** をクリックします。

自動的に、カーブの調整を行います。カーブの調整が完了すると、次のダイアログが表示されます。



16 **OK** をクリックします。

測色が終了しました。(P 2-28 手順 7 からの操作をしてください。)

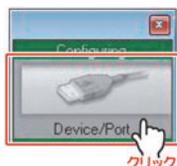
## Eye-One iO を使って測色する場合

### 重要!

- ◆ 端が反るようなメディアを測色する場合は、端が浮き上がらないように、テープ等で固定してください。
- ◆ 測色をする前に、付録 -12 ページ「Eye-One iO のご使用について」でドライバーの確認をしてください。
- ◆ MeasureTool 5.0 で “Language” の設定を変更しないでください。
- ◆ i1iO2 をご使用の場合、Eye-One iO を選択してください。

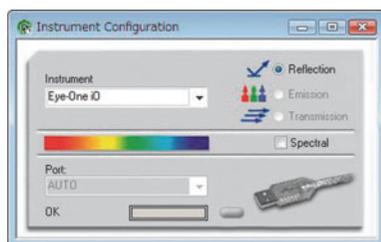
1 出力したチャートを測色器にセットします。

2 ツールバーの “Device/Port” をクリックします。



3 “Instrument Configuration” が起動します。次の項目を確認してください。

- ・ “Instrument” には、P 1-6 で設定した測色器が表示されている
- ・ “Reflection” が選択されている
- ・ “Spectral” がチェックされていない
- ・ “Port” の下に「OK」を表示している



### 重要!

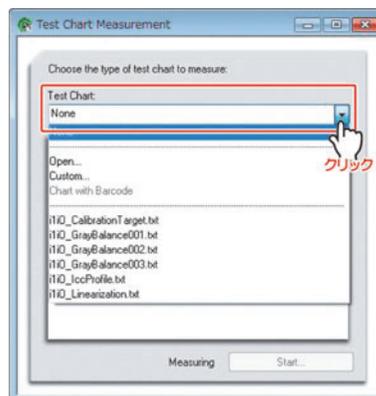
- ◆ 設定されている測色器を変更しないでください。

4 “Instrument Configuration” を閉じます。

5 ツールバーの “Chart” をクリックします。

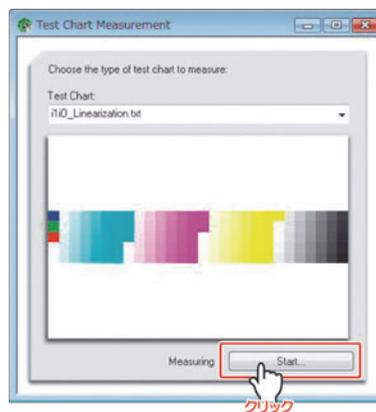


6 “Test Chart” の下矢印をクリックします。



Eye-One iO のチャートを表示します。測色したい要素の名前がついたチャートを選択してください。(リニアライゼーションの調整をする場合は、「i1iO\_Linearization.txt」を選択)

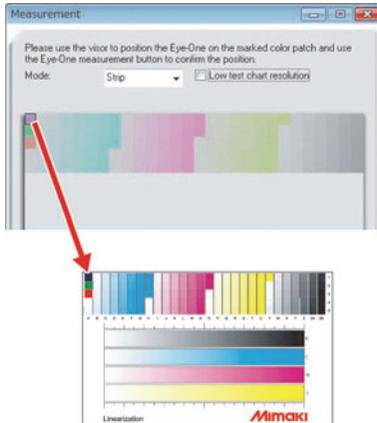
7 **Start** をクリックします。



8 “Mode” の設定を [Strip] にします。

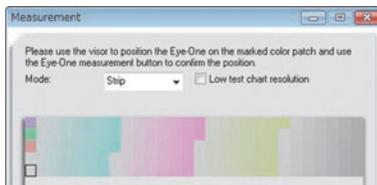


9 Eye-One iO のアームを手で動かし、位置確認用スケールを画面上で示している部分(左上)に合わせます。



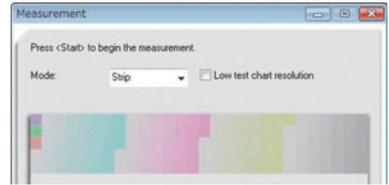
10 Eye-One iOの側面にあるボタンを押します。

次の画面を表示します。



11 手順9と同様に、左下、右下の順番で位置確認用スケールを合わせます。

右下を合わせた後、次の画面が表示されます。



用意ができれば **Start** をクリックしてください。

自動的に測色を開始します。

12 すべての測色が完了したら、**Close** をクリックします。



13 メニューバーから [File] → [Save As...] を選択し、測色結果を保存します。



測色結果は、必ず“ファイルの種類”を [Text Files(\*.txt \*.text)] にして保存してください。

## 14 MeasureTool 5.0 を終了させます。

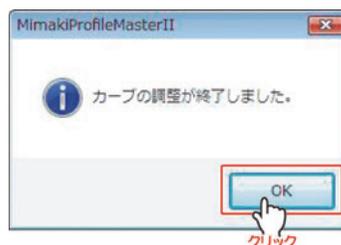
“測色結果ファイル”に、手順 13 で保存したファイル名が表示されていることを確認してください。

### 重要!

◆ MeasureTool で測色を複数回行うと、最後に保存されたファイル名が表示されます。使用したい測色結果ファイルと異なる場合は、[測色値ファイルを選択]をクリックしてファイルを選択してください。

## 15 [完了] をクリックします。

自動的に、カーブの調整を行います。カーブの調整が完了すると、次のダイアログが表示されます。



## 16 [OK] をクリックします。

測色が終了しました。☞ P 2-28 手順 7 からの操作をしてください。



### ● 透けるメディアを測色するときの対応方法

背景が透けて見えるようなメディアを測色する場合、背景色によって測色値に影響が出ます。Spectro Scan、Eye-One Pro、Eye-One iO で測色する場合は、以下のように対処してください。

#### a. 裏が透けるメディア

白紙の同じメディアか、信頼のおける白色度を持つメディアを測色するチャートの下に 1 枚以上置いて測色してください。黒い紙などを敷くと、色再現が暗くなってしまいます。測色器の背景色が白色の場合は必要ありません。

#### b. 布メディア

布の表面の粗さによって異なります。  
表面が細かい（あまり透けない）場合、上記の「裏が透けるメディア」と同様に、白い紙のメディアを敷いて測色してください。  
表面が粗い（よく透ける）場合、同じチャートを 2 枚印刷し、白いメディアの上に重ね合わせて測色してください。  
特に、表面に光沢感のある布メディアを測色する場合は、測色器に付属する偏光フィルタを使用してください。偏光フィルタが付属されていない測色器を使用すると、正しく測色できない場合があります。

#### c. 裏打ちした透明メディア

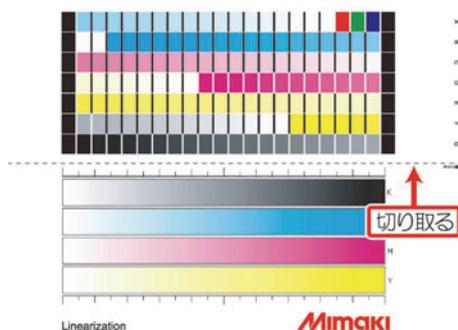
実際に絵柄を見る側から測色します。  
白インクだけでは、透けてしまうことがあるので、信頼のおける白色度を持つメディアや、ターゲットにする色校正が出力されたメディアなどを敷いて、測色してください。

## DTP-41 を使って測色する場合

## 重要!

- ◆ シリアルポートの無い PC でシリアル接続の古い DTP-41 を使う場合は、測色器の販売店にご相談ください。
- ◆ MeasureTool 5.0 で“Language” の設定を変更しないでください。
- ◆ MeasureTool 5.0 がデモモードのときは、測色できません。
- ◆ 測色するチャートは、インクの表面だけでなく内部も乾燥・硬化していることを確認してから測色してください。インクが完全に乾いていないと、測色器内部のローラーがインクで汚れてしまいます。
- ◆ 糊付きのメディアをお使いになる場合、メディアが台紙から剥がれた状態ではお使いにならないでください。

## 1 出力したチャートを点線に沿って切り取ります。

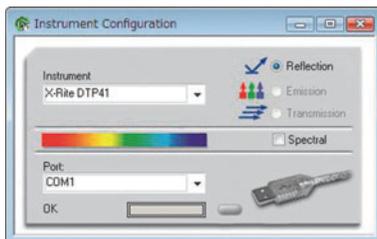


## 2 ツールバーの“Device/Port” をクリックします。



## 3 “Instrument Configuration” が起動します。次の項目を確認してください。

- ・ “Instrument” には、P 1-6 で設定した測色器が表示されている
- ・ “Reflection” が選択されている
- ・ “Spectral” がチェックされていない
- ・ “Port” の下に「OK」を表示している



## 重要!

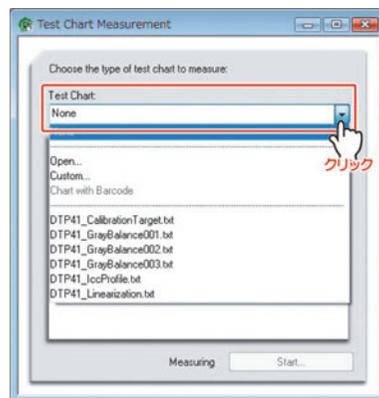
- ◆ 設定されている測色器を変更しないでください。
- ◆ “Port” の下に「OK」が表示されていないときは、接続しているポートを選択して「OK」を表示させてください。

## 4 “Instrument Configuration” を閉じます。

## 5 ツールバーの“Chart” をクリックします。



## 6 “Test Chart” の下矢印をクリックします。



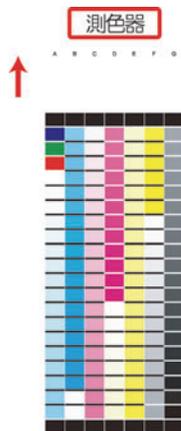
DTP-41 のチャートを表示します。  
測色したい要素の名前がついたチャートを選択してください。  
(リニアライゼーションの調整をする場合は、「DTP41\_Linearization.txt」を選択)

7 **Start** をクリックします。

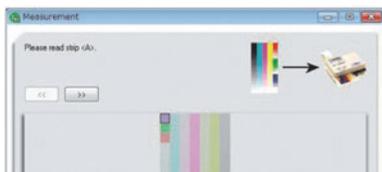
8 測色チャートを測色します。

左端の列から順番に測色します。

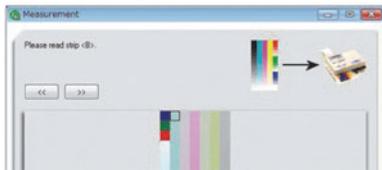
測色する列をセットして、測色器にあるボタンを押してください。



測色中の列が画面に表示されます。画面のアルファベットは測色する列を示します。



正常に測色できた場合は、次の行の測色を促す画面を表示します。



◆ 正常に測色できなかった場合、測色器のランプが早く点滅し、再度、測色するよう促すメッセージを表示します。この場合は、再度測色してください。

9 メニューバーから **[File] → [Save As...]** を選択し、測色結果を保存します。



測色結果は、必ず“ファイルの種類”を [Text Files(\*.txt \*.text)] にして保存してください。

10 MeasureTool 5.0 を終了させます。

“測色結果ファイル”に、手順9で保存したファイル名が表示されていることを確認してください。

**重要!**

◆ MeasureTool で測色を複数回行うと、最後に保存されたファイル名が表示されます。使用したい測色結果ファイルと異なる場合は、[測色値ファイルを選択] をクリックしてファイルを選択してください。

11 **完了** をクリックします。

自動的に、カーブの調整を行います。カーブの調整が完了すると、次のダイアログが表示されます。



12 **OK** をクリックします。

測色が終了しました。👉 P 2-28 手順 7 からの操作をしてください。

## i1 iSis を使って測色する場合

## 重要!

- ◆ 測色するチャートは、インクの表面だけでなく内部も乾燥・硬化していることを確認してから測色してください。インクが完全に乾いていないと、測色器内部のローラーがインクで汚れてしまいます。
- ◆ 強くカールしているメディアはお使いにならないでください。メディアジャム(詰まり)の原因となります。
- ◆ 糊付きのメディアをお使いになる場合、メディアが台紙から剥がれた状態ではお使いにならないでください。

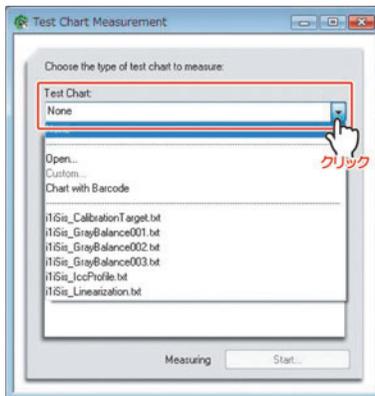
- 1 出力したチャートを点線に沿って切り取ります。



- 2 ツールバーの“Chart”をクリックします。

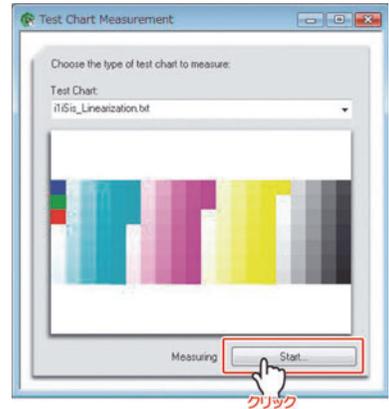


- 3 “Test Chart” の下矢印をクリックします。



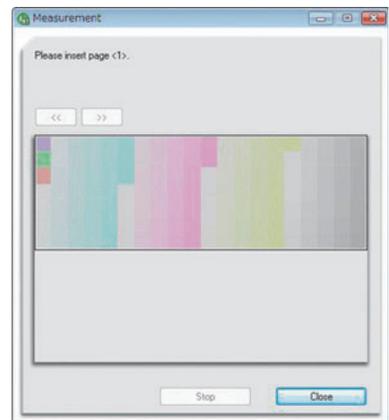
i1 iSis のチャートを表示します。  
測色したい要素の名前がついたチャートを選択してください。  
(リニアライゼーションの調整をする場合は、「i1iSis\_Linearization.txt」を選択)

- 4 Start をクリックします。



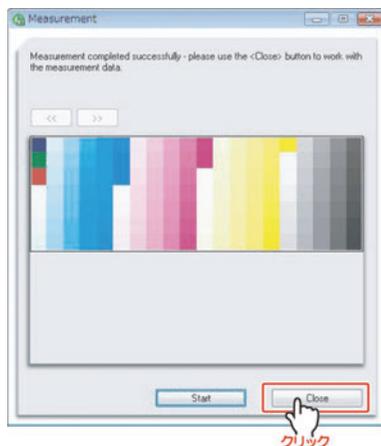
- 5 測色チャートを測色します。

次の画面を表示したら、測色するチャートの左端を i1 iSis の左端に沿わせるようにして挿入します。

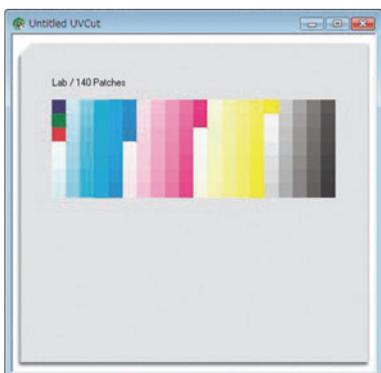


チャートが i1 iSis の一番奥に突き当たると、自動的に測色を開始します。

6 **Close** をクリックします。



7 メニューバーから **[File] → [Save As...]** を選択し、測色結果を保存します。



測色結果は、必ず“ファイルの種類”を [Text Files(\*.txt \*.text)] にして保存してください。

8 **MeasureTool 5.0** を終了させます。

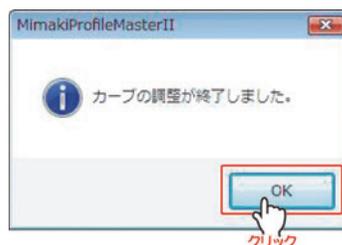
“測色結果ファイル”に、手順7で保存したファイル名が表示されていることを確認してください。

**重要!**

◆ MeasureTool で測色を複数回行うと、最後に保存されたファイル名が表示されます。使用したい測色結果ファイルと異なる場合は、[測色値ファイルを選択] をクリックしてファイルを選択してください。

9 **完了** をクリックします。

自動的に、カーブの調整を行います。カーブの調整が完了すると、次のダイアログが表示されます。



10 **OK** をクリックします。

測色が終了しました。P 2-28 手順 7 からの操作をしてください。



● i1 iSis で測色時、MeasureTool 5.0 を起動後、ツールバーの“Device/Port” をクリックした場合

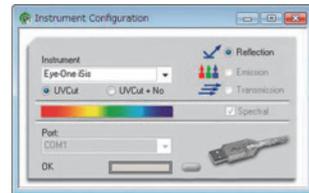
i1 iSis で、最初にツールバーの“Device/Port” をクリックしてから測色した場合は、次のようにしてください。

1. ツールバーの“Device/Port” をクリックします。



2. 次の項目を確認してください。

- ・ “Instrument” には、P 1-6 で設定した測色器が表示されている
- ・ “Reflection” が選択されている
- ・ “UVCut” が選択されている
- ・ “Port” の下に「OK」を表示している



3. “Instrument Configuration” を閉じます。

4. 「i1 iSis を使って測色する場合」手順 2～6 の操作をします。

5. **Export Lab...** をクリックし、測色結果を保存します。

測色結果は、必ず“ファイルの種類”を [Text Files (\*.txt \*.text)] にして保存してください。



6. MeasureTool 5.0 を終了させます。

MeasureTool 5.0 を終了させると、次のダイアログが表示されます。



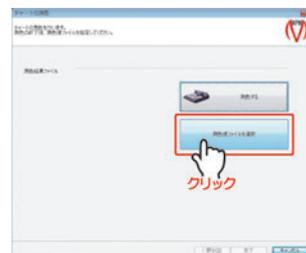
7. **いいえ** をクリックします。

8. **測色値ファイルを選択** をクリックします。

9. 手順5で保存したファイルを選択します。

10. **完了** をクリックします。

11. **OK** をクリックします。



## 3次色のインクリミットの設定 (プロファイル (V3) を選んだ場合)

チャートを出力して、メディアに乗せることのできるインクリミットを調整します。

- ここでは、ライトインクを除く3色以上のインクが使われる部分のインクリミットの調整します。

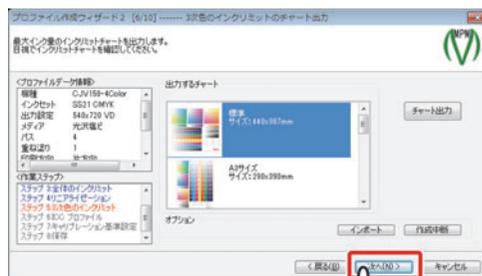


← 2-29 ページ「リニアライゼーションの自動調整」から

**1** **チャート出力** をクリックし、測色用のチャートを出力します。

( P 2-17 手順 1 ~ 2)

**2** **次へ** をクリックします。



### 3 出力したチャートから3色（CMY）のトータルインク量を決定します。

チャートのにじみや白抜き文字の状態を見て、トータルインク量を決定します。  
白抜き文字がはっきりと見えるトータルインク量をチャートから探します。



CMY各色100%ずつ出:



#### ● インクリミットの決定方法

インクリミットの決定方法は、目視による判断となります。

- 以下にあげるインクの状態は、以降の設定でチャートを正しく測色できない原因になる場合があります。
  - a. 数分待っても乾かない。（作成環境によります）
  - b. インクが均一に乾かない。（高濃度の小さい矩形を出力すると、インクが寄ってしまい、濃度が均一にならない）
  - c. 白い細線が表現できない。
  - d. 横方向に数珠状につながって、縞模様になる。
  - e. メディアが波打ってしまう。膨張してしまう。
  - f. UV インクで出力したとき、見る角度によって光の反射の具合が大きく異なる
  - g. 高濃度部で階調がなくなってしまう。
- 高濃度の出力をする際、インク量を多めにする必要があるので、細線が表現できない場合や、多少のにじみが出る場合があります。
- 温度や湿度の影響を受けるので、作成した環境（場所、季節、天候、温度、湿度等）によって、インクリミットの値が異なる場合があります。
- インクリミットの値が適正でも、バリエブルドットを使用する場合、「見た目」が問題になる場合があります。  
バリエブルドットでは、3種類の大きさ（Small, Middle, Large）のドットを打ち分け、グラデーションをなめらかにしています。しかし、メディアによっては、Small ドットが使用されるハイライト～中間調部分で、ドット間の距離よりドットサイズが下回ることがあり、紙面をドットで埋め尽くすことができません。このとき、見た目に「スジっぽさ」や「粗さ」を感じてしまい、好ましい画像にはならないことがあります。  
対処方法として、次の方法があります。
  - a. デバイスプロファイル作成後に、インク量を調整する。
  - b. リニアライゼーションカーブを若干濃くする。
- すべてのインク量を同じにしてもデバイスプロファイルの作成はできますが、2次色、3次色（グレーバランス等）の色合いも考慮して各インク量を設定するとより良いデバイスプロファイルが作成できます。

4

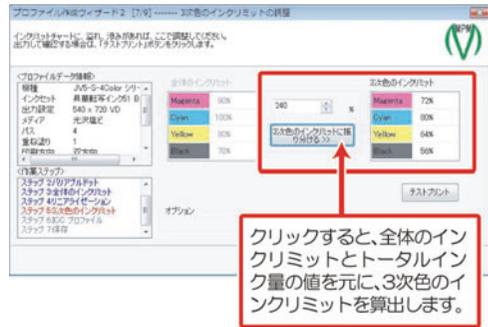
## 3 次色のインクリミットを決定します。

インクリミットの決定方法には次の 2 種類の方法があります。

- 各色の数値部分をクリックして数値入力する。
- **3次色のインクリミットに振り分ける** をクリックして決定する。



◆ 数値入力するとき、3 次色のインクリミットに、全体のインクリミットより大きい値を入れることはできません。



### ● 3 次色のインクリミットに振り分けるときは

**3次色のインクリミットに振り分ける** をクリックして決定されるインクリミットは、2-17 ページ「全体のインクリミットの設定 ( プロファイル (V3) を選んだ場合 )」で設定した値に従って決定されます。

(1) トータルインク量を 3 等分します。

(2) 各色のインクリミットとトータルインク量を元にして算出されます。

計算方法

( 手順 (1) で出した値 ) × ( P 2-18 手順 4 で決定した各色のインクリミット ) ÷ 100

例) 手順 3 でトータルインク量を 240% に  
各色のインクリミットを ( K:90% M:100% C:80% Y:70% ) に  
設定した場合は次のようになります。

- $240 \div 3 = 80$
- K のインクリミット:  $80 \times 90 \div 100 = 72\%$
- M のインクリミット:  $80 \times 100 \div 100 = 80\%$
- C のインクリミット:  $80 \times 80 \div 100 = 64\%$
- Y のインクリミット:  $80 \times 70 \div 100 = 56\%$

5

## テストプリント をクリックし、出力確認します。

(  P 2-14 手順 2 ~ 5 )



◆ 弊社が提供する画像ファイルが保存されています。(Inklimit.tif)  
確認専用のチャートをお持ちの場合は、お持ちの画像ファイルを使用します。

**6** **次へ** をクリックします。

プロフィール (V2) を選んだ場合  
2-48 ページ「グレーバランスの自動調整」へ続く 

プロフィール (V3) を選んだ場合  
2-51 ページ「ICC プロファイルの作成」へ続く 

## グレーバランスの自動調整

チャートを出力し、測色することによって、CMYの混色で表現されるグレーの階調特性と色みを自動調整します。

自動調整されたグレーのグラデーションが、なめらかになっているかを確認します。

ライトインク、バリエブルドットは、CMYK各色の構成色ととらえるため、調整しません。

**重要!**

- ◆ インクが乾燥してから測色してください。正しい測色値が測れないことがあります。
- ◆ CMYKOrGr インクセットを選択している場合、表示しません。

測色用のチャートは、2つのエリアで構成されています。

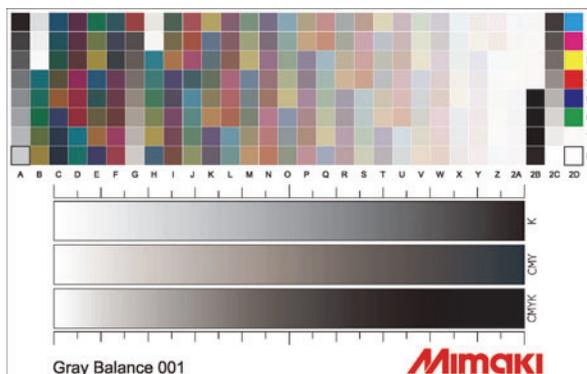
出力するチャートは測色器によって異なります。

a. 測色部

測色器にて測色します。

b. 目視確認部

目視にて確認します。



測色器選択で Spectro Scan を選択した場合のチャート



プロフィール (V2) を選んだ場合

2-29 ページ「リニアライゼーションの自動調整」から

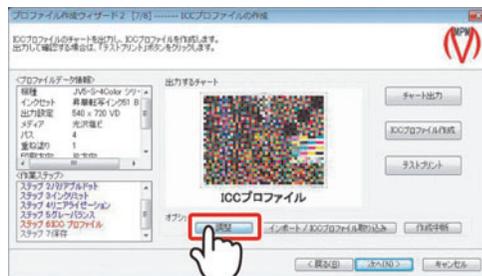
**1**

**チャート出力** をクリックし、測色用のチャートを出力します。

( P 2-26 手順 1 ~ 2)

**2**

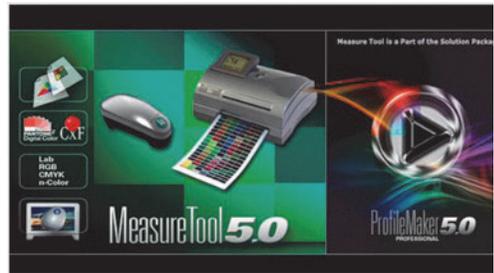
**測色** をクリックし、出力したチャートを測色します。



**3** **測色する** をクリック  
します。



**4** MeasureTool5.0 が起動します。



**重要!** ◆ ProfileMaker ドングルを使用しない場合、MeasureTool5.0 はデモモードで起動します。デモモードで起動したときは DTP-41 は使用できません。(他の測色器は、問題なく測色を行うことができます。)

**5** 測色します。

(☞ P 2-28 手順 6)

チャートの名前は「〇〇\_GrayBalance.txt」を選択してください。(〇〇は測色器の名前)

**6** **チャート出力** をクリックし、  
自動調整した結果を出力します。

(☞ P 2-26 手順 1 ~ 2)



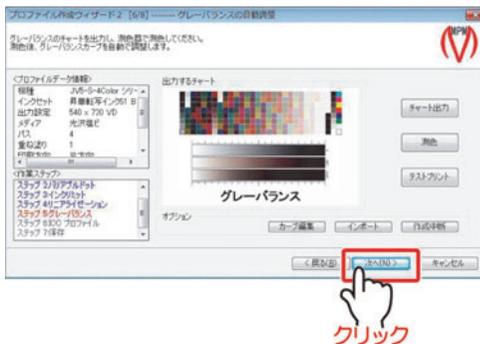
## 7 チャートの目視確認部で、各色のグラデーションがなめらかになっているかを確認します。



- ◆ 調整が不十分だと感じた場合、手順 6 で出力したチャートを測色します。測色によって再度自動調整をし、調整の追い込みをします。
- ◆ **カーブ編集** をクリックして、各色のデータを手で調整することもできます。(P 2-67)

調整が十分になるまでこの作業を繰り返します。

## 8 **次へ** をクリックします。

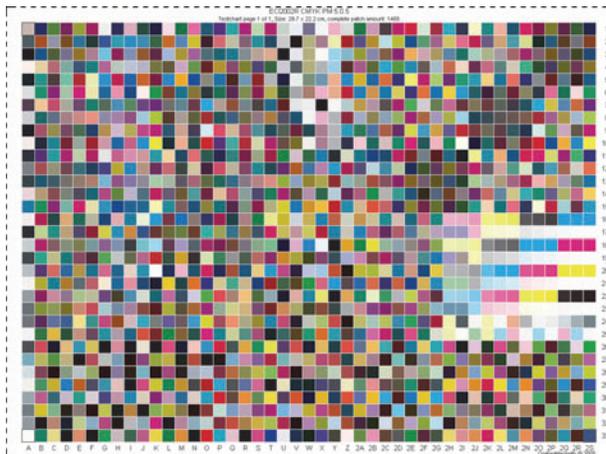


- ◆ カーブを編集した場合、**テストプリント** をクリックし、出力確認をします。弊社が提供する画像ファイルがあります。(TestPrint\_GrayBalance.tif) 確認専用のチャートをお持ちの場合は、お持ちの画像ファイルを選択します。

2-51 ページ「ICC プロファイルの作成」へ続く ➡

## ICC プロファイルの作成

チャートを出力、測色することによって、ICC プロファイルの作成をします。  
この項目は、Raster Link シリーズの「カラーマッチング」で、「ICM」を選択した場合に適用されます。



測色器選択で SpectroScan を選択した場合のチャート

← 2-50 ページ「グレーバランスの自動調整」から

**1** **チャート出力** をクリックし、測色用のチャートを出力します。

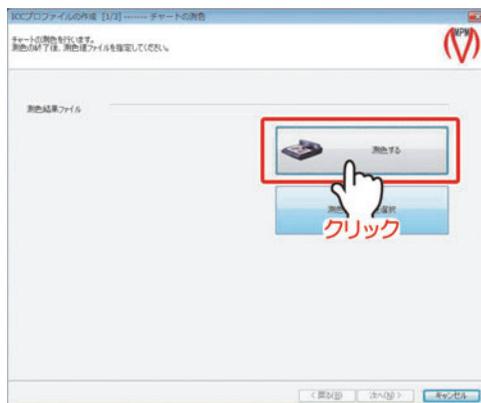
(☞ P 2-26 手順 1 ~ 2)



**2** **ICCプロファイルを作成** をクリックします。



- 3 **測色する** をクリック  
します。



- 4 MeasureTool5.0 が起動します。



**重要!** ◆ ProfileMaker ドングルを使用しない場合、MeasureTool5.0 はデモモードで起動します。デモモードで起動したときは DTP-41 は使用できません。(他の測色器は、問題なく測色を行うことができます。)

- 5 測色します。  
(☞ P 2-28 手順 6)  
チャートの名前は「〇〇\_iccProfile.txt」を選択してください。(〇〇は測色器の名前)

- 6 測色が終了したら、  
**次へ** をクリックします。



**7** “プロフィールサイズ”と  
“グレーの色み”を設定し、  
次へをクリックします。

● プロファイルサイズ  
高精細：

“標準”より高精度なICCプロファイルを作成します(約3分)。ファイルサイズは約2MBです。粒状感の出やすい印刷条件で作成する場合に使用します。

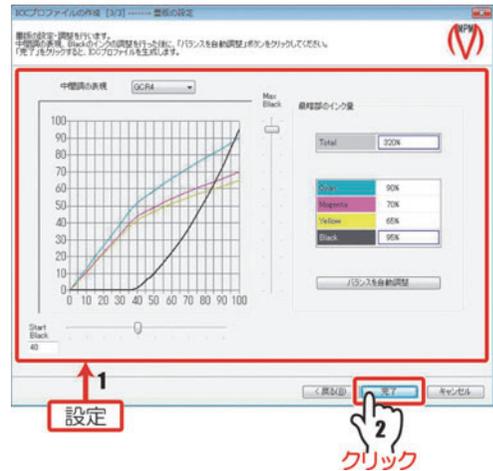
標準：

短時間(約1分)でICCプロファイルを作成します。ファイルサイズは約700KBです。



**8** 墨版の設定をします。  
(☞ P 2-69)

**9** 完了をクリックします。



**10** ICCプロファイルの作成を  
始めます。



11

**OK** をクリックします。

プロファイル作成ウィザードに戻ります。



**重要!**

◆ 測色ファイルに正しいものを選択しなかった場合、右のようなメッセージが表示されます。



12

**テストプリント** をクリックして、デバイスプロファイルの出力確認をします。

(☞ P 2-14 手順 2 ~ 5)



◆ 弊社が提供する画像ファイルが保存されています。  
(TestPrint\_ICCProfile.tif) 確認専用のチャートをお持ちの場合は、お持ちの画像ファイルを選択します。

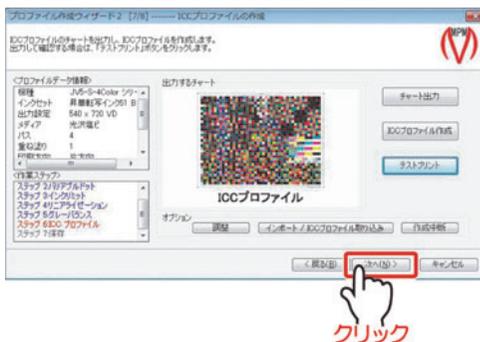


13

確認できたら、**次へ** をクリックします。



◆ 再度、墨版設定をした場合は、テストプリント をクリックし、出力確認をします。



プロファイル (V2) を選んだ場合

2-58 ページ「デバイスプロファイルの保存」へ続く ➡

プロファイル (V3) を選んだ場合

2-55 ページ「キャリブレーションの基準設定 (プロファイル (V3) を選んだ場合)」へ続く ➡

## キャリブレーションの基準設定 (プロフィール (V3) を選んだ場合)

様々な要因でプリンタの発色が変わってしまったときに、色を補正するための「基準となる色」を記録します。

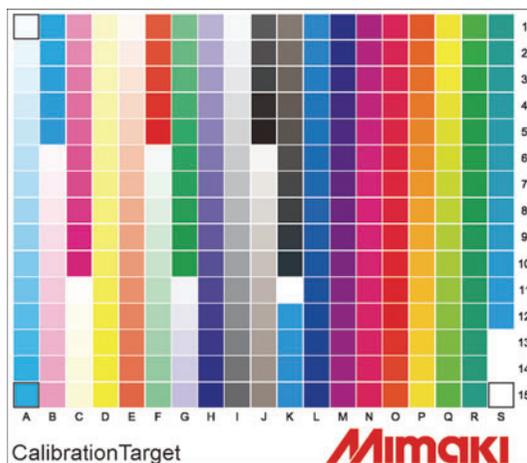
キャリブレーション機能によって、変化してしまったプリンタの発色を、「基準となる色」に近づけるように補正します。



◆ 基準となる色をプロフィールに記録しておけば、温度変化やプリンタヘッドの調整などの要因によって発色が変わってしまっても、今回記録した状態に近づけるようにプロフィールを補正することができます。

**重要!**

- ◆ キャリブレーションの基準設定を行う前に、付録-5 ページ「測色時のご注意」をよく読み、測色結果に異常な値を含まないように、ご注意ください。
- ◆ 基準設定で記録した測色結果に異常がある場合、正常にキャリブレーションを行うことができません、変化した色を「基準となる色」に近づけることができません。
- ◆ CMYKOrGr インクセットを選択している場合、表示しません。



測色器選択で SpectroScan を選択した場合のチャート

← 2-54 ページ「ICC プロファイルの作成」から

**1** **チャート出力** をクリックし、測色用のチャートを出力します。

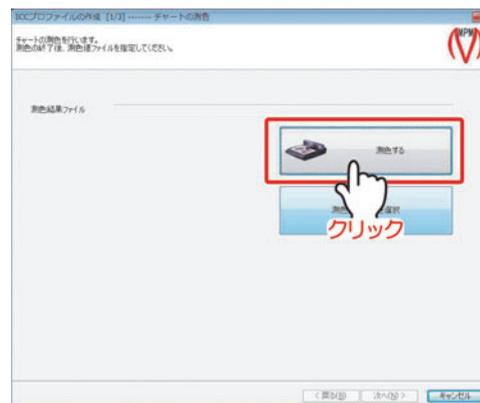
(☞ P 2-26 手順 1 ~ 2)



2 測色 をクリックし、出力した  
チャートを測色します。



3 測色する をクリックします。



4 MeasureTool5.0 が起動します。



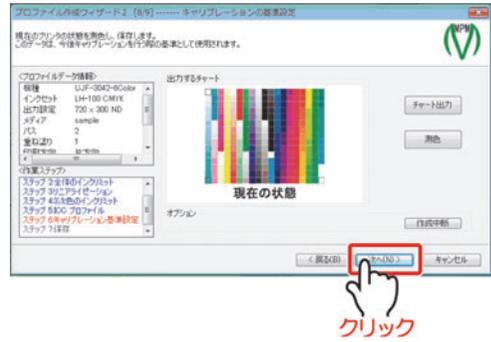
**重要!** ◆ ProfileMaker ドングルを使用しない場合、MeasureTool5.0 はデモモードで起動します。デモモードで起動したときは DTP-41 は使用できません。(他の測色器は、問題なく測色を行うことができます。)

5 測色します。

( P 2-28 手順 6)

チャートの名前は「〇〇\_CalibrationTarget.txt」を選択してください。(〇〇は測色器の名前)

**6** 測色が終了したら、  
次へ をクリックします。



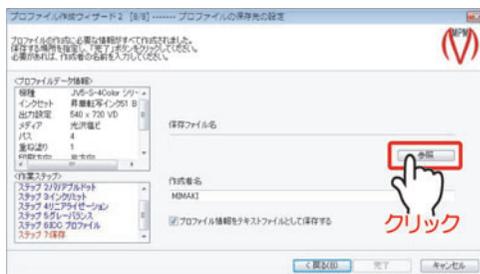
2-58 ページ「デバイスプロファイルの保存」へ続く ➡

# デバイスプロファイルの保存

作成したデバイスプロファイルを保存します。

← 2-54 ページ「ICC プロファイルの作成」から

**1** **参照** をクリックします。

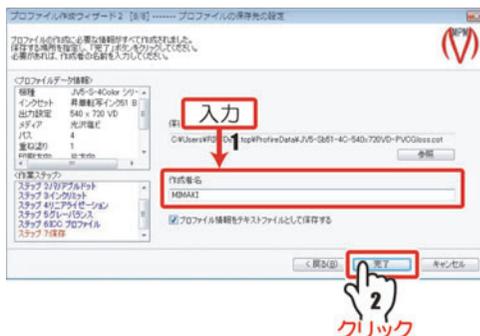


**2** ファイルの保存先を指定し、ファイル名を入力します。



**3** **保存** をクリックします。  
「プロファイル作成ウィザード」に戻ります。

**4** 作成者名を入力します。  
日本語環境以外で使われるプロファイルには、日本語を入力しないでください。



**5** **完了** をクリックします。  
デバイスプロファイルの作成が完了し、メインメニューに戻ります。

## 機能ボタンについて

デバイスプロフィールを作成、編集する際に使用する以下の機能ボタンについて説明します。

- テストプリントボタン、チャート出力ボタン (このページ)
- インポートボタン (P 2-65)    ● カーブ編集ボタン (P 2-67)
- 作成中断ボタン (P 2-72)    ● 調整ボタン (P 2-69)
- 測色器の保存 / 読み込み (P 2-75)

### テストプリントボタン、チャート出力ボタン

デバイスプロフィール作成ウィザードや、デバイスプロフィール編集ダイアログで表示されます。

**チャート出力** : デバイスプロフィールを作成するときに必要なチャートを出力します。

**テストプリント** : 画像ファイルを選択して、設定されたデータを適用した画像を出力します。



◆ 次の画像フォーマットを、テストプリントで選択できます。

画像フォーマット	カラーモード
TIFF	CMYK、RGB* (LZW 圧縮された画像は不可)
BMP*	フルカラー、インデックスカラー

\*. TIFF の RGB カラーモードおよび BMP は、ICC プロファイルのテストプリントのみ選択できます。

\*. CMYK or Gr インクセットを選択している場合、ICC プロファイルのテストプリント以外は行えません。

**重要!**

◆ 測色に使用するチャートは画像サイズを変更できません。600mm(23.6inch) 以上の幅のあるメディアをセットしてください。小型のプリンタには、サイズの小さいチャートを用意しています。

◆ メディアの取り扱い方法については、各機種の取扱説明書をご覧ください。

以下のダイアログは、次のようなときに表示されます。

テストプリント をクリック→出力する画像を選択  
 チャート出力 をクリック

**レイアウト**

画像の大きさや出力位置など、出力画像のレイアウトを調整します。

**印刷条件**

印刷するときの条件を設定できます。

**白インクの印刷**

白インクが使用できるプリンタを選択しているとき、白インクの印刷方法を設定します。

**カラーマッチング**

完成したデバイスプロファイルを使用して、カラーマッチングの処理をします。この項目は、ICCプロファイルの作成前は表示されません。

**出力ポート**

出力ポートを選択します。

**入力幅、送り**

入力した画像の大きさを表示

**出力幅、送り**

レイアウト後の出力画像の大きさを表示

**メディア幅、送り**

セットされているメディアのサイズを表示

**メディアサイズ取得**

クリックすると、接続しているプリンタからメディア幅と送りを取得

※各項目の白色の部分をクリックすると、設定が変更できます。

## ■ レイアウト

レイアウト	
スケール(%)	100.00%
スケール(幅)	415.29mm
スケール(送り)	291.81mm
回転	OFF
ミラー	OFF
移動(幅)	0.00mm
移動(送り)	0.00mm

- **スケール (%) / (幅) / (送り)**  
 画像の大きさを変更します。ミリまたはインチ単位、比率で変更できます。  
 ・幅、送り方向のサイズの比は固定されています。  
 ・スケールの範囲は、25.4mm ~ 2500mm または 300% です。
- **回転**  
 出力する画像を反時計回りに回転させます。  
 (OFF, 90 度, 180 度, 270 度)
- **ミラー**  
 出力する画像を左右反転させます。(ON, OFF)
- **移動 (幅) / (送り)**  
 プリンタで指定された原点から画像を移動する距離を指定します。  
 ・移動できる範囲  
 0 ~ 5000mm (0 ~ 196.85 inch)

**重要!**

- ◆昇華転写インクの使用もしくは透明メディアへの裏打ちをする際は、必ずミラー処理を使用してください。ミラー処理をしないでプリントすると、転写の際に画像が反転してしまいます。ただし、原画像を反転している場合は、ミラー処理をする必要はありません。
- ◆データサイズがメディアサイズを超える場合や、データの移動をしてメディア内にデータが収まらなくなった場合などは、このまま印刷を行ってもよいか確認のダイアログが表示されます。設定をし直し、メディア内に収まるように印刷したいときは「いいえ」をクリックして設定し直してください。
- ◆画像が出力幅よりはみ出している場合、はみ出した部分は出力しません。
- ◆原点位置が出力範囲外にある場合、画像を出力しません。

## ■ 印刷条件

チャート出力のときは、パス・高速印刷・印刷方向・重ね塗り・ハーフトーンは表示されません。プロファイル条件を使って出力します。

印刷条件	
パス	4
高速印刷	OFF
印刷方向	片方向
重ね塗り	1回
ハーフトーン	I1拡散
ラベルプリント	サイズ小

- **パス**  
印刷時のパス数を設定します。
- **高速印刷**  
早く印刷したいとき“ON”を選びます。  
 (“ON”にすると、通常より画質が劣ります。)
- **印刷方向**  
印刷方向を選びます。
- **重ね塗り**  
重ね塗りの回数を設定します。
- **ハーフトーン**  
ハーフトーンの方式を選びます。
- **ラベルプリント**  
デバイスプロファイルの情報を画像に追加します。  
ラベルプリントの有無、または、ラベルプリントのサイズを選択できます。(プリントしない、サイズ小、サイズ中、サイズ大)以下の情報を出力します。
  - ・出力日
  - ・調整中の出力データ
  - ・プリンタの情報(機種名、出力設定)
  - ・インクセット名
  - ・オプション設定 (  P 1-9) の [ラベル] で設定した項目。

## ■ 白インクの印刷

白インクが使用できるプリンタを選択した場合に表示します。

白インクの印刷	
印刷方法	白インクを印刷しない
濃度	100%
スロットの設定	特色1+2
品質	レベル2(普通)

### ●印刷方法

#### 白インクを印刷しない

表面が白いメディアを使用する場合に選択します。

#### 白インク→フルカラー

表面が白色でないメディアを使用する場合に選択します。

#### フルカラー→白インク

透明メディアのウラ面に印刷する場合に選択します。このパラメータを選択すると、自動的に「ミラー」の設定がONに切り替わります。

### ●濃度

白インクの濃度を設定します。

### ●スロットの設定

白インクが入っているスロットのカラー設定を選択します。カラー設定の確認方法は、プリンタの取扱説明書をご覧ください。

### ●品質

白インクを作図した上にカラーインクを作図するときの設定です。LEVELは1～3があり、数字が大きいほど白インクで作図してからカラーインクを作図するまでの時間が長くなります。LEVELを大きくすると白インクの乾燥性が上がりますが、作図時間は長くなります。

### 重要!

- ◆ UJF シリーズ、JF-16XX シリーズ、JFX で白インクを使用する場合、白の画像とフルカラーの画像を2つ連続で出力します。危険ですので、出力が完全に終わるまでプリンタに触れないでください。
- ◆ “品質”は、縦型プリンタで白インクが搭載できるインクセットを選択している場合に表示されます。

## ■ カラーマッチング

完成したデバイスプロファイルを使用して、カラーマッチング処理をします。この項目は、ICCプロファイルのテストプリントで表示します。

カラーマッチング	
RGB入力プロファイル	sRGB.icm
CMYK入力プロファイル	WideMimakiCMYK.icm
レンダリングインテント	知覚的(画像)
レンダリング	16bit

### ●RGB 入力プロファイル

RGB 画像を出力する際に、使用する入力プロファイルです。ターゲット RIP にインストールされている RGB 入力プロファイルから選択できます。

### ●CMYK 入力プロファイル

CMYK 画像を出力する際に、使用する入力プロファイルです。ターゲット RIP にインストールされている CMYK 入力プロファイルから選択できます。

### ●レンダリングインテント

カラーマッチングの手法を選択します。

### ●レンダリング

V3 プロファイルで出力する際に、カラーマッチング処理の精度を選択します。

## ■ 出力先

PC に接続されているプリンタのうち、プロファイル条件の設定 (  P 2-5 ) で選択したプリンタが持つポートに接続されたプリンタが表示されます。

出力先	
出力先	ファイル

## インポートボタン

デバイスプロフィール作成中に「インポート」をクリックすると、設定中の項目のデータを、既存のプロファイルからコピーすることができます。  
すでに作成したプロファイルと同じ値を設定する場合に便利です。

**重要!**

◆インポート元のデバイスプロフィールは、以下の条件のものを指定してください。

- ・現在設定中の項目のデータがあること
- ・作成中のデバイスプロフィールと同じ色のインクがあること

上記の条件以外のデバイスプロフィールを指定した場合、エラーメッセージが表示され、データをインポートできません。



◆メディア補正值、ヒーター温度のインポートにおいて、インポート元のデバイスプロフィールにデータがなくてもインポートはエラーになりません。初期値の値が設定されます。必要な場合は、値を変更してください。

**1** 「インポート」をクリックします。

**2** インポートするプロファイルを選択します。

**3** 「開く」をクリックします。

**4** インポートが終了します。  
右図のダイアログを表示します。

**5** 「OK」をクリックします。



## インポート互換表

インポート元とインポート先のデバイスプロファイルが違っている場合、インポートできない項目があります。

	メディア 固有情報	リニア ライゼーション	インク リミット	グレー バランス	ICC プロファイル	バリアブル ドット	ライト インク
V2 → V3	○	×	×	×	○	×	×
V3 → V3	○	○	○	○	○	○	○
V3 → V2	○	×	×	×	○	×	×
V2 → V2	○	○	○	○	○	○	○

**重要!**

◆ CMYK プロファイルと CMYKOrGr プロファイル間では上記の他に以下の制限があります。

	メディア 固有情報	リニア ライゼーション	インク リミット	グレー バランス	ICC プロファイル	VDカーブ
CMYK → CMYKOG	○	×	×	×	×	×
CMYKOG → CMYK	○	○	○	○	×	○

## カーブ編集ボタン

**カーブ編集** は、リニアライゼーションカーブ、グレーバランスのカーブを調整する機能です。

**カーブ編集** をクリックすると、下のダイアログが表示されます。

下の図はリニアライゼーションのカーブを表示しています。

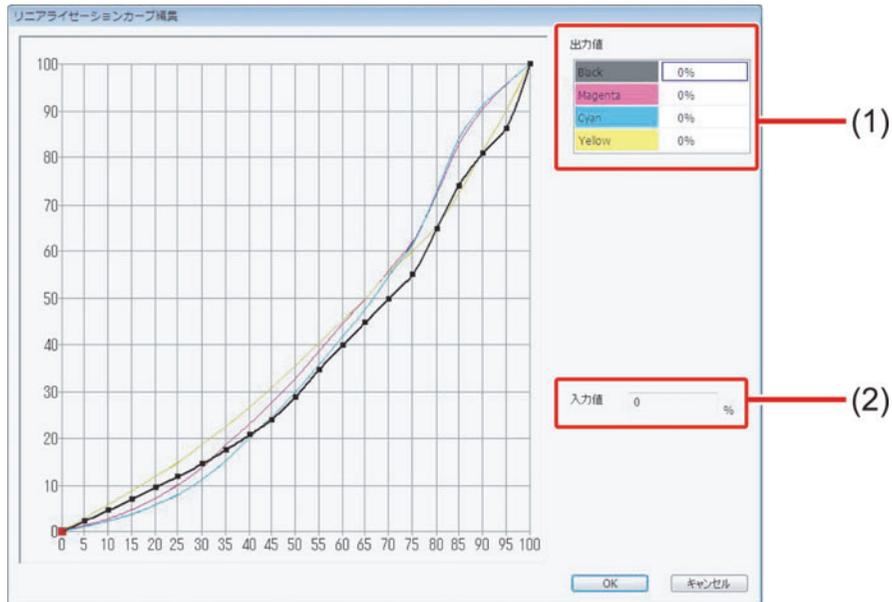
カーブの編集には、マウスとキーボードを使用します。

制御点 (赤) を表示しているカーブの編集ができます。

制御点は 5% 刻みに表示します。

カーブの色は、インク色と対応しています。

太線のカーブが編集できます。点線のカーブは、ダイアログを開いた時の最初の状態を表しています。



### (1) 出力値

選択している制御点の各インクのインク量を表示します。

数値をクリックすると値の編集ができます。このとき、現在選択しているカーブと異なるカーブの値をクリックした場合、カーブの選択も切り替わります。

### (2) 入力値

現在選択している制御点の、横軸の座標を示します。数値の変更はできません。

## カーブ編集方法

### マウスでの操作

操 作	説 明
選択中のカーブの制御点を左クリック	選択した制御点が赤くなります。
選択中のカーブの制御点を左ダブルクリック	制御点を削除します。 広範囲に渡って編集したい場合に使用します。
選択中のカーブの消えた制御点を左クリック (カーブと横軸から出ている補助線の交点を左クリック)	削除した制御点が復活します。
選択中のカーブの制御点をドラッグ	制御点を上下に動かします。 制御点は左右には動きません。 ドラッグ中は、カーブ編集エリア内をマウスカーソルの動きに従って、制御点が上下します。
カーブ編集エリア内を右クリック	制御点を表示しているカーブに対して、6個の機能を提供するポップアップメニューを表示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・元に戻す カーブ編集ダイアログを開いた状態に戻します。</li> <li>・直線 0 ~ 100%のまっすぐなカーブにします。</li> <li>・ガンマ ガンマ値のかかったカーブにします。ガンマ値を入力するダイアログを表示します。</li> <li>・最低値に設定 カーブ全体を最も小さい値にします。</li> <li>・コピー 選択しているカーブをメモリ上へコピーします。</li> <li>・貼り付け メモリ上にコピーしたカーブで、選択しているカーブを上書きします。コピーを実行すると、メニューから選択できるようになります。</li> </ul>
選択していないカーブを左ダブルクリック	カーブの選択を変更します。

### キーボードでの操作

操 作	説 明
 ,  キー	選択している制御点を上下に動かします。
 ,  キー	選択している制御点の選択を移動できます。 制御点がカーブ上にない場合、制御点を追加しながら移動します。
<b>Shift</b> +  ,  キー	カーブの選択を変更します。 出力値リストに表示した順番にカーブを選択できます。

## 調整ボタン

ICC プロファイル作成画面で **調整** をクリックすると、「イエローの濁り軽減」と「墨版設定」ができます。

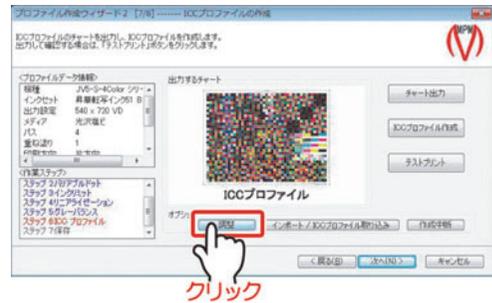
**重要!**

◆「イエローの濁り軽減」と「墨版設定」の両方の設定を行う場合、墨版設定を行った後にイエローの濁り軽減を行ってください。順番を逆に設定を行うと、イエローの濁り軽減処理が無効になります。

### イエローの濁り軽減

Y に C が乗る現象を防ぎます。Y の色相を一定にして、階調性・変化の連続性を保ちます。

**1** ICC プロファイル作成画面で **調整** をクリックします。

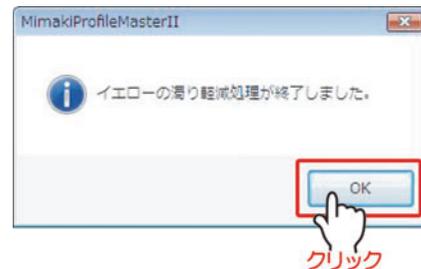


**2** **イエローの濁り軽減** をクリックします。

自動的に、イエローの濁り軽減処理を行います。



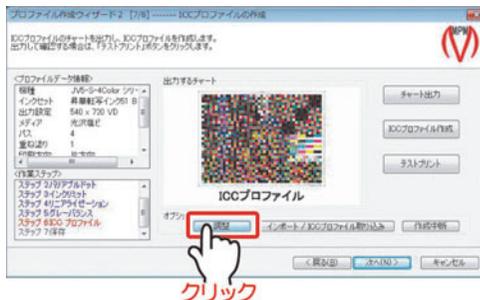
**3** **OK** をクリックします。



## 墨版設定

C+M+Y を混色したときのグレー成分を、K インクに置き換えるための設定です。シャドー部など、インク量が多くあふれてしまう場合や、墨版を保持したい場合に調節すると効果的です。ここで設定する K インクの置き換えは、Raster Link シリーズで、カラーマッチングを ON に、ICM を ON にして出力したときに有効になります。

### 1 ICC プロファイル作成画面で調整をクリックします。



### 2 墨版設定をクリックします。



### 3 各項目の設定をします。

#### (1) 中間調の表現

中間調における、墨版のインク量と墨版に置き換える CMY のインク量のバランスを変更します。

#### (2) Max Black

最も暗い色での墨版のインク量を設定します。

#### (3) 最暗部のインク量

最も暗い色での CMYK の各インク量を設定します。“Total” は CMYK の各インク量を足した値になります。

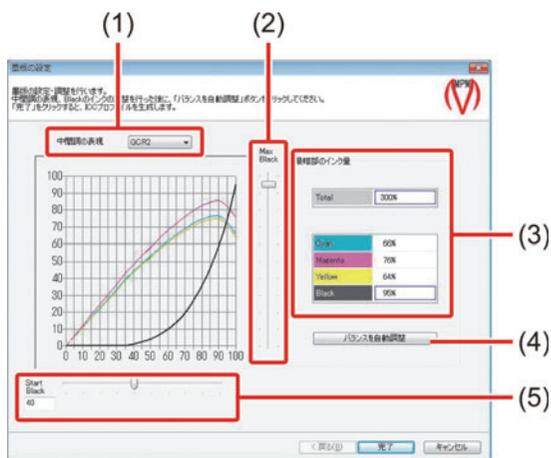
#### (4) バランスを自動調整

“中間調の表現”“Max Black”“最暗部のインク量”によって崩れたグレーの色みを自動調整します。各設定が終わってからクリックしてください。

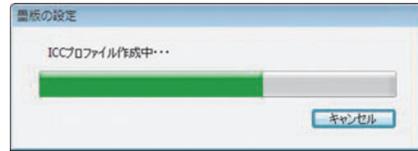
#### (5) Start Black

墨版の入り始める濃度を設定します。

40 ～ 60 にすると、Black のドットによるハイライトの粒状感がなくなります。



- 4 設定が終わったら **完了** をクリックします。  
ICC プロファイルを作成します。



- 5 **OK** をクリックします。



**重要!** ◆ CMY でグレーを表現している場合、K インク量を多くすると、ハイライト部や K インクの入りはじめで粒状感が出やすくなりますが、中間調の色相は落ち着きます。K インクには若干ながら黄みや赤みを帯びる性質があるため、青みのグレーを出力したい場合は、K のインク量は増やさないでください。

## 作成中断ボタン

**作成中断** は、作成途中のデバイスプロファイル(中断ファイル)に名前を付けて保存する機能です。プロファイル作成ウィザードのすべての画面に表示します。中断ファイルの拡張子は、“\*.chocot”です。中断ファイルは、再作成 (P 2-73) で、再開できます。中断ファイル (\*.chocot) は、Raster Link シリーズにインストールできません。

- 1** **作成中断** をクリックします。  
作成中断の確認ダイアログを表示します。

作成中断

- 2** **はい** をクリックします。  
中断ファイル保存のダイアログを表示します。



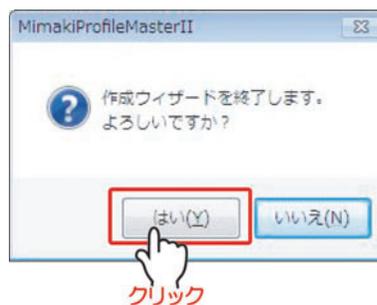
- 3** ファイルの保存先を指定し、ファイル名を入力します。



- 4** **保存** をクリックします。

作成ウィザードを終了する確認ダイアログを表示します。

- 5** **はい** をクリックします。  
メインメニューに戻ります。  
作成作業を続ける場合は、**いいえ** をクリックします。



## 再作成

作成中断 (P 2-72) で保存したファイルを開き、デバイスプロフィールを完成させます。

- 1 [デバイスプロフィール] タブを選択し、“再作成” をクリックします。  
プロフィール作成ウィザードが開きます。



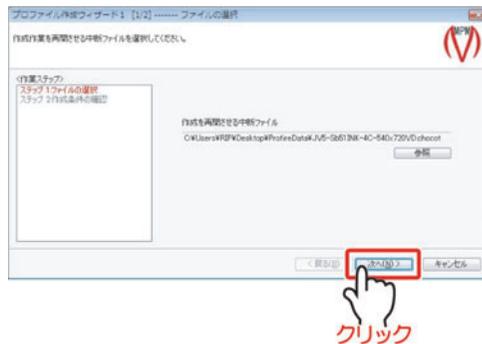
- 2 **参照** をクリックします。  
再開させる中断ファイルを開きます。  
開けるファイルは、拡張子が “.chocot” のファイルのみです。



- 3 ファイルを選択し、**開く** をクリックします。



**4** **次へ** をクリックします。



💡 ◆ トライアル版で作成した中断ファイルや、MPM II から削除されたメディアが指定されている中断ファイルを指定した場合、メディア選択画面が表示されず。メディアを選択して **次へ** をクリックしてください。

**5** 作成条件を確認します。



**6** **次へ** をクリックします。  
中断した場所を表示します。

**7** デバイスプロファイルの作成を再開します。

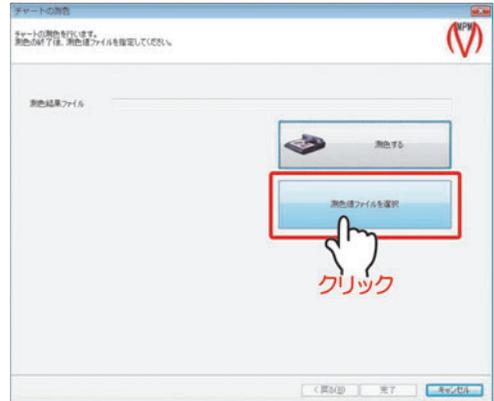
💡 ◆ 以降の操作方法は、“プロフィール作成ウィザード 2”と同じです。  
(👉 P 2-7)

## 測色値ファイルの読み込み

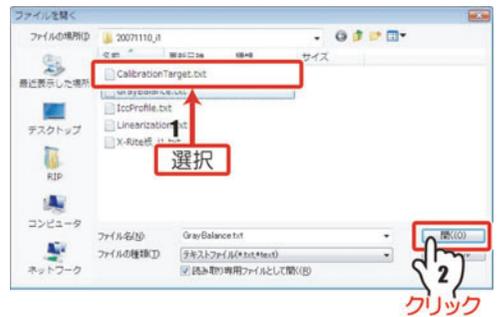
リニアライゼーション・グレーバランス・ICC プロファイルの測色画面で、保存済みの測色値を読み込んで作成中のプロファイルの測色値としてお使いになれます。

**1** 測色画面で **測色** をクリックします。

**2** **測色値ファイルを選択** をクリックします。



**3** 測色値を読み込むファイルを選択し、**開く** をクリックします。



**4** **完了** をクリックします。



# 3章 デバイスプロファイルを編集する

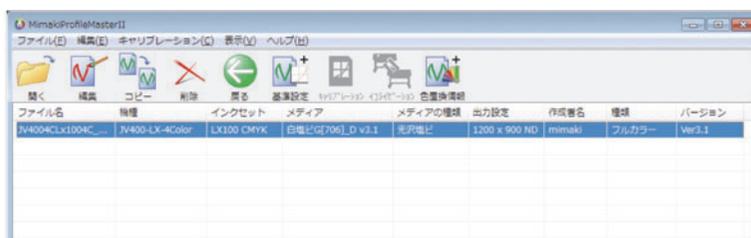
デバイスプロファイル編集の流れ .....	3-2
“編集”を選ぶ .....	3-3
編集するプロファイルをリストに追加する .....	3-4
デバイスプロファイルを編集する .....	3-6
インクリミットの編集 .....	3-10
ICC プロファイルの編集 .....	3-10
メディア固有情報の編集 .....	3-11
拡張固有情報の編集 .....	3-12
グレーバランスの編集 .....	3-13
リニアライゼーションの編集 .....	3-13
インクリミットの調整 (キャリブレーション/イコライゼーション編集画面) .....	3-13
リニアライゼーションの自動調整 (キャリブレーション/イコライゼーション編集画面) .....	3-14
グレーバランスの自動調整 (キャリブレーション/イコライゼーション編集画面) .....	3-14
色差の確認 (キャリブレーション/イコライゼーション編集画面) .....	3-14
色置換情報 .....	3-15
色置換情報を追加する .....	3-15
インク消費量予測計算 .....	3-17

# デバイスプロフィール編集の流れ

◆ “編集” を選ぶ  P 3-3



◆ 編集するプロフィールをリストに追加する  P 3-4  
編集したいデバイスプロフィールを、編集リストに追加します。



◆ デバイスプロフィールを編集する  P 3-6  
登録済みのデバイスプロフィールを編集します。



## “編集”を選ぶ

- 1 【デバイスプロフィール】タブを選択します。



- 2 “編集”をクリックします。  
編集リストを表示します。

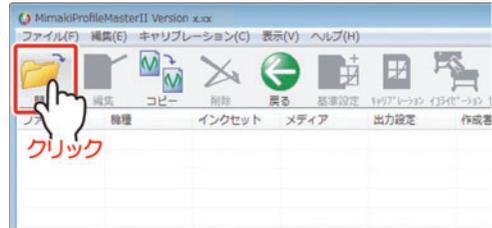


P.3-4 「編集するプロフィールをリストに追加する」へ続く ➡

## 編集するプロファイルをリストに追加する

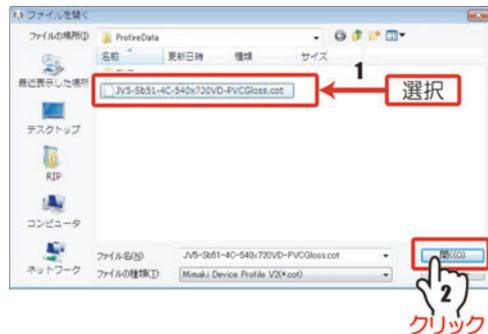
← 「編集」 を選ぶ から

**1** “開く” をクリックします。



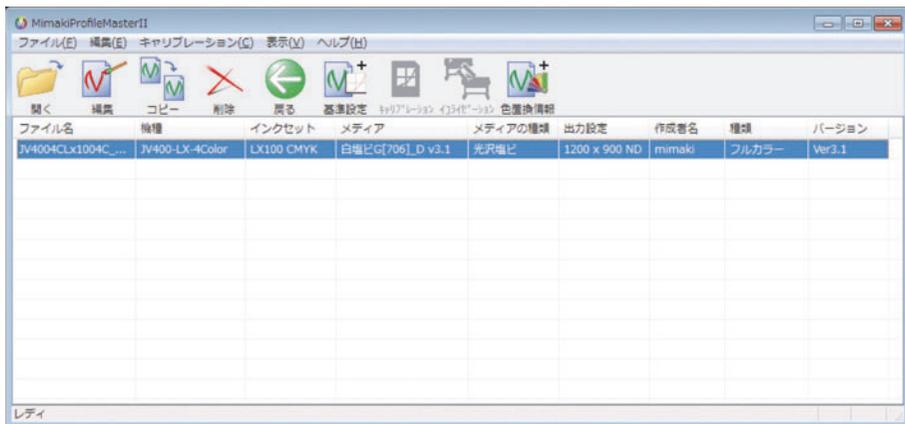
**2** 編集するデバイスプロファイル  
を選択します。

複数のデバイスプロファイルを選択する  
場合、Ctrl キーを押しながら左クリック  
します。



**3** 開く をクリックします。

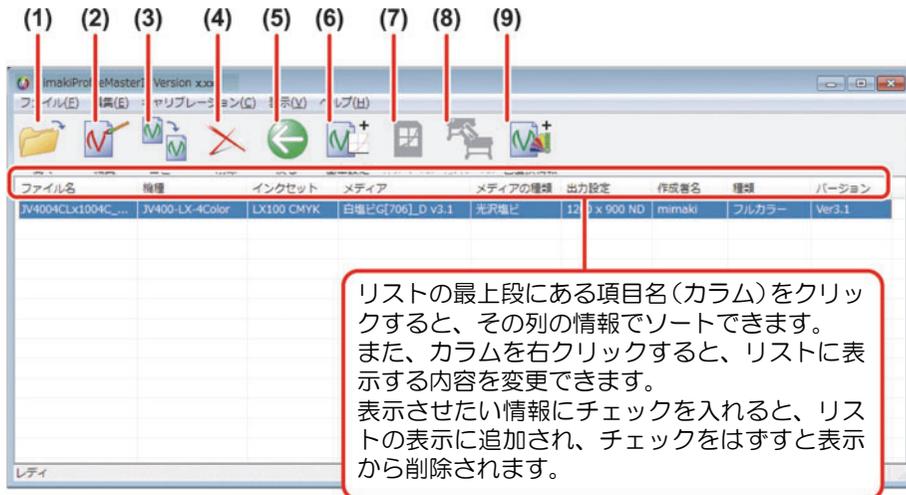
編集リストに、選択したプロファイルが追加されます。



## 編集リスト

追加したデバイスプロフィールが表示されます。

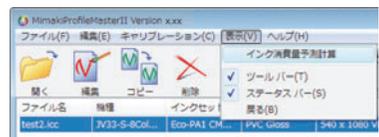
また、選択したデバイスプロフィールを使用してプリントしたときに消費されるインク量を算出することもできます。



- (1) 開く デバイスプロフィールをリストに追加します。(P.3-4) Raster Link シリーズ用のプロフィール以外は開くことができません。
- (2) 編集 リストから選択したデバイスプロフィールを編集します。
- (3) コピー リストから選択したデバイスプロフィールを、違う条件のデバイスプロフィールに作り変えます。
- (4) 削除 選択したデバイスプロフィールを、プロフィールリストから削除します。
- (5) 戻る メインメニューに戻ります。
- (6) 基準設定 キャリブレーション・イコライゼーション機能を使用するためのターゲット情報を記録します。V3 プロファイルでのみ有効になります。(P.4-3 「基準になる色を記録する(基準設定)」)
- (7) キャリブレーション フリントの色味が変わってしまったとき、基準設定に記録した色に合わせます。基準設定にターゲット情報を記録している V3 プロファイルでのみ有効になります。(P.4-5 「キャリブレーションを行う」)
- (8) イコライゼーション 複数の同機種のプリンタを使用しているとき、プリンタ間の色を近づけます。基準設定にターゲット情報を記録している V3 プロファイルでのみ有効になります。(P.4-14 「イコライゼーションを行う」)
- (9) 色置換情報 Raster Link Pro III 以降の Raster Link シリーズのカラーコレクションなどの色情報を計算するための情報を記録します。V3 プロファイルでのみ有効になります。



◆ 表示メニューの[インク消費量予測計算]を選択すると、選択したプロフィールを使用したときに消費されるインク量を算出します。(P.3-17)



P.3-6 「デバイスプロフィールを編集する」へ続く ➡

## デバイスプロフィールを編集する

←「編集するプロフィールをリストに追加する」から

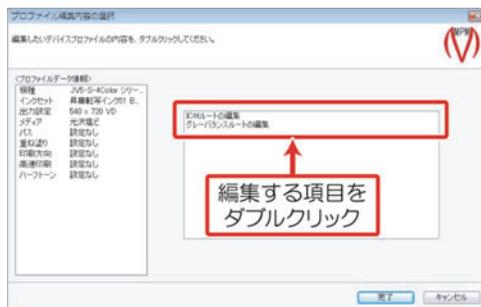
- 1 編集するデバイスプロフィールを選択し、“編集”をクリックします。  
プロフィール編集ウィンドウが開きます。



- 2 デバイスプロフィールの編集内容をダブルクリックします。

項目数や編集内容は、デバイスプロフィールによって異なります。

詳細は P 3-8 を参照してください。



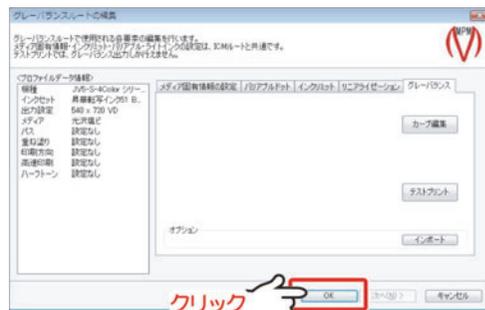
- 3 編集項目を選択します。

タブを選択し、プロフィールの作成時と同様に編集します。

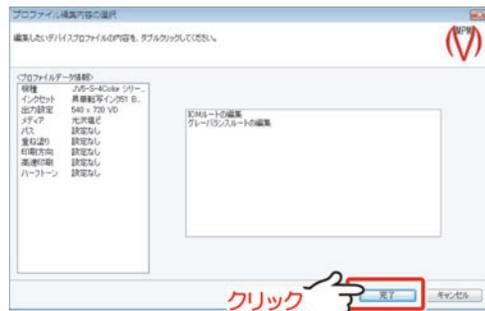


◆ リニアライゼーションを調整すると、グラデーションのなめらかさに影響が出るため、Raster Link シリーズでの出力時 (カラーマッチング ON、グレーバランス ON の場合) の C+M+Y のグレーが色みを帯びてしまうことがあります。その場合は、グレーバランスの再調整を行い、適切なグレーを再現するようにしてください。

- 4** 編集後、**OK** をクリックします。
- 手順 2 の画面を表示します。  
 続けて、他のルートを編集するときは  
 ダブルクリックしてください。



- 5** すべての編集が終わったら、**完了** をクリックします。
- デバイスプロフィールを保存する画面  
 になります。



- 6** 保存ファイル名、作成者名を入力し、**OK** をクリックします。
- 編集リスト画面に戻ります。



💡 ◆ 他の人が作成したデバイスプロフィールを編集し、保存する場合は、メディア名を選択してください。



**重要!**

- ◆ プロファイル編集では、デバイスプロフィールを別名で保存できます。この場合、編集元のデバイスプロフィールと、プリンタ、インクセット、解像度、メディア名など、デバイスプロフィールの条件がまったく同じになります。
- ◆ Raster Link Pro では、後にインストールしたデバイスプロフィールが先にインストールしたデバイスプロフィールを上書きします。(同時にインストールした場合は、どちらを先にインストールするかは保証しません。) デバイスプロフィールを Raster Link Pro ヘインストールする場合は、注意してください。
- ◆ Raster Link Pro シリーズ以外の Raster Link シリーズでは、ProfileManager を使用して、既存のデバイスプロフィールまたは、後にインストールしたデバイスプロフィールのどちらを使用するか選択することができます。

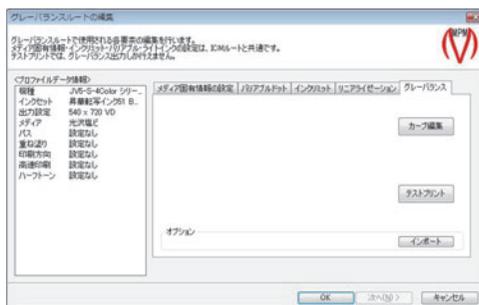
## ■ 編集項目一覧表

		V2 プロファイル		V3 プロファイル		
		ICM ルート	グレーバラン スルート	V3 プロ ファイル	キャリブレ ーション	イコライ ゼーション
インクリミット		○	○	○		
ICC プロファイル		○		○		
メディア 固有情報	メディア補正值	○	○	○		
	ヒーター温度	○	○	○		
	メディア送り設定	○	○	○		
	ドットサイズ	○	○	○		
	天井ファン			○		
	フィード方向			○		
拡張固有 情報	UV 照度設定			○		
バリアブルドット		○	○	○		
グレーバランス			○	○		
リニアライゼーション			○	○		
ライトインク		○	○	○		
インクリミットの調整					○	○
リニアライゼーションの自動調整					○	○
グレーバランスの自動調整					○	○
色差の確認					○	○

## ■ ICM ルート編集画面

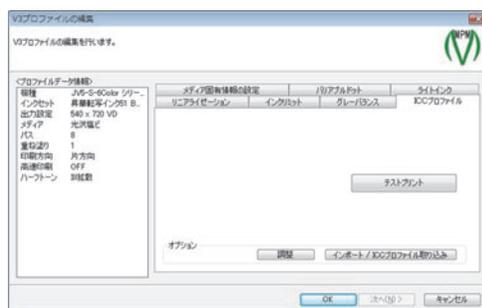


## ■ グレーバランスルート編集画面



説明	参照ページ
各インクのインク量を調整します。	P 3-10
ICC プロファイルの調整やインポート等を行います。	P 3-10
「メディア補正値の設定を有効にする」をチェックして、メディア補正値の調整を行います。	P 3-11
「ヒーター温度の設定を有効にする」をチェックして、ヒーター温度の調整を行います。	P 3-11
「メディア送り速度の設定を有効にする」をチェックして、メディア送り速度の調整を行います。	P 3-11
プリンタに JF-16XX シリーズ、UJV-160、JFX、UJF-706、UJF-3042FX、UJF-3042HG、UJF-6042、Tx400 を設定しているときにドットサイズを調整できます。(プリンタを JV3 に設定しているときのドットサイズの編集はできません。)	P 3-11
プリンタに JV300、CJV300 を設定しているときに天井ファンの風量を変更できます。	P 3-12
プリンタに UJF-3042FX、UJF-3042HG、UJF-6042 を設定し、かつ、インクセットに CMYKLCm カラーセットを設定しているときに、フィード方向を変更できます。	P 3-12
「UV ランプ設定」を変更する事で UV ランプの光り方を変更できます。	P 3-12
バリアブルドットのパラメータを表示します (バリアブルドット選択時のみ)。この項目は編集できません。	-
各インクのカーブを調整を行います。	P 3-13
各インクのカーブを調整を行います。	P 3-13
現在使用しているライトインクの設定を表示します (ライトインク選択時のみ)。この項目は編集できません。	-
各インクのインク量を自動的に調整します。	P 3-13
各インクのカーブを自動的に調整を行います。	P 3-14
各インクのカーブを自動的に調整を行います。	P 3-14
各インクのカーブを自動的に調整を行います。	P 3-14

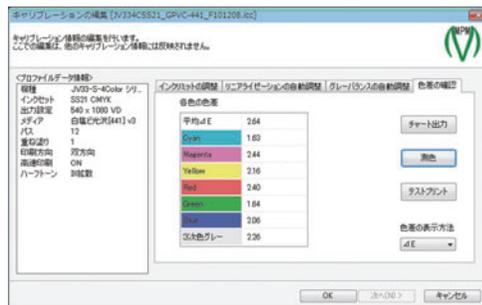
### ■V3 プロファイル編集画面



### ■キャリブレーション / イコライゼーション 編集画面



◆キャリブレーション機能 (P.4-2) またはイコライゼーション機能 (P.4-13) を設定しているプロファイルを選択したときのみ編集できます。



## インクリミットの編集

[インクリミット] タブをクリックすると、以下の画面を表示します。

V2 プロファイルの場合  
編集方法は 2-21 ページを参照してください。

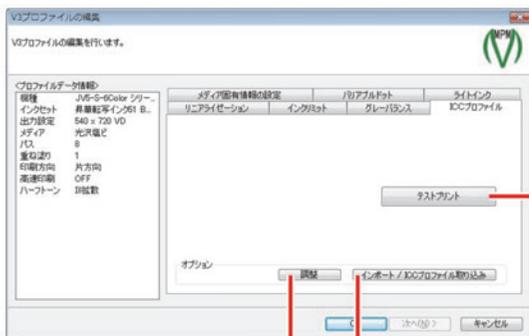


V3 プロファイルの場合  
編集方法は 2-44 ページを参照してください。



## ICC プロファイルの編集

[ICC プロファイル] タブをクリックすると、以下の画面を表示します。



2-14 ページを参照してプリントしてください。

2-69 ページを参照して調整してください。

**インポート** とほぼ同じ機能です。選択できるファイルは、拡張子が .cot、.icm または、.icc です。2-65 ページを参照して調整してください。

## メディア固有情報の編集

[メディア固有情報] タブをクリックして編集します。  
編集するプロファイルによって、メディア固有情報で編集できる項目が異なります。

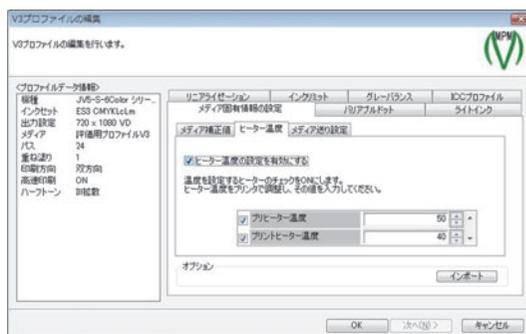
### メディア補正値の編集

2-7 ページを参照して編集してください。



### ヒーター温度の編集

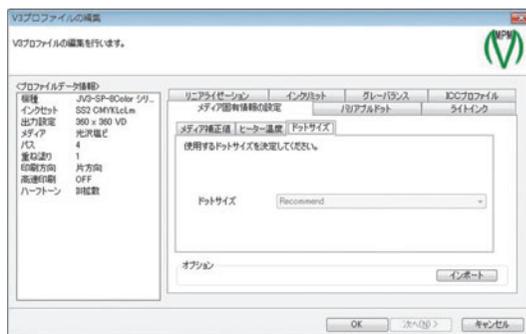
2-7 ページを参照して編集してください。



### ドットサイズの編集

2-8 ページを参照して編集してください。

<b>重要!</b>	◆ドットサイズの編集が可能なのは、JF-16xx シリーズ、UJF-160、JFX、UJF-706、UJF-3042FX、UJF-3042HG、UJF-6042、Tx400 です。
------------	--



### メディア送り速度の編集

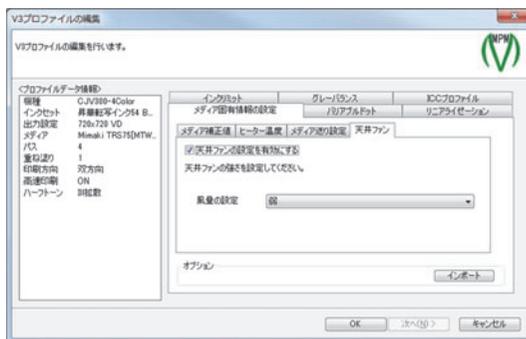
2-11 ページを参照して編集してください。



## 天井ファンの編集

2-11 ページを参照して編集してください。

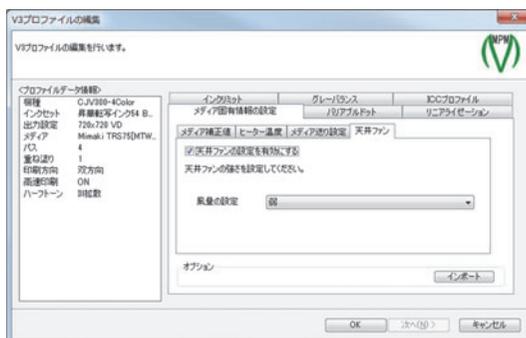
<b>重要!</b>	◆天井ファンの編集が可能なのは、JV300、CJV300です。
------------	---------------------------------



## フィード方向の編集

2-11 ページを参照して編集してください。

<b>重要!</b>	◆フィード方向の編集が可能なのは、UJF-3042FX、UJF-3042HG、UJF-6042です。
------------	--

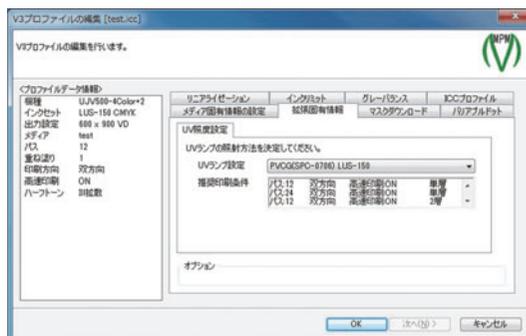


## 拡張固有情報の編集

[ 拡張固有情報 ] タブをクリックして編集します。

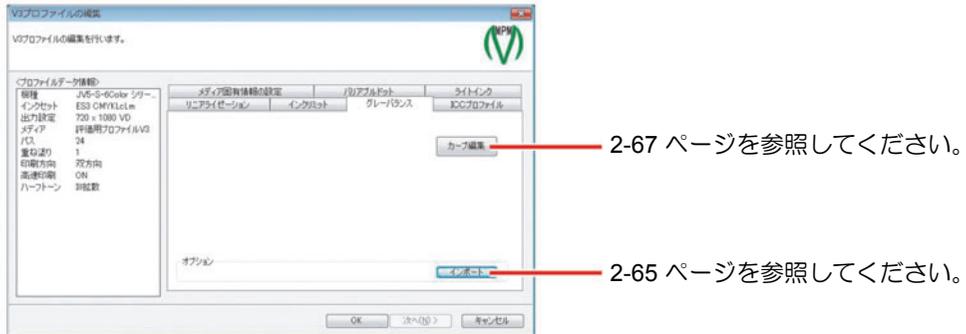
## UV 照度設定

2-12 ページを参照して編集してください。



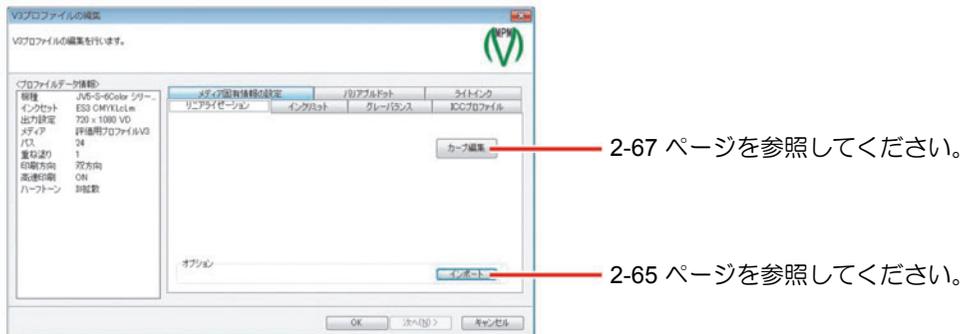
## グレーバランスの編集

[グレーバランス]タブをクリックすると、以下の画面を表示します。



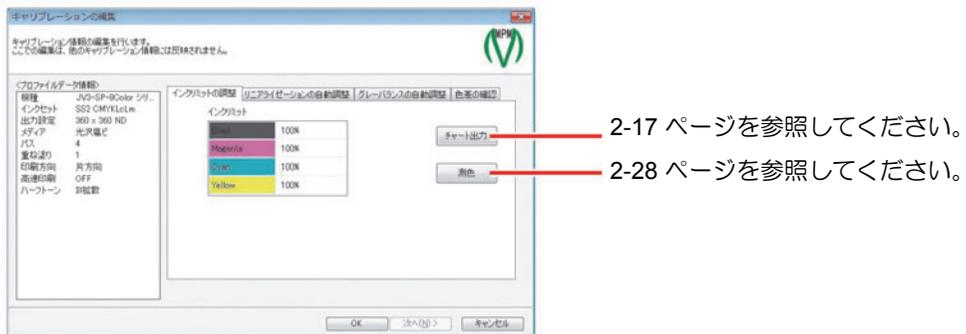
## リニアライゼーションの編集

[リニアライゼーション]タブをクリックすると、以下の画面を表示します。



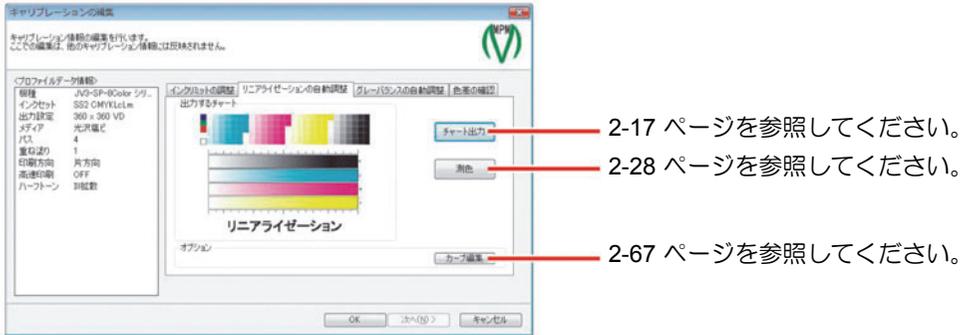
## インクリミットの調整 (キャリブレーション/イコライゼーション編集画面)

[インクリミットの調整]タブをクリックすると、以下の画面を表示します。



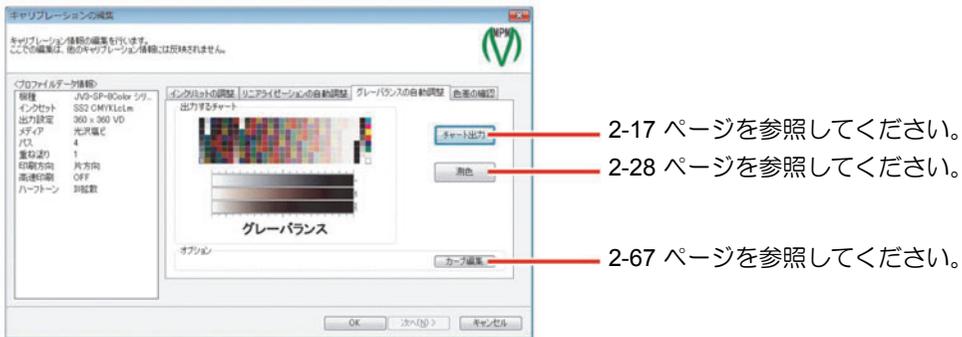
## リニアライゼーションの自動調整 (キャリブレーション/イコライゼーション編集画面)

[リニアライゼーションの自動調整] タブをクリックすると、以下の画面を表示します。



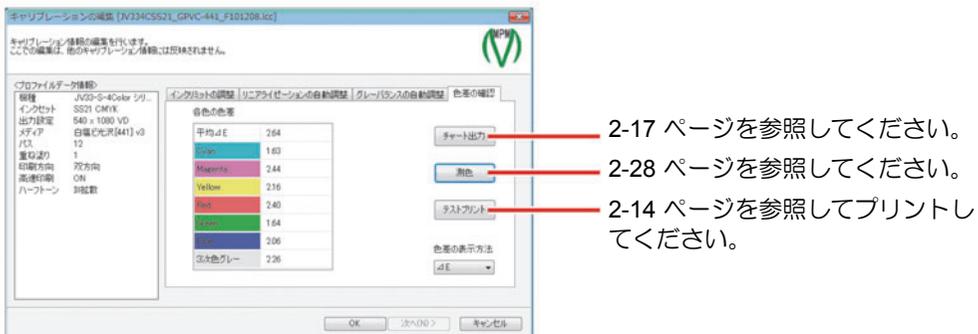
## グレーバランスの自動調整 (キャリブレーション/イコライゼーション編集画面)

[グレーバランスの自動調整] タブをクリックすると、以下の画面を表示します。



## 色差の確認 (キャリブレーション/イコライゼーション編集画面)

[色差の確認] タブをクリックすると、以下の画面を表示します。



## 色置換情報

Raster Link ProIII 以降の Raster Link シリーズでは、カラーコレクションやスキャナ測色機能を使用して、希望した色に近い色を自動的に算出し置換することができます。そのとき色置換の算出に使用する情報は、プロフィールから取り出されます。

MPM II では、V3 プロファイルに色置換で使用する情報を追加することができます。

**重要!**

◆ 新規に作成された V3 プロファイルに色置換情報を追加する場合は、プロフィールの編集がすべて終了してから行ってください。

## 色置換情報を追加する

**重要!**

◆ 色置換情報は、選択した V3 プロファイルに追加され上書き保存されます。あらかじめ、プロフィールをバックアップしておくことをお勧めします。

**1**

【デバイスプロフィール】タブを選択し、“編集”をクリックします。

編集リストが開きます。



**2**

V3 プロファイルを、編集リストに追加する

☞ P.3-4 「編集するプロフィールをリストに追加する」

**3**

“色置換情報”をクリックします。

高精度色置換情報の生成ウィザードが起動します。

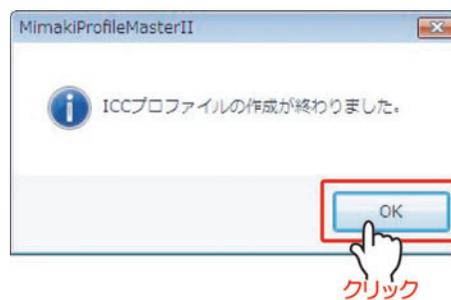


**4**

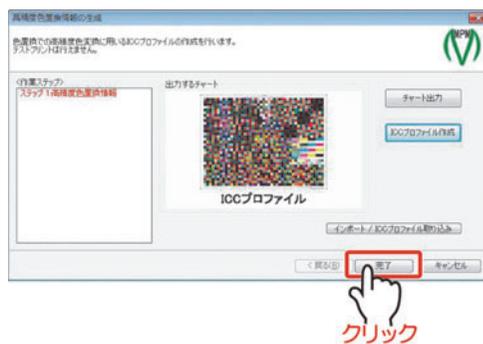
チャートを出力し、ICC プロファイルを作成します。

☞ P.2-51 「ICC プロファイルの作成」

5 **OK** をクリックします。



6 **完了** をクリックします。



## インク消費量予測計算

選択したデバイスプロフィールを使用してプリントしたときに、消費されるインク量を算出できます。



◆実際に出力処理を行っているファイルのインク消費量を計算したい場合は、P.1-9「オプション設定」で[動作]タブを選び、「インク消費予測量を算出する」のチェックをONにしてください。印刷終了後にインク消費量を表示するようになります。

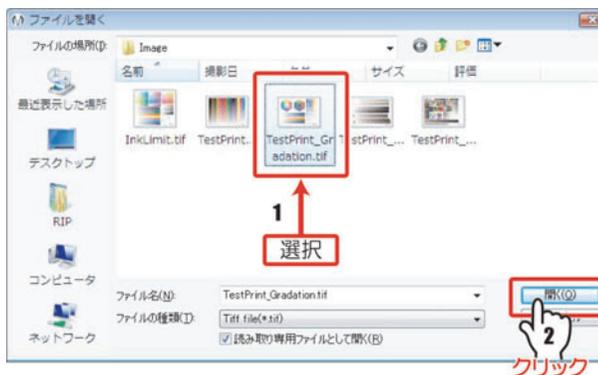
- 1 「デバイスプロフィールをリストに追加する」(P.3-4)を参照して、編集リストを表示させます。
- 2 インク消費量を算出したいデバイスプロフィールを選択します。



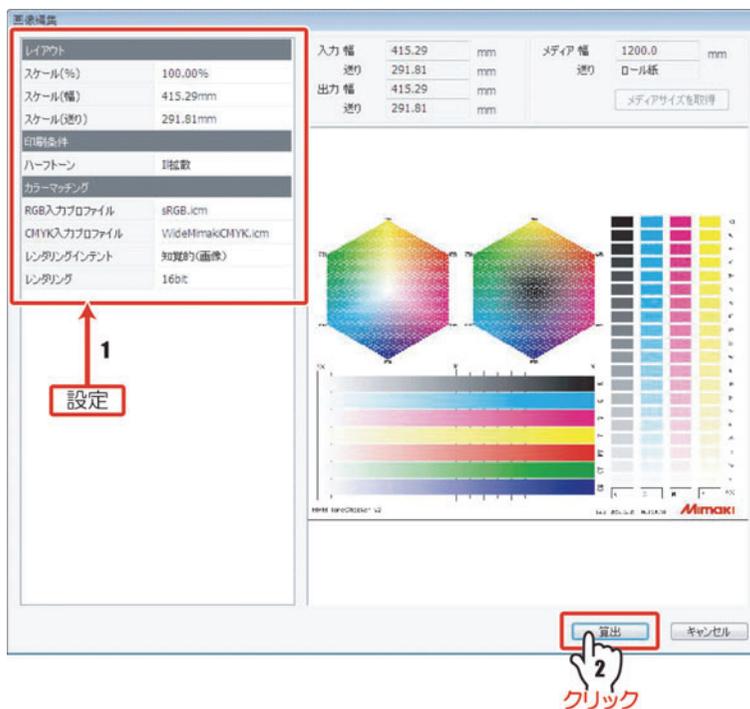
- 3 “表示”-“インク消費量予測計算”を選択します。



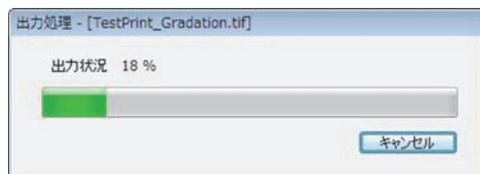
- 4 選択したデバイスプロフィールを使って印刷したときに、インクの消費量を計算したいデータを選択し、開くをクリックします。



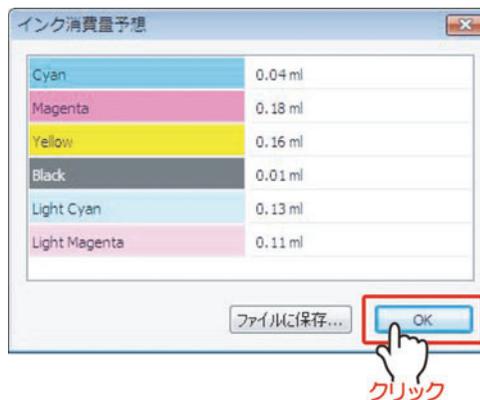
**5** 印刷条件を設定し、**算出** をクリックします。



右のダイアログが表示され、インク消費量の予測計算をします。



**6** 算出した予測消費量を確認して、**OK** をクリックします。



💡 **ファイルに保存...** をクリックして、算出した数値を保存しておくことができます。

# 4章 キャリブレーション、 イコライゼーションを行う

キャリブレーション機能、イコライゼーション機能の操作手順と運用方法を説明します。

キャリブレーション機能 .....	4-2
基準になる色を記録する(基準設定) .....	4-3
キャリブレーションを行う .....	4-5
イコライゼーション機能 .....	4-13
イコライゼーションを行う .....	4-14
キャリブレーション・イコライゼーションの 運用について .....	4-21
日常の色差を確認する .....	4-21
キャリブレーションデータを再調整する .....	4-24
新しいキャリブレーションデータを追加する .....	4-28
キャリブレーションデータを使用してプリントする .....	4-30

**重要!**

◆ CMYKOrGrインクセットのプロファイルの場合、キャリブレーション、イコライゼーションは行えません。

# キャリブレーション機能

インクジェットプリンタでプリントするとき、次のような要因でプリンタの発色が異なることがあります。

温度や湿度の変化	インクやメディアが影響を受け、発色に影響を与えます。
プリンタヘッドの調整や交換	ヘッドが変わることにより、以前とは異なった発色をすることがあります。

「基準となる色」を記録しておけば、温度変化などの要因によりプリンタの発色が変化してしまっても、あらかじめ記録しておいた「基準となる色」の状態に近づけるようにプロファイルを補正できます。

## 重要!

- ◆ キャリブレーション機能で補正したプロファイルは、Raster Link ProIII 以降の Raster Link シリーズで使用することができます。
- ◆ キャリブレーション機能は、V3プロファイル(拡張子が.iccのファイル)でのみ使用可能です。
- ◆ Raster Link ProIII～RasterLinkPro5に付属するProfileManagerを使用してV2からV3に変換されたV3プロファイルでは、正常にキャリブレーションが行えません。
- ◆ キャリブレーション機能を使用するためには、事前に基準設定を行う必要があります。



- ◆ **キャリブレーション機能はプロファイル1つ1つに対して調整を行います。**  
インクやメディアによりドットの広がり方(ドットゲイン)が異なり、解像度やパス数によりインクの乾燥性が異なるため、プロファイルごとに異なる調整が必要です。  
よく使うプロファイルが決まったら、基準設定を行ってください。

## 基準になる色を記録する（基準設定）

様々な要因でプリンタの発色が変わってしまったときに、色を補正するための「基準となる色」を記録します。

キャリブレーション機能では、変化してしまったプリンタの発色を、ここで記録した「基準となる色」に近づけるように補正します。

プロファイルを作成したときに「基準となる色」を記録してある場合、基準設定を行う必要はありません。

**重要!** ◆基準設定は、選択した V3 プロファイルに上書き保存されます。あらかじめ、プロファイルをバックアップしておくことをお勧めします。

- 1 **【デバイスプロファイル】タブを選択し、“編集”をクリックします。**

編集リストが開きます。



- 2 **基準設定をするV3プロファイルを、編集リストに追加します。**

3-4 ページの「編集するプロファイルをリストに追加する」

- 3 **“基準設定”をクリックします。**

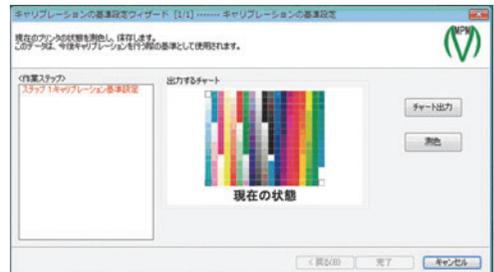
キャリブレーションの基準設定ウィザードが起動します。



- 4 **チャートを出力し、測色します。**

2-26 ページの「リニアライゼーションの自動調整」手順 1～6 を参照してください。

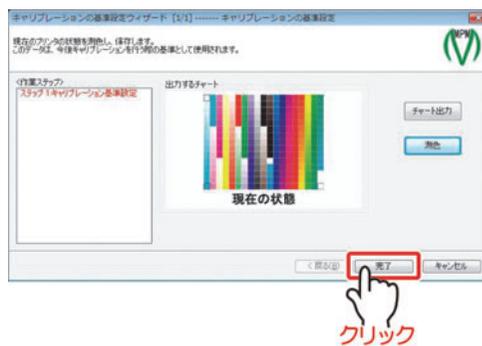
チャートの名前は「〇〇\_CalibrationTarget.txt」を選択してください。（〇〇は測色器の名前）



**5** **OK** をクリックします。



**6** **完了** をクリックします。  
編集リストが表示されます。



## キャリブレーションを行う

お使いのプリンタの発色が以前と異なる場合、基準設定を記録しておいた V3 プロファイルを使って、インクリミット・リニアライゼーション・グレーバランスの3つの要素を調整します。

**重要!**

- ◆キャリブレーションで調整した内容は、選択したV3プロファイルに上書き保存されます。あらかじめ、プロファイルをバックアップしておくことをお勧めします。
- ◆色差の計算では、D50 光源を想定していますので、ご利用の環境光源とは必ずしも同じ結果にはなりません。見た目と数値の差はご了承ください。

### 現在の状態を測色する

- 1** 【デバイスプロファイル】タブを選択し、“編集”をクリックします。

編集リストが開きます。



- 2** 基準設定をしてある V3 プロファイルを、編集リストに追加します。

3-4 ページの「編集するプロファイルをリストに追加する」

- 3** “キャリブレーション”をクリックします。

キャリブレーションウィザードが起動します。



**重要!**

- ◆“キャリブレーション”が無効になっている場合は、まず基準設定を行ってください。 P.4-3

- 4** チャートを出力し、測色します。

2-26 ページの「リニアライゼーションの自動調整」手順 1～6を参照してください。チャートの名前は「〇〇\_CalibrationTarget.txt」を選択してください。(〇〇は測色器の名前)

- 5** **OK** をクリックします。

数秒後に自動的に画面が進みます。しばらくお待ちください。



# 6 色差の値を確認します。

記録されている基準設定と、現在の測色結果の差が表示されます。色差の数値の詳細は、用語解説をご覧ください。(P. 付録 -2)



**重要!**

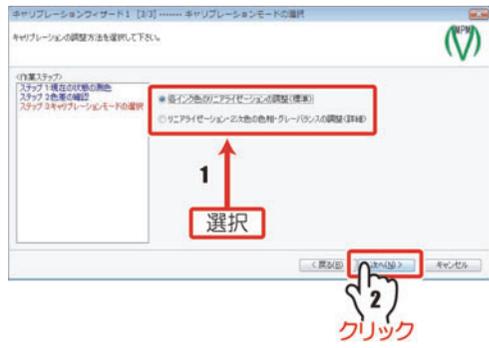
- ◆ 色差の値を確認するため、画面右下の「色差の表示方法」を選択してください。
- ◆ 色差の表示方法には、 $\Delta E$ 、 $\Delta E94$ 、 $\Delta E2000$  がありますが、人の目が感じる色差と最も近い「 $\Delta E2000$ 」をお勧めします。

キャリブレーションを行う場合は **次へ** をクリックしてください。  
 キャリブレーションを行わない場合は **キャンセル** をクリックしてください。  
 編集リストが表示されます。

- ◆ 色差が [6] 以上の場合、**!** マークが表示されます。**!** マークが表示されている場合は、キャリブレーションを行うことをお勧めします。
- ◆ **!** マークが表示されていなくても、キャリブレーションはできます。必要に応じて行ってください。
- ◆ **!** マークが多い場合や数値が大きい場合は、プリンタの調整を行ってください。

# 7 作業内容を選択し、次へをクリックします。

- 各インク色のリニアライゼーションの調整 (標準)
- CMYK のグラデーションの調整のみ行います。(約 30 分の作業)
- リニアライゼーション・2 次色の色相
- ・グレーバランスの調整 (詳細)
- 2 次色の色相の微調整、グラデーションの階調性、グレーバランスの色みの調整の 3 つの要素の調整を行います。(約 2 時間の作業)



**重要!**

- ◆ ここで選択した作業内容 (標準 / 詳細) は、途中で変更できません。

- ◆ プリンタの調整を行うことで生じる色差は、ドットの重なりが変わることによるものです。ドットの重なり方が変わると、色の混ざり方が変わるため、2 次色・3 次色に影響があります。プリンタを調整した場合は、詳細モードでキャリブレーションを行ってください。

(標準) を選んだ場合は 4-7 ページへ  
 (詳細) を選んだ場合は 4-9 ページへ続く ➡

## 作業内容（標準）を選んだ場合

← P.4-6 の「現在の状態を測色する」から

### 1 リニアライゼーションの自動調整を行います。

チャートを出力し、測色します。

2-26 ページの「リニアライゼーションの自動調整」手順 1～6 を参照してください。

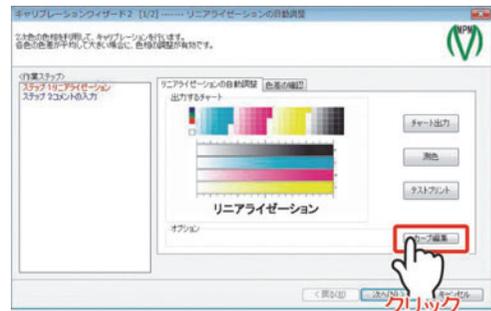
チャートの名前は「〇〇\_Linearization.txt」を選択してください。（〇〇は測色器の名前）

### 2 OK をクリックします。



### 3 必要に応じて、カーブ編集をします。

カーブ編集が必要なときは、**カーブ編集** をクリックしてください。編集方法は 2-67 ページの「カーブ編集ボタン」を参照してください。



💡 自動調整後のカーブが大きく曲がっていたり、S 字を描いている場合は測色ミス  
の可能性がります。カーブを直線にして、再度測色してください。

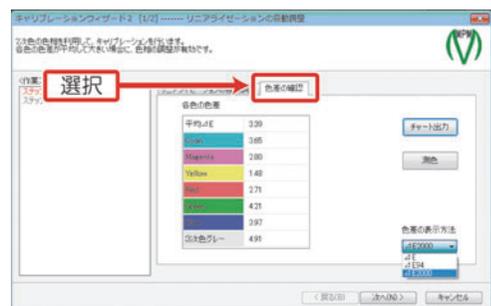
### 4 [色差の確認] タブを選択します。

画面には、キャリブレーションを行う前の色差が表示されています。

### 5 チャートを出力し、測色します。

調整結果を反映したチャートを測色することで、キャリブレーションした結果を確認します。

2-26 ページの「リニアライゼーションの自動調整」手順 1～6 を参照してください。



## 6 OK をクリックします。



## 7 調整後の色差を確認します。



- ◆ 測色値は測色誤差を含むため、測色するごとに値が変化します。また、それによって、色差の値も変化します。
- ◆ 測色誤差には以下のような要因があります。
  - a. 測色器の個体差
  - b. 測色器の繰り返し精度
  - c. 印刷物のムラ
  - d. 印刷物と測色器の距離または、接触のしかた
- ◆ 測色器による測色誤差は、 $\Delta E$  にすると 1 以下です。  
見た目の差以上に色差の値が大きい場合は、印刷物にノズル抜けやムラがないかチェックしてから、測色し直してください。

## 8 次へ をクリックします。

## 9 コメントを入力します。 (最大 20 文字)

コメントは Raster Link ProIII 以降の Raster Link シリーズで使用する際に表示されます。簡単でわかりやすいものにしてください。



## 10 完了 をクリックします。

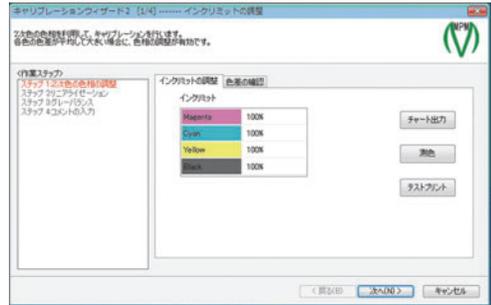
キャリブレーションデータは V3 プロファイルに追加され、上書き保存されます。

作業内容（詳細）を選んだ場合

← P.4-6 の「現在の状態を測色する」から

- 1** 2次色の色相の調整を行います。

チャートを出力し、測色します。  
 2-26 ページの「リニアライゼーションの自動調整」手順 1～6 を参照してください。  
 チャートの名前は「〇〇\_CalibrationTarget.txt」を選択してください。（〇〇は測色器の名前）



- 2** **OK** をクリックします。

自動的にインク量の調整を行います。

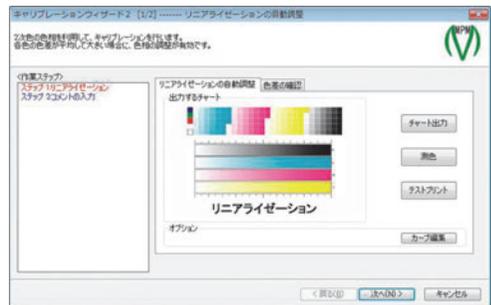


**重要!** ◆ここでの調整は、微調整を目的としています。インク量が大きく変化した場合(90%以下など)は、測色ミス可能性があります。インク量をすべて100%に戻し、再度測色してください。

- 3** **次へ** をクリックします。

- 4** リニアライゼーションの自動調整を行います。

チャートを出力し、測色します。  
 2-26 ページの「リニアライゼーションの自動調整」手順 1～6 を参照してください。  
 チャートの名前は「〇〇\_Linearization.txt」を選択してください。（〇〇は測色器の名前）



5 **OK** をクリックします。



💡 ◆ リニアライゼーションを調整したことで色差が大きくなってしまう場合は、**カーブ編集** でカーブをすべて直線にしてください。(キャリブレーションをしない状態にする)

6 **次へ** をクリックします。

7 グレーバランスの自動調整を行います。

2-48 ページの「グレーバランスの自動調整」を参照してください。  
チャートの名前は「〇〇\_GrayBalance001.txt」を選択してください。(〇〇は測色器の名前)

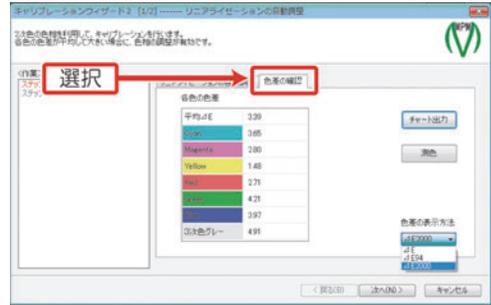


8 **OK** をクリックします。



💡 ◆ グレーバランスを調整したことで色差が大きくなってしまう場合は、**カーブ編集** でカーブをすべて直線にしてください。(キャリブレーションをしない状態にする)

- 9** [色差の確認]タブを選択します。  
画面には、キャリブレーションを行う前の色差が表示されています。



- 10** チャートを出力し、測色します。  
調整結果を反映したチャートを測色することで、キャリブレーションした結果を確認します。  
2-26 ページの「リニアライゼーションの自動調整」手順1～6を参照してください。  
チャートの名前は「〇〇\_CalibrationTarget.txt」を選択してください。(〇〇は測色器の名前)

- 11** **OK** をクリックします。



- 12** 調整後の色差を確認します。
- ◆ 測色値は測色誤差を含むため、測色するごとに値が変化します。また、それによって、色差の値も変化します。
  - ◆ 測色誤差には以下のような要因があります。
    - a. 測色器の個体差
    - b. 測色器の繰り返し精度
    - c. 印刷物のムラ
    - d. 印刷物と測色器の距離または、接触のしかた
  - ◆ 測色器による測色誤差は、 $\Delta E$  にすると 1 以下です。  
見た目の差以上に色差の値が大きい場合は、印刷物にノズル抜けやムラがないかチェックしてから、測色し直してください。

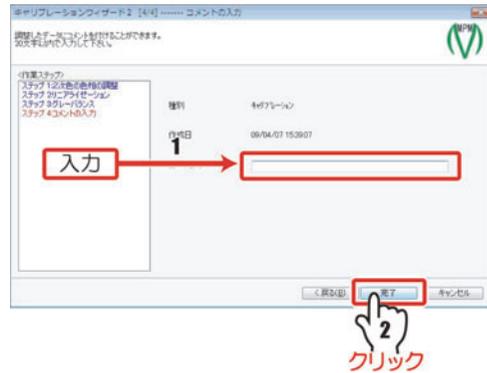
- 13** **次へ** をクリックします。

## 14 コメントを入力します。 (最大 20 文字)

コメントは Raster Link ProIII 以降の Raster Link シリーズで使用する際に表示されます。簡単でわかりやすいものにしてください。

## 15 完了 をクリックします。

キャリブレーションデータは V3 プロファイルに追加され、上書き保存されます。



## イコライゼーション機能

同じ機種種のプリンタを複数台使って出力しても、各々の装置の特性により発色が異なる場合があります。

MPM II では、同じ出力条件で使用される複数台のプリンタに対して、同様の出力結果が得られるように、プロファイルの補正を行うことができます。

### ■ 出力条件としてそろえる項目

プリンタの種類	使用するインク	インクセットの構成	使用するメディア
解像度	使用ドットサイズ (ND または VD)		パス数
印刷方向	高速印刷の ON/OFF		重ね塗り回数

#### 重要!

- ◆ イコライゼーション機能で補正したプロファイルは、Raster Link ProIII 以降 Raster Link シリーズで使用することができます。
- ◆ イコライゼーション機能は、V3プロファイル(拡張子が.iccのファイル)でのみ使用可能です。
- ◆ 出力条件が異なる場合は、良い結果が得られないことがあります。
- ◆ Raster Link ProIII～RasterLinkPro5に付属するProfileManagerを使用してV2からV3に変換されたV3プロファイルでは、正常にイコライゼーションが行えません。
- ◆ イコライゼーション機能を使用するためには、事前に基準設定を行う必要があります。

## イコライゼーションを行う

### 重要!

- ◆ あらかじめ、基準設定が記録されているV3プロファイルを用意しておいてください。
- ◆ イコライゼーションで調整した内容は、選択したV3プロファイルに上書き保存されます。あらかじめ、プロファイルをバックアップしておくことをお勧めします。
- ◆ 色差の計算では、D50光源を想定していますので、ご利用の環境光源とは必ずしも同じ結果にはなりません。見た目と数値の差はご了承ください。

## ターゲットプリンタへ出力する

まず、調整目標とするプリンタの状態を記録します。

**1** ターゲットプリンタをPCと接続します。

**2** [デバイスプロファイル]タブを選択し、“編集”をクリックします。

編集リストが開きます。

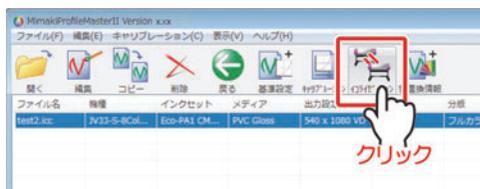


**3** 基準設定をしてあるV3プロファイルを、編集リストに追加します。

 3-4 ページの「編集するプロファイルをリストに追加する」

**4** “イコライゼーション”をクリックします。

イコライゼーションウィザードが起動します。

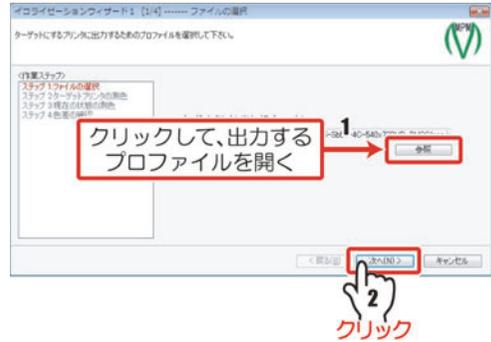


### 重要!

- ◆ “イコライゼーション”が無効になっている場合は、まず基準設定を行ってください。(  P.4-3 )

**5** ターゲットにするプリンタに出力するための V3 プロファイルを選択します。

- 1  をクリックします。
- 2 V3 プロファイルを選択し、 をクリックします。
- 3  をクリックします。



 ◆ここで選択したプロファイルは、イコライゼーションの調整結果の影響は受けません。

**6** ターゲットプリンタの現在の状態を測色します。

チャートを出力し、測色します。  
2-26 ページの「リニアライゼーションの自動調整」手順 1～6 を参照してください。  
チャートの名前は「○○\_CalibrationTarget.txt」を選択してください。(○○は測色器の名前)



**重要!** ◆プリンタを複数台接続している場合は、必ず、ターゲットプリンタを出力先に選択してください。

**7**  をクリックします。



**8**  をクリックします。

4-16 ページの「イコライゼーションを行うプリンタへ出力する」へ続く ➡

## イコライゼーションを行うプリンタへ出力する

← 4-15 ページの「ターゲットプリンタへ出力する」から

**1** イコライゼーションを行いたいプリンタを PC と接続します。

**2** イコライゼーションを行うプリンタの現在の状態を測色します。

チャートを出力し、測色します。  
2-26 ページの「リニアライゼーションの自動調整」手順 1～6 を参照してください。  
チャートの名前は  
「〇〇\_CalibrationTarget.txt」を選択してください。(〇〇は測色器の名前)



**3** **OK** をクリックします。



**重要!**

◆ プリンタを複数台接続している場合は、必ず、イコライゼーションを行うプリンタを出力先に選択してください。

## 4 調整前の色差を確認します。

記録されている基準設定と、現在の測色結果の差が表示されます。色差の数値の詳細は、用語解説をご覧ください。(P. 付録-2)



**重要!**

- ◆ 色差の値を確認するため、画面右下の「色差の表示方法」を選択してください。
- ◆ 色差の表示方法には、 $\Delta E$ 、 $\Delta E94$ 、 $\Delta E2000$  がありますが、人の目が感じる色差と最も近い「 $\Delta E2000$ 」をお勧めします。

イコライゼーションを行う場合は **次へ** をクリックしてください。  
 イコライゼーションを行わない場合は **キャンセル** をクリックしてください。  
 編集リストが表示されます。

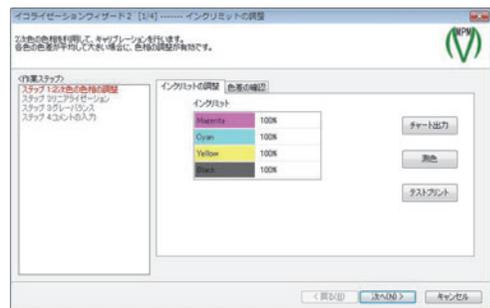
- ◆ 色差が [6] 以上の場合、**!** マークが表示されます。**!** マークが表示されている場合は、イコライゼーションを行うことをお勧めします。
- ◆ **!** マークが表示されていなくても、イコライゼーションはできます。必要に応じて行ってください。
- ◆ **!** マークが多い場合や数値が大きい場合は、プリンタの調整を行ってください。

**重要!**

- ◆ 異なるインクや異なるプロファイルをターゲットにしている場合は、**!** マークが多く表示されたり、数値が大きくなる場合があります。元々異なる発色のプロファイルを近付けることはできません。

## 5 2次色の色相の調整を行います。

2-26 ページの「リニアライゼーションの自動調整」手順 1 ~ 6 を参照してチャート出力と測色を行います。チャートの名前は「○○\_CalibrationTarget.txt」を選択してください。(○○は測色器の名前)



- 6 **OK** をクリックします。  
自動的にインク量の調整を行います。

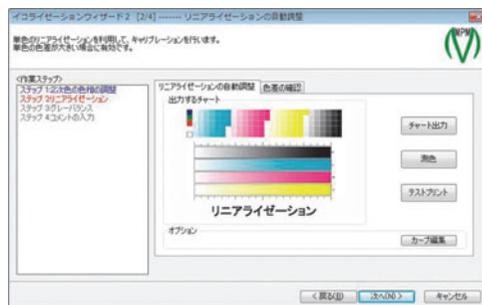


**重要!** ◆異なるインクや異なるプロフィールをターゲットにしてイコライゼーションを行うと、インク量が大きく変化することがあります。その場合は、十分な濃度が得られないため、結果が近付きません。

- 7 **次へ** をクリックします。

- 8 リニアライゼーションの自動調整を行います。

2-26 ページの「リニアライゼーションの自動調整」手順 1 ~ 6 を参照してチャート出力と測色を行います。  
チャートの名前は「〇〇\_Linearization.txt」を選択してください。(〇〇は測色器の名前)



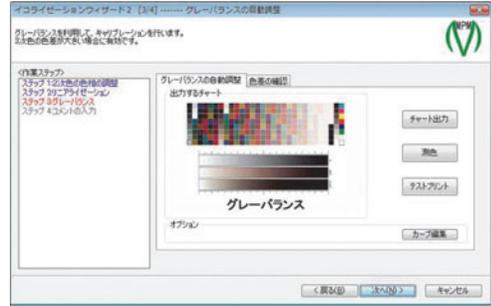
- 9 **OK** をクリックします。



- 10 **次へ** をクリックします。

**11** グレーバランスの自動調整を行います。

チャートを出力し、測色します。  
 2-48 ページの「グレーバランスの自動調整」を参照してください。  
 チャートの名前は「OO\_GrayBalance001.txt」を選択してください。(OOは測色器の名前)

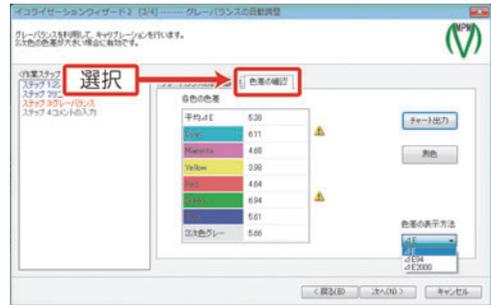


**12** **OK** をクリックします。



**13** **[色差の確認]** タブを選択します。

画面には、イコライゼーションを行う前の色差が表示されています。



**14** チャートを出力し、測色します。

調整結果を反映したチャートを測色することで、イコライゼーションした結果を確認します。  
 2-26 ページの「リニアライゼーションの自動調整」手順 1～6 を参照してください。  
 チャートの名前は「OO\_CalibrationTarget.txt」を選択してください。(OOは測色器の名前)

**15** **OK** をクリックします。



## 16 調整後の色差を確認します。



- ◆ 測色値は測色誤差を含むため、測色するごとに値が変化します。また、それによって、色差の値も変化します。
- ◆ 測色誤差には以下のような要因があります。
  - a. 測色器の個体差
  - b. 測色器の繰り返し精度
  - c. 印刷物のムラ
  - d. 印刷物と測色器の距離または、接触のしかた
- ◆ 測色器による測色誤差は、 $\Delta E$  にすると 1 以下です。  
見た目の差以上に色差の値が大きい場合は、印刷物にノズル抜けやムラがないかチェックしてから、測色し直してください。

## 17 次へ をクリックします。

## 18 コメントを入力します。 (最大 20 文字)

コメントは Raster Link ProIII 以降 Raster Link シリーズで使用する際に表示されます。簡単でわかりやすいものにしてください。



クリック

## 19 完了 をクリックします。

キャリブレーションデータは V3 プロファイルに追加され、上書き保存されます。



- ◆ P.4-14 「ターゲットプリンタへ出力する」の手順で使用したデバイスプロファイルは、ターゲットプリンタに接続している Raster Link ProIII シリーズにインストールしてください。
- ◆ イコライゼーションを行ったデバイスプロファイルは、イコライゼーションを行ったプリンタに接続している Raster Link ProIII シリーズにインストールしてください。
- ◆ ターゲットプリンタには通常に出力し、イコライゼーションを行ったプリンタにはイコライゼーション要素を選択して出力してください。

# キャリブレーション・イコライゼーションの運用について

## 日常の色差を確認する

キャリブレーションデータを生成し、後日、色差を確認する手順を説明します。



### ◆キャリブレーションデータとは

キャリブレーション機能、イコライゼーション機能で生成した V3 プロファイルの補正情報です。キャリブレーションデータを指定して色変換することで、キャリブレーションを反映した出力が可能です。

- 1 [デバイスプロファイル] タブを選択し、“編集” をクリックします。

編集リストが開きます。

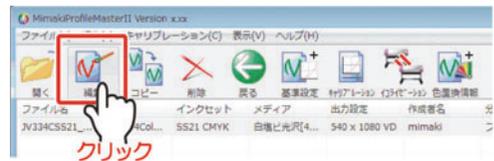


- 2 色差を確認したいキャリブレーションデータがある V3 プロファイルを、編集リストに追加します。

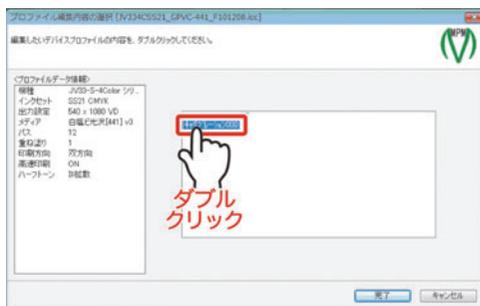
3-4 ページの「編集するプロファイルをリストに追加する」

- 3 “編集” をクリックします。

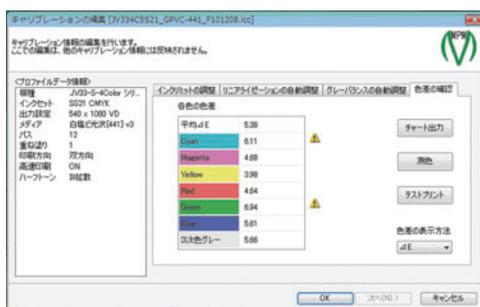
編集可能な項目が、一覧表示されます。



**4** 色差を確認したいキャリブレーションデータの名前をダブルクリックします。



[ 色差の確認 ] タブにキャリブレーションデータを生成したときの色差が表示されます。



**5** チャートを出力し、測色します。

2-26 ページの「リニアライゼーションの自動調整」手順 1～6 を参照してください。チャートの名前は「〇〇\_CalibrationTarget.txt」を選択してください。(〇〇は測色器の名前)

**6** **OK** をクリックします。

現在の色差に更新されます。

色差を確認した結果、キャリブレーション機能またはイコライゼーション機能での再調整が必要な場合は 4-24 ページの操作をしてください。



**7** **OK** をクリックします。



8

**完了** をクリックします。

今回算出した色差が上書き保存されます。

P.3-6「デバイスプロファイルを編集する」手順 5～6 を参照してください。



**重要!**

◆色差の履歴は保存されません。以前の色差を残しておく場合、デバイスプロファイルを別名で保存するか、キャンセルしてください。

## キャリブレーションデータを再調整する

### 重要!

- ◆ 色差の値が2以下の場合、測定誤差や計算誤差などで色差が大きくなる場合があります。
- ◆ キャリブレーションデータは上書き保存されます。以前のデータは残りませんのでご注意ください。

1

[デバイスプロファイル] タブを選択し、“編集” をクリックします。

編集リストが開きます。



2

調整したいキャリブレーションデータがあるV3 プロファイルを、編集リストに追加します。

 3-4 ページの「編集するプロファイルをリストに追加する」

3

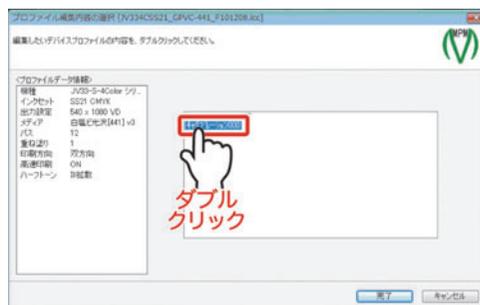
“編集” をクリックします。

編集可能な項目が、一覧表示されます。



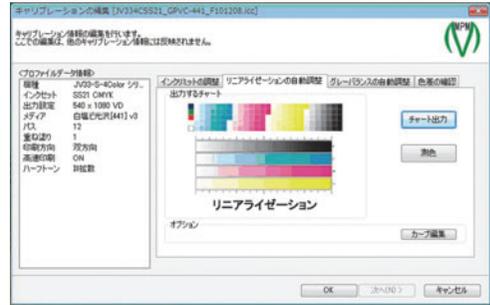
4

調整したいキャリブレーションデータの名前をダブルクリックします。

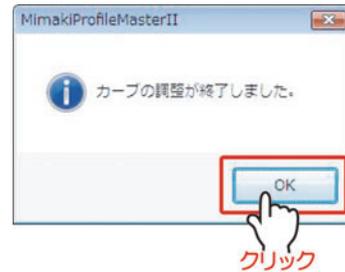


**5** リニアライゼーションの自動調整を行います。

チャートを出力し、測色します。  
 2-26 ページの「リニアライゼーションの自動調整」手順 1～6 を参照してください。  
 チャートの名前は「〇〇\_Linearization.txt」を選択してください。(〇〇は測色器の名前)

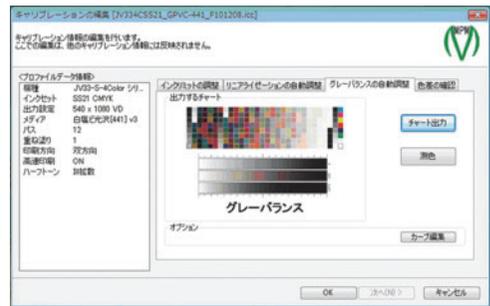


**6** **OK** をクリックします。



**7** グレーバランスの自動調整を行います。

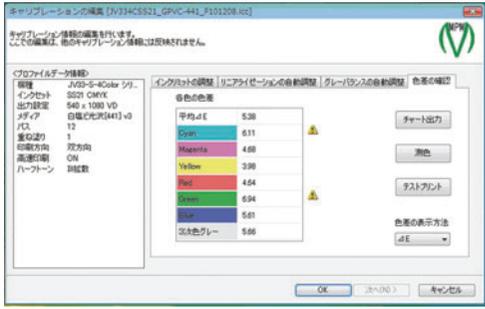
2-48 ページの「グレーバランスの自動調整」を参照してください。  
 チャートの名前は「〇〇\_GrayBalance001.txt」を選択してください。(〇〇は測色器の名前)



**8** **OK** をクリックします。



**9** 色差の確認を行います。  
画面には、前回の結果が表示されます。  
チャートを出力し、測色します。  
2-26 ページの「リニアライゼーションの自動調整」手順 1～6 を参照してください。  
チャートの名前は「〇〇\_CalibrationTarget.txt」を選択してください。(〇〇は測色器の名前)



**10** **OK** をクリックします。  
現在の色差に更新されます。

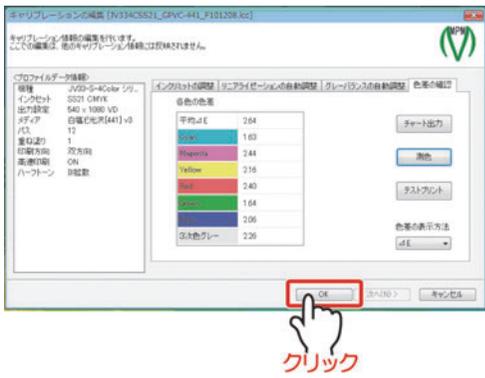


**11** 調整後の色差を確認します。



- ◆ 測色値は測色誤差を含むため、測色するごとに値が変化します。また、それによって、色差の値も変化します。
- ◆ 測色誤差には以下のような要因があります。
  - a. 測色器の個体差
  - b. 測色器の繰り返し精度
  - c. 印刷物のムラ
  - d. 印刷物と測色器の距離または、接触のしかた
- ◆ 測色器による測色誤差は、 $\Delta E$ にすると1以下です。  
見た目の差以上に色差の値が大きい場合は、印刷物にノズル抜けやムラがないかチェックしてから、測色し直してください。

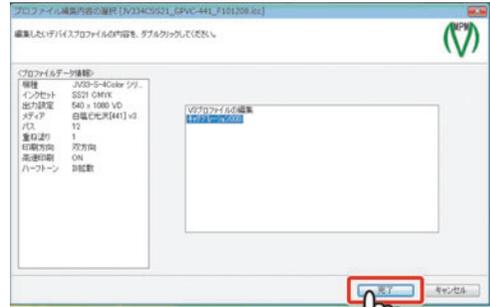
**12** **OK** をクリックします。



13

**完了** をクリックします。

P.3-6 「デバイスプロファイルを編集する」手順 5～6 を参照してください。



## 新しいキャリブレーションデータを追加する

キャリブレーションデータを新たに追加する方法を説明します。  
新たにキャリブレーションデータを追加することにより、キャリブレーションデータを履歴として残すことができます。

- 1 **[デバイスプロファイル] タブを選択し、“編集” をクリックします。**

編集リストが開きます。



- 2 **調整したいキャリブレーションデータがある V3 プロファイルを、編集リストに追加します。**

 3-4 ページの「編集するプロファイルをリストに追加する」

- 3 **“キャリブレーション” または “イコライゼーション” をクリックします。**



- 4 **チャートを出力し、測色します。**

2-26 ページの「リニアライゼーションの自動調整」手順 1～6 を参照してください。  
チャートの名前は「〇〇 \_CalibrationTarget.txt」を選択してください。(〇〇は測色器の名前)

**重要!**

◆チャートは、既存のキャリブレーションデータで補正していないデバイスプロファイルによって出力されます。

- 5 **OK をクリックします。**



**6** 色差を確認します。

**7** キャリブレーションまたはイコライゼーションを行います。

- キャリブレーションを行う場合は、4-5 ページの「キャリブレーションを行う」を参照してください。
- イコライゼーションを行う場合は、4-14 ページの「イコライゼーションを行う」を参照してください。

## キャリブレーションデータを使用してプリントする

キャリブレーションデータで補正されたデバイスプロファイルで出力する手順を説明します。

- 1 **【デバイスプロファイル】タブを選択し、“編集”をクリックします。**  
編集リストが開きます。



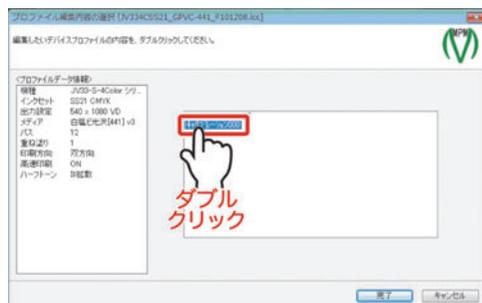
- 2 **キャリブレーションデータがある V3 プロファイルを、編集リストに追加します。**

 3-4 ページの「編集するプロファイルをリストに追加する」

- 3 **“編集”をクリックします。**  
編集可能な項目が、一覧表示されます。

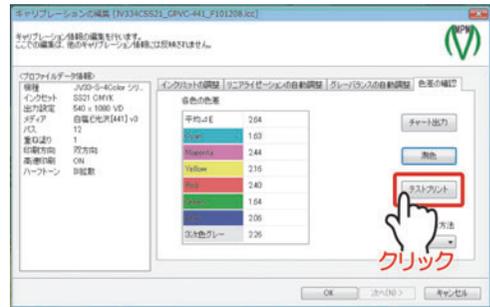


- 4 **キャリブレーションデータの名前をダブルクリックします。**



**5** **テストプリント** をクリックし  
ます。

P.2-14 を参照してプリントしてください。  
キャリブレーションデータで補正されて  
出力されます。





# 5章 デバイスプロファイルをコピーする

デバイスプロファイルのコピー .....	5-2
プロフィールコピーウィザード .....	5-2

# デバイスプロファイルのコピー

似通った特性を持つ印刷条件、メディアを使用してデバイスプロファイルを作成する場合、既存のデバイスプロファイルをコピーし、印刷条件の設定のみ変更して保存できます。

プロフィールコピー機能では、プリンタ、インクセット、解像度、メディア名、メディア固有情報の設定（メディア補正值、ヒーター温度など）が編集できます。

## 重要!

- ◆ 新規コピー先のカラーセット（CMYK 等）とドットタイプ（VD/ND）は、コピー元と同一となります。
- ◆ V2プロフィールをV3プロフィールに変換したり、プロフィール（V3）をV2プロフィールに変換することはできません。  
V2プロフィールからV3プロフィールへの変換は、Raster Link ProIII～RasterLinkPro5に付属のProfileManagerをお使いください。

## プロフィールコピーウィザード

- 1** [デバイスプロフィール] タブを選択し、“コピー” をクリックします。  
プロフィールコピーウィザード 1 が起動します。



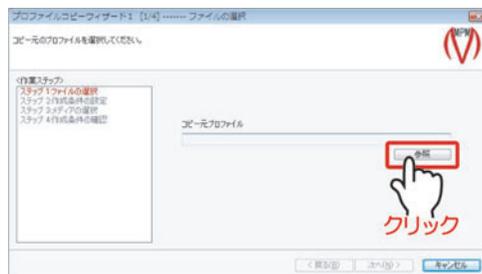
◆ 次のようにしても、プロフィールコピーウィザードが起動します。

1. [デバイスプロフィール] タブの “編集” をクリックする。
2. 編集リストにコピーするデバイスプロフィールを追加する。(☞ P.3-4)
3. “コピー” をクリックする。

- 2** コピー元のデバイスプロフィールを選択します。

コピー元のデバイスプロフィールを開きます。

編集リスト (☞ P.3-5) で、1 つだけデバイスプロフィールを選択して起動した場合は、そのデバイスプロフィールのパスがすでに表示されています。  
変更の必要がないときは、手順 5 へ進んでください。

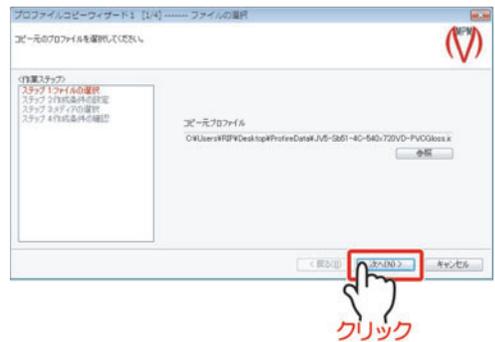


**3** **参照** をクリックして、コピー元にするデバイスプロフィールを指定します。

**4** コピー元のデバイスプロフィールを選択し、**開く** をクリックします。



**5** **次へ** をクリックします。



**6** 選択したプロファイルの条件が表示されます。確認後、**次へ** をクリックします。



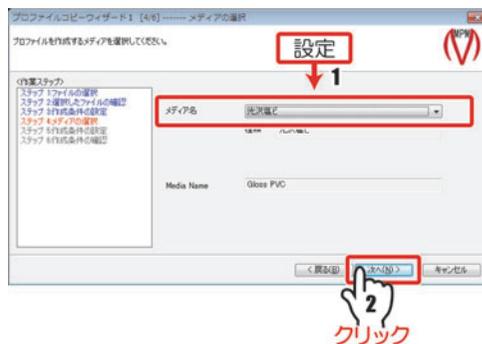
**7** コピー先のプリンタ、インクセットを選択し、**次へ** をクリックします。

💡 表示されるプリンタ、インクセットはコピー元のデバイスプロフィールにより制限されます。



## 8 コピー先のメディア名を設定します。

メディア名登録 (P.1-3) で登録したメディア名の中から選択します。日本語環境以外で RasterLink シリーズをお使いの場合、英語名を表示します。

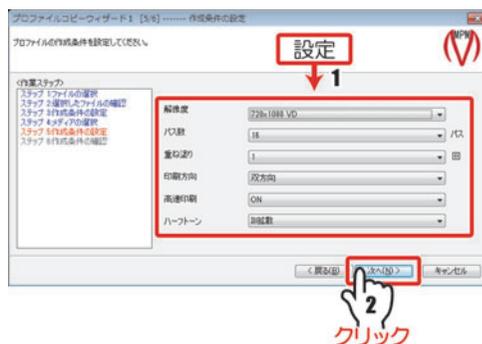


## 9 次へ をクリックします。

## 10 作成条件を設定します。

コピー先のデバイスプロファイルの作成条件を設定します。

💡 表示される選択肢は、コピー元のデバイスプロファイルによって制限されます。

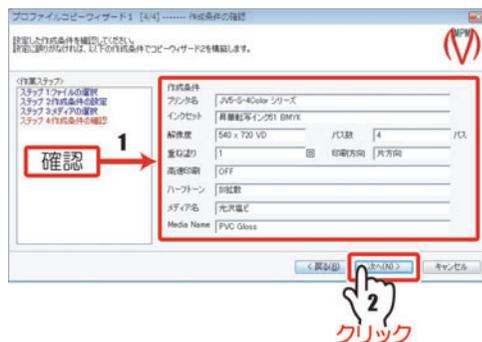


## 11 次へ をクリックします。

## 12 プロファイル作成条件を確認します。

設定した作成条件になっているか確認します。

変更する場合、戻る をクリックし、作成条件を変更します。



## 13 次へ をクリックします。

プロファイルコピーウィザード2が表示されます。

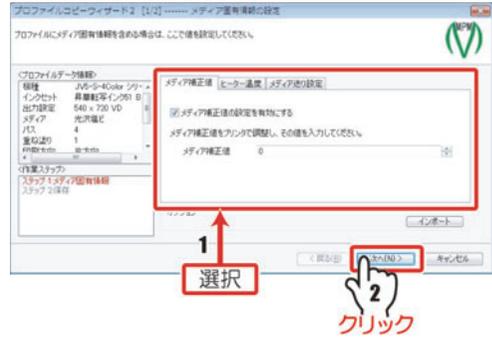
**重要!**

◆ プロファイルコピーウィザード2から、プロファイルコピーウィザード1へ戻ることはできません。プロファイルコピーウィザード2に移ってからプロファイル条件を変更する場合は、手順1からやり直します。

**14** メディア固有情報を設定し  
ます。(P.2-7)

メディア固有情報 (メディア補正值、ヒーター温度など)を設定します。

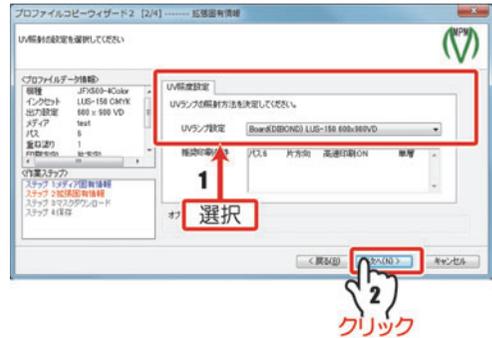
ここで設定できる項目は、コピー先のデバイスプロファイルが対象としているプリンタによって変わります。



**重要!** ◆メディア固有情報は、コピー元のデバイスプロファイルとコピー先のデバイスプロファイルに同じ項目があればコピーします。また、コピー元のない情報で、コピー先にある情報の場合、初期値が設定されます。

**15** 拡張固有情報を設定します。  
(P.2-12)

拡張固有情報 (UV 照度設定)を設定します。



**重要!** ◆コピー元とコピー先の対象プリンタが同じ場合、設定をコピーします。  
◆コピー元とコピー先の対象プリンタが異なる場合、初期値が設定されます。

**16** **次へ** をクリックします。

**17** デバイスプロファイルを  
保存します。

新しいデバイスプロファイルの保存を  
します。

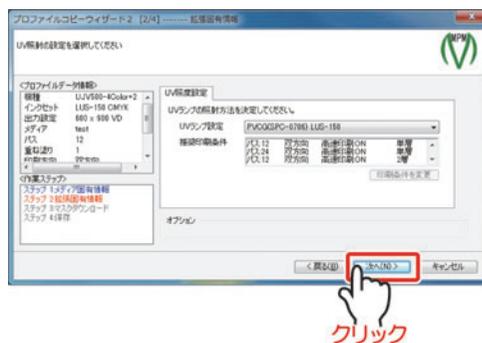
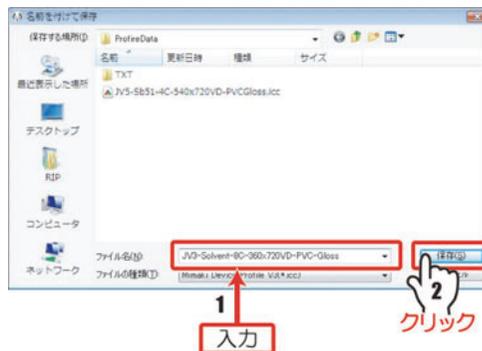


**18** **参照** をクリックします。

19 保存先を指定し、保存するファイル名を入力します。

20 保存 をクリックします。

21 完了 をクリックします。  
デバイスプロファイルのコピーが終了し、メインメニューに戻ります。



# 6章 ICC プロファイルを作成する

ICC プロファイルの作成方法を説明します。

<b>ICC プロファイル作成の流れ</b> .....	<b>6-2</b>
<b>ICC プロファイルを作成する</b> .....	<b>6-3</b>
CMYK カラーの ICC プロファイルを作成する .....	6-3
RGB カラーの ICC プロファイルを作成する .....	6-6
モニターの ICC プロファイルを作成する .....	6-9
ICC プロファイルの保存 .....	6-13

# ICC プロファイル作成の流れ

MPMII では、以下の 3 種類のプロファイルを作成できます。

プロファイルの種類	詳細
CMYK カラーの ICC プロファイル	<ul style="list-style-type: none"> <li>● カラーシミュレーション機能で、CMYK カラーの画像をモニター上で表示するためのプロファイル (P 9-15)</li> <li>● ColorPicker を使用して、特定の色を印刷するときの CMYK 値を算出するためのプロファイル (P 8-4)</li> <li>● ICC プロファイルに対応した他社 RIP アプリケーション用の出力プロファイル</li> </ul>
RGB カラーの ICC プロファイル	<ul style="list-style-type: none"> <li>● カラーシミュレーション機能で、RGB カラーの画像をモニター上で表示するためのプロファイル (P 9-18)</li> <li>● プリンタドライバを使用している校正用プリンタの出力プロファイル (P 9-13)</li> </ul>
モニターの ICC プロファイル	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ミマキ製プリンタで出力される色をモニターで再現するためのプロファイル (P 9-7)</li> </ul>

**重要!**

◆ CMYKカラー、RGBカラーのICCプロファイル作成では、測色用のチャートのファイル保存のみ行います。測色チャートのプリントは、他のアプリケーションを使用して、プリンタ出力してください。

**CMYK カラーの ICC プロファイルを作成する**

◆ **ICC プロファイル作成用チャートを保存する**  
CMYKカラー用チャートのファイルを保存します。

◆ **ICC プロファイルを作成する**  
CMYKカラー用チャートを測色することによって、ICC プロファイルを作成します。

**RGB カラーの ICC プロファイルを作成する**

◆ **ICC プロファイル作成用チャートを保存する**  
RGB カラー用チャートのファイルを保存します。

◆ **ICC プロファイルを作成する**  
RGB カラー用チャートを測色することによって、ICC プロファイルを作成します。

**モニターの ICC プロファイルを作成する**

◆ **ICC プロファイルを作成する**  
画面の指示に従ってモニターを測色することにより、ICC プロファイルを作成します。

◆ **ICC プロファイルの保存** (P 6-13)  
作成した ICC プロファイルプロファイルを保存します。

# ICC プロファイルを作成する

## CMYK カラーの ICC プロファイルを作成する

- 1** [ICC プロファイル] タブを選択し、“CMYK カラーの ICC プロファイルを作成” をクリックします。



- 2** 名前を付けて保存 をクリックします。

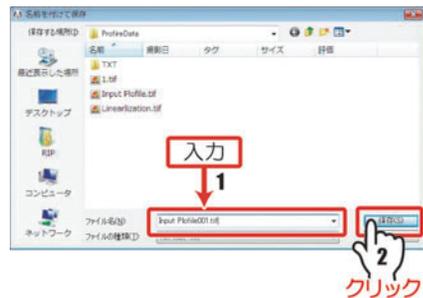
設定されている測色器によって、保存するチャートの枚数が異なります。



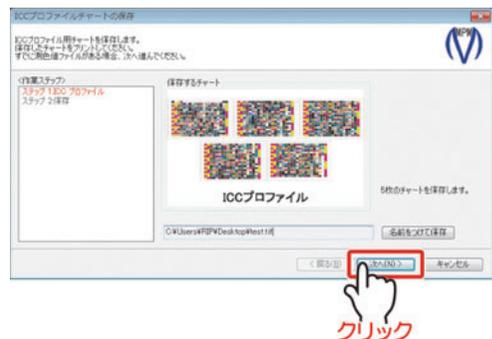
- 3** ICC プロファイルチャートの保存先を選び、ファイル名を入力します。

- 4** 保存 をクリックします。

確認画面が表示されます。  
OK をクリックしてください。



- 5** 次へ をクリックします。

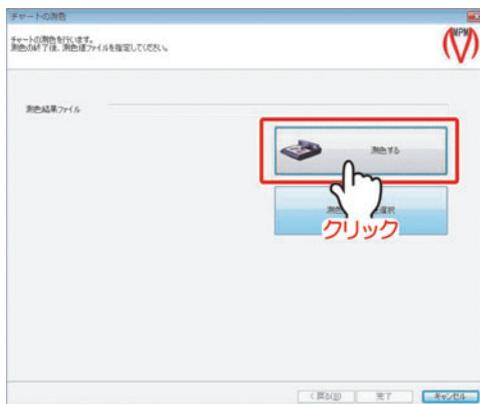


6 お使いになるプリンタで、保存した ICC プロファイルチャートをプリントします。

7 **ICCプロファイル作成** をクリックします。



8 **測色する** をクリックします。



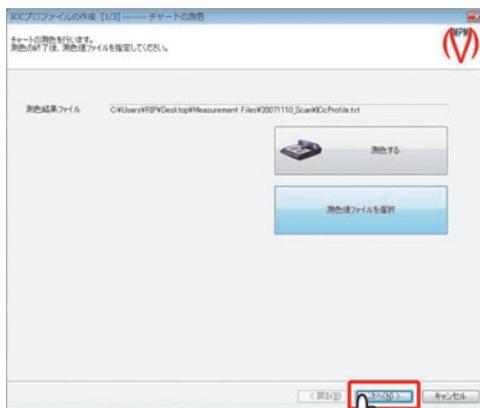
9 MeasureTool5.0 が起動します。

10 プリントしたチャートを測色します。

(P 2-28 手順 6)  
チャートの名前は「OO\_iccProfileCMYK.txt」を選択してください。(OOは測色器の名前)



11 測色が終了したら、**次へ** をクリックします。



**12** “プロファイルサイズ”と  
“グレーの色み”を設定し、  
次へをクリックします。

- プロファイルサイズ  
高精細：  
“標準”より高精度な ICC プロ  
ファイルを生じます(約3分)。  
ファイルサイズは約 2MB です。

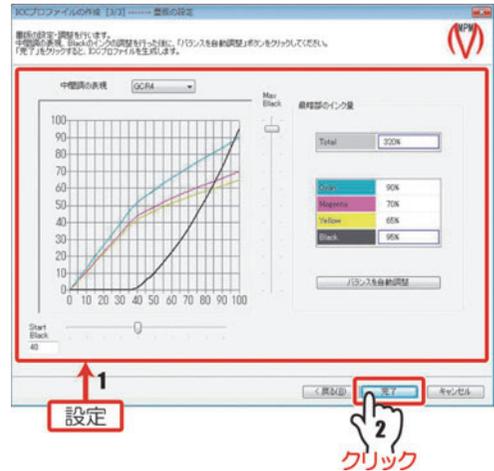
標準：  
短時間(約1分)でICCプロフ  
ァイルを生じます。ファイルサ  
イズは約 700KB です。



**13** 墨版の設定をします。  
(☞ P 2-70)

入力プロファイルを作成する場合、墨  
版の調整は必要ありません。(調整をし  
ても、影響はありません。)

**14** 完了をクリックします。  
ICC プロファイルの作成を始めます。



**15** OK をクリックします。



**16** 次へをクリックします。

**重要!**

◆ 測色ファイルに正しいものを選択しなかつた場合、右のようなメッセージが表示されます。

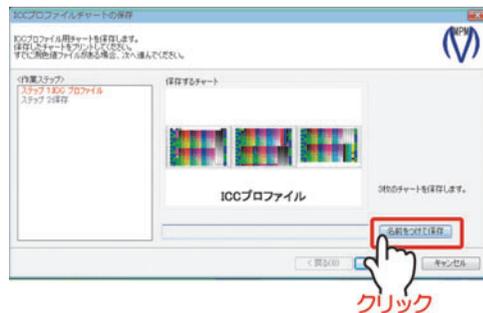


# RGB カラーの ICC プロファイルを作成する

**1** [ICC プロファイル] タブを選択し、“RGB カラーの ICC プロファイルを作成” をクリックします。

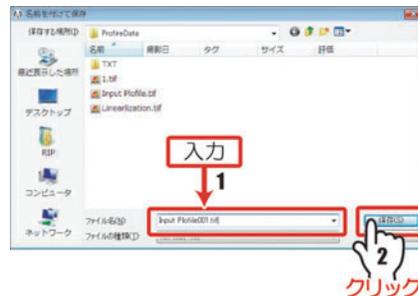


**2** **名前を付けて保存** をクリックします。  
設定されている測色器によって、保存するチャートの枚数が異なります。

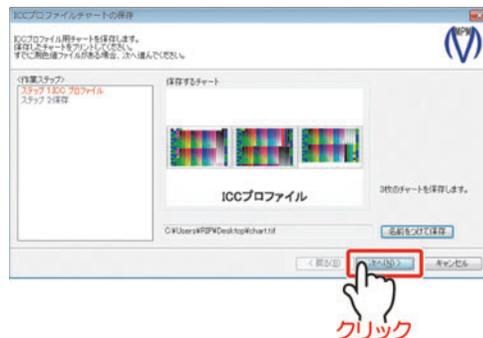


**3** ICC プロファイルチャートの保存先を選び、ファイル名を入力します。

**4** **保存** をクリックします。  
複数のチャートを保存する場合、再びチャートの保存先を選びファイル名を入力します。  
確認画面が表示されます。**OK** をクリックしてください。

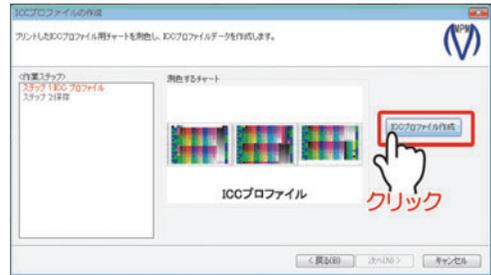


**5** **次へ** をクリックします。



6 お使いになるプリンタで、保存した ICC プロファイルチャートをプリントします。

7 **ICCプロファイル作成** をクリックします。



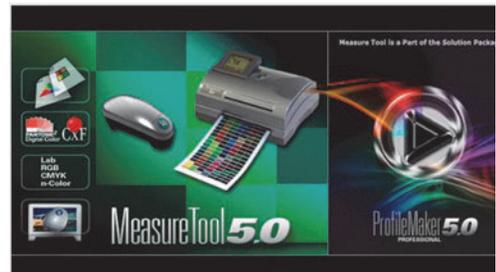
8 **測色する** をクリックします。



9 MeasureTool5.0 が起動します。

10 プリントしたチャートを測色します。

(P 2-28 手順 6)  
チャートの名前は  
「〇〇\_iccProfileRGB.txt」を選択してください。(〇〇は測色器の名前)



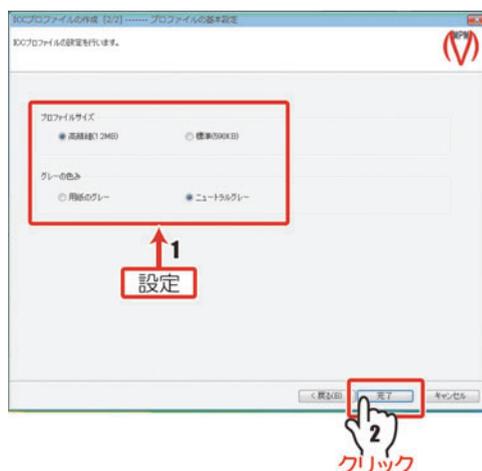
**11** 測色が終了したら、**次へ** をクリックします。



**12** “プロファイルサイズ”と  
“グレーの色み”を設定します。

- プロファイルサイズ  
高精細：  
“標準”より高精度な ICC プロファイル  
を生成します(約2分)。ファイルサイズは約  
1.2MB です。

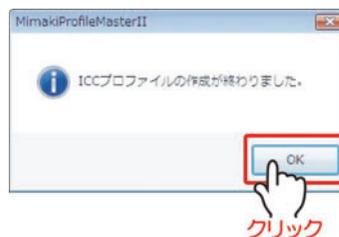
標準：  
短時間(約1分)でICCプロファイル  
を生成します。ファイルサイズは約  
590KB です。



**13** **次へ** をクリックします。  
ICC プロファイルの作成を始めます。

**14** **OK** をクリックします。

**15** **次へ** をクリックします。



**重要!**

◆ 測色ファイルに正しいものを選択しなかった場合、右のようなメッセージが表示されます。



6-13 ページ「ICC プロファイルの保存」へ続く ➡

## モニターの ICC プロファイルを作成する

- 1** [ICC プロファイル] タブを選択し、“モニターの ICC プロファイル作成” をクリックします。  
 選択されている測色器が i1 Pro 以外の場合、選択できません。

**重要!**

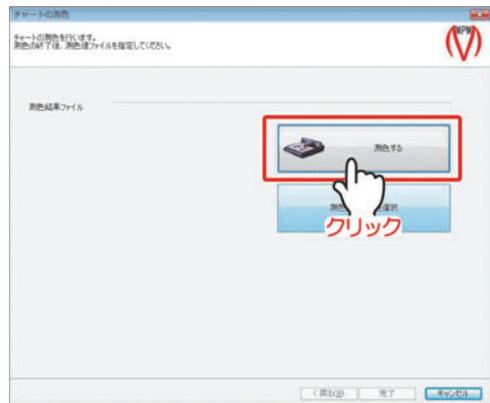
◆ 数分間、モニターを測色します。スクリーンセーバーやモニターの省電力設定を解除してください。



- 2** ICCプロファイル作成 をクリックします。



- 3** 測色する をクリックします。

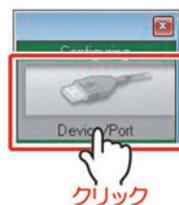


- 4** MeasureTool5.0 が起動します。



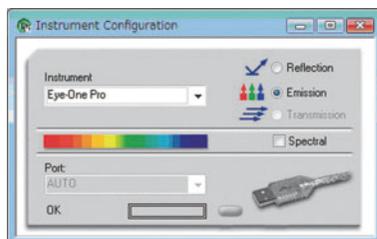
**5** ツールバーの“Device/Port”をクリックします。

“Instrument Configuration” が表示されます。



**6** 次の項目を確認してください。

- “Instrument” には “Eye-One Pro” が選択されている。
- “Emission” が選択されている。
- “Spectral” がチェックされていない。
- “Port” の下に「OK」が表示されている。

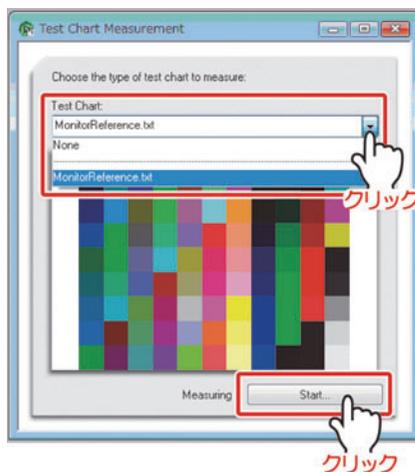


確認後、“Instrument Configuration” を閉じます。

**7** ツールバーの“Chart”をクリックします。



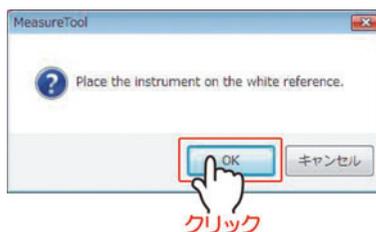
**8** “Test Chart” の下矢印をクリックし、「MonitorReference.txt」を選択します。



**9** **Start** をクリックします。

**10** 測色器本体を白色基準タイルの上に乗せ、**OK** をクリックします。

測色器のキャリブレーションを行い、測色の画面を表示します。



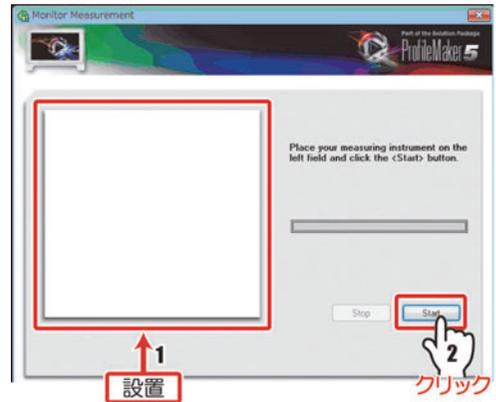
- 11 測色器のセンサー部をモニター  
の画面上のパッチに設置しま  
す。

**重要!**

◆ センサーとモニター面は  
隙間がないように設置し  
てください。

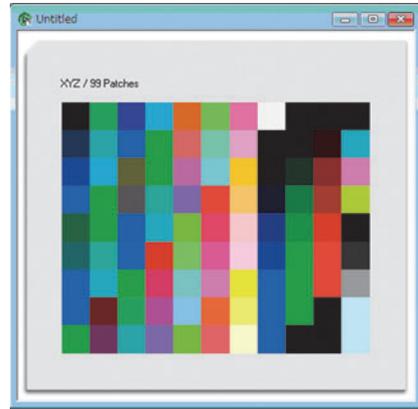
- 12 設置後、**Start** をクリックしま  
す。

自動的に測色を開始します。



- 13 メニューバーから [File] → [Save  
as...] を選択し、測色結果を保存  
します。

測色結果は、必ず“ファイルの種類”を  
[Text File(\*.txt \*.text)] にして保存してく  
ださい。



- 14 MeasureTool5.0 を終了させます。

“測色結果ファイル”に手順 13 で保存したファイル名が表示されます。

**重要!**

◆ MeasureTool で測色を複数回行うと、最後に保存されたファイル名が表示  
されます。使用したい測色結果ファイルと異なる場合は、[ 測色値ファイ  
ルを選択 ] をクリックしてファイルを選択してください。

- 15 **次へ** をクリックします。

**16** “プロファイルサイズ”を設定します。

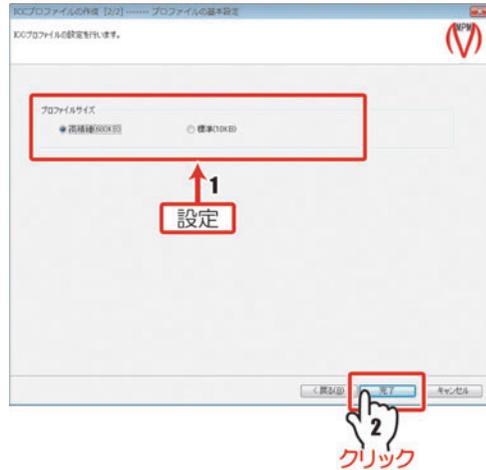
● プロファイルサイズ

高精細：

“標準”より高精度なICCプロファイルを生成します(約1分)。ファイルサイズは約680KBです。

標準：

短時間(約30秒)でICCプロファイルを生成します。ファイルサイズは約10KBです。



**17** **完了** をクリックします。

ICCプロファイルの作成を始めます。

**18** **OK** をクリックします。

**19** **次へ** をクリックします。



**重要!**

◆ 測色ファイルに正しいものを選択しなかった場合、右のようなメッセージが表示されます。



6-13 ページ「ICCプロファイルの保存」へ続く ➡

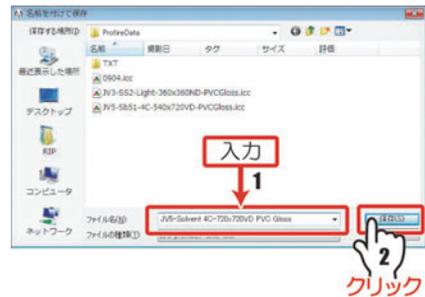
## ICC プロファイルの保存

- ← 6-5 ページ「CMYK カラーの ICC プロファイルを作成する」  
 6-8 ページ「RGB カラーの ICC プロファイルを作成する」  
 6-12 ページ「モニターの ICC プロファイルを作成する」から

**1** **参照** をクリックします。

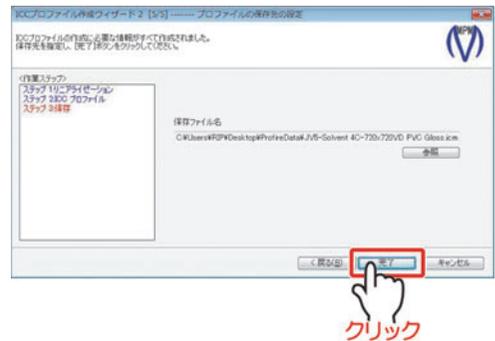


**2** ファイルの保存先を指定し、ファイル名を入力します。



**3** **保存** をクリックします。

**4** **完了** をクリックします。





# 7章 プロファイルのインストールと アンインストール

プロファイルを Raster Link シリーズにインストール / アンインストールする方法を説明します。

<b>Raster Link Pro にデバイスプロファイルを インストールする</b> .....	<b>7-2</b>
<b>Raster Link Pro 以外の Raster Link シリーズへの プロファイルのインストール・アンインストール</b> .....	<b>7-4</b>
ProfileManager を起動する .....	7-4
プロファイルをインストールする .....	7-6
プロファイルをアンインストールする .....	7-9



◆「Raster Link Pro 以外の Raster Link シリーズ」とは、以下の Raster Link を含みます。

Raster Link UJ	Raster Link GP
Raster Link Pro II	Raster Link Pro III
Raster Link IP III	Raster Link TA III
Raster Link Pro4 SG	Raster Link Pro4 IP
Raster Link Pro4 TA	Raster Link Pro5 SG
Raster Link Pro5 IP	Raster Link Pro5 TA
RasterLink6	

# Raster Link Pro にデバイスプロファイルをインストールする

作成したデバイスプロファイルを Raster Link Pro にインストールします。

**重要!**

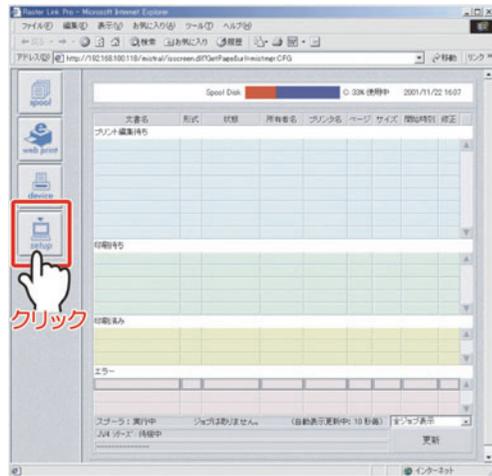
- ◆ Raster Link Pro と MPM II は同時に起動しないでください。故障の原因になります。必ず MPM II を終了してから、Raster Link Pro を起動してください。
- ◆ 拡張子が ICC のデバイスプロファイルを Raster Link Pro にインストールすることはできません。
- ◆ Raster Link Pro では、デバイスプロファイルをアンインストールすることはできません。

**1**

MPM II が終了していることを確認し、Raster Link Pro を起動します。  
spool 画面を表示します。

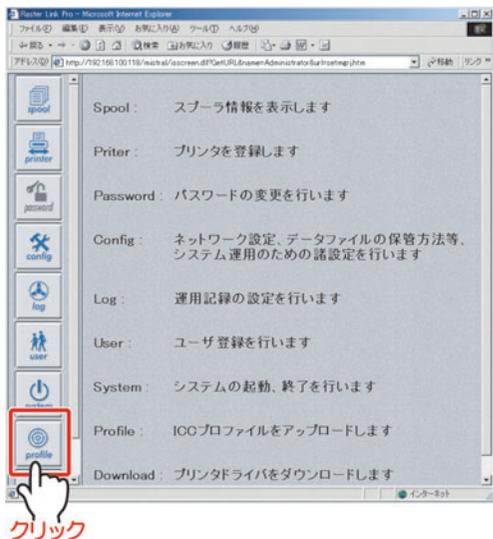
**2**

**setup** をクリックします。

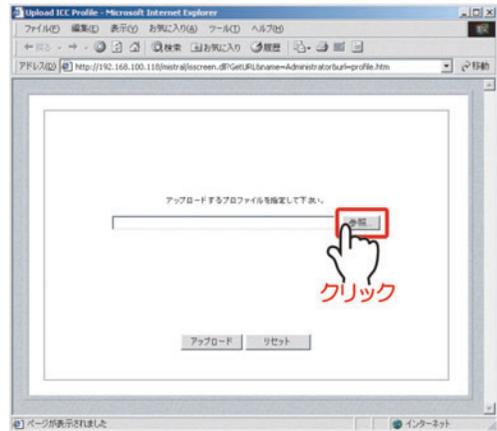


**3**

**profile** をクリックします。



4 **参照** をクリックします。

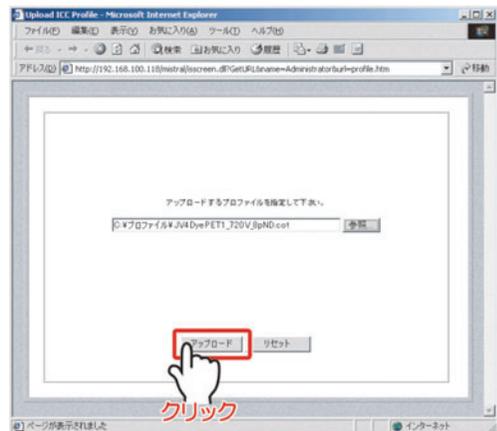


5 追加したいデバイス  
プロファイルを選択します。



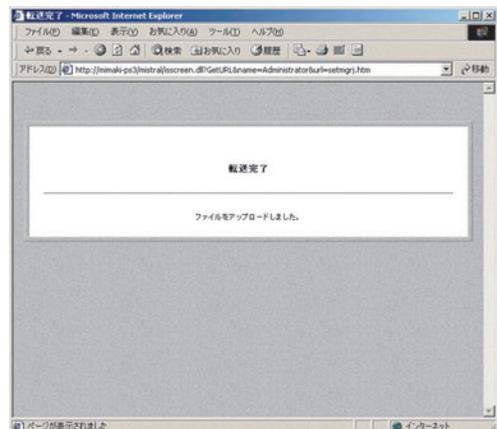
6 **開く** をクリックします。

7 **アップロード** をクリック  
します。



転送完了の画面になります。

8 **PC** を再起動します。  
デバイスプロファイルのインストール  
が完了します。



# Raster Link Pro 以外の Raster Link シリーズへの プロファイルのインストール・アンインストール

## ProfileManager を起動する

重要!

◆ “ProfileManager” 起動中は、MPM II が使用できません。

- 1 [インストール]タブを選択し、“インストーラー起動”をクリックします。  
ProfileManager が起動します。

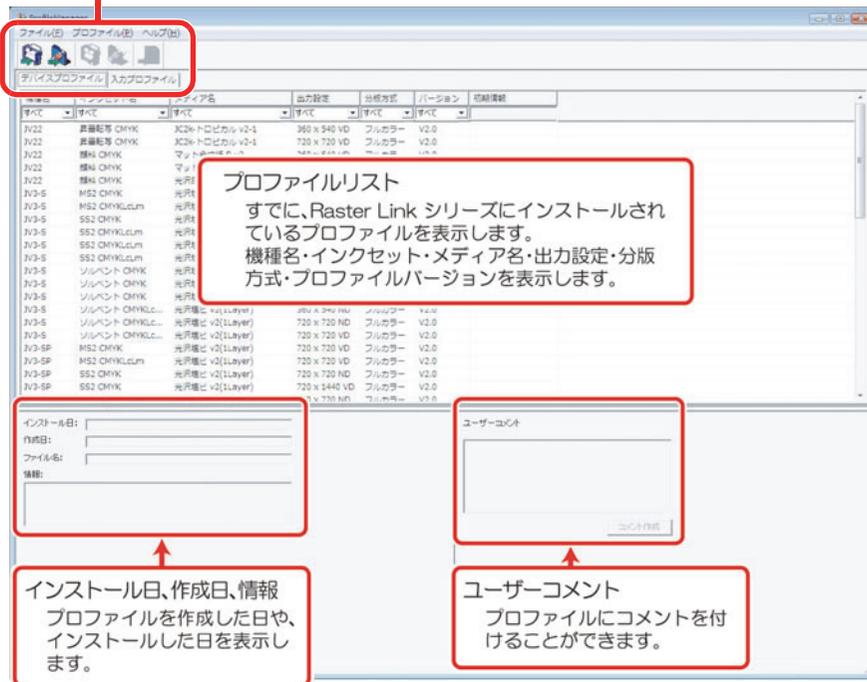


◆ RasterLinkPro5とRasterLink6以降が同じPCにインストールされている場合、どちらのProfileManagerを起動するか選択する画面が表示されます。

## ProfileManager

アイコンの説明は、ページ下部をご覧ください。

画面は RasterLinkPro5 以前のものでです。



## アイコンの説明

RasterLinkPro5 以前	RasterLink6	
		デバイスプロファイルをインストールします。(P.7-6)
		入カプロファイルをインストールします。(P.7-6)
		デバイスプロファイルをアンインストールします。(P.7-9)
		入カプロファイルをアンインストールします。(P.7-9)
		V2 プロファイルから V3 プロファイルに変換します。(RasterLink6 以降では、この機能はありません。)

## プロフィールをインストールする

ProfileManager を使って、Raster Link Pro 以外の Raster Link シリーズにプロフィールをインストールします。

**重要!**

- ◆ “ProfileManager” 起動中は、MPM II を使用できません。
- ◆ インストール候補で表示するプロフィールの拡張子は、デバイスプロフィールと入カプロフィールで異なります。  
デバイスプロフィールの場合: .cot または、icc ファイル  
入カファイルの場合: .icc または、.icm ファイル

**1**

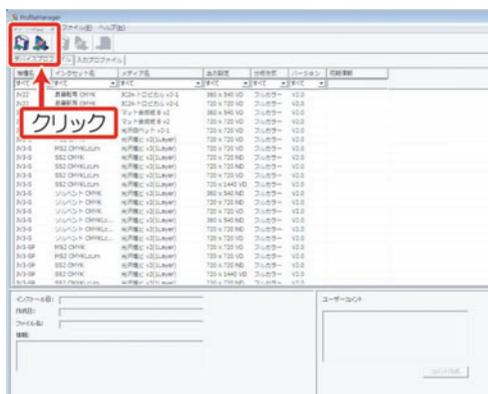
[インストール] タブを選択し、“インストーラー起動” をクリックします。

ProfileManager が起動します。



**2**

デバイスプロフィールをインストールする場合は  を、  
入カプロフィールをインストールする場合は  を  
クリックします。

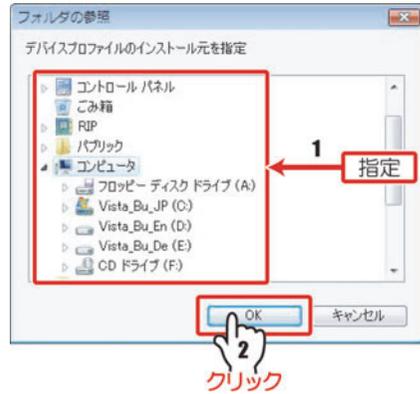


または、ツールバーの [プロフィール] から “デバイスプロフィールのインストール” または、“入カプロフィールのインストール” をクリックします。

“フォルダの参照” ウィンドウが表示されます。

**3** プロファイルが保存されているフォルダを指定します。

💡 ◆ プロファイルをひとつのフォルダに保存しておく、インストールが1度で行え、便利です。



**4** **OK** をクリックします。

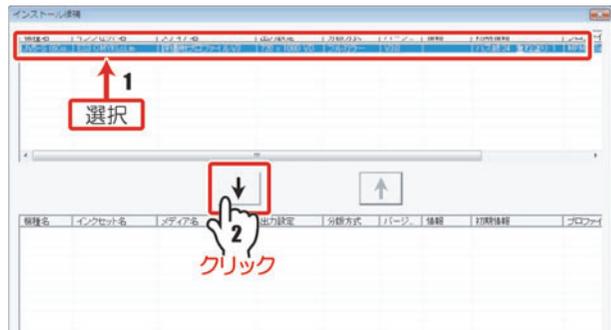
“インストール候補”ウィンドウが表示されます。

💡 ◆ 指定したフォルダに対象となるプロファイルがない場合、エラーメッセージを表示します。

**5** インストールするプロファイルを選択します。

💡 ◆ 複数を選択する場合、Ctrl キーを押しながら選択します。

選択したプロファイルが青色に反転します。



**6** **↓** をクリックします。

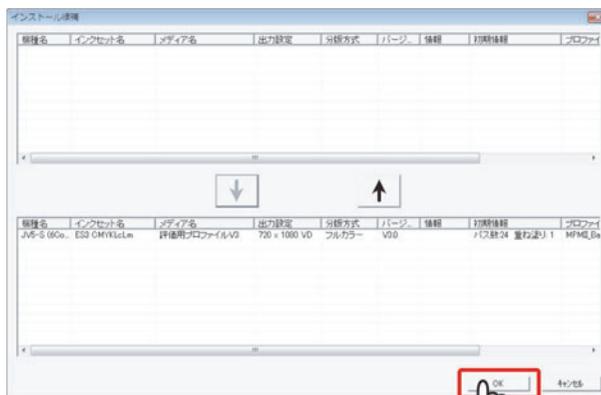
選択したプロファイルが上のリストから消え、下のリストに表示します。

💡 ◆ 下のリストに表示しているプロファイルに戻す場合は、対象のプロファイルを選択後、**↑** をクリックします。

**7** **OK** をクリックします。



◆ リストに同一設定のプロファイルがある場合、上書きの確認ダイアログが表示されます。

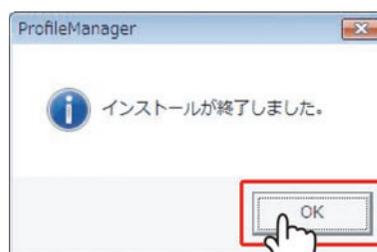


クリック

右のダイアログが表示されます。

**8** **OK** をクリックします。

ProfileManager のリストに追加したプロファイルが表示され、プロファイルのインストールが完了します。



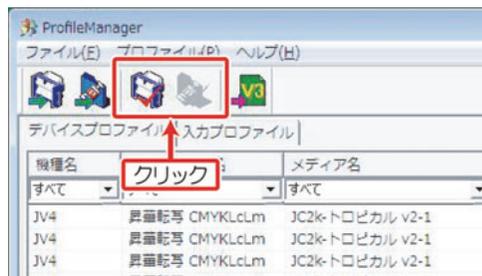
クリック



◆ デバイスプロファイルをインストールした場合は [ デバイスプロファイル ] タブに、また、入カプロファイルをインストールした場合は、[ 入カプロファイル ] タブにインストールしたプロファイルを表示します。



- 3 デバイスプロファイルをアンインストールする場合は  を、  
入カプロファイルをアンインストールする場合は  を  
クリックします。



または、ツールバーの [プロファイル] から “デバイスプロファイルのアンインストール” もしくは、“入カプロファイルのアンインストール” をクリックします。

確認のダイアログを表示します。

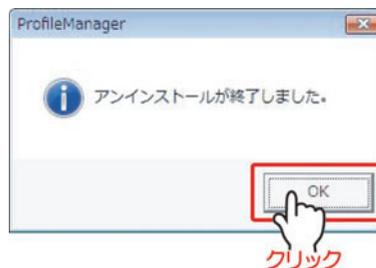
- 4 はい をクリックします。



右のダイアログを表示します。

- 5 OK をクリックします。

ProfileManager のリストからアンインストールしたプロファイルが削除され、プロファイルのアンインストールが完了します。



# 8章 ColorPicker を使用してスポットカラー のカラーマッチングを行う

ColorPicker と Raster Link シリーズの色置換機能を使用した、  
スポットカラーのカラーマッチング方法を説明します。

<b>ColorPicker を使用したスポットカラーマッチング</b> .....	<b>8-2</b>
ColorPicker とは .....	8-2
ColorPicker を使用したスポットカラーのカラー マッチングの流れ .....	8-2
ColorPicker で使用する ICC プロファイルの作成 .....	8-4
ColorPicker でのスポットカラーのカラーマッチング .....	8-7
Illustrator で画像を修正する .....	8-9
Raster Link シリーズで色置換して出力する .....	8-11

# ColorPicker を使用したスポットカラーマッチング

## ColorPicker とは

ColorPicker とは特定の色を再現したいときに色見本の色を測色して、その色を出力するための CMYK 値を算出するソフトウェアです。  
クライアントから特定の色見本を提示されているときなど、ColorPicker を使って、色見本に合わせた CMYK 値を測色・算出してください。

**重要!**

◆ ColorPicker を Macintosh でご利用されたい方は、X-Rite の Web サイトからダウンロードしてください。

X-Rite の Web サイト <http://www.xrite.com/>

## ColorPicker を使用したスポットカラーのカラーマッチングの流れ

ColorPicker を使用したスポットカラーのカラーマッチング作業を説明します。  
スポットカラーが指定されているベクターデータ (Adobe Illustrator で描いた CG など) を、Raster Link シリーズの色置換機能を使用して、スポットカラーのカラーマッチングを実現します。  
色置換機能の詳細は、Raster Link シリーズの取扱説明書をご覧ください。

**重要!**

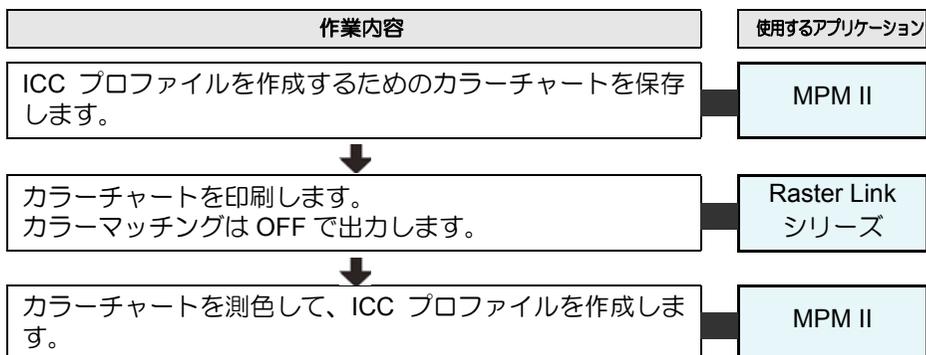
◆ Raster Link ProII 以降の Raster Link シリーズの色置換機能をお使いください。  
◆ ここでは例として i1 Pro を使用した作業の流れを説明いたします。  
◆ ColorPicker では、i1 iSis を測色器としてご利用いただけませんのでご注意ください。

### スポットカラーのカラーマッチングを行う際の注意点

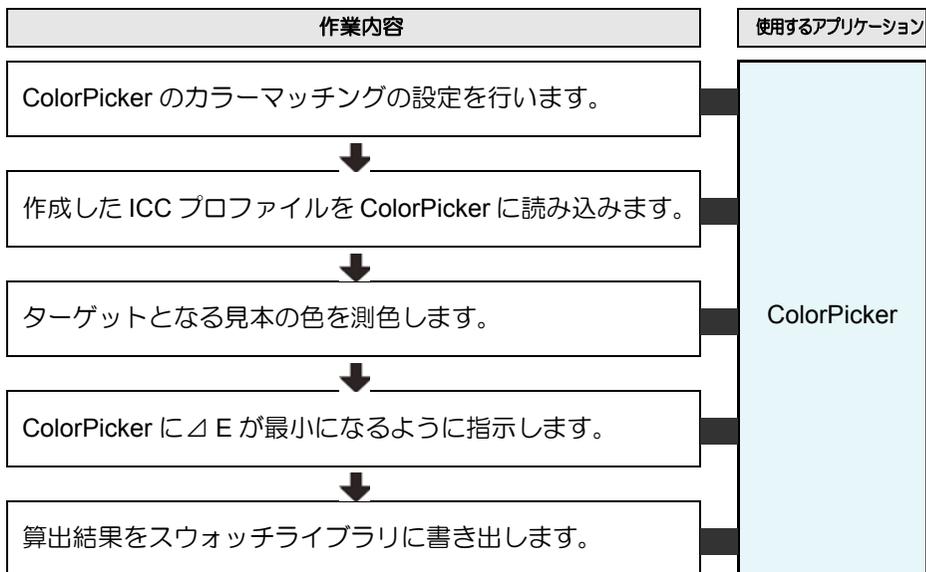
- ・ガマットから外れた色は再現できません
- ・カラーマッチングの計算では、D50 光源を想定していますので、ご利用の環境光源とは必ずしも同じ結果にはなりません。見た目と数値の差\*1 はご了承ください。

\*1. 表示される色差の値は計算上の予測値であり、実際に出力された色と色見本との色差を保証するものではありません。

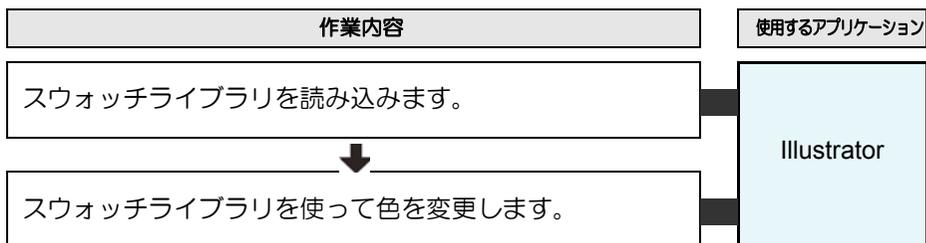
## 1 ColorPicker で使用する ICC プロファイルを作成します。



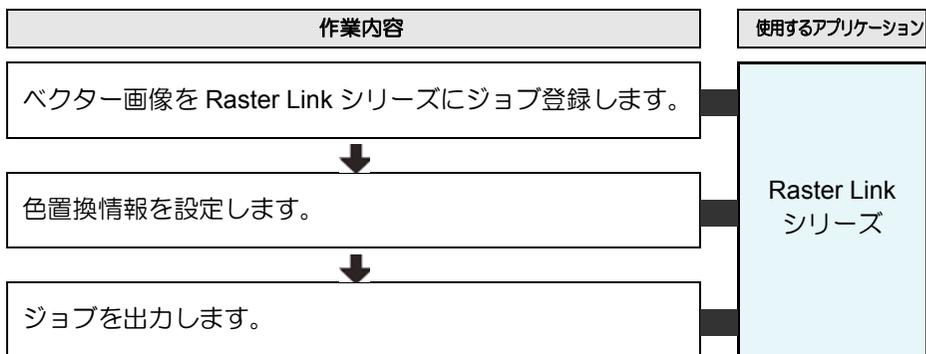
**2** ColorPicker でのスポットカラーのカラーマッチングを行います。



**3** Illustrator で画像を修正します。



**4** Raster Link シリーズで色置換して出力します。



## ColorPicker で使用する ICC プロファイルの作成

- 1 MPMII を起動します。
- 2 i1 Pro を測色器として選択します。
  - (1) [設定] タブを選択し、“測色器選択” をクリックします。
  - (2) i1 Pro を選択します。

測色器の選択方法について、詳しくは P.1-6 をご覧ください。



- 3 [ICC プロファイル] タブを選択し、“CMYK カラーの ICC プロファイルを作成” をクリックします。



- 4 **名前を付けて保存** をクリックします。

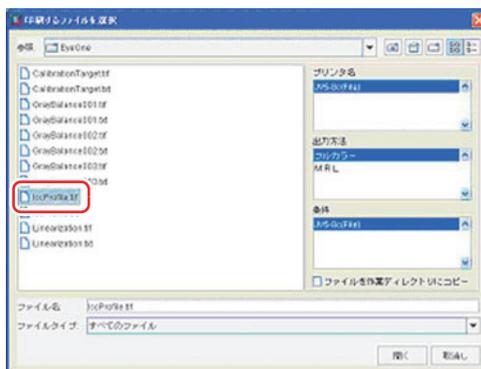
設定されている測色器によって、保存するチャートの枚数が異なります。



- 5 ICC プロファイル用チャートを保存します。
- 6 Rastser Link シリーズを起動します。

**7** Raster Link シリーズに、保存したチャートをジョブとして追加します。

- (1) [ファイル]-[開く]をえらびます。
- (2) 手順3-(3)で保存したチャートを追加します。



**8** 作成したジョブのジョブエディタを開きます。

[カラー編集] タグ> [カラーマッチング] タグで、「有効」のチェックを外します。

設定を行った後、チャートを出力します。

Raster Link シリーズの出力方法については、Raster Link シリーズのマニュアルをご覧ください。



**9** 手順7で出力したチャートを測色し、ICC プロファイルを作成します。

- (1) [ICC プロファイル] タブを選択し、“CMYK カラーの ICC プロファイル作成” をクリックします。
- (2) [次へ] をクリックします。



クリック

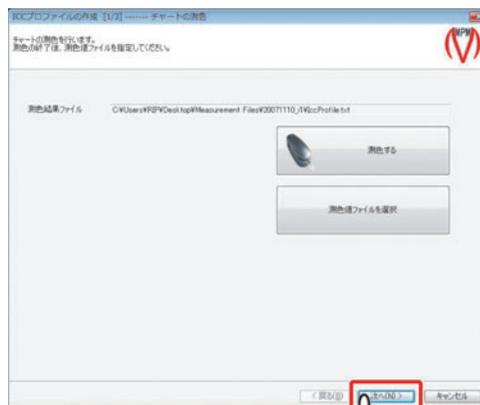
- (3) [ICCプロファイル作成] をクリックします。
- (4) [測色する] をクリックし、チャートを測色します。  
測色方法は、P 2-33 をご覧ください。



クリック

- (5) 測色が終了したら、  
[次へ] をクリックします。
- (6) プロファイルの基本設定や墨版の  
設定を行います。  
設定方法は、P 6-5 をご覧ください。  
い。

墨版設定は、初期値のままとしてください。設定内容について、詳細は P 2-70 をご覧ください。  
チャートの名前は「〇〇\_iccProfileCMYK.txt」を選択してください。(〇〇は測色器の名前)



クリック

- 10** [完了] をクリックします。

ICC プロファイルが作成されたら、[次へ] をクリックします。

- 11** 作成したICCプロファイルプロファイルを保存し、MPM IIを終了します。

8-7 ページ 「ColorPicker でのスポットカラーのカラーマッチング」へ続く



## ColorPicker でのスポットカラーのカラーマッチング

- 1 i1 Pro(測色器)をPCに接続し、ColorPickerを起動します。



- 2 [編集]→[環境設定...]を選択し、以下のように設定を行い、OKをクリックします。

装置のポート : AUTO  
色差式 : Δ E2000  
CMM : LogoSync  
マッチング方法 : 絶対



クリック

- 3 [装置]のリストボックスをクリックし、「Eye-One Pro」を選択します。

**重要!**

◆ i1 Pro が認識されない場合は、USBケーブルの接続場所を変更したり、ドライバの再インストールを試みてください。



- 4 OK をクリックします。



クリック

- 5** **開く** をクリックし、「ColorPicker で使用する ICC プロファイルの作成」で作成した ICC プロファイルを選択します。

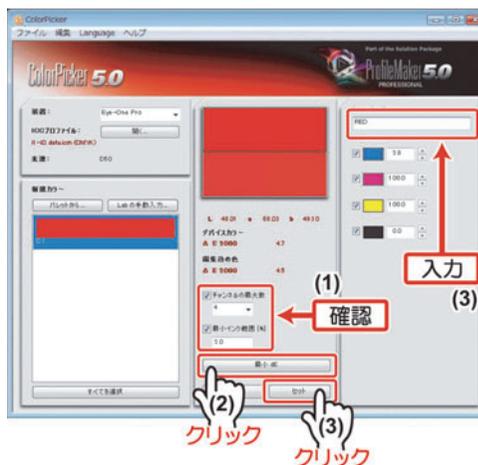


- 6** 色見本を i1 Pro で測色します。  
 画色見本の上に i1 Pro のレンズ部を載せ、i1 Pro の側面にあるボタンを押します。

「ピッ」と音がなり、測色した色が ColorPicker に表示されます。

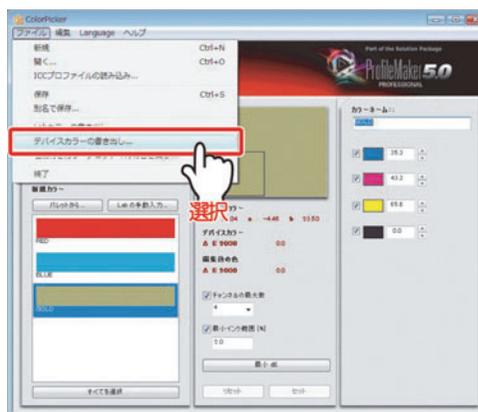
- 7** 測色したデータを調整します。

- (1) 「チャンネルの最大数」にチェックが付き、値が ” 4 ”。「最小インク範囲」にチェックが付き、値が ” 2.0 ” になっていることを確認します。
- (2) **最小 dE** をクリックします。「編集後の色」の色差の値が小さくなり、より適切な色に編集されます。
- (3) 測色した色の名前を入れ、**セット** をクリックします。

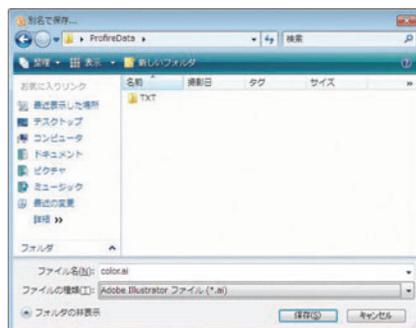


💡 色差が 5 以上の項目には、「！」マークが表示されます。「最小 dE」ボタンをクリックしても「！」マークが消えない場合は、Gamut 内にない(再現できない)色です。

- 8** 必要な数の色見本を測色したら、[ファイル]→[デバイスカラーの書き出し]を選択します。



- 9** Illustrator のスウォッチライブラリとして保存するため、拡張子を“.ai”にして「保存」をクリックします。



◆ 保存先を直接 Illustrator のフォルダに設定すると、Illustrator での設定が楽になります。

C:\Program Files\Adobe\Illustrator(バージョン)\プリセット\スウォッチ

8-9 ページ 「Illustrator で画像を修正する」へ続く ➡

## Illustrator で画像を修正する

- 1** ColorPicker を終了させ、Illustrator を起動します。
- 2** 出力予定の画像を開きます。



- 3** [ウィンドウ]→[スウォッチライブラリ]→[その他のライブラリ]で、「ColorPicker でのスポットカラーのカラーマッチング」手順 9 で保存した“.ai”ファイルを読み込みます。



◆「ColorPicker でのスポットカラーのカラーマッチング」手順 8 で保存先を Illustrator のフォルダにしていた場合、[ウィンドウ]→[スウォッチライブラリ]と選択しただけで、作成したスウォッチライブラリが列挙されます。

#### 4 手順3で読み込んだ色をスポットカラーに設定します。

- (1) 読み込んだ色をスウォッチライブラリに追加します。



- (2) スウォッチライブラリに追加した色をダブルクリックし、スポットカラーに設定します。



#### 5 スウォッチライブラリに追加された色を使用して、画像を修正します。



#### 6 画像を EPS 保存し、Illustrator を終了します。

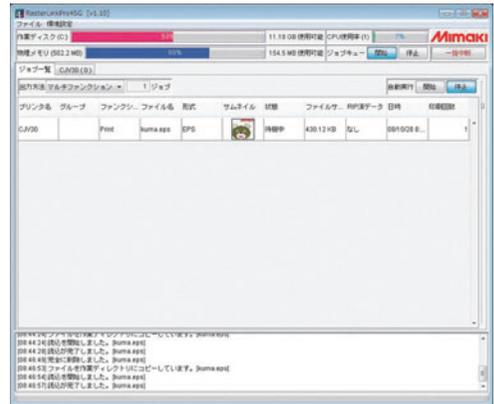
8-11 ページ 「Raster Link シリーズで色置換して出力する」へ続く ➡

## Raster Link シリーズで色置換して出力する

**1** Raster Link シリーズを起動します。

**2** Raster Linkシリーズでベクター画像をジョブ登録します。

ジョブの登録方法については、Raster Link シリーズの取扱説明書をご参照ください。



**3** ジョブエディタを開き、[色置換]タブを選択します。

[カラー編集]タブ-[色置換]タブを選択します。

**4** [色置換]タブを選択し、色置換情報を追加します。

(1) 色置換名称を入力し、[追加]をクリックします。

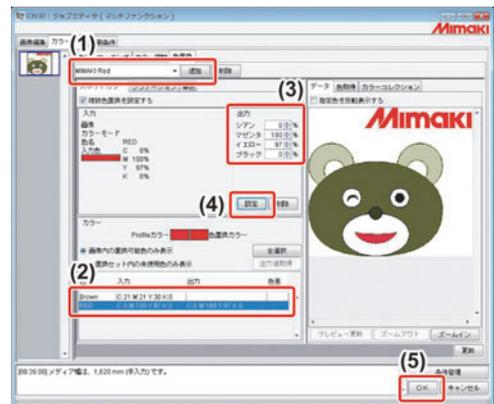
(2) 色置換する色を指定します。

- ・色置換する色がスポットカラー名として設定されている場合は、リスト表示されているスポットカラー名をクリックします。
- ・スポットカラー名が指定されていない場合は、プレビュー画像上の色をクリックします。

(3) ColorPicker の作業にて[入力]に表示されているCMYK値をそのまま[出力]に入力します。

(4) [設定]をクリックし、色置換情報を追加します。

(5) 設定が全て完了したら、[OK]をクリックし、ジョブエディタを閉じます。



**5** Raster Link シリーズで出力をします。



# 9章 カラーシミュレーションを行う

PCのモニターや校正用プリンタ(コンシューマープリンタ)で、ミマキ製プリンタで出力したときの色を再現(シミュレーション)するための方法を説明します。

## Adobe Photoshop / Illustrator を使用して

カラーシミュレーションを行う .....	9-2
カラーシミュレーション機能に関する注意事項 .....	9-2
カラーシミュレーション機能に必要なシステム環境 .....	9-3
カラーシミュレーション機能を使用するための準備 .....	9-3
カラーシミュレーションの流れ .....	9-4
高演色形蛍光灯を使用して、環境光を整える(任意) .....	9-6
モニターのキャリブレーションを行う .....	9-6
モニターの ICC プロファイルを作成する .....	9-7
校正用プリンタの ICC プロファイルを作成する .....	9-13
CMYK カラーのシミュレーション用プロファイルを作成する .....	9-15
RGB カラーのシミュレーション用プロファイルを作成する .....	9-18
作成したプロファイルを Photoshop / Illustrator に設定する .....	9-21
モニターの色をターゲットの色に近づけるように、色を調整する .....	9-23
校正用プリンタで出力し、ターゲットとの色の差を確認する .....	9-25
校正用プリンタで印刷する .....	9-28
ミマキ製プリンタで印刷する .....	9-28

# Adobe Photoshop / Illustrator を使用して カラーシミュレーションを行う

---

カラーシミュレーションを行うと、モニターや校正用プリンタ上でミマキ製品のプリンタで出力する色を再現 (シミュレーション) することができます。



## カラーシミュレーション機能を使用するメリット

- ◆ ミマキ製プリンタで出力される色ターゲットの色と比較しながら、その都度色調整をする必要がなくなります。作業の無駄を軽減して、作業効率をあげることが可能になります。
- ◆ ミマキ製プリンタで出力される色がモニターに表示されるため、モニターでの色調整の精度を向上させることができます。
- ◆ 校正用プリンタ(コンシューマープリンタ)で出力した印刷物は、クライアントへの色見本として使うことができます。

## カラーシミュレーション機能に関する注意事項

---

### 重要!

- ◆ この機能を使用しても、必ずしもミマキ製プリンタで出力したものと完全な色合わせが行えるわけではありません。(プリンタやモニターには特性の違いや個体差があり、ミマキ製プリンタで出力した色を完全にはシミュレーションできないためです。)
- ◆ モニターや校正用プリンタのガマットから外れた色は再現することができません。
- ◆ モニターや校正用プリンタでカラーシミュレーションを行うためには、ミマキ製プリンタの色をシミュレーションするためのICCプロファイルを作成する必要があります。
- ◆ 印刷物の色は、ご利用の環境光源によって見え方が変化します。この機能は、D50光源を想定しています。

## カラーシミュレーション機能に必要なシステム環境

カラーシミュレーション機能を使用するには、以下の環境を準備する必要があります。

Mimaki Profile MasterII v2.00	ICC プロファイルの作成に使用します。
Raster Link シリーズ	ICC プロファイルを作成するときに必要なチャートを出力します。
i1 Pro	モニターの測色に使用します。
Adobe Photoshop Adobe Illustrator	画像の色調整やモニターでのシミュレーションの表示に使用します。 カラーマネジメントに対応した Photoshop6.0 以降、Illustrator9.0 以降を使用してください。(CS 以上を推奨)
オペレーター PC	Adobe Photoshop / Illustrator がインストールされている PC です。
カラーマネジメント対応モニター	オペレーター PC のモニターです。 AdobeRGB、sRGB に対応しているもの。(ハードウェアキャリブレーション機能付を推奨)
高演色蛍光灯 *1	5000K の色温度を持つ、色評価用の蛍光灯。 印刷物の観察光源として使用します。
校正用プリンタ	一般に手に入るコンシューマープリンタ。(正確な出力を行うため、プロ用途のものを推奨。)

\*1. 任意で用意してください。

## カラーシミュレーション機能を使用するための準備

カラーシミュレーション機能を使用するため、以下のソフトウェアをインストールしてください。

Raster Link シリーズ *1	MPMII
i1 Pro のドライバ *2	Adobe Photoshop、Adobe Illustrator *3
モニターのキャリブレーションで使用するソフトウェア *3	校正用プリンタのプリンタドライバ *4

\*1. インストール手順は、Raster Link シリーズのインストールガイドをご覧ください。

\*2. ドライバは MPMII の CD に入っています。

ドライバを指定する際に、MPMII の CD 内の以下のフォルダを指定してください。

[CD ドライブ]Driver\EyeOne

\*3. インストール手順は、それぞれのソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

\*4. インストール手順は、使用するコンシューマープリンタの取扱説明書をご覧ください。

### 重要!

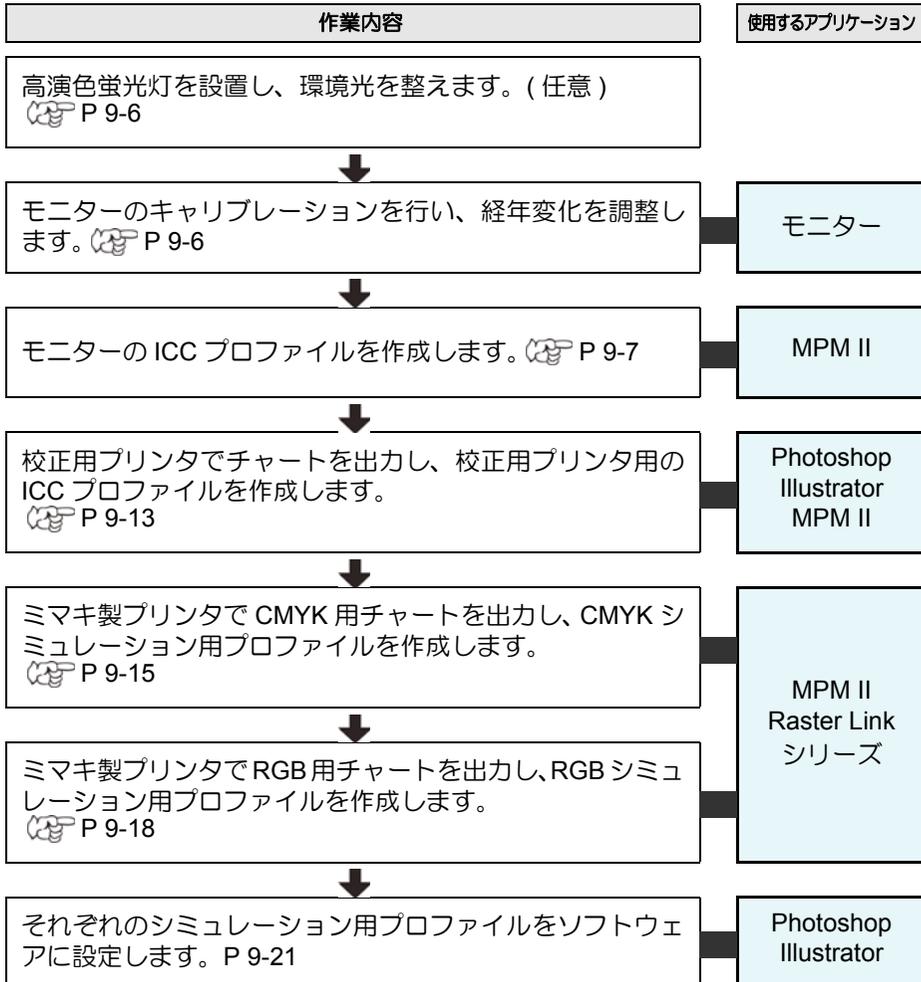
◆クライアントから依頼された画像ファイルを調整する PC(オペレーター PC) と、ミマキ製プリンタに出力する PC(出力用 PC) が異なる場合、下記を参考にしてインストールしてください。

Raster Link シリーズ	出力用 PC
MPMII	出力用 PC、オペレーター PC *1
X-Rite i1 Pro ドライバ	オペレーター PC、出力用 PC
校正用プリンタのプリンタドライバ	オペレーター PC
モニターのキャリブレーション用ソフトウェア	オペレーター PC
Adobe Photoshop、Adobe Illustrator	オペレーター PC

\*1. オペレーター PC に Windows を使用している場合のみ。

## カラーシミュレーションの流れ

- 1** カラーシミュレーションをするための準備をします。  
モニターや校正用プリンタで、ミマキ製プリンタで出力したときの色をシミュレーションするための準備をします。

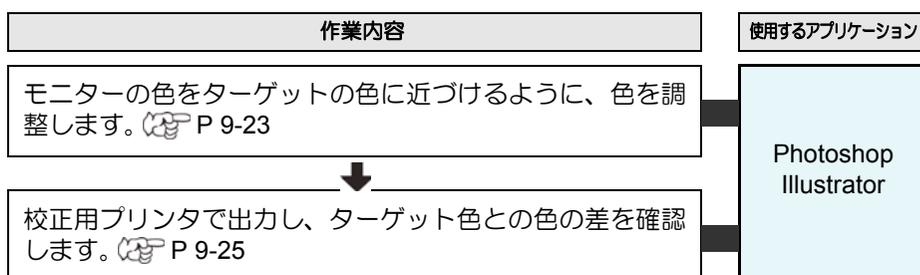


## 2 Photoshop / Illustrator で画像を編集します。

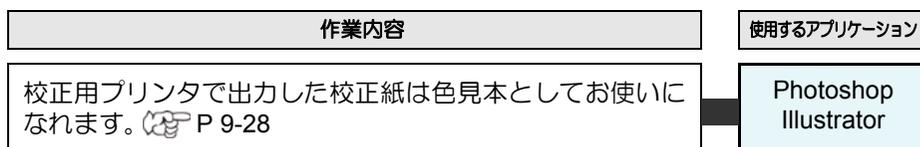
ミマキ製プリンタで出力したときの色をモニター上でシミュレーションすることができます。また、校正用プリンタで出力して、編集した結果をシミュレーションすることができます。

**重要!**

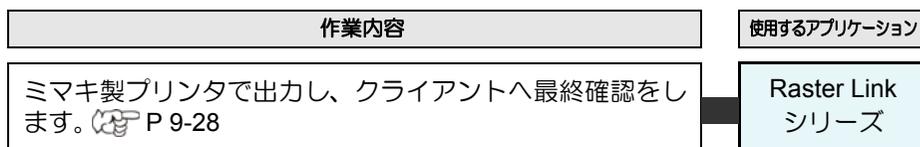
- ◆ Raster Link シリーズでは、ラスターデータとベクターデータで異なるレンダリングintent (色変換処理) を行うことができますが、モニター上では1種類の色変換処理しかシミュレーションできません。
- ◆ ラスターデータの確認を Photoshop、ベクターデータの確認を Illustrator で行うようにし、それぞれの設定を Raster Link シリーズと同じにしておくことをお勧めします。



## 3 校正用プリンタで出力します。



## 4 ミマキ製プリンタで画像を出力します。



## 高演色形蛍光灯を使用して、環境光を整える（任意）

---

色合わせを行う場所の環境光を変更します。

環境光のターゲット	
色温度	5000K
輝度	600lx

### 重要!

- ◆ 環境光の変更は、あくまで推奨です。常に一定の環境が準備できる場合や、印刷物の提示場所の環境光と大きく異なる場合は、変更する必要はありません。
- ◆ 印刷物の色は、D50 光源を想定しています。ご利用の環境によっては、ミマキ製プリンタで出力した色とモニターや校正用プリンタでシミュレーションした色が合わない場合があります。

## モニターのキャリブレーションを行う

---

モニターに付属のキャリブレーション用ソフトウェアを使用して、ハードウェア・キャリブレーションを行います。使用するソフトウェアの指示に従って操作してください。

### 重要!

- ◆ モニターが持つ性能を発揮するために、モニターの表示環境を整えるキャリブレーションが必要です。
- ◆ モニターは長期間使用している間に、表示している色が変化してしまいます。色変化を放っておくと、モニターでのシミュレーションの精度が落ちてしまいます。この色の変化を補正するために、モニターのキャリブレーションは定期的に行うことをお勧めします。

## モニターの ICC プロファイルを作成する

モニターメーカーから ICC プロファイルが既に用意されている場合、用意されている ICC プロファイルを使用してください。

**重要!**

◆MPMII を使用して、モニターの ICC プロファイルを作成する場合は、6-9 ページ「モニターの ICC プロファイルを作成する」をご覧ください。作成した ICC プロファイルは、使用しているモニターのプロファイルに設定してください。

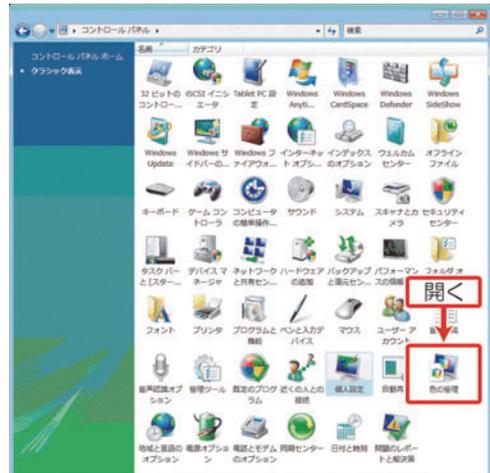
使用しているモニターのプロファイルに設定する (WindowsVista の場合)

**1** 作成した ICC プロファイルを PC にインストールします。

**2** [スタート]→[コントロールパネル] をクリックします。

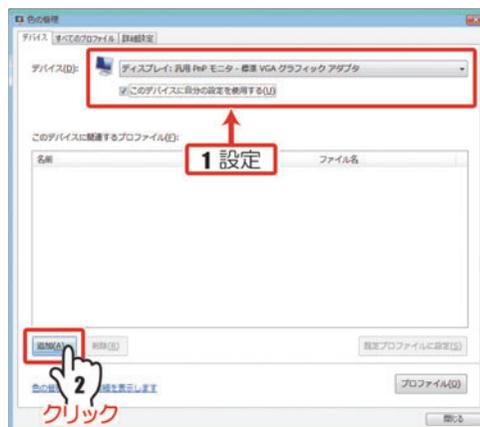


**3** “色の管理” を開きます。

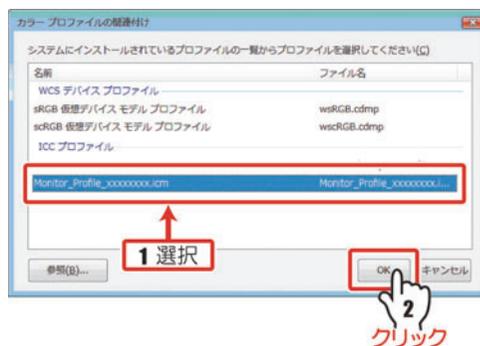


**4** 以下の設定にして、**追加** をクリックします。

デバイス：“ディスプレイ：……”  
“このデバイスに自分の設定を使用する”をチェックする。



**5** 作成した ICC プロファイルを選択し、**OK** をクリックします



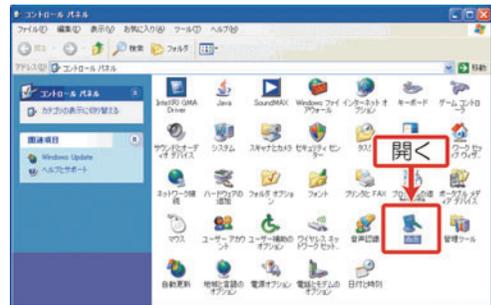
**6** 追加したプロファイルを既定プロファイルに設定します。

使用しているモニターのプロファイルに設定する (WindowsXP の場合)

- 1** [スタート]→[コントロールパネル]をクリックします。



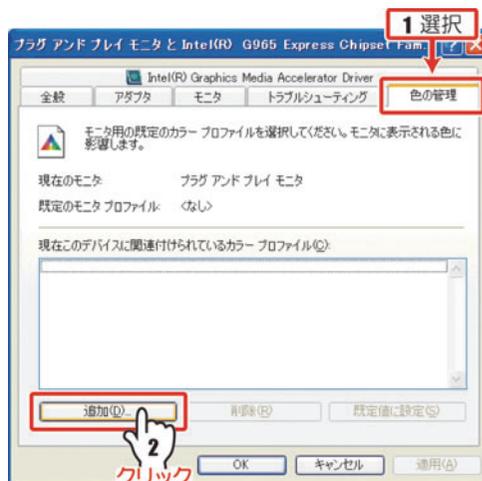
- 2** “画面”を開きます。



- 3** “設定”タブを選択し、[詳細設定]をクリックします。



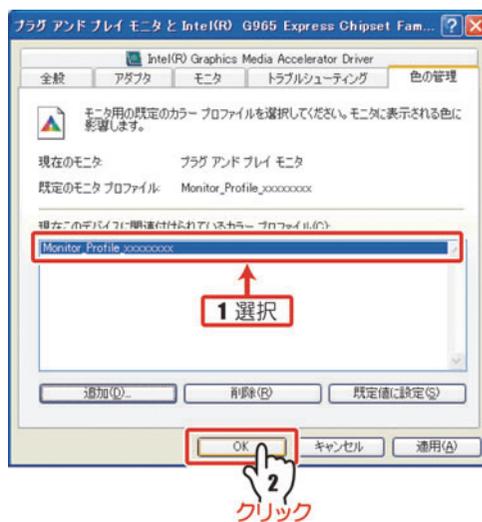
**4** “色の管理” タブを選択し、**追加** をクリックします。



**5** 作成したプロファイルを選択し、**追加** をクリックします。



**6** 追加したプロファイルを選択し、**OK** をクリックします。

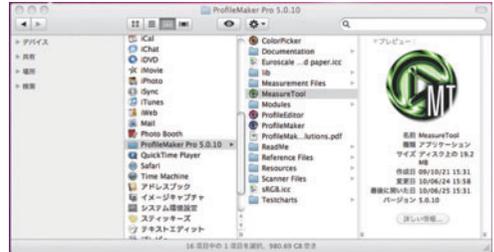


## Macintosh のモニターの ICC プロファイルを作成する (Mac OS X バージョン 10.6 の場合)

- 1 X-Rite社のWebサイト(<http://www.xrite.com/>)からProfileMakerをダウンロードして、インストールします。

すでに MeasureTool がインストールされている場合、この手順は不要です。

- 2 ProfileMaker の MeasureTool を起動します。



- 3 ProfileMaker の MeasureTool でモニターを測色し、測色結果を保存します。

測色するときのテストチャートは“LCD Monitor Reference 2.0.txt”を選択してください。

- 4 MPMII がインストールされている PC に測色ファイルをコピーします。

- 5 MPMII を起動します。

- 6 モニターの ICC プロファイルを作成します。

6-9 ページ「モニターの ICC プロファイルを作成する」を参照して作成してください。



- 7 以下の方法で、作成したモニターの ICC プロファイルをお使いの Macintosh にインストールしてください。

- (1) Mac OS 8.X または 9.X の場合、システムフォルダにある ColorSync Profile フォルダに ICC プロファイルをコピーします。
- (2) Mac OS X の場合、-User/あなたのログインユーザー名/Library/ColorSync/Profiles または、-Library/ColorSync/Profiles/Display に ICC プロファイルをコピーします。  
・ただし、ここに ICC プロファイルをインストールする場合、アドミニストレーター権限が必要です。

8 システム環境設定の[ディスプレイ]をクリックします。



9 [カラー] タグを選択し、ディスプレイプロファイルのリストから作成したモニターの ICC プロファイルを選択します。



10 補正 をクリックします。

Apple ディスプレイキャリブレーター・アシスタントが起動します。印刷物の色は D50 光源を想定しているため、使用するホワイトポイントを D50 に設定します。手順は、Mac ヘルプのシステム環境設定を参照してください。



## 校正用プリンタのICC プロファイルを作成する

校正用プリンタでチャートを出力し、校正用プリンタのICC プロファイルを作成します。  
(例として、Adobe Photoshop CS を使用した手順で説明します。)

**重要!**

◆ここで作成したICC プロファイルは、Adobe Photoshop/Illustrator から校正用プリンタへ出力するために使用します。Adobe Photoshop/IllustratorがインストールされているPCに作成したICC プロファイルをインストールします。

**1** MPMII を起動します。

**2** RGB プリンタプロファイルを作成するためのチャートを保存します。  
6-6 ページ「RGB カラーのICC プロファイルを作成する」手順1～5をご覧ください。

**3** 使用する校正用プリンタとPCを接続します。

**4** Adobe Photoshop を起動します。

**5** 保存したチャートのファイルを、カラーマネジメントなしで開きます。  
複数のチャートを保存した場合はすべてのチャートを開きます。

**6** [ファイル]→[プリントプレビュー]をクリックします。

**7** [その他のオプションを表示]を  
チェックします。

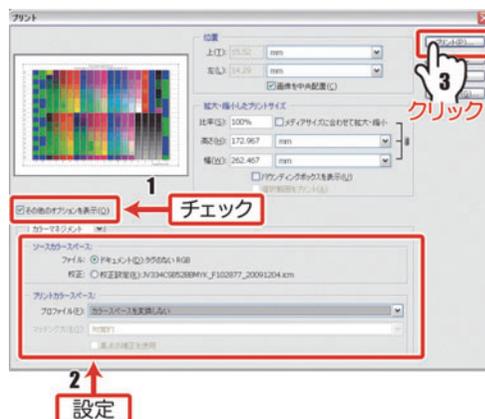
**8** カラーマネジメントの設定を  
以下のようにします。

“ソースカラースペース”には、[ファイル:]を選択する。  
“プリントカラースペース”のプロファイル  
を「カラースペースを変換しない」  
を選択する。

**9** **プリント** をクリックします。

**10** “プリンタ名”で使用する校正用プリンタ  
を選択し、**プロパティ** を  
クリックします。

選択したプリンタの設定画面が表示  
されます。



## 11 プリンタドライバのカラーマネジメントオプションをオフにします。

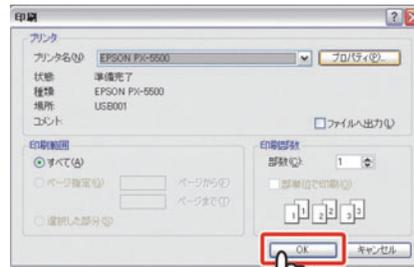
プリンタドライバの設定で、カラーマネジメントやカラー調整を設定する項目で、カラーマネジメントをオフ、またはカラー調整なしに設定してください。設定方法は、使用するプリンタの取扱説明書をご覧ください。

**重要!**

◆プリンタドライバのカラーマネジメントの設定をオフにしなかった場合、校正用プリンタでシミュレーションされる色が合わなくなってしまいます。

## 12 OK をクリックします。

チャートが印刷されます。  
複数のファイルがある場合、すべて同じ設定で印刷してください。



## 13 MPMII を起動し、印刷したチャートを測色して、RGB カラーの ICC プロファイルを作成します。

6-6 ページ「RGB カラーの ICC プロファイルを作成する」手順 7～15 をご覧ください。

## 14 作成した ICC プロファイル上で右クリックし、ショートカットメニューを表示します。



## 15 [プロファイルのインストール] をクリックします。

**重要!**

オペレーター PC に Macintosh を使用している場合、以下の方法で ICC プロファイルをインストールしてください。

◆ Mac OS 8.X または 9.X の場合、システムフォルダにある ColorSync Profiles フォルダに ICC プロファイルをコピーします。

◆ Mac OS X の場合、-Users/あなたのログインユーザー名/Library/ColorSync/Profiles または、-Library/ColorSync/Profiles に ICC プロファイルをコピーします。

ただし、ここに ICC プロファイルをインストールする場合、アドミニストレーター権限が必要です。

## CMYK カラーのシミュレーション用プロファイルを作成する

ミマキ製プリンタで CMYK 用のチャートを印刷し、モニターや校正用プリンタで CMYK 画像の色をシミュレーションするための ICC プロファイルを作成します。

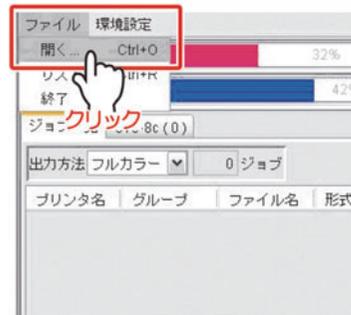
**重要!**

◆ Adobe Photoshop/Illustrator がインストールされている PC に作成した ICC プロファイルをインストールしてください。

- 1 MPMII を起動します。
- 2 CMYK プリンタプロファイルを作成するためのチャートを保存します。  
6-3 ページ「CMYK カラーの ICC プロファイルを作成する」手順 1～5 をご覧ください。

- 3 Raster Link シリーズを起動します。

- 4 [ファイル]→[開く]を選択します。



- 5 保存したチャートを選択します。

- 6 チャートが選択されている状態で右クリックし、[編集]をクリックします。

“ジョブエディタ”の画面が開きます。



# 7

## チャートを出力するための設定を行います。

ジョブエディタでは、“画像編集”・“印刷条件”・“カラー編集”の設定が行えます。

**画像編集** : 通常は、コピーなどの編集を行う必要はありません。ただし、転写を行う場合(ミラー設定)など、必要な場合は設定してください。  
プレビュー画面で出力するチャートが有効作図範囲に入っているかを確認してください。

**重要!**

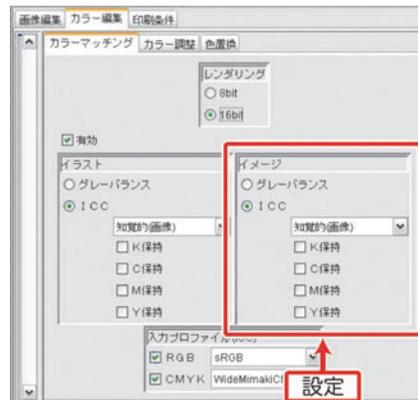
◆ 画像編集タブの[スケール]で、“有効”にチェックが入っていないことを確認してください。“有効”をチェックして拡大/縮小をしたチャートを使用すると、手順9でプロファイルを作成するとき正しいプロファイルは作成できなくなります。

**印刷条件** : 通常、ミマキ製プリンタで印刷するときと同じ印刷条件に設定してください。

**カラー編集** : 通常、ミマキ製プリンタで印刷するときと同じ設定にしてください。

**重要!**

◆ 手順2で保存したチャートは、ラスターデータになります。カラー編集タブの[カラーマッチング]では、“イメージ”の設定を行ってください。



通常ミマキ製プリンタで出力するときに、“イメージ”と“イラスト”で異なる設定にしている場合

◆ 例えば、“イメージ”は[ICC][知覚的]、“イラスト”は[グレーバランス]で出力している場合、両方の条件をシミュレーションするには、それぞれ別の ICC プロファイルが必要になります。  
[ICC][知覚的]の設定で出力したチャートを使用して作成した ICC プロファイルは、“イメージ”(ラスターデータ)の出力をシミュレーションすることができます。  
また、[グレーバランス]の設定で出力したチャートを使用して作成した ICC プロファイルは、“イラスト”(ベクターデータ)の出力をシミュレーションすることができます。

# 8

## 設定が完了したら、チャートを出力します。

チャートの印刷が終わったら、Raster Link シリーズを終了します。

- 9** 印刷したチャートを使って、MPMII で CMYK カラーの ICC プロファイルを作成します。

6-3 ページ「CMYK カラーの ICC プロファイルを作成する」手順 7 ～ 16 をご覧ください。

- 10** 作成した ICC プロファイル上で右クリックし、ショートカットメニューを表示します。



- 11** 【プロファイルをインストール】をクリックします。

**重要!**

オペレーター PC に Macintosh を使用している場合、以下の方法で ICC プロファイルをインストールしてください。

- ◆ Mac OS 8.X または 9.X の場合、システムフォルダにある ColorSync Profiles フォルダに ICC プロファイルをコピーします。
- ◆ Mac OS X の場合、-Users/あなたのログインユーザー名/Library/ColorSync/Profiles または、-Library/ColorSync/Profiles に ICC プロファイルをコピーします。ただし、ここに ICC プロファイルをインストールする場合、アドミニストレーター権限が必要です。

## RGB カラーのシミュレーション用プロファイルを作成する

ミマキ製プリンタで RGB 用のチャートを印刷し、RGB 画像の色をモニターや校正用プリンタでシミュレーションするための ICC プロファイルを作成します。

**重要!**

◆ Adobe Photoshop/Illustrator がインストールされている PC に作成した ICC プロファイルをインストールしてください。

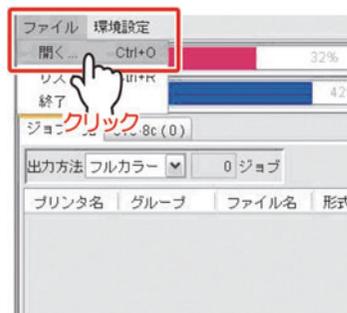
**1** MPMII を起動します。

**2** RGB カラーの ICC プロファイルを作成するためのチャートを保存します。

6-6 ページ「RGB カラーの ICC プロファイルを作成する」手順 1～5 をご覧ください。

**3** Raster Link シリーズを起動します。

**4** [ファイル]→[開く]を選択します。



**5** 保存したチャートを選択します。

複数のチャートを保存した場合、すべてのチャートを開きます。

**6** チャートが選択されている状態で右クリックし、[編集]をクリックします。

“ジョブエディタ”の画面が開きます。



## 7 チャートを出力するための設定を行います。

ジョブエディタでは、“画像編集”・“印刷条件”・“カラー編集”の設定が行えます。

**画像編集** : 通常は、コピーなどの編集を行う必要はありません。ただし、転写を行う場合(ミラー設定)など、必要な場合は設定してください。  
プレビュー画面で出力するチャートが有効作図範囲に入っているかを確認してください。

**重要!**

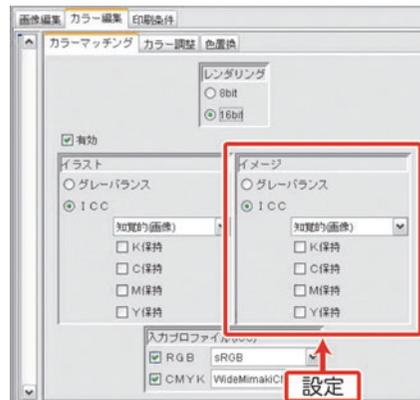
◆ 画像編集タブの[スケール]で、“有効”にチェックが入っていないことを確認してください。“有効”をチェックして拡大/縮小をしたチャートを使用すると、手順9でプロファイルを作成するときに正しいプロファイルは作成できなくなります。

**印刷条件** : 通常、ミマキ製プリンタで印刷するときと同じ印刷条件に設定してください。

**カラー編集** : 通常、ミマキ製プリンタで印刷するときと同じ設定にしてください。

**重要!**

◆ 手順2で保存したチャートは、ラスターデータになります。カラー編集タブの[カラーマッチング]では、“イメージ”の設定を行ってください。



**通常ミマキ製プリンタで出力するときに、“イメージ”と“イラスト”で異なる設定にしている場合**

◆ 例えば、“イメージ”は[ICC][知覚的]、“イラスト”は[グレイバランス]で出力している場合、両方の条件をシミュレーションするには、それぞれ別の ICC プロファイルが必要になります。[ICC][知覚的]の設定で出力したチャートを使用して作成した ICC プロファイルは、“イメージ”(ラスターデータ)の出力をシミュレーションすることができます。また、[グレイバランス]の設定で出力したチャートを使用して作成した ICC プロファイルは、“イラスト”(ベクターデータ)の出力をシミュレーションすることができます。

**8**

設定が完了したら、チャートを出力します。

チャートの印刷が終わったら、Raster Link シリーズを終了します。

**9**

印刷したチャートを使って、MPMII で RGB カラーの ICC プロファイルを作成します。

6-6 ページ「RGB カラーの ICC プロファイルを作成する」手順 7 ～ 15 をご覧ください。

**10**

作成した ICC プロファイル上で  
右クリックし、ショートカット  
メニューを表示します。

**11**

【プロファイルをインストール】  
をクリックします。

**重要!**

オペレーター PC に Macintosh を使用している場合、以下の方法で ICC プロファイルをインストールしてください。

- ◆ Mac OS 8.X または 9.X の場合、システムフォルダにある ColorSync Profiles フォルダに ICC プロファイルをコピーします。
- ◆ Mac OS X の場合、-Users/あなたのログインユーザー名/Library/ColorSync/Profiles または、-Library/ColorSync/Profiles に ICC プロファイルをコピーします。  
ただし、ここに ICC プロファイルをインストールする場合、アドミニストレーター権限が必要です。

## 作成したプロファイルを Photoshop / Illustrator に設定する

### Photoshop に設定する場合

プロファイルを Photoshop に設定する場合の手順を説明します。(Photoshop CS の例)

**重要!** ◆ 作成したプロファイルは画像を編集する前に Photoshop / Illustrator に設定してください。

- 1 Photoshop を起動します。
- 2 [編集]→[カラー設定]をクリックします。



- 3 “詳細設定モード” をチェックします。
- 4 以下のように各項目を設定し、OK をクリックします。

作業用スペース	RGB	作成した RGB カラーの ICC プロファイルを選択
	CMYK	作成した CMYK カラーの ICC プロファイルを選択
カラーマネジメントポリシー	RGB	オフ
	CMYK	オフ
変換オプション	変換方式	Adobe(ACE)
	マッチング方法	知覚的
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ [黒点の補正を使用] をチェックする</li> <li>・ [ディザの使用] をチェックする。</li> </ul>



## Illustrator に設定する場合

プロファイルを Illustrator に設定する場合の手順を説明します。(Illustrator CS2 の例)

- 1 Illustrator を起動します。
- 2 [編集]→[カラー設定]をクリックします。



- 3 “詳細設定モード” をチェックします。

- 4 以下のように各項目を設定し、**OK** をクリックします。

作業用 スペース	RGB	作成した RGB カラーの ICC プロファイルを選択
	CMYK	作成した CMYK カラーの ICC プロファイルを選択
カラー マネジメント ポリシー	RGB	オフ
	CMYK	オフ
	プロファイルの不一致:[開く時に 確認]をチェックする	
変換 オプション	変換方式	Adobe(ACE)
	マッチン グ方法	知覚的
	・ [黒点の補正を使用]をチェックする	



## モニターの色をターゲットの色に近づけるように、色を調整する

ミマキ製プリンタで出力したときの色をモニター上にシミュレーションして表示します。

### Photoshop で画像を開くときの調整手順

Photoshop で、編集する画像ファイルを開くときの手順を説明します。(Photoshop CS の例)

1 Photoshop を起動します。

2 [ファイル]→[開く]で編集する画像ファイルを選択します。

3 ファイルを開くと、メッセージウィンドウが表示されます。

4 “埋め込まれたプロファイルを破棄(カラーマネジメントしない)”を選択します。

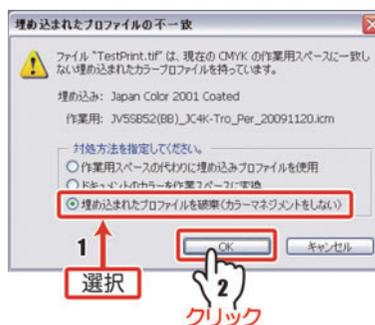
5 **OK** をクリックします。

画像が表示されます。

6 [ビュー]→[校正設定]→[カスタム]をクリックします。

7 校正条件を次のように設定し、**OK** をクリックします。

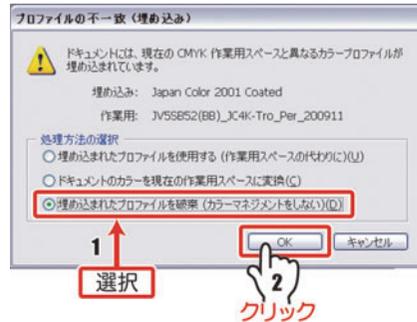
- ・ プロファイル：  
モニタープロファイルに設定している ICC プロファイル
- ・ カラー値の保持はチェックしない。
- ・ マッチング方法：知覚的
- ・ 黒点の補正はチェックする。



## Illustrator で画像を開くときの調整手順

Illustrator で、編集する画像ファイルを開くときの手順を説明します。(Illustrator CS2 の例)

- 1 **Illustrator** を起動します。
- 2 **[ファイル]→[開く]** で編集する画像ファイルを選択します。
- 3 ファイルを開くと、メッセージウィンドウが表示されます。
- 4 “埋め込まれたプロファイルを破棄 (カラーマネジメントしない)” を選択します。
- 5 **OK** をクリックします。  
画像が表示されます。
- 6 **[表示]→[校正設定]→[カスタム]** をクリックします。



- 7 校正設定を次のように設定し、**OK** をクリックします。
  - ・ シミュレートするデバイス：モニタープロファイルに設定している ICC プロファイル
  - ・ RGB カラー値を保持はチェックしない。
  - ・ マッチング方法：知覚



**重要!**

◆ ミマキ製プリンタで出力した色がモニターの色と合いにくくなった場合、シミュレーション用プロファイルを再作成する必要があります。

## 校正用プリンタで出力し、ターゲットとの色の差を確認する

ミマキ製プリンタで出力したときの色をシミュレーションして、用紙に出力します。

### Photoshop で出力するとき

Photoshop で、校正用プリンタに出力するときの手順を説明します。(Photoshop CS の例)

- 1 Photoshop を起動します。
- 2 [ファイル]→[開く]で印刷したい画像ファイルを選択します。
- 3 [ファイル]→[プリントプレビュー]をクリックします。
- 4 “その他のオプションを表示”を  
チェックします。
- 5 カラーマネジメントを以下のよ  
うに設定し、**プリント** をク  
リックします。

ソースカラー スペース	[ファイル:]をチェックします。	
プリントカ ラースペース	プロファ イル	作成した校正用プリン タの ICC プロファイルを選 択します。
	マッ チン グ 方 法	絶対的な色域を維持



- 6 “プリンタ名”に使用する校正用プ  
リンタを選択し、**プロパティ** を  
クリックします。

選択したプリンタの設定画面が表示さ  
れます。



- 7 プリンタドライバのカラーマネジメントオプションをオフにします。

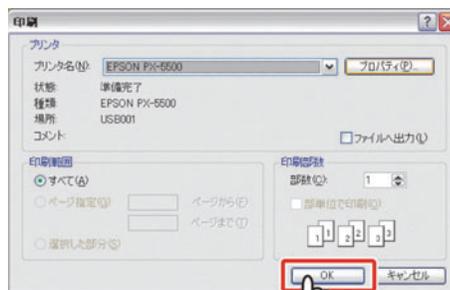
プリンタドライバの設定で、カラーマネジメントやカラー調整を設定する項目で、カラーマネジメントをオフ、またはカラー調整なしに設定してください。設定方法は、使用するプリンタの取扱説明書をご覧ください。

#### 重要!

◆プリンタドライバのカラーマネジメントの設定をオフにしなかった場合、校正用プリンタでシミュレーションされる色が合わなくなってしまうす。

**8** **OK** をクリックします。

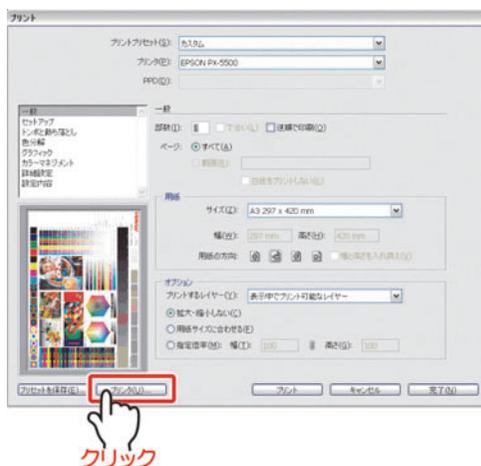
画像が出力されます。



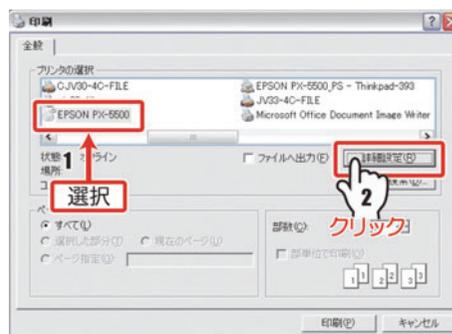
## Illustrator で出力するとき

Illustrator で、校正用プリンタに出力するときの手順を説明します。(Illustrator CS2 の例)

- 1 Illustrator を起動します。
- 2 [ファイル]→[開く]で印刷したい画像ファイルを選択します。
- 3 [ファイル]→[プリント]をクリックします。
- 4 **プリンタ** をクリックします。



- 5 “プリンタの選択”から使用する校正用プリンタを選択し、**詳細設定** をクリックします。  
選択したプリンタの設定画面が表示されます。



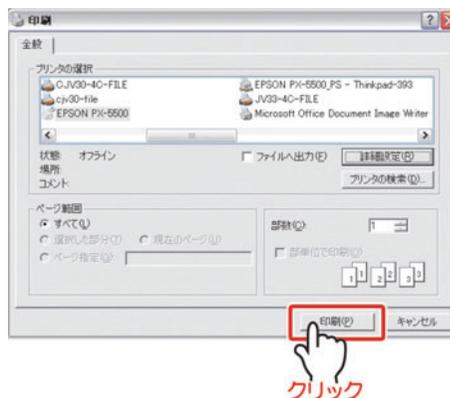
- 6 プリンタドライバのカラーマネジメントオプションをオフにします。

プリンタドライバの設定で、カラーマネジメントやカラー調整を設定する項目で、カラーマネジメントをオフ、またはカラー調整なしに設定してください。設定方法は、使用するプリンタの取扱説明書をご覧ください。

**重要!**

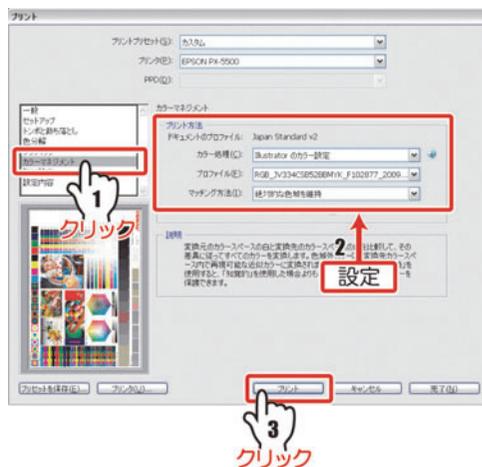
◆ プリンタドライバのカラーマネジメントの設定をオフにしなかった場合、校正用プリンタでシミュレーションされる色が合わなくなってしまう。

**7** **印刷** をクリックします。



**8** “カラーマネジメント”の“プリント方法”を以下のように設定します。

カラー処理	Illustrator のカラー設定
プロファイル	作成した校正用プリンタのICC プロファイルを選択
マッチング方法	絶対的な色域を維持



**9** **プリント** をクリックします。  
画像が出力されます。

**重要!**

◆ ミマキ製プリンタで出力した色が校正用プリンタで出力した色と合いにくくなった場合、シミュレーション用プロファイルを再作成する必要があります。

## 校正用プリンタで印刷する

色調整した画像ファイルを Photoshop / Illustrator で校正用プリンタに出力します。出力した校正紙は色見本としてお使いになれます。

## ミマキ製プリンタで印刷する

ミマキ製プリンタで出力し、クライアントに最終確認します。  
色調整した画像ファイルを Raster Link シリーズでミマキ製プリンタに出力します。

# 10章 メタリックカラープロファイルの作成

メタリックカラープロファイルの作成方法を説明します。

メタリックカラープロファイルを作成する .....	9-2
対象環境 .....	9-2
作成条件 .....	9-2
メタリックカラープロファイルとは? .....	9-2
メタリックカラープロファイル作成の前に .....	9-4
メタリックカラープロファイルの作成 .....	9-6
<b>RasterLink6</b> での印刷確認 .....	9-16
メタリックカラープロファイルの編集 / コピー / 再作成 .....	9-20

# メタリックカラープロファイルを作成する

## 対象環境

メタリックカラープロファイルは以下の環境で作成できます。

プリンタ	CJV300 / CJV150
インク	SS21
カラー	特色としてシルバーが搭載されていること
RIP	RasterLink6 Ver3.0 ~

## 作成条件

メタリックカラープロファイルは以下の条件で作成できます。

機種	インクセット	解像度	パス数
CJV300 8Color CJV150 8Color	SS21 CMYKLcLm SS21 CMYKLkOr	720x1080 VD	12 pass 以上
		720x1440 VD	20 pass 以上
		1440x1440VD	32 pass 以上

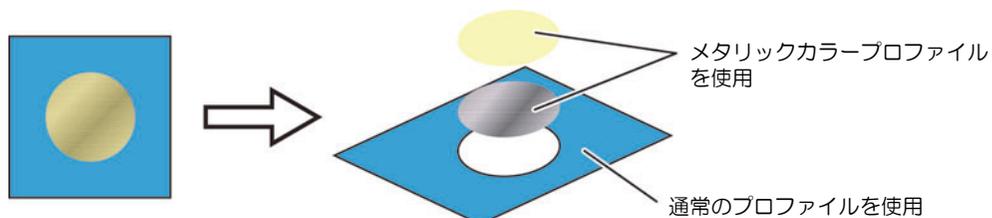
## メタリックカラープロファイルとは？

シルバーインク上にカラーインクを印刷した場所において、メタリック調の輝きを高めるための専用プロファイルを「メタリックカラープロファイル」と呼びます。

### 1. RasterLink6 での使用

RasterLink6 ではシルバーとその上に重ねるカラーに対して、メタリックカラープロファイルを設定します。

例) 青い四角にメタリックカラーの丸をプリントしたい



プロファイルの設定方法については P.10-16~ の「RasterLink6 での印刷確認」にて説明します。

### 1.1 フルカラープロファイルとの関係

メタリックカラーは通常、カラーと同時に使用します。この際、“通常のカラー”と“メタリックカラー”のどちらの品質を優先するかにより、MPMIIでの作成条件(解像度/パス数/ヒーター温度)が異なります。

#### メタリックカラーをアクセントとして使用する

多くの場合、メタリックカラーはアクセント的に用いり、カラーに比べて印刷面積が小さいです。このような場合、カラーの画質を優先した方が良いため、メタリックカラーの作成条件は同時に使用するカラーのプロファイルに合わせてください。

#### メタリックカラーを主に使用する

メタリックカラーの印刷面積がカラーに比べて大きく、画質をできるだけ得たい場合、P.10-7記載の推奨条件にて作成します。

## 2. MPMIIでのメタリックカラーの出力

---

MimakiProfileMasterIIでの印刷では、シルバー単色もしくはシルバー→カラー出力に対応しています。

## 3. メタリックカラーの色味について

---

弊社よりリリースされているメタリックカラープロファイルを使って、SS21メタリックカラーライブラリーチャートを出力し、それを見本としてお使いください。  
SS21メタリックカラーライブラリーチャートの出力については、RasterLink6の[メタリックカラー印刷ガイド]をご覧ください。

# メタリックカラープロファイル作成の前に

## 1. プリンタの設定

以下のようにプリンタを設定してください。

- 1** プリンタ本体の電源を ON にします。  
パネルの表示を“ローカル”にします。
- 2** ロジカルシークを OFF に設定します。
  - (1) “MENU” ([FUNC1] キー) を押します。
  - (2) [ENTER] キーを押します。
  - (3) [▼] キーを数回押し、“ロジカルシーク”を選択します。
  - (4) [ENTER] キーを押します。
  - (5) [▼] キーを数回押し、“OFF”を選択します。
  - (6) [ENTER] キーを押します。
- 3** 乾燥時間を 0.0 秒に設定します。
  - (1) [▼] キーを数回押し、“乾燥時間”を選択します。
  - (2) [ENTER] キーを押します。
  - (3) [▼] キーを数回押し、【スキャン】を選択します。
  - (4) [ENTER] キーを押します。
  - (5) [▲][▼] を押し、乾燥時間を“0.0s”に設定します。
  - (6) [ENTER] キーを押します。
- 4** [END] キーを数回押し、パネルの表示を“ローカル”にします。

**重要!**

◆上記設定終了後、プロファイルを作成するメディアがプリンタにセットされていることを確認し、フィード補正を行ってください。フィード補正についてはプリンタの取扱説明書をご覧ください。  
フィード補正が適切に設定されていない場合、シルバーインクを使用した部分の画質が悪化します。

## 2. メタリックカラープロフィール用メディア名の登録

メタリックカラープロフィールでは、通常のデバイスプロフィールと見分けるために、末尾に " Si" とついたメディア名のみ使用することができます。

以下の手順により、メタリックカラープロフィール用のメディア名を追加します。

- 1 メイン画面より [設定] タブを選択、  
[メディア名登録] をクリックします。

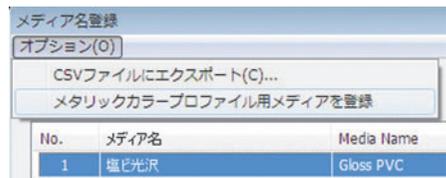


- 2 [メディア名登録] 画面が表示されま  
す。

メタリックカラープロフィールを作成したいメディア名をリストより選択します。

💡 ◆登録したいメディア名が無い場合、登録してください。登録方法については P 1-3 「メディア名を登録する」を参照してください。

- 3 メニューより [オプション] - [メタ  
リックカラープロフィール用メデ  
ィアを登録] を選択します。

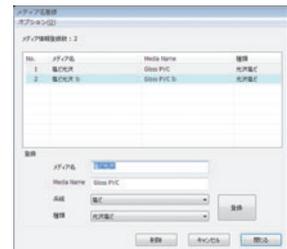


- 4 メタリックカラープロフィール用メ  
ディアの登録を確認するメッセ  
ージが表示されます。

[はい] を押すと登録されます。



- 💡 ◆メタリックカラープロフィール用メディア名はリスト内で色がついて表示されます。
- ◆通常のメディア名登録では末尾に " Si" をつけて登録できません。これは、メタリックカラープロフィールが、通常のデバイスプロフィールと同時に使用されるものであるためです。



- 5 「メディア名登録」画面を [閉じる] で閉じます。

# メタリックカラープロファイルの作成

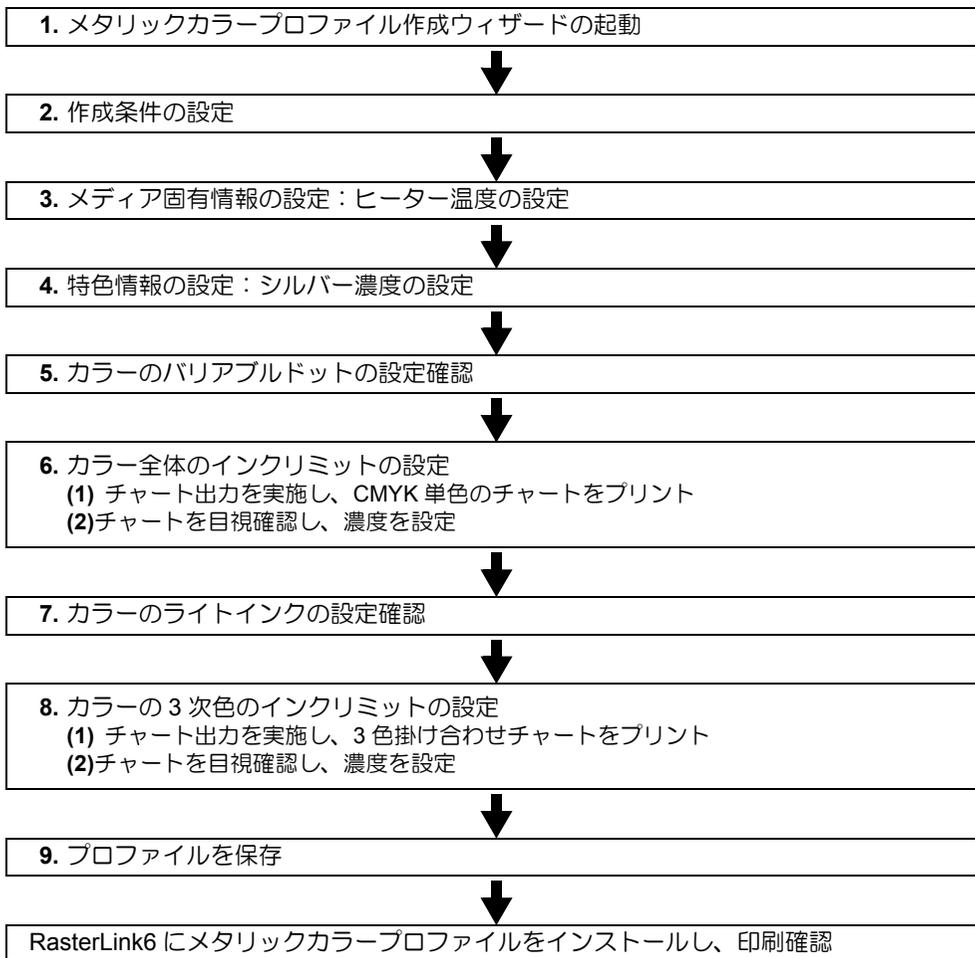
---

---

## 1. メタリックカラープロファイルの作成手順

---

以下の手順でメタリックカラープロファイルを作成します。



## 2. メタリックカラープロファイル作成ウィザードの起動

メイン画面より[デバイスプロファイル]を選択、[メタリックカラープロファイルの作成]をクリックします。



◆メタリックカラープロファイル用のメディアが1つも登録されていない場合、[メタリックカラープロファイルの作成]をクリックしても、ウィザードは起動しません。この場合、『メタリックカラープロファイル用メディアの登録』を参照し、メディアを追加してください。



## 3. 作成条件の設定

### 3.1 印刷条件の設定

メタリックカラーは通常、カラーと同時に使用します。この際、“通常のカラー”と“メタリックカラー”のどちらの品質を優先するかにより、MPMII での作成条件（解像度/パス数/ヒーター温度）が異なります。

メタリックカラープロファイル作成ウィザードが起動します。

以下のヒントを参考にして、印刷条件を設定します。

[次へ]を押します。



#### 推奨の作成条件

◆求める品質により推奨条件は以下となります。

ただし、P.10-3 の通り、同時に使用するフルカラープロファイルの条件がある場合、そちらを優先してください。

品質	解像度	パス	印刷方向	高速印刷
標準	720x1080VD	16	双方向	ON
高画質	720x1440VD	32	双方向	ON

### 3.2 メディアの選択

メディア名を選択し、[次へ]を押します。



◆メタリックカラープロファイル用のメディア名（末尾が“Si”）のみ選択できます。



### 3.3 作成条件の確認

設定した作成条件を確認し、よければ [次へ] を押します。



## 4. メディア固有情報の設定—ヒーター温度の設定

ヒーター温度、メディア補正值、メディア送り設定を設定し、[次へ] を押します。



#### 重要!

#### ヒーター温度について

- ◆ ヒーター温度を必ず有効にしてください。
- ◆ 推奨のヒーター温度は以下となります。  
CJV300: Pre 50 °C / Print 45 °C / Post 60 °C  
CJV150: Pre 50 °C / Print 45 °C / Post 50 °C
- ◆ RasterLink6ではフルカラープロファイルが設定されているジョブとメタリックカラープロファイルが設定されているジョブを合成した際、[デバイス調整]を“プロファイル設定値”とした場合、メタリックカラープロファイルのヒーター温度が設定されます。

## 5. 特色情報の設定—シルバー濃度の設定

特色情報とは、シルバーおよびホワイトを適切に設定するための情報の事です。JV300/150 および CJV300/150 の通常 (カラー) のデバイスプロファイルではプリセット情報を自動的に設定しますが、メタリックカラープロファイルではこの情報の中のシルバー濃度のみ変更することができます。シルバー濃度を変更することにより、シルバー単色の画質を調整します。

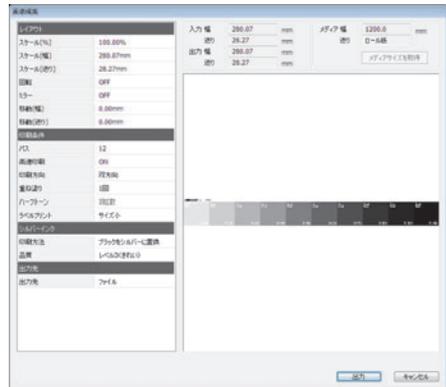
### 5.1 チャートの出力

テストプリントを実施し、シルバーの濃度を設定します。

**1** シルバーの濃度が [100%] であることを確認します。

**2** [テストプリント] を押します。

**3** [画像編集] 画面が表示されます。  
[シルバーインク][印刷方法]が「ブラックをシルバーに置換」になっていることを確認して、[出力] ボタンを押し、印刷します。



**重要!**

◆メタリックカラーは通常シルバー→カラーの特色重ね印刷で出力されます。そのためここでは特色重ね印刷と同じ印刷方式でシルバー単色をプリントします。

## 5.2 印刷したチャートの評価

下のチャートが印刷されます。以下の観点によりシルバーの濃度を決定してください。



### 鏡面光沢性の確認

鏡のように光を反射し、光沢感があるパッチを選択します。

【鏡面性の確認方法】

チャートに対して印刷物等を垂直に置き、映り込み具合を見ます。



### 画質の確認

にじみ / かすれ / バンディングを確認し、これらがおこなっていないパッチを選択します。

#### 画質が悪い例



にじみ

かすれ

バンディング

にじみ : パッチの縁でインクがあふれ白っぽくなります。

かすれ : かすれたようなざらつきが発生します。

バンディング : スキャン方向に縞が発生します。



### 巻き取り性能の確認

シルバーインクは性質上、擦過性 / 巻き取り性能がカラーインクに比べて低いです。これはインク濃度が高くなるほど悪くなります。巻き取る機会が多い場合、以下の手順に従って性能を確認してください。

- (1) 印刷したチャートを巻き取ります
- (2) 半日～1日程度放置します。
- (3) 巻き取ったチャートを取り出し、目視にて状況を確認します。  
裏移りによるブロッキングが起きているパッチの濃度は使用できません。

#### 重要!

##### 使用できるパッチが無い場合

◆ 印刷したチャートを評価し、使用できるパッチが無い場合、[メディア固有情報の設定] ページに戻り、プリ/プリント/ポストの各ヒーター温度を、目安として5℃ほど上げて再度印刷してください。

印刷したものを再度評価し、使用できるパッチがあるか確認してください

◆ ヒーター温度を上げて使用できるパッチが無い場合、再度テストプリントを実行します。この際、画像編集画面にてパス数を上げます。使用できるパッチがある場合、ウィザードを一旦終了させ、ウィザードを再起動してください。そして、印刷条件ページにてパス数をテストプリント時に使用したものとしてください。

◆ メディアによっては、印刷条件/ヒーター温度を変更しても鏡面光沢性/画質が悪いことがあります。このような場合、ご使用のメディアを変更してください。

### 5.3 決定したシルバー濃度の光沢性および画質の確認

決定したシルバー濃度を設定して同じチャートを印刷し、シルバーの光沢感を確認します。

**1** シルバーの濃度を決定した濃度に入ります。

**2** [テストプリント]を押します。

**3** 画像選択ダイアログが表示されます。

以下のファイルを選択します。

MPMII のインストールフォルダ ¥Image¥SilverInkLimitTestChart.tif

**4** [画像編集]画面が表示されます。

[シルバーインク][印刷方法]が「ブラックをシルバーに置換」になっていることを確認して、[出力]ボタンを押し、印刷します。

**5** 印刷されたチャートの 100% 部分の光沢感および画質を確認します。



◆ 前述のとおり、シルバーインクはインク濃度が高くなるにつれ擦過性 / 巻き取り性能が悪くなります。そのため、できる限りシルバーの濃度を低くすることを薦めます。

2 回目に出力したチャートにて、100% のパッチよりも低いパッチが使用できる場合、以下の計算式にて MPMII に適用する値を決めます。

適用する値 = 1 回目で決定した濃度 × 2 回目に出力したチャートの良いパッチの濃度

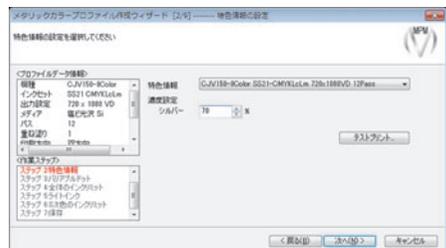
(例) 1 回目で決定した濃度が 70% で、2 回目で出力したチャートで良いと認識したパッチが 90% の場合

$70\% \times 90\% = 63\%$  となる。

MPMII には 63% を設定する。

### 5.4 最終的な値の設定

[特色情報の設定] ページにて、シルバー濃度を入力し、[次へ]を押します。



## 6. 全体のインクリミット

カラーのインクリミット (全体) を設定します。

### 6.1 チャートの印刷

CMYK 単色の濃度変化を確認するためのチャートを出力します。このチャートはシルバー→カラーで印刷されます。

- 1 MPMII に戻り [全体のインクリミットチャート出力] ページを表示し、[チャート出力] ボタンを押します。

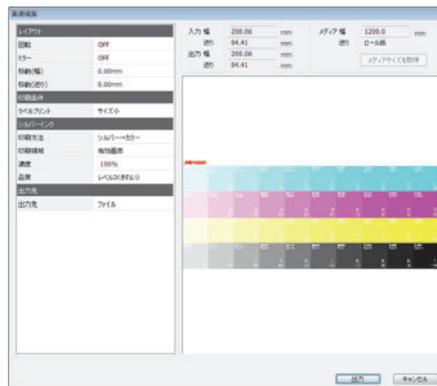


- 2 [画像編集] 画面が表示されます。



◆ シルバーインクの設定は初期値のままとしてください。

- 3 出力します。



6.2 印刷したチャートの評価：インク単色のインクリミットの決定

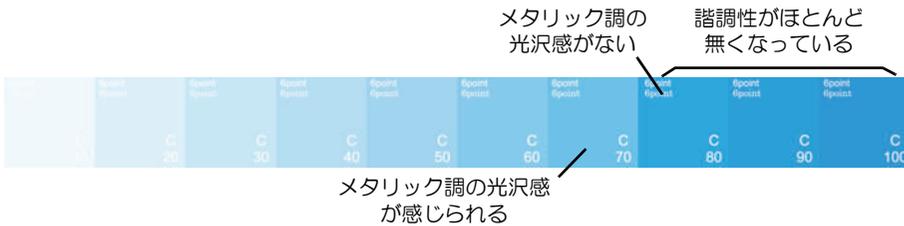
下のチャートが出力されます。



次の条件に合致するパッチを目視にて選択し、各カラーの濃度を決定します。

- これ以上濃度を高めても濃度変化がみられない
- これ以上濃度を高めると、メタリック調の光沢感が得られない

(例) 以下のような印刷結果の場合、インクリミットは70%となる



- 1 [次へ] を押し、[全体のインクリミットの調整] ページに移動します。
- 2 各々のカラーのインク濃度を設定します。

## 7. 3次色のインクリミット

カラーのインクリミット (3 次色) を設定します。

### 7.1 チャートの印刷

3 次色 (CMY) の濃度変化および溢れ具合を確認するためのチャートを出力します。このチャートはシルバー→カラーで印刷されます。

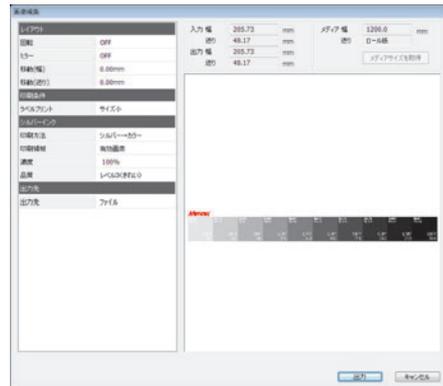
- 1 MPMIIに戻り[3次色のインクリミットチャート出力]ページを表示し、[チャート出力]ボタンを押します。



- 2 画像編集画面が表示されます。

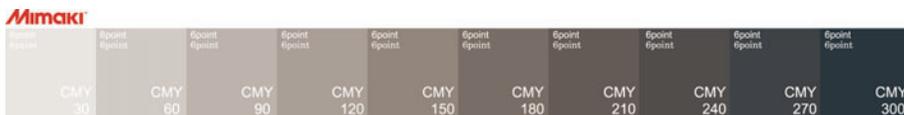
**重要!** ◆シルバーインクの設定は初期値のままとしてください。

- 3 出力します。



### 7.2 印刷したチャートの評価

下のチャートが出力されます。



次の条件に合致しないパッチの中の最高濃度を選択します。

- 一定時間待っても乾かない
- インクが均一に乾かない
- 各パッチの文字が滲んでいない
- 高濃度部で諧調性が無くなってしまっている

## 7.3 テストプリント

ここでテストプリントを行い、メタリックカラープロファイルの結果を確認します。

**1** [テストプリント] を押します。

**2** [開く] ダイアログが表示されます。

以下の2つの画像を選択します。

MPMII のインストールフォルダ \Image\MetallicColorChart.tif

- このチャートは RasterLink6 に搭載されている "SS21 Metallic Color" カラーコレクションから 294 色使用したものです。カラーコレクションを使用した場合の出力の確認が行えます。

MPMII のインストールフォルダ \Image\MetallicColorInkLimitChart2.tif

- CMYK単色/2次色/3次色のチャートです。全体的な色味/メタリック感を確認します。

**3** [画像編集] 画面が表示されます。

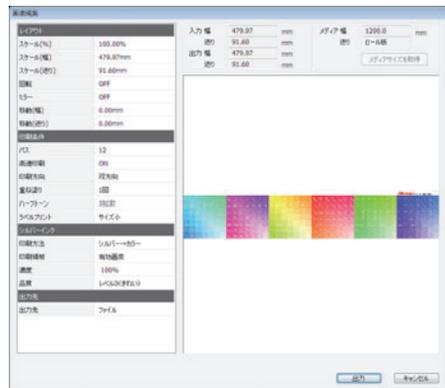
設定し [出力] を押します。

出力されたチャートの色味、光沢感を確認します。

その他、お持ちの画像で、メタリック感を確認したい画像をここで出力してください。

**重要!**

◆ 使用できる画像は TIFF(CMYK) 画像のみとなります。



## 8. 保存

ファイルを保存します。

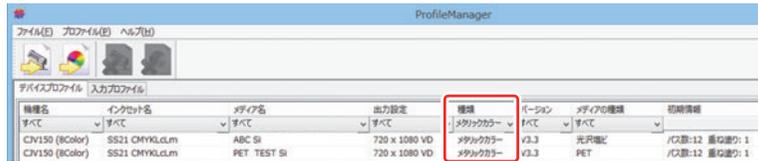
# RasterLink6 での印刷確認

RasterLink6 に作成したメタリックカラープロファイルをインストールし、最終的な印刷確認を行います。

## 1. メタリックカラープロファイルのインストール

通常のデバイスプロファイルと同じく、プロファイルマネージャーを使用してインストールします。

インストールすると [種類] 欄に "メタリックカラー" と表示されます。



## 2. ジョブの作成とプロファイルの適用

ここでは、ジョブの作成～適用までの概要を説明します。詳細については RasterLink6 の [メタリックカラー印刷ガイド] をご覧ください。

### (1) メタリックカラー用の画像とカラー用の画像を分ける

RasterLink6 では 1 画像内にメタリックカラーとカラーを混在して出力したい場合、メタリックカラー用の画像データとカラー用の画像データを分ける必要があります。これはメタリックカラー用の画像にはメタリックカラープロファイルを、カラー用の画像には通常のプロファイルを設定する必要があるためです。

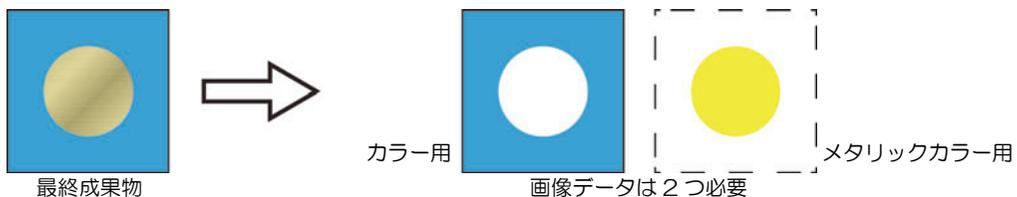


RasterLink6 ではメタリックカラーを出力する方法として、以下を提供しています。

- ◆ 「SS21 Metallic Color」カラーコレクションを使用した色置換
- ◆ 手動設定での色置換
- ◆ 特色版生成でシルバー版を生成して、シルバーの上に乗るカラーと合成する。
- ◆ シルバー用の単色画像を作成し、シルバーへ単色置換後、シルバーの上に乗るカラーと合成する

本稿ではメタリックカラー用画像を手動にて色置換した場合の手順を記載します。

例) 四角の中に丸でメタリックカラーを印刷したい



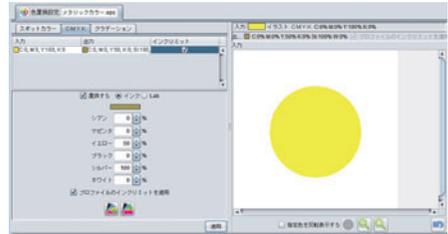
(2) ジョブを読み込む

RasterLink6 にメタリック用の画像とカラー用の画像を読み込みます。



(3) メタリックカラーで出力する設定を行う

メタリックカラー用画像のジョブを選択し、[色置換設定]画面を開きます。メタリックカラーにする色を選択し、シルバー 100% +カラーの濃度を指定します。

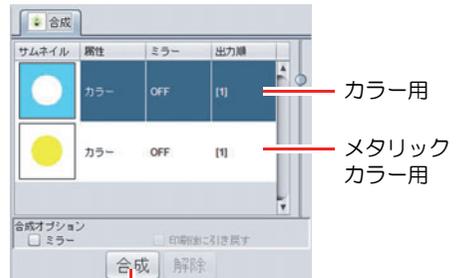


**重要!**

◆色置換した場合、「プロファイルのインクリミットを適用」のチェックは必ずONにしてください。OFFにした場合、メタリックカラープロファイルのカラー情報が適用されません。

(4) 合成する

カラー用とメタリックカラー用のジョブを選択し、[合成]画面を開きます。下からメタリックカラー用→カラー用の順番になるようにジョブを入れ替え、[合成]ボタンを押し、合成します。



ジョブの順番を確認してから押す

(5) 重ね印刷の設定を行う

合成したジョブを選択し[レイヤー編集]画面を開きます。[特色版重ね印刷]より“特色→カラー→カラー”を選択します。[品質]については、この後設定するプロファイルに入っている値が自動的に設定されます。



**重要!**

印刷条件でプロファイルを設定する前にレイヤー編集を行ってください  
◆[特色版重ね印刷]の設定を行わずに、印刷条件にてプロファイルの選択を行った場合、メタリックカラー用とカラー用に別々のプロファイルを設定することができません。

## (6) プロファイルを設定する

合成されたジョブを選択し、[印刷条件]画面を開きます。

### (6)-1 : メタリックカラー用画像の設定

1. メタリックカラー用画像を選択

2. 使用するメディアに合わせたメタリックカラープロファイルを選択

3. "Color Matching OFF" を選択

4. 出力設定については [重要！印刷条件について] 参照

5. "プロフィール設定値" を選択 [重要！：ヒーター温度について] も参照のこと

### (6)-2 : カラー用画像の設定

1. カラー用画像を選択

2. 使用するメディアに合わせたメタリックカラーと同じ解像度のプロファイルを選択

3. 出力設定については [重要！印刷条件について] 参照

#### 重要！

#### 印刷条件について

◆ カラーとメタリックカラーのどちらの品質を優先するかにより、設定する印刷条件は異なります。上記設定後、以下のようにパス / 印刷方向 / 高速印刷の設定を行います。

- カラーを優先する場合  
カラー用画像を選択後、パス / 印刷方向 / 高速印刷の設定を ( デフォルト ) と記載されているものに変更します。
- メタリックカラーを優先する場合  
メタリックカラー用画像を選択後、パス / 印刷方向 / 高速印刷の設定を ( デフォルト ) と記載されているものに変更します。  
一方の設定を変更すると、もう一方の設定も同時に変更されます。

#### ヒーター温度について

◆ [デバイス調整]の値を"プロフィール設定値"とした場合、メタリックカラープロファイルの値を使用します。

## (7) 印刷する

RIP 後印刷で印刷します。

**重要!****シルバー単色でプリントする場合**

◆ 以下の条件の場合、特色重ね印刷しない設定で印刷されます。

- a 単色色置換もしくは特色版生成で生成したジョブを、シルバーのみで出力する
- b カラーと合成している場合でも、(a) のようなシルバー単体のジョブに対して、「印刷後にメディアを引き戻す」設定が行われている場合

これらの場合、特色重ね印刷時に比べ、シルバーを印刷する際に使用するヘッド幅が大きく、乾燥時間を稼ぐことができないため、画質が下がります。このような印刷を行いたい場合、印刷条件画面にて、メタリックカラープロファイル設定後、パスの値をデフォルトより高くしてください。

# メタリックカラープロファイルの編集/コピー/再作成

## 1. 編集

通常のデバイスプロファイルと同様に編集できます。

- 1 メイン画面より[デバイスプロファイル]—[編集]を選択し、編集画面を開きます。

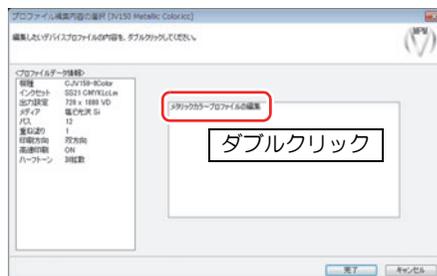


種類は”メタリックカラー”、バージョンは”Ver3.3”となります。

- 2 メタリックカラープロファイルを開きます。

**重要!** メタリックカラープロファイルでは以下の機能は使用できません。  
◆ キャリブレーション(基準設定/キャリブレーション/ノイコライゼーション)  
◆ 高精度色置換情報の設定

- 3 メタリックカラープロファイルを選択し、[編集]を押します。



- 4 リストより”メタリックカラープロファイルの編集”をダブルクリックします。

- 5 メタリックカラープロファイルの各要素を編集します。



- 💡 ◆ テストプリントについて  
以下の2つのページでテストプリントが行えます。  
・ 特色情報の設定：シルバー単色で出力します。  
・ インクリミット：シルバーカラーで出力します。

- 6 通常のデバイスプロファイルと同じく、編集したプロファイルを保存します。

## 2. コピー

作成したメタリックカラープロファイルを他の機種 / 解像度等に流用したい場合、コピーを行います。

**1** メインウィンドウより[デバイスプロファイル]-[コピー]を選択し、コピーウィザードを起動します。

**2** ファイル選択ページが表示されるので、メタリックカラープロファイルを選択します。  
[次へ]を押します。



◆メタリックカラープロファイルを選択した場合、メタリックカラープロファイルを示すダイアログが表示されます。

**3** 作成条件の設定ページが表示されます。プリンタ、解像度等を選択し、[次へ]を押します。



◆作成時と同じく、弊社が推奨するシルバー印刷の条件のみ選択可能となっています。

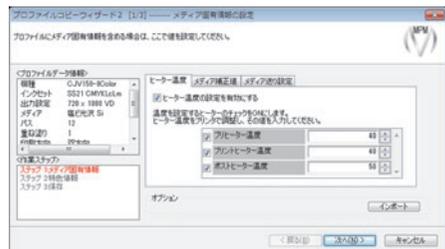
**4** メディア名の選択ページが表示されます。選択して[次へ]を押します。



◆メタリックカラープロファイル用のメディア名(末尾が" Si")のみ選択できます。

**5** 作成条件の確認ページが表示されます。内容を確認し、良ければ[次へ]を押します。

**6** メディア固有情報の設定ページが表示されます。設定し、[次へ]を押します。



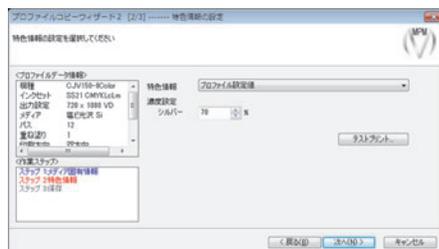
### 重要!

◆機種によりヒーター温度の推奨値が異なります。異機種へコピーする場合、推奨値を入力してください。

CJV300: Pre 50 °C / Print 45 °C / Post 60 °C

CJV150: Pre 50 °C / Print 45 °C / Post 50 °C

- 7** 特色情報の設定ページが表示されま  
す。  
設定し[次へ]を押します。



**重要!**

◆元のプロファイルから機種/解像度/パス数を変更した場合、「プロファイル設定値」以外を設定してください。  
特色情報のプリセットは機種 / 解像度 / パス数に依存しますが、初期値は「プロファイル設定値」となり、これを選択すると元のプロファイルの値をそのまま使用します。

- 8** 保存ページが表示されます。  
プロファイルを保存し、終了してください。

### 3. 再作成

通常のデバイスプロファイルと手順は同じく、作成の中断 / 再作成ができます。

# 11 章 その他の機能

MPM II を使用する際に役立つ機能について説明します。

<b>MPM II の情報をバックアップする</b> .....	<b>10-2</b>
バックアップ機能 .....	10-2
<b>バックアップファイルを MPM II に復元する</b> .....	<b>10-4</b>
復元機能 .....	10-4

# MPM II の情報をバックアップする

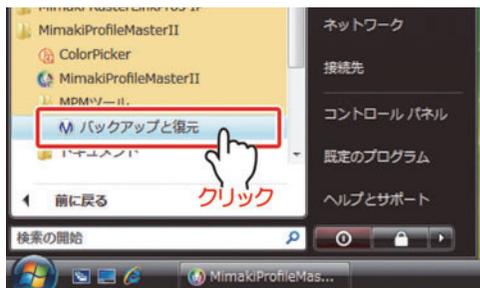
## バックアップ機能

MPM II を再インストールする場合、登録したメディア名や中断ファイルなどの情報は消去されます。バックアップは、アンインストールする前に、メディア名や中断ファイルのデータを保存する機能です。

バックアップしたファイルは、復元機能 (☞ P.11-4) によって、再インストールした MPM II に読み込むことができます。

**1** MPM II が終了していることを確認し、**【バックアップと復元】**を起動します。

- (1) [スタート]メニューから[すべてのプログラム]を選ぶ
- (2) [MimakiProfileMasterII]-[MPM ツール]を選ぶ
- (3) [バックアップと復元]を選ぶ



**2** **バックアップ** をクリックします。



**3** バックアップを保存する場所を指定します。



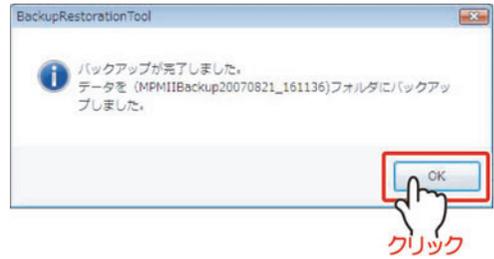
- ◆ フォルダを新規作成する場合は **【新しいフォルダの作成】** をクリックします。
- ◆ MPM II がインストールされているフォルダには、バックアップを保存しないでください。同じフォルダに保存すると、MPM II を再インストールしたときにバックアップが削除されます。



**4** **OK** をクリックします。

バックアップを開始します。

完了するとダイアログを表示します。

**5** **OK** をクリックします。

指定した場所に、“MPM IIBackup YYYYMMDD\_hhmmss” フォルダが作成されます。

**6** **終了** をクリックします。

BackupRestorationTool を閉じます。



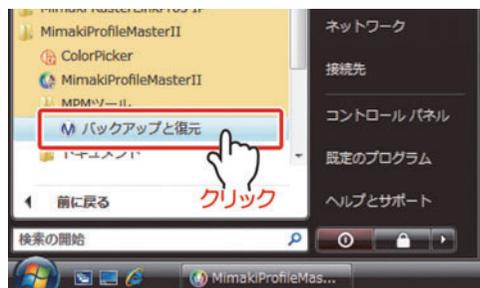
# バックアップファイルをMPM IIに復元する

## 復元機能

“復元”は、バックアップ機能 (P.11-2) でバックアップした情報を MPM II へ復元する機能です。MPM II を再インストールした際に使用します。

**1** MPM II が終了していることを確認し、[バックアップと復元]を起動します。

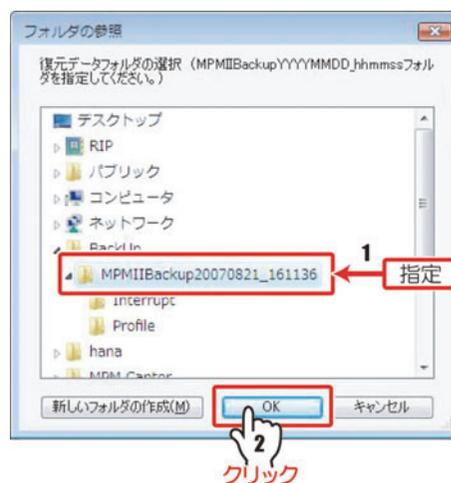
- (1) [スタート]メニューから[すべてのプログラム]を選ぶ
- (2) [MimakiProfileMasterII]-[MPM ツール]を選ぶ
- (3) [バックアップと復元]を選ぶ



**2** [復元] をクリックします。



**3** 復元するバックアップフォルダ (“MPM IIBackupYYYYMMDD\_hhmmss” フォルダ) を指定します。



#### 4 **OK** をクリックします。

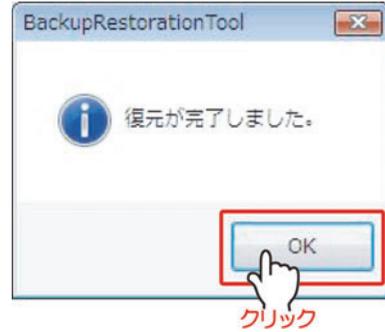
復元を開始します。

復元が完了すると、右のダイアログを表示します。

#### 5 **OK** をクリックします。

復元が完了します。

<b>重要!</b>	<p>◆ 指定したフォルダに必要な情報が入っていない場合、エラーメッセージを表示します。 この場合、再度手順 2 からやり直します。</p>
------------	--



#### 6 **終了** をクリックします。

BackupRestorationTool を閉じます。





# 付録

用語解説 .....	付録 -2
<b>測色時のご注意 .....</b>	<b>付録 -5</b>
測色結果が異常な場合に起こりうる現象 .....	付録 -5
測色の途中で測色の異常を発見した場合 .....	付録 -6
測色結果ファイルの測色結果を確認する .....	付録 -7
<b>Windows7 で測色器をご利用の場合 .....</b>	<b>付録 -9</b>
測色器のドライバを確認する .....	付録 -9
ドライバを更新する .....	付録 -10
<b>Eye-One iO のご使用について .....</b>	<b>付録 -12</b>
Eye-One iO のドライバを確認する .....	付録 -12
ドライバを更新する .....	付録 -14
<b>出力時のキャリブレーションデータの扱いについて ..</b>	<b>付録 -18</b>
<b>エラーメッセージについて .....</b>	<b>付録 -19</b>
エラーメッセージと対処方法 .....	付録 -19
測色時のエラーと対処方法 .....	付録 -21

# 用語解説

用語	説明														
デバイスプロファイル	カラーマネジメントを行う際に使用するファイルです。プリンタなどのそれぞれのデバイスが持つ色空間の情報が書き込まれており、デバイスの色と、絶対的色空間との変換を行います。														
入カプロファイル ターゲットプロファイル	プリンタで出力した色を、本印刷を行う印刷機の色や、デザイナーの提示した色見本に合わせたいときに、印刷機やデザイナーの出力環境を ICC プロファイルにしたものです。														
ICC	International Color Consortium の略称。カラーマネジメント技術の国際標準化を目的として設立された団体です。 <a href="http://www.color.org/">http://www.color.org/</a>														
ICC プロファイル	PhotoShop などのソフトで、カラーマネジメントをする際に使用するファイルです。ICC が定めたフォーマットに従って色変換情報がファイルに書き込まれています。ICC プロファイル作成アプリケーションを開発したメーカーによってデータの作成ポリシーが異なるため、出力結果に差異が生じることがあります。														
カラースペース	本書では、ICC プロファイルが出力できる構成色を指します。MPM で取り扱うことのできるICCプロファイルは、カラースペースがCMYKのものであります。														
墨版	K インクを指します。														
カラーマッチング	RIP やプリントドライバの内部処理で、出力装置で良好な仕上がりになるように、入力画像のデータを変換することです。														
ガマット ガモット Gamut	色再現範囲を指します。 主に Lab や XYZ の座標系で表現します。 正式には、デバイスの再現できる最高 / 最低明度、最高 / 最低彩度、全色相について結んだ立体を指しますが、簡単に比較するため、明度情報をなくした投影平面で見ることが多いです。 平面上では、Gamutの内部にあるように見える色も、立体で見たときにGamutの外部になることがあり、このような色は再現できません。														
色差 ( $\Delta E$ , $\Delta E94$ , $\Delta E2000$ )	色の違いを表します。 $\Delta E$ (デルタ・イー)と書きます。 一般には、Lab 空間を用いて、その空間内の 2 色の距離のことを色差と言います。 $\Delta E$ が大きいほど色差が大きくなります。 $\Delta E94$ 、 $\Delta E2000$ は、人の目の色識別域との形状、大きさの違いにより生じる目視評価と $\Delta E$ の数値との違いの問題を考慮した色差を算出します。人の目の評価に近似するように計算式を定義しています。														
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>色差</th> <th>適用範囲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>~ 0.2</td> <td>測色誤差範囲。測色的にも同じ色とみなせるレベル</td> </tr> <tr> <td>0.3</td> <td>同一色として認識できるレベル</td> </tr> <tr> <td>0.6</td> <td>実用的な色差として許容できる限界のレベル</td> </tr> <tr> <td>1.2</td> <td>並べて観察時に同一色と認識できるレベル</td> </tr> <tr> <td>2.5</td> <td>離れて観察時に同一色と認識できるレベル</td> </tr> <tr> <td>5.0</td> <td>別々に観察時に同一色と認識できるレベル</td> </tr> </tbody> </table>	色差	適用範囲	~ 0.2	測色誤差範囲。測色的にも同じ色とみなせるレベル	0.3	同一色として認識できるレベル	0.6	実用的な色差として許容できる限界のレベル	1.2	並べて観察時に同一色と認識できるレベル	2.5	離れて観察時に同一色と認識できるレベル	5.0	別々に観察時に同一色と認識できるレベル
色差	適用範囲														
~ 0.2	測色誤差範囲。測色的にも同じ色とみなせるレベル														
0.3	同一色として認識できるレベル														
0.6	実用的な色差として許容できる限界のレベル														
1.2	並べて観察時に同一色と認識できるレベル														
2.5	離れて観察時に同一色と認識できるレベル														
5.0	別々に観察時に同一色と認識できるレベル														
純色	ある色の構成に不要な色が混ざっていない色を指します。 たとえば、赤は RGB でいえば Red のみ、CMYK でいえば、M+Y のみで構成されている色を純色と言います。														
色相	赤、青、緑... といった、色みを表します。 赤~橙~黄~緑~青~青紫~赤紫~赤というように、色相は 1 周するので、円として表現されます。(色相環と呼びます。)														

用語	説明
明度	印刷物の明るさを指します。 明度を上げると明るくなり、最も高くすると白になります。逆に明度を下げると、暗くなり、最も低くすると黒になります。カラーを明度情報だけにすると、グレースケールの画像になります。
彩度	色の鮮やかさを指します。 彩度を上げるとカラフル(ビビッド)な色になり、彩度を下げるとカラーのない白黒になります。白、グレー、黒は彩度が0(無彩色)です。
濃度	色の濃さを指します。濃さは、明度と彩度の変化によって引き起こされるため、色によって濃さの感じ方が異なります。たとえば、赤や緑は、やや暗めのほうが濃さを感じますが、黄色は、明るいほうが濃さを感じます。
レンダリングインテント	ICC プロファイルで規定されているカラーマッチングの手法です。 ICC プロファイルでは、以下の4つが規定されています。 ガマット外の色をどの色に置き換えるかは、それぞれ異なります。 ・知覚的、写真的 (Perceptual) ガマット外の色は、色相を変更せず、明度、彩度を変更して近似色に置き換えられます。ガマット内の色も、階調性良く再現するように、全体が調整されます。 ・彩度、イラスト (Saturation) ガマット外の色は、色相と彩度をできるだけ維持し、明度を変更して近似色に置き換えられます。置き換えられる色は暗くなる(濃くなる)傾向にあり、ガマット外の異なる色が同じ色に変換されることもあります。 ・相対的な色域 (Relative Colorimetric) ガマット外の色は、色相と明度を維持し、彩度を変更して、近似色に置き換えられます。ガマット外の異なる色が同じ色になることもありますが、比較的階調性が維持されます。 ガマット内の色は、忠実な色再現をするため、ブルー用途向きです。 ・絶対的な色域 (Absolute Colorimetric) 相対的な色域と同じ処理をします。ただし、入力プロファイルの持つ白色点が有彩色の場合、(新聞や、白色度の低い紙など)、その色を忠実に再現します。画像の白色が保持されないため、紙色まで忠実に再現するブルー用途以外では使用しません。
グレーバランス	理論的なグレーは CMY 同量で構成されますが、実際のインク成分が理想の色相とは違うため、理想のグレーを再現するために、インク量を調整することです。
UCR	Under Color Removal(下色除去)のことです。印刷適正改善のために考え出された技術です。CMYK インクの総インク量を抑えるために、CMY のグレー部分を K インクで置き換えます。
GCR	Gray Component Replacement(グレー成分置換)のことです。製版適正改善のために考え出された技術です。CMY で構成される色のうち、グレー成分の全てを墨インクで置換し、全ての色を3色(Kインクと、CMYインクのうちの2色)で表します。
1 次色	4 色インクセット (CMYK) の場合 : C/M/Y/K 6 色インクセット (CMYK+LcLm) の場合 : C+Lc/M+Lm/Y/K
2 次色	4 色インクセット (CMYK) の場合 : Red(M+Y)/Green(C+Y)/Blue(C+M)/K+C/K+M/K+Y 6 色インクセット (CMYK+LcLm) の場合 : Red(M+Lm+Y)/Green(C+Lc+Y)/Blue(C+Lc+M+Lm)/ K+C+Lc/K+M+Lm/K+Y

用 語	説 明
3 次色	4 色インクセット (CMYK) の場合 : CMY/CMK/CYK/MYK 6 色インクセット (CMYKLcLm) の場合 : C+Lc+M+Lm+Y/C+Lc+M+Lm+K/C+Lc+Y+K/M+Lm+Y+K
4 次色	4 色インクセット (CMYK) の場合 : CMYK 6 色インクセット (CMYKLcLm) の場合 : C+Lc+M+Lm+Y+K
スポットカラー	名前が付けられている色を差します。 主に、Illustrator のスウォッチライブラリを使用した色指定を差し、Raster Link シリーズの色置換で色置換をする色 ( 場所 ) を示す目印などに使用されます。

## 測色時のご注意

測色の操作によって、測色結果が異常値になってしまうことがあります。MPMII は、測色値をもとに自動調整を行います（リニアライゼーションの自動調整、グレーバランスの自動調整、色差の確認、色相の調整など）。測色結果に異常があると正しい結果が得られません。特に手動で測色する i1 Pro で異常が発生しやすくなります。

<b>重要!</b>	<p>◆ MeasureTool5.0 の画面上では、測色の進捗に合わせて測色済みパッチの色が濃い色で表示されます。</p> <p>◆ 測色の途中で、濃い色で表示されているパッチの色と実際に測色しているチャートを見比べて、間違っていないか確認するようにお願いします。（右の図の場合、2行目の測色が1つずつずれてしまっています。）</p>	
------------	--	--

## 測色結果が異常な場合に起こりうる現象

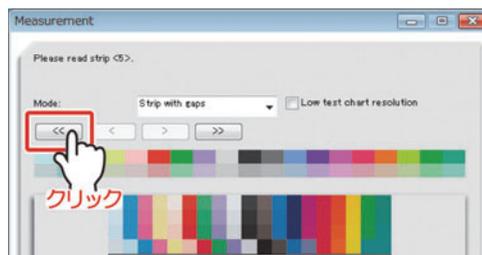
リニアライゼーションの自動調整	[カーブ調整] をクリックしカーブを表示すると、大きくうねっている色があります。
グレーバランスの自動調整	
基準設定	キャリブレーションの調整の際、最初に行う「現在の状態の測色」で、色差の値が色によって大きくばらつきます。また、キャリブレーションの各要素が、下に挙げるような状態になりキャリブレーションが正しく行われません。
色相の調整	インクリミットの値が色によって大きく異なります。特に 90% を下回る値が表示されたときは、測色結果をご確認ください。
色差の確認	色差の値が、色によって大きくばらつきます。

<b>重要!</b>	<p>◆ 基準設定では、必ず測色結果に異常がないことを確認してから、測色を終了してください。基準設定の測色結果に異常があると、キャリブレーションの調整が正しく行われません。</p>
------------	--

## 測色の途中で測色の異常を発見した場合

測色の途中であれば、測色し直すことが可能です。  
i1 Pro の手順を例として説明します。

- 1 測色画面の **<<** をクリックし、測色異常があるラインまで戻ります。



- 2 異常のあるラインを再び測色します。

ライン全体がずれている場合

左端の何も印刷されていない部分で i1 Pro のボタンを押しながら静止する時間を長めにとってからスライドさせてください。



途中のパッチの色が異常な場合

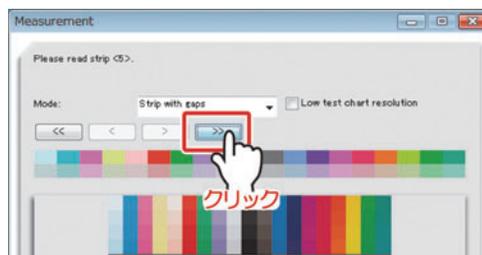
i1 Pro をスライドさせる速度を遅くしてください。



- 3 正しく測色できるまで、手順 1 ~ 2 を繰り返します。

- 4 **>>** をクリックして、測色の続きのラインまで進めます。

その後、測色を続けてください。



## 測色結果ファイルの測色結果を確認する

調整結果に異常が発生し、異常な測色結果の可能性がある場合に測色結果ファイルの測色結果を確認する手順を説明します。

# 1

**測色** をクリックできる状態へ画面を移行させます。

現在行っている操作によって、**測色** を表示させる手順が異なります。

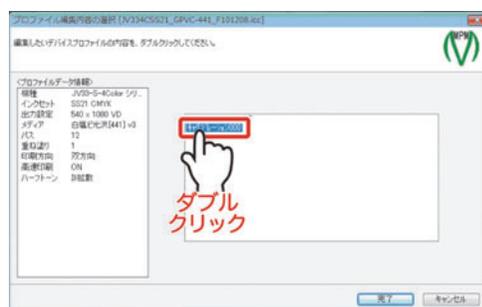
デバイスプロファイル作成ウィザード、  
キャリブレーションウィザード、イコライゼーションウィザードのいずれかを行っている場合

**戻る** または **次へ** をクリックして、**測色** がある画面を表示します。



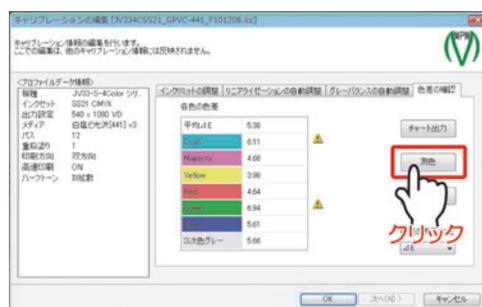
デバイスプロファイルを編集している場合

キャリブレーションデータの項目をダブルクリックします。

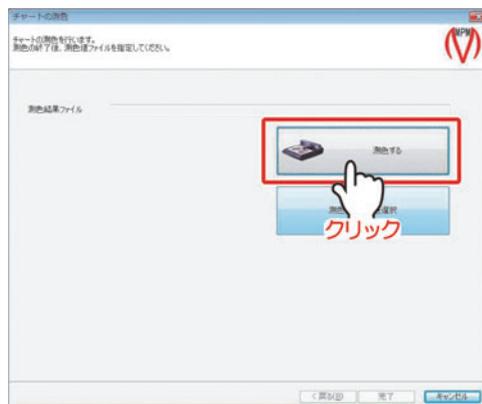


# 2

**測色** をクリックします。



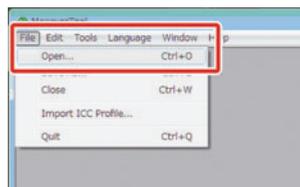
**3** **測色する** をクリック  
します。



**4** MeasureTool5.0 が起動します。



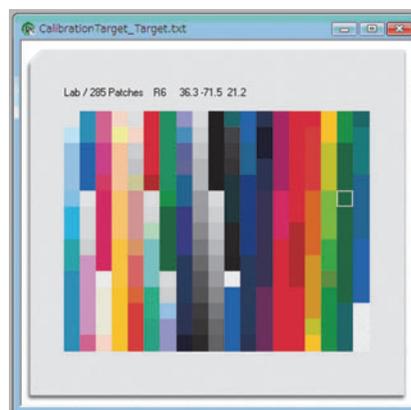
**5** [File] → [Open] で、測色結果  
ファイルを選択します。



**6** 測色結果のプレビューが表示さ  
れます。

測色したチャートとプレビューを見比  
べて、測色に異常がないか確認します。

異常な測色結果がある場合は、測色を  
やり直してください。



## Windows7 で測色器をご利用の場合

Windows7 では、PC に測色器を接続したときにドライバのインストールに失敗する場合があります。この場合、ドライバの更新が必要になります。

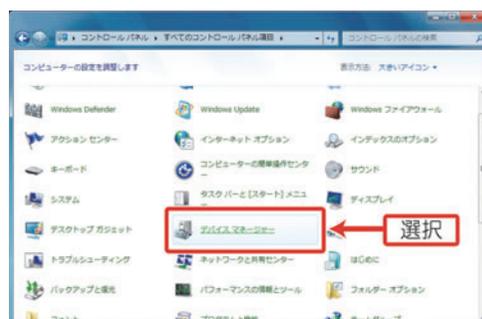
- (1) 最初に、“測色器のドライバを確認する”を参照してドライバが正常にインストールされているかを確認します。
- (2) ドライバの更新が必要な場合、“ドライバを更新する”を参照してドライバを更新してください。

### 測色器のドライバを確認する

**1** 測色器を PC に接続します。

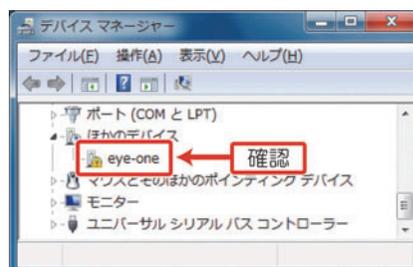
**2** [スタート]→[コントロールパネル]をクリックします。

**3** デバイスマネージャーを開きます。



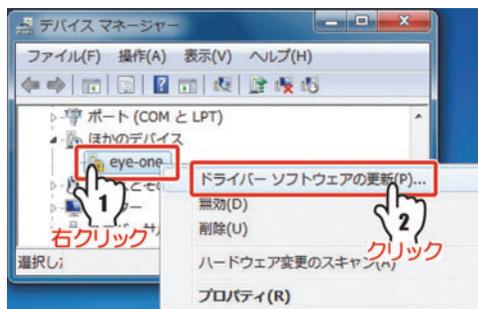
**4** 更新の必要があるかを確認します。

右のように接続している測色器の名前の隣に“マーク”がある場合、更新が必要です。

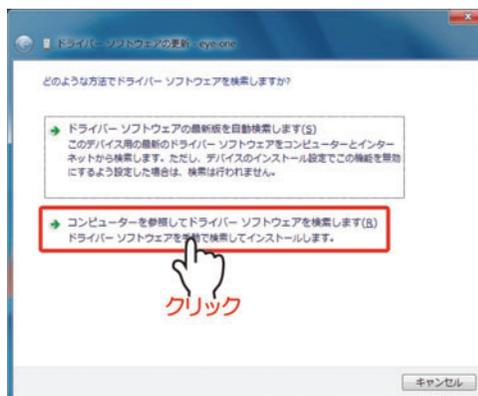


## ドライバを更新する

- 1 更新する測色器を選択し、右クリックでショートカットメニューを表示させ、“ドライバーソフトウェアの更新” をクリックします。



- 2 “コンピューターを参照してドライバーソフトウェアを更新します” をクリックする。



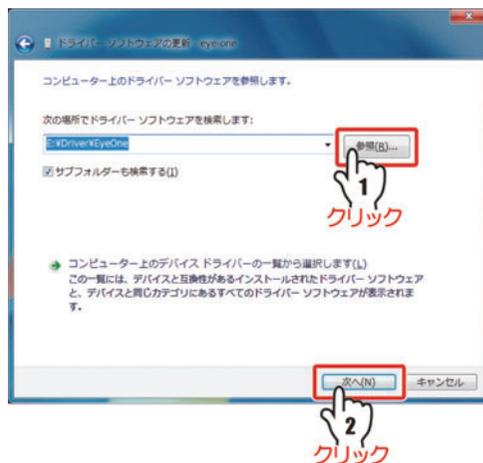
- 3 MimakiProfileMasterII のインストール CD を CD ドライブにセットします。

**4** **参照** をクリックし、次の場所を指定します。

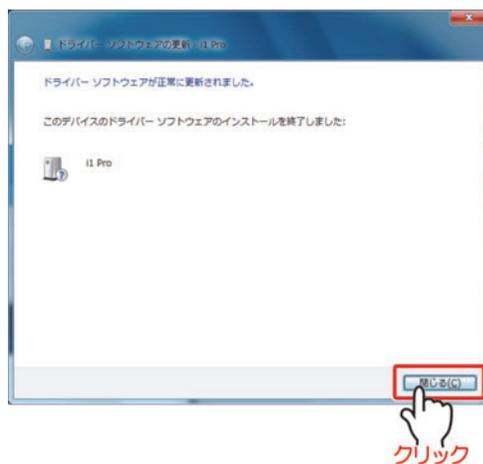
[CD ドライブ]:\Driver\EyeOne

**5** **次へ** をクリックします。

ドライバーソフトウェアをインストールします。



**6** **閉じる** をクリックします。



# Eye-One iO のご使用について

使用する測色器が Eye-One iO の場合、ドライバの更新が必要な場合があります。

- (1) 最初に、付録 -12 ページの「Eye-One iO のドライバを確認する」を参照してドライバの確認をします。
  - ・ドライバの更新が不要な場合は、そのままの状態でお使いになれます。
- (2) ドライバの更新が必要な場合、既存の Eye-One iO のドライバをアンインストールします。
- (3) 新しいドライバをインストールします。

**重要!**

◆ ドライバを更新した場合、MimakiProfileMaster 以外のソフトウェアで Eye-One iO が使用できなくなることがあります。その場合、そのソフトウェアの販売元へ、お使いのソフトウェアが Eye-One iO の新しいドライバに対応しているかをご確認ください。

## Eye-One iO のドライバを確認する

**1** Eye-One iO の電源を入れて、パソコンに接続します。

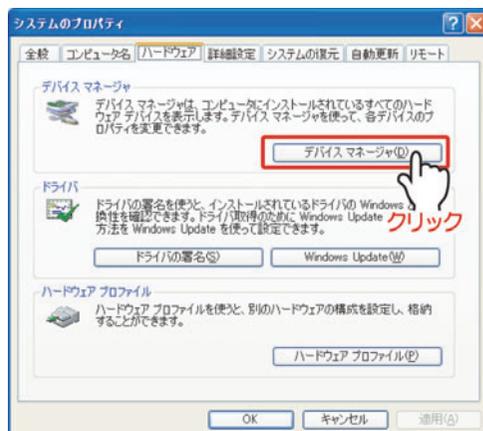
**2** デバイスマネージャを開きます。

WindowsXP の場合、以下のようにして開きます。

- 1 [スタート]ボタンを押し、[マイコンピュータ]アイコンを右クリックします。表示されたメニューから[プロパティ]をクリックします。

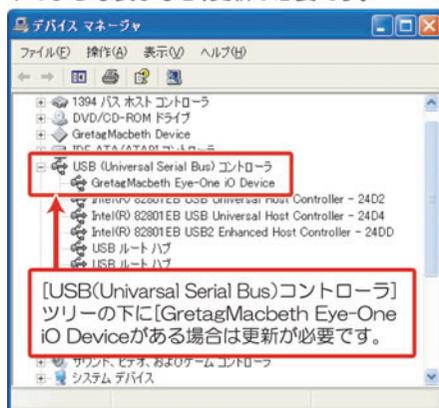


- 2 「システムのプロパティ」画面が表示されるので、[ハードウェア] タブをクリックします。 [デバイスマネージャ] をクリックします。

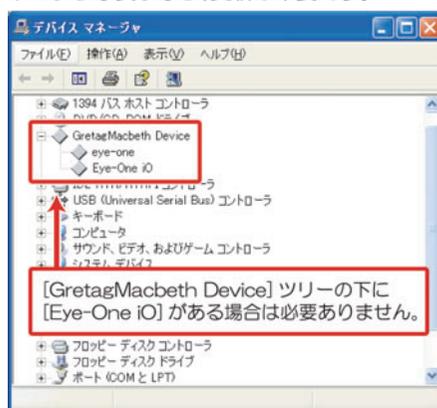


- 3 更新の必要があるか確認します。

下のような表示なら、更新が必要です。



下のような表示なら、更新は不要です。



## ドライバを更新する

---

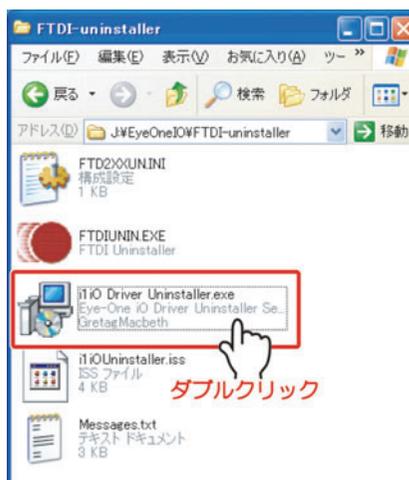
既存の Eye-One iO のドライバをアンインストールする

- 1 パソコンから Eye-One iO を外します。
- 2 MimakiProfileMaster II のインストール CD を挿入し、「CD の内容を表示」をクリックします。



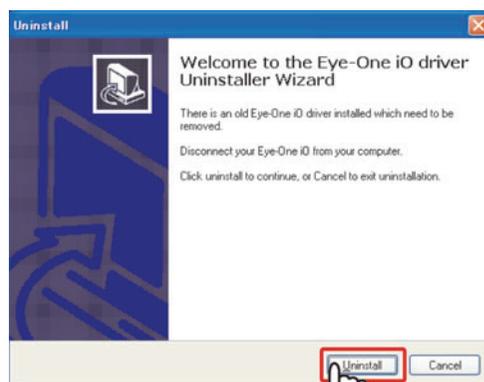
- 3 [EyeOneIO]- [FTDI-uninstaller] フォルダを開きます。

"i1iO Driver Uninstaller.exe" をダブルクリックします。



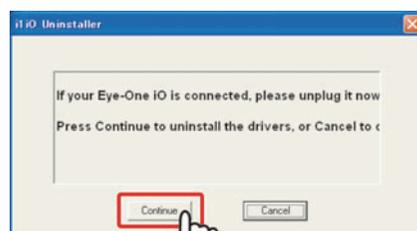
#### 4 Eye-One iOのドライバのアンインストールが起動します。

**Uninstall** をクリックします。



クリック

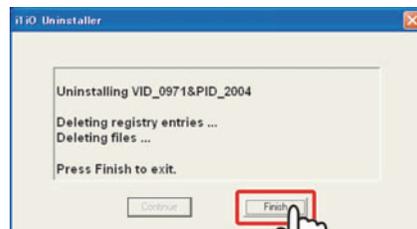
#### 5 右のダイアログが表示されたら、**Continue** をクリックします。



クリック

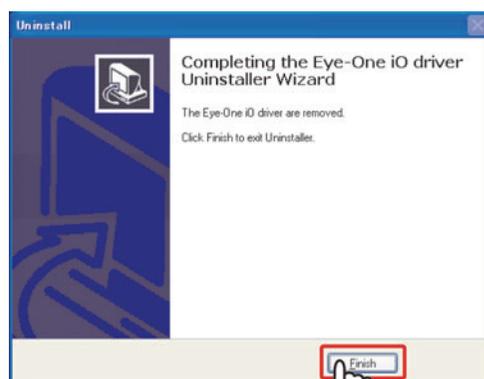
#### 6 **Finish** が表示されたら、ボタンをクリックします。

アンインストールが終了しました。



クリック

#### 7 **Finish** をクリックして、画面を閉じます。



クリック

## 新しいドライバをインストールする

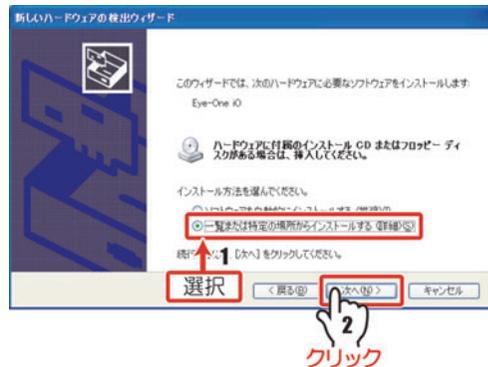
### 1 Eye-One iO の電源を入れ、パソコンに接続します。

「新しいハードウェアの検出ウィザード」画面が表示されます。「次へ」をクリックします。

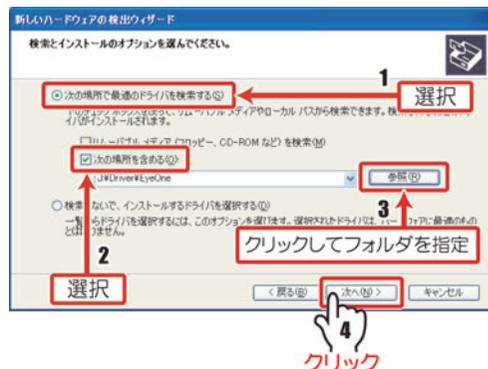
WindowsXP SP2 の場合、[いいえ、今回は接続しません] を選択してから「次へ」をクリックします。



### 2 [一覧または特定の場所からインストールする] を選択して、「次へ」をクリックします。



### 3 [次の場所で最適なドライバを検索する] を選択します。



### 4 [次の場所を含める] を選択します。

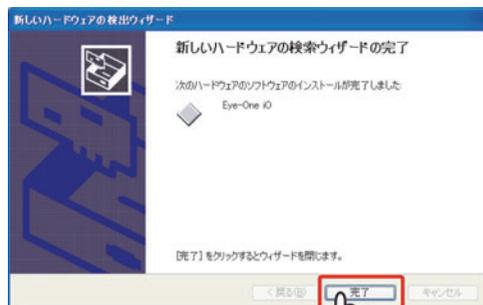
### 5 参照 をクリックし、次のフォルダを指定します。

[CD ドライブ] Driver\EyeOne

### 6 次へ をクリックします。

## 7 ドライバのインストールが終了 します。

**完了** をクリックして、画面を閉じます。

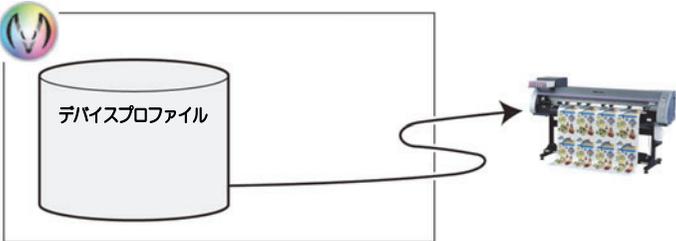
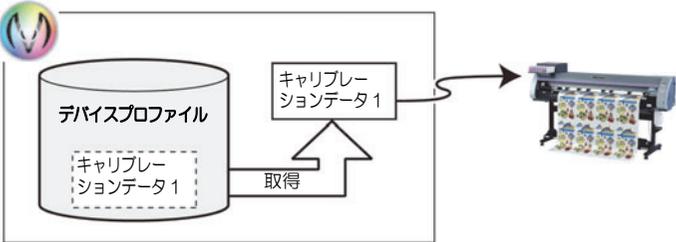
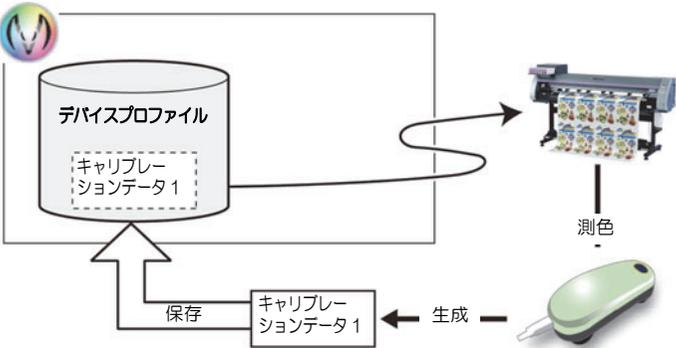


クリック

# 出力時のキャリブレーションデータの扱いについて

- キャリブレーションデータを生成する場合、デバイスプロファイルだけで色変換した状態のチャートを測色します。
- MPMII で出力した場合、デバイスプロファイルやキャリブレーションデータを以下のように使用します。

**重要!** ◆ 既存のキャリブレーションデータを使用して、新しいキャリブレーションデータを生成することはできません。

<p><b>通常出力</b></p> <p>デバイスプロファイルだけで色変換を行います。</p>	 <p>The diagram shows a cylinder labeled 'デバイスプロファイル' (Device Profile) with an arrow pointing to a printer. A color calibration icon is in the top left corner.</p>
<p><b>キャリブレーションデータを使用した出力</b></p> <p>デバイスプロファイルからキャリブレーションデータを取得します。キャリブレーションデータでデバイスプロファイルを補正して色変換します。</p>	 <p>The diagram shows a cylinder labeled 'デバイスプロファイル' (Device Profile) containing a dashed box labeled 'キャリブレーションデータ1' (Calibration Data 1). An arrow labeled '取得' (Acquire) points from the dashed box to a separate box labeled 'キャリブレーションデータ1'. An arrow then points from this box to a printer. A color calibration icon is in the top left corner.</p>
<p><b>キャリブレーションデータ生成時の出力</b></p> <p>キャリブレーション機能・イコライゼーション機能では、デバイスプロファイルだけで色変換します。測色し、キャリブレーションデータを生成します。キャリブレーションデータは、デバイスプロファイル内部に保存されます。</p>	 <p>The diagram shows a cylinder labeled 'デバイスプロファイル' (Device Profile) containing a dashed box labeled 'キャリブレーションデータ1' (Calibration Data 1). An arrow labeled '生成' (Generate) points from a color calibration chart (with a mouse icon) to a box labeled 'キャリブレーションデータ1'. An arrow labeled '保存' (Save) points from this box to the dashed box inside the cylinder. An arrow points from the cylinder to a printer. Below the printer, the text '測色' (Color Measurement) is written. A color calibration icon is in the top left corner.</p>

# エラーメッセージについて

## エラーメッセージと対処方法

エラーメッセージを表示したときの対処方法を紹介します。

エラーメッセージ	表示条件	対処方法
ライセンスがありません。	起動	<ul style="list-style-type: none"> <li>試用期間が終了しました。MPMII ドングル(SafeNet)を使用して起動ください。</li> </ul>
ドングルが見つかりませんでした。ドングルを接続してから、起動し直してください。	起動	<ul style="list-style-type: none"> <li>一度、ドングルを使用してMPMIIを起動した場合は、次回以降もドングルを使用して起動してください。</li> </ul>
アプリケーションの初期化に失敗しました。	起動	<ul style="list-style-type: none"> <li>MPMII のシステムに致命的なエラーが発生しました。MPMII を再インストールしてください。</li> </ul>
他のドングル接続時に登録されたメディアがあります。現在接続されているドングルのメディアのみ表示します。	起動	<ul style="list-style-type: none"> <li>以前と異なるドングルを使用しています。MPMII の動作に問題はありませんが、他のドングルを使用して登録したメディア名を選択することができなくなります。</li> </ul>
起動時とは異なるドングルが接続されているため、処理を続行できません。	各種操作時	<ul style="list-style-type: none"> <li>MPMII の起動中は黒いドングルは外さないでください。</li> </ul>
ドングルが接続されていないため、処理を中止しました。正しくドングルを接続してから、もう一度実行してください。	各種操作時	
指定されたファイルはサポートされていません。	ファイル読み込み	<ul style="list-style-type: none"> <li>デバイスプロファイル以外のファイルを指定していないか、確認してください。</li> <li>新しいプリンタや新しいインクセットのプロファイルを編集しようとしています。MPMII を最新版にバージョンアップしてください。</li> </ul>
出力するチャートを表示できません。	デバイスプロファイル作成ウィザード	<ul style="list-style-type: none"> <li>測色器を選択してから、各種作業を行ってください。</li> </ul>
カーブの生成に失敗しました。チャートを確認して、再測色してください。	測色ファイル読み込み	<ul style="list-style-type: none"> <li>読み込んだ測色値から、正常なカーブが計算できません。異なる要素の測色値のファイルでないか、確認してください。</li> <li>ファイルが正しいのにエラーメッセージが出てしまう場合は、測色ミスの可能性があります。印刷されたチャートに濃度ムラなどがいないか確認し、もう一度測色してください。</li> </ul>
有効なパッチ数を取得できませんでした。	測色ファイル読み込み	<ul style="list-style-type: none"> <li>異なる要素の測色値のファイルでないか、確認してください。</li> </ul>

エラーメッセージ	表示条件	対処方法
対応していない形式の測色値ファイルを読み込みました。 正しい形式で保存した測色値ファイルを選択してください。	測色ファイル 読み込み	<ul style="list-style-type: none"> <li>測色結果が分光反射率で保存されています。Lab 値で保存したファイルをご使用ください。(特に i1iSis をお使いの場合に発生します。  P.2-43)</li> </ul>
プロファイル作成中はCMYKのTIFFファイルしか出力できません。 CMYK モードの TIFF ファイルを選択してください。	テストプリント	<ul style="list-style-type: none"> <li>デバイスプロファイルが完成するまでは、RGB の画像を出力することはできません。</li> </ul>
イメージのサイズが小さすぎて入力できません。 イメージのサイズが大きすぎて入力できません。	テストプリント	<ul style="list-style-type: none"> <li>出力可能な画像サイズは、25.4mm(1 inch)以上 2500mm 以下です。範囲に収まるように、大きさを変更してください。</li> </ul>
読み込んだファイルにインポート可能な特性データが見つかりません。	インポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>デバイスプロファイル以外のファイルを指定していないか、確認してください。</li> <li>拡張子が「.icc」のファイルで、V3 プロファイルではなく、標準の ICC プロファイルを指定していないか、確認してください。</li> <li>現在編集中のプロファイルのインクセットと、選択したプロファイルのインクセットが同じであるか、確認してください。</li> <li>バリアブルの設定のあるプロファイルを作成している場合は、バリアブルのプロファイルを選択してください。</li> </ul>
読み込んだ ICC プロファイルのカラースペースはCMYKではありません。	インポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICC プロファイルのインポートで、CMYK プロファイル以外を選択しました。ICC プロファイルを取り込む場合は、カラースペースが CMYK のものを選択してください。</li> </ul>
MPMII で作成したプロファイルではない為、調整できません。	ICC プロファイル の編集	<ul style="list-style-type: none"> <li>MPM1 や他社の ICC プロファイル作成アプリケーションで作成した ICC プロファイルを使用しています。MPMII では調整できませんので、その ICC プロファイルを作成した時に使用したアプリケーションで調整してください。</li> </ul>
メディアサイズが取得できませんでした。プリンタとの接続を確認してください。	画像編集	<ul style="list-style-type: none"> <li>プリンタとの接続がされているか、ケーブルを確認してください。</li> <li>プリンタが認識されているか、Windows 上で確認してください。</li> </ul>
色差が大きすぎるため、キャリブレーション機能で調整できない場合があります。	キャリブ レーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>MPMII で調整できる大きさの色差ではありません。MPMII でキャリブレーションを行う前に、プリンタの調整を行ってください。</li> <li>キャリブレーションやイコライゼーションのターゲットと、同じプリンタ・同じインクセット・同じメディア・同じプロファイルを使用しているか、確認してください。</li> </ul>

## 測色時のエラーと対処方法

測色器の種類	現象	対処方法
SpectroScan	初期化動作が完了しない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>白色基準板が、測色面左上の部分にはめ込まれているか確認してください。</li> <li>白色基準板に書かれているシリアル ID と、SpectroLino（測色を行うヘッド部分）の背面に書かれているシリアル ID が一致しているか、確認してください。</li> <li>電源コードを抜き、5 分ほど経ってから電源を入れなおしてください。</li> </ul>
	3 つのマーカの位置決めを行う途中で、ヘッドが戻ってしまう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>“Online” と “Enter” を同時に押し続け、SpectroScan を Reset してやり直してください。</li> </ul>
	接続エラーが発生する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>USB- シリアル変換アダプターを使用している場合、アダプタに付属のソフトウェアで、割り当てる COM ポート番号を指定してください。MeasureTool5.0 で、その COM ポート番号を選択してください。</li> </ul>
i1 Pro	初期化動作が完了しない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ベースプレートに書かれているシリアル ID と、i1 Pro の裏面に書かれているシリアル ID が一致しているか、確認してください。</li> <li>i1 Pro がベースプレートの上にとしっかりと置かれているか、確認してください。</li> </ul>
	測色エラーが発生する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>測色は 1 列ごとに行います。列を測色している間は、i1 Pro のボタンを押し続けてください。</li> <li>測色する列の始め（左側の白地）と終わり（右端の白地）で、1 秒ほどボタンを押しただまま待つようにしてください。</li> <li>i1 Pro を一定の速度でゆっくり動かしてください。</li> <li>ルーラー上を滑らせているときに、チャートから i1 が浮かないようにしてください。（力を込めて押し付ける必要はありません）</li> </ul>
	接続エラーが発生する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ドライバが正しくインストールされているか、確認してください。</li> <li>差し込む USB のポートを変更してください。（USB ハブは使用しないでください）</li> <li>他の USB 機器を外してください。</li> </ul>
	ライトがついたままになってしまう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>測色を中止し、USB ケーブルを抜いてください。少し時間をおいてから、ケーブルを挿しなおしてください。</li> </ul>

測色器の種類	現象	対処方法
i1 iO	測色エラーが発生する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• i1 Pro が、i1 iO の台座にしっかりとめ込まれているか、確認してください。パチンと手ごたえがあるまで、i1 Pro を台座に押し込んでください。(力を込めてはめ込む必要はありません)</li> <li>• 3つのマーカーの位置決めを行う際、枠のついたパッチの中心よりやや外側で位置決めを行ってください。</li> </ul>
	接続エラーが発生する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• i1 Pro/i1 iO の 2 つのドライバが正しくインストールされているか、確認してください。</li> <li>• i1 iO がしっかりと組み上げられているか、確認してください。</li> <li>• 差し込む USB のポートを変更してください。(USB ハブは使用しないでください)</li> <li>• 他の USB 機器を外してください。</li> </ul>
DTP-41	初期化動作が完了しない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ボタンを長押しし、LED が赤く点灯したらもう一度ボタンを押します。(工場出荷状態に初期化)その後、ボタンを長押しし、LED がオレンジに点灯したらもう一度ボタンを押します。キャリブレーションプレートを読み込ませ、測色器のキャリブレーションを行います。</li> </ul>
	測色エラーが発生する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• チャートの前後にある空白部分が汚れていないか、確認してください。その部分は白でなければならないため、文字を書き込んだりしないようにしてください。</li> <li>• チャートがまっすぐに送られるよう、位置を調整しながら測色してください。</li> </ul>
	チャートが途中で止まってしまう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 現在測色している行の測色が止まってしまう付近のパッチ間のセパレータの色を変更してください。セパレータが白の場合 マジックなどで黒くしてください。セパレータが黒の場合 修正ペンやシールなどで白くしてください。</li> <li>• チャートは無理に引き抜くと汚れてしまいます。測色器の上を持ち上げるようにすると簡単に引き抜くことができます。</li> </ul>
	接続エラーが発生する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• USB- シリアル変換アダプターを使用している場合、アダプタに付属のソフトウェアで、割り当てる COM ポート番号を指定してください。Measure Tool5.0 で、その COM ポート番号を選択してください。</li> </ul>

測色器の種類	現象	対処方法
i1 iSis	初期化に失敗する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>白色版が汚れている恐れがあります。i1 iSis の取扱説明書に従って、白色版を清掃してください。</li> </ul>
i1 iSis	メディア詰まりが発生する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>i1 iSis の取扱説明書に従って、詰まったメディアを取り除いてください。</li> <li>特有のメディアで頻発する場合は、i1 iSis での測色に適していません。他の測色器をお使いください。</li> </ul>
	測色に失敗する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>枠線の外を広く空けて切り取っていませんか？</li> <li>枠線の外で切る場合は、1cm 以上空けないようにしてください。</li> </ul>

# 索引

\*.chocot ..... 2-72

## 数字

1 次色 ..... 付録 -3  
2 次色 ..... 付録 -3  
3 次色 ..... 付録 -4  
3 次色のインクリミットに振り分ける  
ときは ..... 2-46  
4 次色 ..... 付録 -4

## C

CMYK 入カプロファイル ..... 2-64  
ColorPicker  
ICC プロファイルの作成 ..... 8-4  
Illustrator で画像を修正する ..... 8-9  
Raster Link シリーズで色置換して  
出力する ..... 8-11  
スポットカラーのカラーマッチング ..... 8-7  
スポットカラーのカラーマッチングの  
流れ ..... 8-2  
ColorPicker とは ..... 8-2  
ColorPicker を使用したスポットカラー  
マッチング ..... 8-2

## E

Eye-One iO  
新しいドライバをインストール  
する ..... 付録 -16  
ドライバをアンインストールする ..... 付録 -14  
ドライバを確認する ..... 付録 -12  
ライバを更新する ..... 付録 -14  
Eye-One iO のご使用について ..... 付録 -12

## G

Gamut ..... 付録 -2  
GCR ..... 付録 -3

## I

ICC ..... 付録 -2  
ICC プロファイル ..... 付録 -2  
ICC プロファイル画面 ..... 1-10  
ICC プロファイルの作成 ..... 6-3  
ICC プロファイルの編集 ..... 3-10  
ICC プロファイルの保存 ..... 6-13

## J

JF-1631/1610、JFX、UJV-160、UJF-706、  
UJF-320FX、UJF-3042HG、UJF-6042、  
Tx400 を使用している場合 ..... 2-10  
JV3-SP/SL で ES3 インクを使用している  
場合 ..... 2-9  
JV3-SP/SL で SS2 インクを使用している  
場合 ..... 2-8

## M

Max Black ..... 2-70  
MeasureTool5.0 ..... 2-28  
Mimaki Profile Master II について ..... IX  
MPM II トライアル版の制限事項 ..... XI  
MPM II を起動する ..... 1-2

## P

ProfileManager ..... 7-5  
ProfileManager を起動する ..... 7-4

## R

Raster Link Pro 以外の Raster Link シリーズから  
プロファイルをアンインストールする ..... 7-9  
Raster Link Pro 以外の Raster Link シリーズ  
にインストールする ..... 7-6  
Raster Link Pro 以外の Raster Link シリーズへの  
プロファイルのインストール・アンインストール ..... 7-4  
Raster Link Pro にデバイスプロファイルを  
インストールする ..... 7-2  
RGB 入カプロファイル ..... 2-64

S	
Start Black .....	2-70
U	
UCR .....	付録-3
V	
V3 プロファイル編集画面 .....	3-9
W	
Windows7 で測色器をご利用の場合 .....	付録-9
あ	
アイコンの説明 .....	7-5
い	
イエローの濁り軽減 .....	2-69
イコライゼーション機能 .....	4-13
イコライゼーションを行う .....	4-14
イコライゼーションを行うプリンタへ 出力する .....	4-16
ターゲットプリンタへ出力する .....	4-14
移動(幅)(送り) .....	2-61
色差 .....	付録-2
色差の確認 .....	3-14
色差を確認する .....	4-21
色置換情報 .....	3-15
色置換情報を追加する .....	3-15
インク消費量予測計算 .....	3-17
インク色表記 .....	VIII
インクリミットの決定の仕方 .....	2-19
インクリミットの決定方法 .....	2-18, 2-22
ンクリミットの決定方法 .....	2-45
インクリミットの調整 .....	3-13
インクリミットの編集 .....	3-10
印刷条件 .....	2-62
印刷方向 .....	2-62
印刷方法 .....	2-63
インストール画面 .....	1-11
インポート互換表 .....	2-66
インポートボタン .....	2-65

え	
エラーメッセージ .....	付録-19
エラーメッセージと対処方法 .....	付録-19
測色時のエラーと対処方法 .....	付録-21
お	
オプション設定 .....	1-9
動作 .....	1-9
表示 .....	1-9
ラベル .....	1-9
か	
カーブ編集方法 .....	2-68
キーボードでの操作 .....	2-68
マウスでの操作 .....	2-68
カーブ編集ボタン .....	2-67
回転 .....	2-61
各種設定 .....	1-3
重ね塗り .....	2-62
画像ファイル名 .....	1-9
ガマット .....	付録-2
ガモット .....	付録-2
カラーシミュレーション .....	9-2
CMYK カラーのシミュレーション用 プロファイル .....	9-15
RGB カラーのシミュレーション用 プロファイル .....	9-18
色を調整する .....	9-23
カラーシミュレーションの流れ .....	9-4
環境光を整える .....	9-6
コンシューマープリンタの ICC プロ ファイルを作成する .....	9-13
作成したプロファイルを Photoshop / Illustrator に設定する .....	9-21
システム環境 .....	9-3
準備 .....	9-3
注意事 .....	9-2
モニターの ICC プロファイルを 作成する .....	9-7
モニターのカリブレーション .....	9-6
カラスペース .....	付録-2
カラーマッチング .....	2-64, 付録-2

き	
機能ボタン	2-59
キャリブレーション/イコライゼーション	
編集画面	3-9
キャリブレーション機能	
基準設定	4-3
キャリブレーションを行う	4-5
作業内容（詳細）	4-9
作業内容（標準）	4-7
キャリブレーションデータの扱い	付録-18

く	
グレーの色み	2-53, 6-5, 6-8
グレーバランス	付録-3
グレーバランスの自動調整	3-14
グレーバランスの編集	3-13
グレーバランスルート編集画面	3-8

こ	
高演色形蛍光灯	9-6
校正用プリンタ	9-13
高速印刷	2-62
ご注意	VIII
拡張固有情報の設定	2-12
固有情報の設定	
UV 照度設定	2-12

さ	
最暗部のインク量	2-70
再作成	2-73
彩度	付録-3
作成中断ボタン	2-72

し	
色相	付録-2
入力値	2-67
出力応答タイムアウト値	1-8
出力先	2-64
出力値	2-67
出力バッファ長	1-7, 1-8
出力ポートの設定	1-7
ファイル出力	1-7
プリンタに直接出力	1-8

純色	付録-2
情報をバックアップする	11-2
初期設定の印刷条件	1-9
白インクの印刷	2-63

す	
スケール (%) (幅) (送り)	2-61
スポットカラー	付録-4
墨版	2-53, 付録-2
墨版設定	2-70
スロットの設定	2-63

せ	
製品の特徴	IX
設定画面	1-11

そ	
測色器を選択	1-6
測色結果が異常な場合に起こりうる現象	付録-5
測色結果ファイルの測色結果を確認する	付録-7
測色時のご注意	付録-5
測色する	
DTP-41	2-39
Eye-One iO	2-36
Eye-One Pro	2-33
i1 iSis	2-41
Spectro Scan	2-30
測色値ファイルの読み込み	2-75
測色の途中で測色の異常を発見した場合	付録-6
測色部	2-26, 2-48

た	
ターゲットプロファイル	付録-2

ち	
チャート出力ボタン	2-59
中間調の表現	2-70
調整ボタン	2-69

<hr/>		
<b>て</b>		
<hr/>		
テストプリント時の印刷条件 .....	1-9	
テストプリントボタン .....	2-59	
デバイスプロファイル .....	付録-2	
デバイスプロファイル画面 .....	1-10	
デバイスプロファイル作成の流れ .....	2-2	
デバイスプロファイルのコピー .....	5-2	
デバイスプロファイルの作成		
3次色のインクリミットの設定		
(プロファイル (V3) を選んだ場合) .....	2-44	
ICC プロファイルの作成 .....	2-51	
インクリミットの設定		
(プロファイル (V2) を選んだ場合) .....	2-21	
インクリミットの設定		
(プロファイル (V3) を選んだ場合) .....	2-17	
グレーバランスの自動調整 .....	2-48	
作成する .....	2-4	
デバイスプロファイルの保存 .....	2-58	
バリアブルドットの設定 .....	2-14	
フォーマットの選択 .....	2-4	
プロファイル条件 .....	2-5	
メディア固有情報 .....	2-7	
ライトインク使用比率 .....	2-25	
リニアライゼーションの自動調整 .....	2-26	
デバイスプロファイル編集の流れ .....	3-2	
デバイスプロファイル名 .....	1-9	
デバイスプロファイルを編集 .....	3-6	
<hr/>		
<b>と</b>		
<hr/>		
ドットサイズの編集 .....	3-11	
取扱説明書について .....	VIII	
<hr/>		
<b>に</b>		
<hr/>		
入力プロファイル .....	付録-2	
<hr/>		
<b>の</b>		
<hr/>		
濃度 .....	2-63, 付録-3	
<hr/>		
<b>は</b>		
<hr/>		
ハーフトーン .....	2-62	
パス .....	2-62	
バックアップ機能 .....	11-2	
バックアップファイルを MPM II に		
復元する .....	11-4	
<hr/>		
バランスを自動調整 .....	2-70	
<hr/>		
<b>ひ</b>		
<hr/>		
ヒーター温度の編集 .....	3-11	
品質 .....	2-63	
<hr/>		
<b>ふ</b>		
<hr/>		
復元機能 .....	11-4	
プロファイル (V2) .....	2-4	
プロファイル (V3) .....	2-4	
プロファイルコピーウィザード .....	5-2	
プロファイルサイズ .....	2-53, 6-5, 6-8, 6-12	
プロファイル条件		
インクセット .....	2-5	
印刷方向 .....	2-5	
解像度 .....	2-5	
重ね塗り回数 .....	2-5	
高速印刷 .....	2-5	
ハーフトーン .....	2-5	
パス数 .....	2-5	
メディア名 .....	2-5	
プロファイルデータ情報 .....	1-9	
プロファイルについて .....	X	
<hr/>		
<b>へ</b>		
<hr/>		
編集するプロファイルをリストに追加 .....	3-4	
編集リスト .....	3-5	
<hr/>		
<b>ほ</b>		
<hr/>		
本文中の表記 .....	VIII	
<hr/>		
<b>ま</b>		
<hr/>		
マークについて .....	VIII	
<hr/>		
<b>み</b>		
<hr/>		
ミラー .....	2-61	

---

---

## め

---

---

明度 .....	付録 -3
メインメニュー .....	1-10
メタリックカラープロファイル	
編集 .....	10-20
コピー .....	10-21
再作成 .....	10-22
作成 .....	10-6
作成の前に .....	10-3
メディア送り速度の編集 .....	3-11
メディア固有情報	
ドットサイズ .....	2-8
ヒーター温度 .....	2-7
メディア送り設定 .....	2-11
メディア補正值 .....	2-7
メディア固有情報の編集 .....	3-11
メディア名の削除 .....	1-5
メディア名の登録 .....	1-3

---

---

## も

---

---

目視確認部 .....	2-26, 2-48
-------------	------------

---

---

## よ

---

---

用語解説 .....	付録 -2
------------	-------

---

---

## ら

---

---

ラベルプリント .....	2-62
---------------	------

---

---

## り

---

---

リニアライゼーションの自動調整 .....	3-14
リニアライゼーションの編集 .....	3-13

---

---

## れ

---

---

レイアウト .....	2-61
レンダリング .....	2-64
レンダリングインテント .....	2-64, 付録 -3



